

科目名称	仏教学 I		
科目分類	310-110-11 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Buddhism I	授業区分	講義
科目責任者	安藤 嘉則	必修・選択	必修
担当教員	山本 元隆	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10 後期 月曜日 14:40～16:10 水曜日 14:40～16:10	研究室	10-506
授業概要	<p>本学の建学の精神である「行学一如」について学ぶ。建学の精神のもととなる仏教の開祖「釈尊」の生涯と教えについて、「道元禪師」の生涯と教えについても学ぶ。また、禅の教えが我々の生活にどのようにかかっているのかを『典座教訓』などの著作を通じて学び、この学びにおいては、実際に坐禅を行い、日常の礼儀作法についても学ぶ。さらには、仏教行事の意義について、本学で学ぶことの意義についても学ぶ。本科目での学びを通して、今後の人生の指針となる教養を身につけるとともに仏教という観点から人間を理解する契機とする。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 釈尊と道元禪師の生涯と教えについて理解し説明することができる。 2. 建学の精神「行学一如」「正念」を自らの駒沢女子大学での学びの原点として捉え、自分の言葉で説明できる。 3. 「いのち」に対する仏教や禅の教えを深く理解し、日々の生活で活かす視座を身に付けることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	建学の精神 本学の仏教行事 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 授業の進め方 2. 建学の精神「正念」「行学一如」 3. 本学の特色ある仏教行事 	<p>予習：教科書（4-9 頁）を読み、本学の 2 つの建学の精神についてレポートにまとめておく 復習：建学の精神をこれからの学生生活に照らし合わせ、レポートにまとめる</p>
2	世界の宗教 釈尊の誕生 花まつり 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の宗教 宗教の分類 2. 古代インドの宗教観 3. 釈尊の誕生伝説 	<p>予習：教科書（12-18 頁）を読み、釈尊の誕生伝説についてレポートにまとめておく 復習：駒澤学園の仏教行事「花まつり」の意義についてレポートにまとめる</p>
3	「四苦八苦」と出家 苦行と「中道」の教え 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 釈尊の苦悩「四苦八苦」 2. 出家と修行（苦行） 3. 「中道」の教え 	<p>予習：教科書（19-20 頁,28-29 頁）を読み、苦行と「中道」の関係についてレポートにまとめておく 復習：「中道」の教えの要点をレポートにまとめる</p>
4	坐禅実習 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 坐禅堂での作法 2. 坐禅の三つの心得 3. 坐禅（結跏趺坐）の坐り方 	<p>予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の作法についてレポートにまとめておく 復習：坐禅の意義と礼儀作法の要点をレポートにまとめる</p>
5	釈尊の悟り（成道） 初転法輪 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 菩提樹下での釈尊の坐禅 2. 成道と「縁起」の教え 3. 初転法輪と「四諦八正道」の教え 	<p>予習：教科書（21-22 頁,29-31 頁）を読み、成道から初転法輪に至る経緯をレポートにまとめておく 復習：駒澤学園の仏教行事「成道会」「摂心会」の意義をレポートにまとめる</p>
6	45 年の伝道 釈尊の入滅（涅槃） 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 45 年の伝道 2. 釈尊の入滅（涅槃） 3. 釈尊滅後の仏教 	<p>予習：教科書（23-24 頁,38-39 頁）を読み、「応病与薬の対機説法」についてレポートにまとめておく 復習：駒澤学園の仏教行事「涅槃会」の意義をレポートにまとめる</p>
7	仏教と日本の文化 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「諸行無常」と日本の文学 2. 仏教が生んだ日本の言葉 3. 日常生活に息づく仏教文化 	<p>予習：教科書（32-35 頁）を読み、「諸行無常」についてレポートにまとめておく 復習：多種多様な仏教文化の特色についてレポートにまとめる 課題解決型授業</p>
8	道元禪師の誕生 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本仏教の流れ 2. 禅宗の特色について 3. 道元禪師の誕生 	<p>予習：教科書（46-51 頁,56 頁）を読み、鎌倉仏教の特色についてレポートにまとめておく 復習：駒澤学園の仏教行事「誕生記念日」の意義をレポートにまとめる</p>
9	坐禅実習 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「只管打坐」と「正念」 2. 坐禅の三つの心得 3. 坐禅（結跏趺坐）の坐り方 	<p>予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の心得（調身・調息・調心）についてレポートにまとめておく 復習：坐禅を通して感じた「只管打坐」と身心の関係についてレポートにまとめる</p>
10	道元禪師の出家 入宋求法 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道元禪師の出家 2. 比叡山・建長寺での修行 3. 典座との出会い（『典座教訓』の教え） 	<p>予習：教科書（56-58 頁）を読み、天台本覚法門についてレポートにまとめておく 復習：典座の教えと禅修行の要点をレポートにまとめる</p>
11	道元禪師の大悟 帰朝後の教化 山本 元隆	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「正師」との出会い 2. 如浄禪師のもとでの大悟 3. 帰朝後 禅の教化 	<p>予習：教科書（58-59 頁）を読み、如浄禪師の禅についてレポートにまとめておく 復習：道元禪師の修証観の特色をレポートにまとめる</p>

1 2	永平寺の創建 道元禅師の示寂 山本 元隆	1. 永平寺創建 2. 道元禅師の示寂 3. 道元禅師の教えと実践	予習 : 教科書 (59 頁,60-61 頁) を読み、永平寺の歴史についてレポートにまとめておく 復習 : 駒澤学園の仏教行事「追善記念日」の意義をまとめる						
1 3	禅と日本の文化 山本 元隆	1. 禅と日本文化 2. 禅と茶道 3. 禅と文学	予習 : 禅と日本の文化の関係について調べたことをレポートにまとめておく 復習 : 多種多様な禅と日本文化の特徴をレポートにまとめる						
1 4	仏教の「いのち」の教え 山本 元隆	1. 仏教の生命観 2. 仏教の死生観 3. 仏教と看護の接点	予習 : 生命に対する仏教の基本的な考え方について調べたことをレポートにまとめておく 復習 : 「いのち」に対する仏教の教えの要点をレポートにまとめる 課題解決型授業						
1 5	現代社会と仏教 山本 元隆	1. 釈尊の人間観 2. 道元禅師の人間観 3. 現代社会における仏教の意義	予習 : 仏教学 I で学んだことの要点を振り返り、不明瞭な点や疑問点をレポートにまとめておく 復習 : 仏教学 I を学び、自分の学生生活にどのように活かせるか、レポートにまとめる						
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業の提出物 (課題・テスト等) がある場合、次回の授業で総評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。							
テキスト・教材		『仏教学』(駒沢女子大学教科書) を基礎テキストとする。その他、必要に応じて資料を配付する。							
参考書		『英文対訳 道元禅師の典座教訓』(駒沢学園) その他、必要に応じて紹介する。							
評価の基準と方法		授業での提出物 (30%) とテスト・レポート (70%) で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○		△				
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容		曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。経験を通して仏教と禅の思想と文化について講じる。							

科目名称	哲学		
科目分類	310-110-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	森脇 健介	必修・選択	必修
担当教員	森脇 健介	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、古代から現代までの代表的な哲学者たちの思想を学び、この学びを通して人間の存在意義や人間存在の本質について考える。また、人間に関する身近なことから（死とは、知とは、他者とは、生きる意味とは、価値とは、道徳とは、愛とは、自由とは 等）についての本質を探究するという体験を通して、人間のあり方に対する考えを深めるとともに物事の根源を考えるさいに必要な哲学的な思考法についても学ぶ。		
到達目標	1. 西洋哲学の基礎を理解する。 2. 個別の倫理的テーマに関し、自らの思考/現代の通念と同じとは限らない様々な考え方・価値観があることを理解したうえで、自分の見解を整理できるようにする。 3. その見解を論理的に記述できるようにする。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	オリエンテーション 哲学とは何か？	哲学の始まり 「自然」をめぐる思想	講義 予習：シラバスを読んでおく。 復習：次回は今回の内容を踏まえているので、不明な点は自分で調べておく。
2	人間と世界	事物の本当のかたちと秩序 近代までの哲学概史	講義 予習：「第 1 回」の資料を読んでおく。 復習：不明な点を自分で調べておく。
3	理性と自由	カントの道徳哲学 人間の尊厳	講義 予習：「尊厳」概念について自分でも調べておく。 復習：リアクションシートを執筆する。
4	よりよく生きるとは	西洋哲学にみる善と幸福、身体と心の問題	講義 予習：「第 3 回」の関連項目を確認しておく。 復習：不明な点を自分で調べておく。
5	功利主義	功利主義からみた善・幸福・自由	講義 予習：「第 3 回」と「第 4 回」の関連項目を確認しておく。 復習：リアクションシートを執筆する。
6	正義と法	正義と応報、死刑	講義 予習：死刑制度についての議論を自分でも調べて問題意識を整えておく。 復習：リアクションシートを執筆する。
7	現代の死と自由	生の終わりにかかわる倫理と制度	講義 予習：尊厳死・安楽死についての議論を自分でも調べて問題意識を整えておく。 復習：リアクションシートを執筆する。
8	性と哲学	人間とは誰のことだったのか？フェミニズムからの 問い直し	講義 予習：今までの回で人間像がかかわる箇所を確認しておく。 復習：リアクションシートを執筆する。
授業開始前学習	1. 指定された予習を行い、講義内容については各自でノート等にまとめておけるようにしておく（リアクションシート・まとめのレポートの執筆に必要） 2. リアクションシートについては、授業内に指示をする。		
授業内課題の フィードバックの方法	合計 5 回、講義内で提示する課題テーマに対し、短いリアクションシートを執筆してもらい（予定回は「授業計画」中に指示、授業の進捗によって変更の可能性もある）、回収後、後の講義において講評を行う。		
テキスト・教材	特に指定しない・毎回レジュメを配布する。		
参考書	木田元・須田朗 編著『基礎講座 哲学』ちくま学芸文庫 筑摩書房 その他、各回の講義で必要に応じて提示する。		
評価の基準と方法	まとめのレポート（50%）、リアクションシート（50%）		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		△		
関連科目	生命倫理学、人権論							
その他	授業計画は、進度や受講生の理解度などに応じて変更する可能性があります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	生命倫理学		
科目分類	310-110-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	●	必修・選択	必修
担当教員	●	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	倫理的側面から「生と死」という人間存在の根源的な課題について考える手がかりを得るために、現代の医療における生命倫理上の問題（安楽死、尊厳死、脳死、臓器移植、人工妊娠中絶、生殖医療、インフォームド・コンセント 等）について考察する。また、生命倫理学上の諸概念、様々な倫理原則などについて学び、生命の尊厳や生きる意味についても理解を深めることで、生命倫理上の問題に対して倫理的判断を行うさいの多面的な考え方を身に付ける。		
到達目標	生命倫理学における各テーマ・論点をめぐる制度・理論や、様々な対立する見解と根拠をふまえた上で、自らの主張を、説得性をもった根拠をもって文章によって明確に論じることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	オリエンテーション 安楽死・尊厳死(1)	① 本授業の目標・内容・方法 ② 生命倫理学とは？ ③ 安楽死・尊厳死の定義	予習：シラバスを読んでおく。 復習：本日の講義内容についてノートにまとめておく。
2	安楽死・尊厳死(2)	① 安楽死をめぐる各国の現状と法 ② SOLとQOL	授業方法：グループディスカッション 予習：①②に関する資料を読んでおく。 復習：本日の講義内容についてノートにまとめておく。
3	安楽死・尊厳死(3)	① 安楽死の是非をめぐる議論の検討	授業方法：グループディスカッション 予習：①に関する資料を読んでおく。 復習：本日の講義内容についてノートにまとめておく。
4	安楽死・尊厳死(4)	① 安楽死の是非をめぐる議論の検討	授業方法：グループディスカッション 予習：①に関する資料を読んでおく。 復習：改めて安楽死の是非について自分の意見と根拠をまとめておく。
5	ホスピス・緩和ケアの思想と実践(1)	① ホスピス・緩和ケアの理念 ② 患者の自由と自己決定	授業方法：グループディスカッション 予習：①②に関する資料を読んでおく。 復習：本日の講義内容についてノートにまとめておく。
6	ホスピス・緩和ケアの思想と実践(2)	① ホスピス・緩和ケアの思想と実践	授業方法：グループディスカッション 予習：①に関する資料を読んでおく。 復習：改めてホスピス・緩和ケアについて自分の意見と根拠をまとめておく。
7	人工妊娠中絶(1)	① 人工妊娠中絶に関する法と現状 ② 中絶反対論と擁護論の対立	授業方法：グループディスカッション 予習：①②に関する資料を読んでおく。 復習：本日の講義内容についてノートにまとめておく。
8	人工妊娠中絶(2)	① 中絶擁護論の再検討(トムソンの議論とパーソン論)	授業方法：グループディスカッション 予習：①に関する資料を読んでおく。 復習：改めて人工妊娠中絶の是非について自分の意見と根拠をまとめておく。
授業開始前学習	1. 指定された資料を読み、指示された課題についてノートにまとめる。(事前・事後) 2. 課題については、事前・事後いずれについても、授業内に指示をする。		
授業内課題の フィードバックの方法	事前・事後いずれについても、授業内に適宜回答・解説・コメントする。		
テキスト・教材	特になし。毎回プリントなどの資料を配付する。		
参考書	講義中に適宜指示する。		
評価の基準と方法	授業の取り組み(10%) 期末レポート(90%)		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△	△			
関連科目	哲学							
その他	1. 受講者は関心をもって講義に臨み、積極的に質問・発言してください。 2. 授業計画はあくまでも目安なので、受講者の理解度や関心などに応じて内容を柔軟に変更します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	スポーツ科学		
科目分類	310-120-11	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	小澤 多賀子	必修・選択	選択
担当教員	小澤 多賀子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 金曜日 13:00～16:10 後期 金曜日 09:00～12:10	研究室	16-103
授業概要	<p>少子高齢化を迎えたわが国では、国民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図るために、「健康日本 21」をはじめとした施策がおこなわれ、健康に寄与する運動・スポーツ（運動）への期待も大きい。そこで、本授業では、看護師が運動を健康増進活動等に役立てていく力を養うために、運動が健康に及ぼす影響についての基礎的知識を学ぶ。また、スポーツに親しむ体験を通して、生涯スポーツや運動習慣の重要性について理解を深めていく。さらに、運動と疾患という観点から、生活習慣病の予防・改善や加齢にともなう生活機能低下の抑制における運動の有効性を学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果を理解する。 ・バレーボールとバドミントンの基本技術を習得する。 ・習慣的な運動・スポーツの重要性を認識し、自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識を高める。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツ実践の意義と運動・スポーツが体力や健康に与える効果について学習する。 ・自分の運動・スポーツの実践状況と健康状態を振り返り、運動の習慣化について考える（アンケート1回目）。 ・本授業でのスポーツ実践にふさわしい服装と運動靴を理解する。 ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」を理解する。 	<p>講義</p> <p>予習：運動・スポーツと健康（生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて）との関係の下調べ</p> <p>復習：運動・スポーツ実践の意義、および体力や健康に与える効果の整理</p>
2	バレーボール（1）： ボールに慣れる 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールを理解する。 ・ボールの扱いに慣れる。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：バレーボールの実践にふさわしい服装と室内運動靴の準備、バレーボールのゲームルールの下調べ</p> <p>復習：用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールの確認</p>
3	バレーボール（2）： パスの種類と実践 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・パスの種類を理解し、実践する（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：パスの種類と方法の下調べ</p> <p>復習：パスの種類と実践方法の整理</p>
4	バレーボール（3）： サーブ、レシーブの実践 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブとレシーブの種類を理解し、実践する。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：サーブ、レシーブの方法の下調べ</p> <p>復習：サーブとレシーブの実践方法の整理</p>
5	バレーボール（4）： 体力テスト（1回目）、アンケート（2回目） 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの実践や健康の維持・向上に必要な体力を理解した上で自分の体力レベルを評価する。 ・アンケートを行い、これまでの授業を振り返る。 	<p>実習</p> <p>予習：バレーボールの実践や健康の維持・向上に必要な体力レベルの下調べ</p> <p>復習：自分の体力レベルの確認</p>
6	バレーボール（5）： アタックの実践 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブ～レシーブ～パス～アタックの一連の流れを実践する。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：アタックの方法の下調べ</p> <p>復習：アタックの実践方法の整理</p>
7	バレーボール（6）： ゲームを楽しむ① 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム（リーグ戦）を実践し、チームワークの大切さを理解するとともにコミュニケーション能力を養う。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：ゲームルールの再確認</p> <p>復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p>
8	バレーボール（7）： ゲームを楽しむ② 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム（リーグ戦）の実践にて、勝利するための戦略を考え、チームとして実行できるように協力し合う。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：前回のゲームを踏まえて改善すべき点の確認</p> <p>復習：ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り</p>
9	バドミントン（1）： ラケットとシャトルに慣れる 小澤多賀子	<ul style="list-style-type: none"> ・用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールを理解する。 ・ラケットとシャトルの扱いに慣れる。 	<p>実習：グループワーク</p> <p>予習：バドミントンのゲームルールの下調べ</p> <p>復習：用具・コートの準備および片付けの方法とゲームルールの確認</p>

10	バドミントン(2): ストロークの種類と実践 小澤多賀子	・ストロークの種類を理解し、その基本を実践する。				実習: グループワーク 予習: ストロークの方法の下調べ 復習: ストロークの実践方法の整理			
11	バドミントン(3): サービスとスマッシュの理解と実践 小澤多賀子	・サービスとスマッシュの基本を理解し、実践する。				実習: グループワーク 予習: サービスとスマッシュの方法の下調べ 復習: サービスとスマッシュの実践方法の整理			
12	バドミントン(4): 体力テスト(2回目)、アンケート(3回目) 小澤多賀子	・運動・スポーツの実践や健康の維持・向上に必要な体力を理解した上で自分の体力レベルを評価する。 ・1回目に評価した体力と比較して、向上が認められたかを確認する。 ・アンケートを行い、これまでの授業を振り返る。				実習 予習: 評価結果(1回目)の振り返り 復習: 1回目と2回目との体力レベルの比較			
13	バドミントン(5): ゲームを楽しむ① 小澤多賀子	・ダブルスのゲーム(団体戦)を実践し、チームワークの大切さを理解するとともにコミュニケーション力を養う。				実習: グループワーク 予習: ゲームルールの再確認 復習: ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り			
14	バドミントン(6): ゲームを楽しむ② 小澤多賀子	・ダブルスのゲーム(団体戦)の実践にて勝利するための戦略を考え、チームとして実行できるように協力し合う。				実習: グループワーク 予習: 前回のゲームを踏まえて改善すべき点の確認 復習: ゲームの良かった点と改善点について個人とチームでの振り返り			
15	総括: 授業の振り返り 小澤多賀子	・運動・スポーツの実践で得たものを整理し、「自立して体力づくり・健康づくりを実践する意識が高まったかどうか」と「習慣的な運動・スポーツが体力や健康に与える効果」についてレポートにまとめる。 ・課題「運動・スポーツの習慣化に向けた運動プログラムの作成と実践」を提出する。				講義 予習: これまでの授業の振り返りと整理、運動・スポーツが体力や健康に与える効果の整理 復習: 授業を通して成長した点をまとめ、これからの生活や活動にて活かす			
授業開始前学習		・運動・スポーツと健康(生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて)との関係について事前学習しておく。 ・バレーボールとバドミントンのゲームルールを調べ、理解しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		体力評価などの授業内課題の結果は、授業時に個別返却して総評を伝える。							
テキスト・教材		該当なし							
参考書		1. 森田淳悟著:『わかりやすいバレーボールのルール』(成美堂出版)2011年 2. 阿部一佳、渡辺雅弘著:『基本レッスン バドミントン』(大修館書店)2002年 3. 田中喜代次、大月直美、小澤多賀子編:『健康華齢のためのスマートライフ』(サンライフ企画)2019年							
評価の基準と方法		成績評価: 体力の評価15%、試合の戦績15%、課題の評価15%、到達目標に関するレポート15%、および授業に対する姿勢や態度40%(チームキャプテンなどの役割10%、コートや用具の準備と片付け15%、試合の運営15%)							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	△	○				
関連科目									
その他		◇学習目標 運動やスポーツは一定量を習慣的に実践することで、体力の向上や健康の維持・改善の効果が期待できる。本授業では、バレーボールやバドミントンなどのスポーツやエクササイズを通じて楽しみながら体力づくり・健康づくりを実践していくことで、運動・スポーツが体力や健康(生活習慣病の予防・改善および生活機能の低下抑制を含めて)に与える効果を理解することを目標とする。また、自らの生活習慣を客観的に見直すことで、自立して習慣的に体力づくり・健康づくりを実践できる意識を高める。							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	心理学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Psychology	授業区分	講義
科目責任者	倉住 友恵	必修・選択	選択
担当教員	倉住 友恵	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30 後期 火曜日 10:40～12:10 木曜日 13:00～14:30	研究室	10-618
授業概要	人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、人間の心理や行動についての一般的な法則性を学ぶ。具体的には、認知心理学・学習心理学・教育心理学・社会心理学・パーソナリティ心理学・臨床心理学など各心理学分野の概要を扱い、心とは何か、人間の知覚や認知、記憶、思考、学習、動機づけ、行動、態度に関する基本的な事項について理解を深めていく。		
到達目標	1. 心理学の代表的な理論について理解し、自らの言葉で説明できる。 2. 学修した心理学の知識を自身の生活や看護に活用することができる。 3. 自己への理解を深め、ストレスを発散する適切な方法を述べるることができる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	ガイダンス・心理学と看護	・授業ガイダンス ・心理学とは ・心理学と看護の結びつき	予習：心理学とは何か調べる。 復習：提出課題に取り組む。
第 2 回	教育心理学	・動機づけ ・学習性無力感 ・欲求階層説	グループワークを実施する。 予習：動機づけとは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 3 回	知覚心理学・認知心理学	・感覚の発達 ・記憶の発達と衰退 ・忘却 ・記憶法	グループワークを実施する。 予習：今まで使用してきた記憶法を書き出す。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 4 回	学習心理学	・古典的条件づけ ・オペラント条件づけ ・観察学習	グループワークを実施する。 予習：学習とは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 5 回	社会心理学	・単純接触効果 ・バランス理論 ・認知的不協和理論	講義 予習：誰かと親しくなる要因、仲が悪くなる要因について考える。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 6 回	集団心理学	・社会的な手抜き ・リーダーシップ ・同調	グループワークを実施する。 予習：集団およびチームワークとは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 7 回	パーソナリティ心理学	・性格とは ・気質 ・類型論と特性論 ・人格検査	講義 予習：性格とは何か調べる。 復習：授業資料に目を通し復習する。
第 8 回	臨床心理学・健康心理学	・ストレス ・ストレスコーピング ・レジリエンス ・ポジティブ・リフレーミング	グループワークを実施する。 予習：どのようなことに最もストレスを感じるか考える。 復習：授業資料に目を通し復習する。
授業開始前学習	心理学に関する書籍、入門書を読んでおく、授業の理解がしやすい。		
授業内課題のフィードバックの方法	課題の提出を求めた際には、その授業回または次回にてフィードバックおよび講評を行う。		
テキスト・教材	特に指定しない。		
参考書	青木智子 編著『医療と福祉のための心理学改訂版—対人援助とチームアプローチ』（北樹出版） 藤田主一・山崎晴美 編著『新 医療と看護のための心理学』（福村出版） 野口普子 編著『看護師・コメディカルのための医療心理学入門』（金剛出版）		
評価の基準と方法	授業への取り組み（提出課題を含む）60%、学期末レポート 40%により評価する。		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△	△				△
関連科目	発達心理学、臨床心理学							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	文化人類学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Anthropology	授業区分	講義
科目責任者	今尾 佳生	必修・選択	選択
担当教員	今尾 佳生	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	文化という側面から人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、人間の多様性の背景にある要因について学ぶことを通して、自己と異なるものの見方・考え方に関心をもち、自己の固定観念にとらわれずにものごとを考えていく姿勢、自己の固定観念を問い直す姿勢を養う。また、日常生活において出会う人々の行為や認識を人間の多様性の背景にある要因という観点から理解することで、他者に対する理解や異文化に対する理解を深め、自己と異なるものの見方や考え方を尊重する姿勢を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学の学問的特性と、主要概念について端的に説明できる。 2. 現代日本社会の文化／社会状況を、他文化／社会状況と比較することによって相対化できる。 3. 医療・福祉分野についての諸事象を文化人類学的な視点から解釈し、説明できる。 4. 文化人類学の研究方法としてのフィールドワークやインタビューに関する基礎的な部分を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	文化人類学は何を問うのか	<ul style="list-style-type: none"> ・文化とは何か ・文化の相対性 ・文化人類学の成立 ・人類学と民俗学 ・人種と民族 ・民族と言葉 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の異文化体験をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
2	生活の糧を得る営み	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟採集 ・牧畜 ・農耕 ・食文化 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分が興味のある国の食文化について調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
3	性と結婚	<ul style="list-style-type: none"> ・性と生殖のコントロール ・婚姻のルール ・ジェンダーとセックス ・性の多様性と多面性 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の結婚観と結婚後の生活イメージについてまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
4	家族・親族と家系	<ul style="list-style-type: none"> ・家族のかたちと居住空間 ・身内の分類と距離感 ・出自と祖先 ・現代社会と家族・親族 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の家の間取りをノートに図解しておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
5	霊魂と宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・葬送儀礼と霊魂観 ・祭りと地域社会 ・精霊とアニミズム ・憑依とシャーマニズム 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、現代の映画や漫画などに出てくる魔法や呪術について調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
6	人の一生と通過儀礼	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生と成人 ・結婚と産育 ・境界領域 ・穢れとタブー 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分の誕生～現在までに経験した節目の儀礼についてまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。
7	医療と看護	<ul style="list-style-type: none"> ・環境と人間の関係性 ・身体と人間関係 ・社会と身体の関係性 ・呪医と魔女 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、日本の民間療法や「身体にいい」とされることについて調べておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをもとめつつ、次回までに小レポートを仕上げしておくこと。

8	文化人類学の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・参与観察 ・インタビュー ・フィールドノート ・調査の倫理 ・民族誌と文化の表象 ・カルチュラル・スタディーズ 	授業方法：講義 予習：事前配布資料を一読し、自分のアルバイト先や部活・サークル活動内の人間観察をしておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、期限までに最終レポートを仕上げしておくこと。					
授業開始前学習	1. 毎回の講義で内容に関わる資料を、事前に Google Classroom で配信するので、必ず一読しておくこと。 2. 授業開始前までに、小レポートを必ず仕上げしておくこと。 3. 講義内容と自分自身のこれまでの人生において経験してきたことを関連づけ、疑問に思った出来事を思い返し、その概要をノートにまとめておくようにすること。 4. 毎回の講義内容をノートにしっかりまとめておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	* Google Classroom に提出されたレポートに対してコメントを添えて返します。							
テキスト・教材	* 特に指定しませんが、毎回資料を配布、または配信します。							
参考書	* 授業中に適宜紹介します。							
評価の基準と方法	毎回の小レポート（60%）及び最終レポート（40%）の結果により総合的に評価します。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	△	△	△			△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	文学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	今井 夏彦	必修・選択	選択
担当教員	今井 夏彦	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間とはどのような存在なのかを考える手がかりを得るために、さまざまな文学作品に触れることを通して、人間に対する理解を深める。具体的には、文学作品に込められた人間の精神世界に触れることで人間存在に対する感性を育み、人間の精神世界に対する想像力・共感力を高めることを通して、人間に対する理解を深める。また、さまざまな文学作品に触れることを通して、ものごとに対する思考を深めること、価値観の幅を広げること、さらには豊富な語彙に触れることでの語彙力、さまざまな文章に触れることでの表現力・論理構成力・文章力を身につけることも目的とする。		
到達目標	1. 文学、とくに小説誕生のプロセスについて説明できる。 2. 取り上げた作品の背景とテーマを説明できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	イントロダクション	文学とは何か。文学のジャンル。	復習：文学がどのように成立したかを理解する。 キーワード：韻文、散文、非日常的空間。
2	アメリカの小説（1） E.ヘミングウェイ 「武器よさらば」	作者によって明らかにされる戦争の悲惨さ。	予習：「武器よさらば」を読んでおくこと。 復習：フレデリックとキャサリンの愛の行方を確認すること。 キーワード：失われた世代、ハード・ボイルド文体。
3	アメリカの小説（2） F.S.フィッツジェラルド 「グレート・ギャツビー」	ニックによって語られるギャツビーの華麗な人生。	予習：「グレート・ギャツビー」を読んでおくこと。 復習：ギャツビーはなぜデイジーに固執したかを理解すること。 キーワード：アメリカ 1920 年代、アメリカン・ドリーム。
4	アメリカの小説（3） J.D.サルンジャー 「ライ麦畑でつかまえて」	ホールデン少年のニューヨークにおける 3 日間の彷徨。	予習：「ライ麦畑でつかまえて」を読んでおくこと。 復習：ホールデンはなぜ子ども領域にこだわるのかを確認すること。 キーワード：ピューリタニズム、イノセンス。
5	日本の近現代小説 （1） 夏目漱石「三四郎」	九州・熊本から上京した三四郎が東京で学んだこと。	予習：「三四郎」を読んでおくこと。 復習：三四郎は当時の日本社会への批判的な視点を得たかを確認すること。 キーワード：明治維新、自然主義と反自然主義。
6	日本の近現代小説 （2） 太宰治「斜陽」	太平洋戦争直後の没落貴族の一家の波乱に満ちた生活。	予習：「斜陽」を読んでおくこと。 復習：母と弟を相次いで失ったかづ子なぜ自己を確立できたかを確かめること。 キーワード：私小説、無頼派。
7	金子みすゞの詩 「わたしと小鳥とすずと」	「みんなちがってみんないい」の精神はどこから生まれたか。	予習：金子みすゞの詩を読んでおくこと。 復習：童謡詩人としてのみすゞの詩の言葉の響きの美しさを確認すること。 キーワード：他者の視点、見えないもの。
8	再び文学とは。	レポート回収、現代における文学の位置。	予習：文学とは何かについて確認すること。 復習：人間の時間という観念の捉え方を確認すること。 キーワード：内的な時間、外的な時間。
授業開始前学習	1. 講義時に取り上げる作品を予め読んでおくこと。 2. 講義時に取り上げる他の作品を合わせて通時的・共時的に理解すること。		
授業内課題の フィードバックの方法	授業開始時に提示する。		
テキスト・教材	講義プリントを授業時に配布する。		
参考書	新潮文庫、角川文庫「グレート・ギャツビー」、岩波文庫、新潮文庫「武器よさらば」、白水社 U ブックス「ライ麦畑でつかまえて」、岩波文庫「三四郎」、新潮文庫「斜陽」、JULA 出版局「わたしと小鳥とすずと」。		
評価の基準と方法	2 本のレポート（100%）の内容により総合的に評価する。 授業時に言及したアメリカの作品一つ、日本の作品一つに関するレポート 2 本。提出日は指示。		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	仏教学Ⅱ		
科目分類	310-120-11 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Buddhism II	授業区分	講義
科目責任者	安藤 嘉則	必修・選択	選択
担当教員	安藤 嘉則	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 水曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00	研究室	10-505
授業概要	<p>仏教は日本の文化に大きな影響を及ぼしており、とりわけ道元禅師をはじめとする禅宗の人々の教えは茶道や華道、あるいは武道といった日本の文化に大きな影響を及ぼしている。そこで、本科目では、こうした日本の文化に大きな影響を及ぼしている禅宗の教えをはじめ、浄土思想や密教思想などを取り込んでの日本の仏教文化について学ぶ。また、仏教の教えは日本人の自然観や死生観にも影響を及ぼしているため、こうした日本人の精神文化についても学ぶ。さらには、実際に坐禅を行い、日常の礼儀作法を身につけるとともに仏教という観点から人間理解を深める契機とする。</p>		
到達目標	<p>1. 浄土思想・法華思想など、日本仏教の基本思想を理解し説明することができる。 2. 日本人の死生観と日本仏教のことについて理解を深め説明することができる。 3. 日本人の宗教観と日本文化の特質を理解し説明することができる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	日本仏教の歴史的展開 1 安藤 嘉則	<p>ガイダンス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本への仏教伝来 2. 飛鳥・奈良時代の仏教 3. 最澄の天台宗とその法華思想 4. 空海の真言宗と密教思想 	<p>予習：教科書 44～47 頁を読み、古代日本の仏教寺院や僧がどのような役割を果たしたか、レポートにまとめておく 復習：平安仏教の天台思想と密教思想の内容と仏教史における意義についてレポートにまとめる</p>
2	日本仏教の歴史的展開 2 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 浄土教から浄土宗の成立 2. 親鸞の浄土真宗とその浄土思想 3. 日蓮の日蓮宗とその思想 4. 栄西の臨済宗とその禅思想 	<p>予習：教科書 47～48 頁を読み、法然と親鸞の浄土思想の特徴を把握し両者の相違点についてレポートにまとめておく 復習：栄西の禅思想の特徴を把握し禅宗文化が日本文化にもたらした影響についてレポートにまとめる</p>
3	坐禅実習 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 坐禅の三つの心得 2. 坐禅（結跏趺坐）の坐り方 3. 「正念」と「身心一如」 	<p>予習：教科書（64-74 頁）を読み、坐禅の心得（調身・調息・調心）についてレポートにまとめておく 復習：「正念」と「身心一如」の関係についてレポートにまとめる</p>
4	日本仏教文化の特質 1 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教と神道の融合と分離 2. 日本人の宗教的シンクレティズム（宗教混合）の諸相 	<p>予習：教科書 44 頁を読み、「本地垂迹」の思想についてレポートにまとめておく 復習：仏教と神道の歴史的な関係についてレポートにまとめる</p>
5	日本仏教文化の特質 2 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教と日本人の自然観 2. 「山川草木悉皆成仏」の成立 	<p>予習：日本人の自然観について調べたことをレポートにまとめておく 復習：日本仏教特有の山や川が成仏するという思想はどのようなものか、レポートにまとめる</p>
6	仏教と現代 1 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 仏教における心のケアの諸相 2. マインドフルネスと仏教 3. 日本仏教におけるグリーン・ケア 	<p>予習：「マインドフルネス」と「グリーン・ケア」について調べたことをレポートにまとめておく 復習：現代における心のケアについて仏教が果たす事例と役割についてレポートにまとめる 課題解決型授業</p>
7	仏教と現代 2 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文学に見る仏教的素材と仏教 2. 仏教の救済思想 3. 叡尊と忍性の救済事業 	<p>予習：川端康成の「美しい日本の私」を読み、道元禅師の禅思想との関連をレポートにまとめておく 復習：仏教の救済思想と叡尊等による救済事業の歴史と成果についてレポートにまとめる</p>
8	日本仏教と日本文化 安藤 嘉則	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本仏教の特殊性 2. 仏教が日本文化にもたらした影響 	<p>予習：仏教学Ⅱで学んだことの要点を振り返り、不明瞭な点や疑問点をレポートにまとめておく 復習：仏教や禅の教えが多様な日本の文化を形成した理由についてレポートにまとめる</p>
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	授業で課した提出物（レポート等）については、次回の授業で全体で講評する。また、必要に応じて個別にフィードバックする。		
テキスト・教材	『仏教学』（駒沢女子大学教科書）を基礎テキストとする。その他、必要に応じて資料を配布する。		

参考書	『英文対訳 道元禅師の典座教訓』（駒沢学園） その他、必要に応じて指示する。							
評価の基準と方法	毎回の提出物（課題等）50%、レポート50%で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△				
関連科目	仏教学 I							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	曹洞宗の僧侶としての実務経験有り。その経験を生かして仏教の思想・文化等を講じる。							

科目名称	芸術論		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	郭 在祐	必修・選択	選択
担当教員	郭 在祐	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	芸術という側面から人間としての感性を養う手がかりを得るために、芸術論を目で見るもの、耳で聞くものを通して、芸術作品への創作者の思いや芸術作品の表現から自分の心の中でどのような感覚や雰囲気を感じ、かつ自ら表現ができるかを学ぶ。具体的には、美術鑑賞や音楽・ダンス鑑賞を通して、芸術作品に込められた創作者の思いを超えた自身の思い（メッセージ）を表現し、芸術のもたらす情緒豊かな感性やゆとりある時間を持つことの意味を考え、日常生活に活かす手がかりを得る。		
到達目標	韓国について、韓国美術について、韓国の歴史について興味を持ち参考文献などを調べ読むこと。そして、授業中のたくさんの韓国と日本の芸術作品(絵画・建築)を通して隣国同士の日・韓美術を学び、理解し、比較文化というのを考える。そして、この授業を受講する以前と以降のように意識が変わったのをしっかり語れるようにしてもらいたい。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	郭 在祐	ガイダンス 1. 授業の進め方 2. 授業内容のオリエンテーション	講義 予習:事前学習課題の提出、本授業目標の確認しておく。 復習:学習内容を整理し、疑問点を解決する。
2	郭 在祐	どうしてこの授業を受講したのかそれについてディスカッションする。	講義 予習:韓国の歴史や美術に関する文献を調べ把握しておく。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
3	郭 在祐	韓国の美意識－韓国建築・韓屋(ハンオク)－	講義 予習:韓国の家屋に関する文献を調べてくる。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
4	郭 在祐	韓屋空間にみられる美-屏風・屏風画-	講義 予習:韓国の屏風の役割について調べておく。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
5	郭 在祐	日本家屋空間にみられる美-襖・襖絵-	講義 予習:日本の襖と襖絵について調べておく。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
6	郭 在祐	韓国との出会い-日本人画家の活動- —水墨山水画(室町時代と朝鮮初期時代)—	講義 予習:近代韓国絵画に関する文献を調べておく。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
7	郭 在祐	韓国の契会と契会図について	講義 予習:契会について文献などを調べてくる。 復習:学習した内容を整理し、疑問点を解決しておく。
8	郭 在祐	総括両国の美を考えながらディスカッションする。	講義 予習:今までと現在の両国の美意識を復習し、日本と韓国の美について共通点と相違点考え整理する。
授業開始前学習	・参考文図書・文献を読んで授業に臨むこと。 ・どうしてこの授業を履修したのかを認識しながらそれを土台に授業に臨むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	講義時に提出されたレポートは、翌週の授業時に返却する。他疑問や質問も受ける。		
テキスト・教材	特にありません。授業中に必要な資料を配布します。		
参考書	安 輝濬著 藤本幸夫・吉田宏志訳 『韓国絵画史』 吉川弘文館 1985 年第 1 版 李 進熙 『日本文化と朝鮮』 NHK ブックス 1995 年 第 1 版 辻 恒雄監修 『日本美術史』 美術出版社 1991 年 第 1 版 小野健吉 『日本庭園-空間の美の歴史-』 岩波新書 2009.2.20		
評価の基準と方法	授業に関するレポート(30%) 授業参加度=公次による欠席以外、一切欠席理由書は受け取らない=(70%)		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○					
関連科目								
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学習目標 この講義を通し美術とは何か、日本と韓国の美について改めて考えてみる。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	社会学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Sociology	授業区分	講義
科目責任者	今尾 佳生	必修・選択	選択
担当教員	今尾 佳生	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会と人間を理解するために、社会学の基礎的な概念、社会の構造が人間に及ぼす影響について学ぶ。また、社会的なものの方の見方・捉え方ができるように、社会現象の根底にある構造を明らかにするさいに有益な社会現象について、既に明らかになっている知見を再考する方法・まだ明らかになっていない社会現象についての知見を得る方法としての社会調査や社会研究の概要についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マス・メディアによって報道される社会事象を社会的な視点から解釈し、説明できる。 2. 自分自身の過去・現在・未来にわたる人生に関わる諸事象を社会的な視点から解釈し、説明できる。 3. 医療・福祉分野についての諸事象を社会的な視点から解釈し、説明できる。 4. 社会学の学問的特性と、主要概念について端的に説明できる。 5. 社会学の研究方法として量的及び質的なアプローチの基礎的な部分を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	社会学の学問的特徴と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要：本講の目的・目標と授業展開、成績評価方法 ・社会学とはどのような学問か：その対象と視点 ・社会調査の量的／質的アプローチ ・データの蒐集と解釈 ・主な社会調査の方法 	授業方法：講義 予習：教科書第 1、2 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義内容をノートにまとめておくこと。
2	社会的に作られる「私」	<ul style="list-style-type: none"> ・自我と客我：自我の社会性／関係としての「私」 ・社会的期待と役割取得 ・社会化と社会集団 	授業方法：講義 予習：教科書第 3 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、学んだことをもとに自分の生い立ちを解釈してみる。
3	変わりゆく「家族」のかたち	<ul style="list-style-type: none"> ・「家族」の歴史的・文化的多様性 ・大家族性と核家族 ・少子高齢化社会の諸問題 ・就業形態と家族 	授業方法：講義 予習：教科書第 4 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、学んだことをもとに自分の家族のあり方を解釈してみる。
4	「格差」と「医療」	<ul style="list-style-type: none"> ・「階級」と「階層」 ・階層帰属意識 ・新自由主義経済と新しい格差社会 ・医療と社会構造／社会階層 ・「患者」とは誰か ・日常生活の医療化 	授業方法：講義 予習：教科書第 8、11 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、現代社会の格差／貧困問題、及び医療や看護・介護をめぐる社会的な問題を解釈してみる。
5	「逸脱」と社会問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「逸脱者」とは誰か ・逸脱と社会構造 ・社会問題の構築とラベリング 	授業方法：講義 予習：教科書第 10 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、非行やいじめなどの問題を解釈してみる。
6	「ローカル社会」と「グローバル社会」	<ul style="list-style-type: none"> ・社会集団 - 都市型社会と村型社会 - ・近代化と都市脱地域化と再地域化 ・グローバル化とは何か ・「共同体としての国家」とエスニシティ ・日本の民族問題 	授業方法：講義 予習：教科書第 12、13 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、自分の居住地域の問題点、及び自分が実感しているグローバル化現象を解釈してみる。

7	「宗教」からみる社会	<ul style="list-style-type: none"> ・宗教と社会体制 ・「聖」と「俗」をめぐる社会行動 ・近代化のエネルギーとしての宗教 	授業方法：講義 予習：教科書第 14 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、自分の身の回りの「宗教的」問題を解釈してみること。					
8	「メディア」と「国家」権力 / 「社会運動」	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアとコミュニケーション ・近代国家の誕生とマスメディア ・政治と行政機構 ・国家統治のための社会装置 ・国家の限界と社会運動の勃興 	授業方法：講義 予習：教科書第 15、16 章を一読し、要点をノートにまとめておくこと。指定された小レポートを執筆し、Google Classroom にアップしておくこと。 復習：講義ノートをまとめつつ、現代のメディア環境にかかわる問題を解釈し、現代社会における NPO 活動の可能性を考察してみること。					
授業開始前学習		<ul style="list-style-type: none"> * テキストの指定箇所必ず目を通して要点をノートに整理しておくこと。 * 毎回の小レポートを授業開始前に仕上げ提出しておくこと。 						
授業内課題のフィードバックの方法		* Google Classroom に提出されたレポートに対してコメントを添えて返します。						
テキスト・教材		<ul style="list-style-type: none"> * 篠原清夫・栗田真樹編著『大学生のための社会学入門』、晃光書房、2016 年 ISBN: 978-4771027176 * その他適宜講義資料を配布または配信します。 						
参考書		* 授業テーマに即して適宜紹介します。						
評価の基準と方法		期末試験（50%）及び課題レポート（50%）の結果より総合的に評価する。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		○				
関連科目								
その他		◇学習目標 社会学におけるものごとの見方・考え方を事象に即して理解するとともに、社会学的な研究方法論の基礎に関する知識を習得する。						
予習・復習の所要時間		講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間						
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	生活科学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	大矢 幸江	必修・選択	選択
担当教員	大矢 幸江	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会におけるより快適な人間の生活を理解するために、生活の概念、衣・食・住という生活環境が生活者としての人間に及ぼす影響、家族という人間関係が生活者としての人間に及ぼす影響、家族と地域のかかわりが生活者としての人間に及ぼす影響などについて学ぶ。また、文献を通して、人間の生活についての理解を深めるとともに、生活者としての人間にはさまざまな生活のかたちがあることを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の体をつくる日常食を振り返り、現代の食生活の課題を理解し、健康な体を維持するための献立作りができる。 2. 快適な家庭生活を送るための住環境の重要性を理解し、安全で健康に住まうことや持続可能な住まいを説明できる。 3. 衣服の機能や素材について理解し、環境に配慮した衣生活の実践と日本の伝統的な衣服を現代の生活に活かせる。 4. 地域社会でお互いが支え合って生活することの重要性を知り、社会に暮らす一員として自分にできることを記述できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	現代日本の食生活の課題	ガイダンス 日本における食生活の問題点 生活習慣病と食習慣の関係	講義 予習：シラバスから授業内容を概観しておく 復習：食生活の問題点と食習慣について理解を深める
2	理想の献立作り	食生活の振り返りと理想の献立	講義、グループワーク 予習：1 週間分の食事を記録する 復習：バランスの良い理想の献立を完成させる
3	日本の食と世界の食	日本と世界の食文化と郷土料理	講義、実習：食事マナー 予習：各自の郷土料理を調べておく 復習：日本の食文化や郷土料理への理解を深める
4	安全で健康な住生活	災害から身を守り健康で安全な住まいの工夫	講義、実習：理想の平面図 予習：自分の住まいの特徴を調べる 復習：安全で健康な住まいについて理解を深める
5	持続可能な住まい	伝統的な日本と世界の住居とこれからの住まい	講義 予習：日本の民家、世界の住居を調べる 復習：自然環境を共生する住まいについて理解を深める
6	衣服の機能と素材	衣服の機能と素材の特徴を活かす衣服の選択と手入れ	講義 予習：手持ちの衣服をチェックする 復習：衣服の選択や管理について理解を深める
7	和服の伝統とこれから	日本の伝統的な衣服と伝統技術、日本人の知恵や工夫	講義、実習：浴衣の着装 予習：これまでの和服の経験を振り返る 復習：和服への理解を深め次世代に伝えたいことを考える
8	地域と生きる、共生社会	地域と生きる、皆が共に生きる社会 自分らしい人生	講義 予習：地域社会での活動の経験を振り返る 復習：社会の一員として自分にできること、また家族やライフスタイルについて考え記述する
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で提出したレポートは、翌週の授業時に返却する		
テキスト・教材	随時プリントを配布する		
参考書	『生活プロデュース入門』：「生活プロデュース入門」編集委員会（青山社）		
評価の基準と方法	レポート 60%、授業内課題 40%		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○	△	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	法学・日本国憲法		
科目分類	310-120-11	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	福王 守	必修・選択	必修
担当教員	福王 守	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00 後期 火曜日 09:00～10:30 木曜日 10:30～12:00	研究室	10-614
授業概要	市民社会において、法は社会をよりよく営むためのルールとしての役割を担っている。特に、日本国憲法とは、日本のあり方を定めた基本法かつ最高法規である。これは一人ひとりの国民を人格の担い手として尊重するという、例外を許さない決意の下に作られた。なぜ、第二次世界大戦後にこの憲法は新しく制定されたのか。なぜ「基本的人権の尊重」「国民主権」「平和主義」という 3 つの柱が立てられたのか。授業では、法の役割を理解した上で、憲法の基本的な仕組みを歴史的背景も含めて検証する。その上で、第 1 の柱である「基本的人権の尊重」について、急がずに事例を踏まえつつ理解を深めていく。		
到達目標	1. 日本国における基本法である「日本国憲法」の役割を説明できる。 2. 異なる意見を踏まえつつ筋道を立てて未解決の社会問題について説明できる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	福王 守	「日本国憲法」とは：授業の目的・内容・学習方法について【テキスト 目次 1～11 頁】	予習：本科目シラバスおよびテキスト目次 1～11 頁の講読 復習：テキスト目次 1～11 頁の再読、第 1 回授業ノートおよび配布プリントの整理
2	福王 守	市民社会と法：法の役割と憲法の意義【テキスト 3 頁】	予習：テキスト 3 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 3 頁の再読、第 2 回授業ノートおよび配布プリントの整理
3	福王 守	日本国憲法の背景：立憲主義と個人の尊厳【テキスト 13～16 頁】	予習：テキスト 13～16 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 13～16 頁の再読、第 3 回授業ノートおよび配布プリントの整理
4	福王 守	日本国憲法の背景：戦後憲法制定の背景【テキスト 17～26 頁】	予習：テキスト 17～26 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 17～26 頁の再読、第 4 回授業ノートおよび配布プリントの整理
5	福王 守	憲法の目的と趣旨：日本国憲法前文の意味【テキスト 27～31 頁】	予習：テキスト 27～31 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 27～31 頁の再読、第 5 回授業ノートおよび配布プリントの整理
6	福王 守	憲法の目的と趣旨：平和主義原理と平和的生存権 【テキスト 32～43 頁】	予習：テキスト 32～43 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 32～43 頁の再読、第 6 回授業ノートおよび配布プリントの整理
7	福王 守	授業：憲法の目的と趣旨：基本的人権尊重原理と人権の種類 【テキスト 15、29、53 頁】	予習：テキスト 15、29、53 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 15、29、53 頁の再読、第 7 回授業ノートおよび配布プリントの整理
8	福王 守	人権の基本：包括的基本権としての幸福追求権 【テキスト 73～81 頁】	予習：テキスト 73～81 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 73～81 頁の再読、第 8 回授業ノートおよび配布プリントの整理
9	福王 守	授業：人権の基本：法の下での平等 【テキスト 81～88 頁】	予習：テキスト 81～88 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 81～88 頁の再読、第 9 回授業ノートおよび配布プリントの整理
10	福王 守	これまでの授業の総括と発展学習の学修の手引：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】	予習：第 2 回～9 回までのテキスト全学習頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト全学習頁の再読、【第 10 回】授業ノートおよび配布プリントの整理
11	福王 守	人身の自由：奴隷的拘束からの自由・適正手続と刑罰 【テキスト 134～150 頁】	予習：テキスト 134～150 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 134～150 頁の再読、第 11 回授業ノートおよび配布プリントの整理

12	福王 守	社会権：福祉国家思想と社会権 【テキスト 161～168 頁】	予習：テキスト 161～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 161～168 頁の再読、第 12 回授業ノートおよび配布プリントの整理					
13	福王 守	社会権：生存権 【テキスト 162～168 頁】	予習：テキスト 162～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト 162～168 頁の再読、第 13 回授業ノートおよび配布プリントの整理					
14	福王 守	社会権：社会保障制度としての高齢者福祉 【テキスト 161～168 頁】	予習：テキスト 161～168 頁の講読およびキーワードの確認 復習：161～168 頁の再読、第 14 回授業ノートおよび配布プリントの整理					
15	福王 守	「法学・日本国憲法」発展学習の手引き：授業全体の体系的整理と論証に向けて（課題解決型学習）【テキスト全学習頁】	予習：テキスト目次 1～11 頁の講読およびキーワードの確認 復習：テキスト全学習頁の再読、第 15 回授業ノートおよび配布プリントの整理					
授業開始前学習	テレビや新聞の社会面・政治面の報道に、少しでも多く接する機会をもってほしい。これは、必ずどこかで授業理解の助けとなる。							
授業内課題のフィードバックの方法	適宜次回の授業冒頭において、課題レポートに対する講評と質問への回答を述べる。また第 10 回および第 15 回目において、レポート全般に関する講評と個々の問題解決に向けた助言を行う。							
テキスト・教材	古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（第 4 版補訂版）』（尚学社、2016 年）							
参考書	授業を通じて適宜紹介する。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・15 回のレポートの総合点で 100%評価する（10 点×15 回＝150 点を 100 点満点に換算）。 ・単位取得の前提として、すべての授業回数のうち授業出席を前提とした 10 回（約 70%）以上の提出が必要である。 							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		○				
関連科目								
その他	<p>◇学習目標 初めに六法を用いて市民社会における法の役割と日本体系を理解する。次に、テキストを用いて日本国憲法の歴史的背景と基本構造を理解する。これらを基礎として、特に人権保障を中心とした具体的な憲法問題および裁判例につき関連資料を通じて分析していくことを目標とする。</p> <p>◇学習上の留意点 テレビや新聞などを通じて授業に関連する報道に接すること。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	教育学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Education	授業区分	講義
科目責任者	石橋 哲成	必修・選択	選択
担当教員	石橋 哲成	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間が生きてゆくためには「教育」が必要不可欠であることを理解し、自己の学習能力を高め、生涯にわたり学ぶ姿勢を養うことを目的とする。「人間における教育の意味」「教育の本質と目的」「教育の基盤としての家庭教育」などの学習内容をもとに、家族や学校における「教育」の実際と役割について考察する。さらに、西洋や日本の歴史の中で展開されてきた「教育」の実際を知ることにより、自らの生涯教育、キャリア教育をも含めた多様な「教育のあり方」について考える手がかりとし、専門職として自己成長するための方法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間と教育の関係を考え、記述する。 2. 教育の本質は何かを推論する。 3. 西洋と日本の教育の流れを比較する。 4. ナイチンゲールの業績と、日本における看護教育の歴史を説明する。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス・本論に入る前の予備考察	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方、レポート、テスト等について ・動物と学習、人間と教育の関係について 	授業内レポート①：動物と学習、人間と教育の関係について、授業の要点をまとめ、感想を述べよ。
2	人間と教育	<ul style="list-style-type: none"> ・哺乳動物における就巢性と離巢性 ・生まれたての人間の子どもの特殊性 ・教育的存在としての人間 	予習：配布された資料を読んでおく。 授業内レポート②：本日の授業の内容の要点をまとめ、感想を付け。
3	教育の本質 教育の作用	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育」の語義 ・伝達作用と助成作用 ・教育の連続性と非連続性 	予習：配布された資料を読んでおく。 授業内レポート③：本日の授業の内容の要点をまとめ、感想を付け。
4	教育の目的 教育の基盤としての家庭教育	<ul style="list-style-type: none"> ・時代の変遷と教育の目的 ・教育の目的としての全人教育 ・教育の基盤としての家庭教育 	予習：配布された資料を読んでおく。 小テスト（1回目）を実施。 復習：本日の授業の内容を復習して、ノートに要点をまとめておく。
5	西洋における教育の歴史（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教に基づく子ども観 ・子どもの発見者、ルソーの教育思想 ・初等教育の父、ペスタロッチーの教育思想 	予習：配布された資料を読んでおく。 授業内レポート④：本日の授業の内容の要点をまとめ、感想を付け。
6	西洋における教育の歴史（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児教育の父、フレーベルの教育思想 ・看護教育の母、ナイチンゲールの登場 	予習：配布された資料を読んでおく。 小テスト（2回目）を実施。 復習：本日の授業の内容を復習して、ノートに要点をまとめておく。
7	日本における教育の歴史（1）	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の教育 ・中世の教育 ・近世、江戸時代の教育 	予習：配布された資料を読んでおく。 授業内レポート⑤：本日の授業の内容の要点をまとめ、感想を付け。
8	日本における教育の歴史（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・明治から大正、昭和、今日への教育の流れ ・明治期より今日に至る看護教育 	予習：配布された資料を読んでおく。 小テスト（3回目）を実施。 家庭学習レポート：授業の内容を復習して、ノートに要点をまとめる。
授業開始前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前もって教師から渡された講義資料を読んで、当日の講義内容を、きちんと把握しておくこと。 2. 当日の講義の終りの2,30分間を使って、その日にやった講義内容をレポートしたり、小テストを受けたりすることによって、講義の内容をきちんと吟味すること。 		
授業内課題のフィードバックの方法	授業中、きちんとノートが取れた上で基本的な内容を理解できているかどうかを確認するため、8回の授業のうち5回において感想及び質問を書かせ、3回の授業の最初に小テストを実施する。		
テキスト・教材	一冊のテキストを指定することはない。講義資料を事前配布し、さらに必要な資料については、授業中に紹介する。		

参考書	1. 石橋哲成編著『教育原理』／一藝社／2016 2. 石橋哲成著『こんな子育ていいな！』／一藝社／2019							
評価の基準と方法	授業中の5回のレポート（50%）、3回の小テスト（30%）および家庭学習レポート（20%）を総合して最終評価とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	△		△	○			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	行動科学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	後藤 晶	必修・選択	選択
担当教員	後藤 晶	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会的存在としての人間の行動を理解し、社会生活において、行動科学・行動経済学の知見を活用できるようになるために、人間の行動と社会的な要因の関係について学ぶ。具体的には、行動科学とは何か、人間の行動に影響を及ぼす要因、人間の行動を決定する要因、人間の行動変容を促す要因などについて学ぶ。また、日常生活における行動科学の知見の適用例を知ることにより、行動科学についての理解を深める。		
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 1. 行動科学・行動経済学の基礎的な考え方を理解することができる。 2. 自身の意思決定に存在するバイアスを理解し、日頃から気をつけることができる。 3. 行動経済学の考え方を踏まえて、自身の興味のある社会問題や人間行動の分析・理解ができるようになる。		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	イントロダクション/直感と理性	この講義の概要について紹介します。さらに、行動経済学の前提となる人間像である「二重過程理論」についても紹介します。	講義 予習：特に必要としない 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
2	フレーミング効果	表現に影響を受ける人間の意思決定について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
3	判断・意思決定におけるバイアス①	直感的な意思決定を検討するために、利用可能性ヒューリスティックおよび、代表性ヒューリスティクスを紹介します。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
4	判断・意思決定におけるバイアス②	引き続き、直感的な意思決定を検討するために、アンカリング効果を紹介します。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
5	プロスペクト理論	ゲーム理論の考え方について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
6	ゲーム実験①	ゲーム理論について実験を行いながら実践的に考え方を学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
7	ゲーム実験②/行動経済学の応用①	ナッジの考え方について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
8	行動経済学の応用②	ナッジの応用事例について学びます。	講義 予習：前回の講義資料を確認する。 復習：講義内容を整理し、疑問点を確認する。
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	翌週の授業時に全体に向けてコメントをフィードバックします。		
テキスト・教材	教員が資料を用意します。		
参考書	友野典男, 2006, 『行動経済学 経済は「感情」で動いている』, 光文社新書 ダニエル・カーネマン (著) 村井章子 (訳) 友野典男 (監修), 2014, 『ファスト&スロー』 (上下巻), 早川書房 ダニエル・カーネマン, オリヴィエ・シボニー, キャス・サンスティーン (著) 村井章子 (訳), 2021, 『NOISE:組織はなぜ判断を誤るのか?』 (上下巻), 早川書房 その他適宜紹介する		

評価の基準と方法	平常点 20%, 知識確認テスト 40%, 定期試験 40% 平常点: 授業評価アンケート, その他授業中に行う調査等の回答状況などの授業への積極性を評価する。 知識確認テスト: 知識確認のための簡単な課題を課す。 定期試験: 学期末試験時に実施する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎			△	○	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人権論		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	森脇 健介	必修・選択	選択
担当教員	森脇 健介	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	社会における人権尊重の重要性・必要性についての理解を深め、自らの生活や生き方に繋げるために、人権について、法学を中心としつつ様々な視点から学ぶ。具体的には、人権とは何か、また、人権を尊重する必要性について学び、この学びを受けて、人権が保障されていない状況や侵害されていると思われる状況を取りあげ、人権問題の存在についての認識を深めていく。そしてそれを通じ、同時に人権尊重の重要性についての理解も深める。さらには、ここでの学びを、制度の知識と制度を取り巻く多様な価値観を踏まえ、自ら考えて論理的に結論を下していくことができるようにする。		
到達目標	1. 人権の理論を理解する。 2. 現代の諸問題に対し、人権の理論からアプローチする方法を得、考えを整理できるようにする。 3. その考えを論理的に記述できるようにする。		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人権総論	ガイダンス、人権とは何か、日本国憲法と人権、人権とジェンダーの視座	講義 予習：ジェンダー問題や憲法に関し、これまで自分が得ている知識があれば確認しておく。 復習：特に、ジェンダーと人権の意義について復習しておく。 第 1 講は今後のほとんどの講義の基盤となる回であるため、できる限り不明な点がないようにしておくこと。
2	家族/ジェンダーと人権	婚姻の自由、選択的夫婦別姓制度、親子関係をめぐる人権の問題	講義 予習：第 1 講の復習を踏まえて、レジュメを確認しておく。 復習：特に、家族の形成や親子関係の発生にかかわる人権の歴史を理解しておく。
3	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと人権	性と生殖の健康/権利の意義、人工妊娠中絶をめぐる権利論と制度	講義 予習：第 2 講の復習を踏まえて、レジュメを確認しておく。 復習：この回はリアクションシートの確定回なので執筆すること。
4	セクシュアリティと人権	同性婚・パートナーシップ制度、トランスセクシュアル	講義 予習：第 2 講の復習を踏まえて、レジュメを確認しておく。 復習：この回はリアクションシートの確定回なので執筆すること。
5	表現・暴力と人権	性表現の自由、性暴力をめぐる法制度	講義 予習：第 1 講と第 2 講の関連項目と合わせ、レジュメを確認しておく。 復習：第 4 講の関連項目を合わせて理解を深める。
6	医療・福祉と人権	医療の倫理と意思決定、社会権思想と福祉制度の体系	講義 予習：第 1 講の関連項目と合わせて、レジュメを確認しておく。 復習：第 2 講と第 3 講の関連項目と合わせて理解を深める。
7	子どもと人権	人権の主体としての子ども、子どもの権利条約の意義、子どもの教育をめぐる制度	講義 予習：第 1 講と第 6 講の関連項目と合わせて、レジュメを確認しておく。 復習：この回でまとめのレポートの内容を発表するので、今までの講義回と合わせて必要な論点整理を行うこと。
8	キャリアと人権	労働者の人権、女性労働者の人権問題、労働とハラスメント	講義 予習：第 1 講と第 2 講、第 5 講の関連項目と合わせて、レジュメを確認しておく。 復習：レポートの執筆に向けて、不明点を解消しておくこと。
授業開始前学習	次回の講義のレジュメを前もって配布するので（第 1 講を除く）、あらかじめ内容を確認しておくことで講義の流れや要点を整理しておくこと。授業方法の予習項目に記載した「関連項目」については、講義内で具体的に指示する。		
授業内課題のフィードバックの方法	不定期回も合わせて合計 4 回、講義内で提示する課題テーマに対し、短いリアクションシートを執筆してもらい、回収した次の講義でその講評を行う。		
テキスト・教材	特に指定しない・毎回レジュメを配布する。		

参考書	各回の講義で必要に応じて提示する。							
評価の基準と方法	まとめのレポート（60％）、リアクションシート（40％）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○		△		△		
関連科目	法学・日本国憲法							
その他	◇学習目標 人権とは何か、また人権をめぐる現代の諸問題についてその知識を得、自らの考えを論理的に構成できるようにすること。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	言語表現法 I		
科目分類	310-110-21	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	石川 創	必修・選択	必修
担当教員	石川 創	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10 後期 月曜日 10:40~12:10 金曜日 10:40~12:10	研究室	10-510
授業概要	思考を明言化（言語化）する力を獲得するために、日本語の基本的構造を理解することを通して、自分の思いや考えを適切に伝えるための論理構成の仕方、自分の思いや考えを論理的かつ明確に伝えるための表現の仕方について学ぶ。また、語彙力や文章理解力を高め、正しい日本語を用いて正確に表現できる力を育成することも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを論理的かつ明確に伝えるための表現の仕方を身につける。 語彙力や文章理解力を高め、正しい日本語を用いて正確に表現できるようになる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業の進め方 敬語の種類と使い分け 石川創	前期の授業の進め方について説明する。教科書 a の「敬語の種類と使い分け」（12~14 頁）について説明する。	講義 予習：教科書 2 冊（a と b）を準備して目を通す。教科書 a の 12~14 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 12~14 頁を復習する。
2	敬語の種類と使い分け 注意すべき敬語 石川創	教科書 a の「敬語の種類と使い分け」練習・応用問題（15~17 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「注意すべき敬語」（18~20 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 15~17 頁の練習・応用問題を予習し、18~20 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 15~20 頁を復習する。
3	注意すべき敬語 配慮を示す言葉 石川創	教科書 a の「注意すべき敬語」練習・応用問題（21~23 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「配慮を示す言葉」（24~26 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 21~23 頁の練習・応用問題を予習し、24~26 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 21~26 頁を復習する。
4	配慮を示す言葉 手紙を書こう 石川創	教科書 a の「配慮を示す言葉」練習・応用問題（27~29 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b の「手紙を書こう」（39~46 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 27~29 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 39~46 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 27~29 頁と、教科書 b の 39~46 頁を復習する。
5	授業内テスト（手紙を書こう） 作文課題 1 を書く 石川創	教科書 b の「手紙を書こう」（39~46 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題 1（手紙文）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	授業内テスト・課題解決型学習 予習：教科書 b の 39~46 頁を読み直す。 復習：手紙文の書き方を復習する。
6	作文課題 1 解説 ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉 石川創	作文課題 1 を返却し、解説する。教科書 a の「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」（38~40 頁）について説明する。	講義 予習：教科書 a の 38~40 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 38~40 頁を復習する。
7	ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉 文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文 石川創	教科書 a の「ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉」練習・応用問題（41~43 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」（44~46 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 41~43 頁の練習・応用問題を予習し、44~46 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 41~46 頁を復習する。
8	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文 まずは書いてみよう 石川創	教科書 a の「文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文」練習・応用問題（47~49 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b の「まずは書いてみよう」（5~10 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 47~49 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 5~10 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 47~49 頁と、教科書 b の 5~10 頁を復習する。
9	効果的な文書作成 作文課題 2（エントリーシート）を書く 石川創	教科書 b の「効果的な文書作成」（53~57 頁）について説明してから、作文課題 2（エントリーシート）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	講義・課題解決型学習 予習：教科書 b の 53~57 頁を読んでおく。 復習：エントリーシートの書き方を復習する。
10	授業内テスト（まずは書いてみよう・効果的な文書作成） 作文課題 2 解説 動詞の自他・視点 石川創	教科書 b の「まずは書いてみよう」（5~10 頁）と「効果的な文書作成」（53~57 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題 2 を返却し、解説する。教科書 a の「動詞の自他・視点」（64~66 頁）について説明する。	授業内テスト・講義 予習：教科書 b の 5~10 頁と 53~57 頁を読み直す。教科書 a の 64~66 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 64~66 頁を復習する。

1 1	動詞の自他・視点 コロケーション 石川創	教科書 a の「動詞の自他・視点」練習・応用問題（67～69 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「コロケーション」（76～79 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 67～69 頁の練習・応用問題を予習し、76～78 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 67～69 頁と 76～78 頁を復習する。					
1 2	コロケーション 仮名遣い・送り仮名 石川創	教科書 a の「コロケーション」練習・応用問題（79～81 頁）の答え合わせと解説を行い（課題解決型学習）、「仮名遣い・送り仮名」（90～92 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 79～81 頁の練習・応用問題を予習し、90～92 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 79～81 頁と、90～92 頁を復習する。					
1 3	仮名遣い・送り仮名 よい文章を書くために 石川創	教科書 a の「仮名遣い・送り仮名」練習・応用問題（93～95 頁）の答え合わせと解説を行う（課題解決型学習）。教科書 b の「よい文章を書くために」（11～18 頁）について説明する。	課題解決型学習・講義 予習：教科書 a の 93～95 頁の練習・応用問題を予習する。教科書 b の 11～18 頁を読んでおく。 復習：教科書 a の 93～95 頁と、教科書 b の 11～18 頁を復習する。					
1 4	さあ文章を書いてみよう 作文課題 3（論理的な文章）を書く 石川創	教科書 b「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）を説明してから、作文課題 3（論理的な文章）を授業時間内に書いて提出する（課題解決型学習）。	講義・課題解決型学習 予習：教科書 b の 19～21 頁を読んでおく。 復習：論理的な文章について復習する。					
1 5	授業内テスト（よい文章を書くために・さあ文章を書いてみよう） 作文課題 3 解説 前期で学んだこと（教科書 a・b） 石川創	教科書 b の「よい文章を書くために」（11～18 頁）と「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）の知識が身に付いているかをテストで確認する。作文課題 3 を返却し、解説する。教科書 a・b で学んだ前期の授業内容を振り返る。	授業内テスト・講義 予習：教科書 b の 11～18 頁と 19～21 頁を読み直す。 復習：教科書 b の 11～18 頁と 19～21 頁を復習する。前期の授業で学んだことを復習する。					
授業開始前学習		教科書に目を通して、どんなことを学ぶのか内容を確認しておくこと。						
授業内課題の フィードバックの方法		日本語についての基礎的な問題や、作文課題、授業内テストを実施する。課題は返却後講評を行い、個別の質問に回答する。						
テキスト・教材		a『スキルアップ! 日本語力』（名古屋大学日本語研究会 GK 7 著 東京書籍） b『日本語表現法 新訂版』（庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 翰林書房） 教科書は必ず 2 冊とも買うこと。						
参考書								
評価の基準と方法		定期試験（60%）と作文課題・授業内テスト（40%）で評価する。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○					△
関連科目								
その他		毎回、国語辞典（電子辞書可）を持ってくること。						
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間						
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語 I (リーディング)		
科目分類	310-110-21	単位数	1.0 単位
英文名称	English I (Reading)	授業区分	演習
科目責任者	竹村 哲明	必修・選択	必修
担当教員	竹村 哲明	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国際語としての英語は、現代社会において広く知識や情報を得るため、また他者とのコミュニケーションを円滑にはかるため、大学において継続的に学び身につけるべきスキルのひとつである。英語 I では、第二言語習得論にある四技能のうち「読む力」の向上を目的とする。医療英語を中心として時事ニュースや語学試験対策等さまざまな教材を扱い、英文の正確かつすみやかな読解力にもとづいた情報収集力の定着をめざして実践的に演習する。(履修生の習熟度に応じた少人数クラスを編成する)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護にまつわる英文を適切に読解することができる。 2. コミュニケーションを念頭に置いた表現を運用できる。 3. 専門用語の知識を習得できる。 4. 疾病や感染症などの世界情勢および最新情報を英文で理解できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・授業の方針と進め方 ・副教材について	予習: 教科書の準備、シラバスの確認。 復習: 学習事項の確認。
2	診療科①	・Unit 1: Hospital Departments ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III, IV。 復習: 学習事項の確認。
3	診療科②	・Unit 1: Hospital Departments ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の V, VI, VII。 復習: 学習事項の確認。
4	問診票①	・Unit 2: Application Forms ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III, IV。 復習: 学習事項の確認。
5	問診票②	・Unit 2: Application Forms ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の V, VI, VII。 復習: 学習事項の確認。
6	身体部位①	・Unit 3: Parts of the Body ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III。 復習: 学習事項の確認。
7	身体部位②	・Unit 3: Parts of the Body ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の IV, V, VI。 復習: 学習事項の確認。
8	Unit 1～3 復習	・Review ①	試験範囲の指示と解説、復習。 予習: Review 該当箇所。 復習: 試験準備。
9	病名①	・Unit 4: Illnesses ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III, IV。 復習: 学習事項の確認。
10	病名②	・Unit 4: Illnesses ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の V, VI, VII, VIII。 復習: 学習事項の確認。
11	病院勤務①	・Unit 5: Daily Routine ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III, IV。 復習: 学習事項の確認。
12	病院勤務②	・Unit 5: Daily Routine ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の V, VI, VII。 復習: 学習事項の確認。
13	医療器具①	・Unit 6: Hospital Objects ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の I, II, III, IV。 復習: 学習事項の確認。
14	医療器具②	・Unit 6: Hospital Objects ② ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習: 該当 Unit の V, VI, VII, VIII。 復習: 学習事項の確認。
15	Unit 4～6 復習	・Review ②	試験範囲の指示と解説、復習。 予習: Review 該当箇所。 復習: 試験準備。

授業開始前学習	必要ありません。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内または前後に対応します。							
テキスト・教材	Vital Signs [Revised Edition]: Essential English for Healthcare Professionals. Vivian Morooka, et. al. 南雲堂. (2018)							
参考書	Fundamentals of Nursing: The Art and Science of Nursing Care. Carol R. Taylor, et. al. Wolters Kluwer Health Lippincott Williams & Wilkins, 2011 (7th edition).							
評価の基準と方法	必要出席数を踏まえた上で「定期試験(筆記): 50%、授業内活動: 50%」を基準とします。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他	医療・看護にまつわる語彙や表現を学習し、専門知識への導入を兼ねた和英双方の総合的な言語能力向上を目的とします。副教材は時事ニュース講読や専門用語集などを想定しており、すべて教員が準備します（上掲の参考書も購入不要）。辞書または副教材閲覧・音声再生のためタブレット等の端末が必要になります。詳細は随時周知します。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	英語Ⅱ(ライティング)		
科目分類	310-110-21	単位数	1.0 単位
英文名称	English II (Writing)	授業区分	演習
科目責任者	竹村 哲明	必修・選択	必修
担当教員	竹村 哲明	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国際語としての英語は、現代社会において広く知識や情報を得るため、また他者とのコミュニケーションを円滑にはかるため、大学において継続的に学び身につけるべきスキルのひとつである。英語Ⅱでは、第二言語習得論にある四技能のうち「書き力」の向上を目的とする。医療英語を中心として生命倫理にまつわる時事ニュースなど教養的なトピックも扱い、英語によって自己の意見を他者へ適切に伝えるための情報発信力の向上をめざして実践的に演習する。(履修生の習熟度に応じた少人数クラスを編成する)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療・看護の英文を適切に読解できる。 2. コミュニケーションを念頭に置いた言語表現に習熟する。 3. 英文ライティングに習熟し、自己の意見を英語で発信できるようになる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・授業の方針 ・前期試験の返却と復習	予習：シラバスの確認。 復習：前期試験の見直しと復習。
2	指示①	・Unit 7: Locations of Hospital Objects ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I～VII。 復習：学習事項の確認。
3	英作文①	・副教材講読 ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：課題の準備。 復習：学習事項の確認。
4	指示②	・Unit 8: Hospital Directions & Instructions ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I～VII。 復習：学習事項の確認。
5	英作文②	・副教材講読 ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：課題の準備。 復習：学習事項の確認。
6	指示③	・Unit 9: Directions (Outside the Hospital) ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I～VII。 復習：学習事項の確認。
7	英作文③	・副教材講読 ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：課題の準備。 復習：学習事項の確認。
8	Unit 7～9 復習	・Review ③	試験範囲の解説、復習。 予習：Review 該当箇所。 復習：試験準備。
9	愁訴①	・Unit 10: Chatting with Patients ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I, II, III。 復習：学習事項の確認。
10	愁訴②	・Unit 10: Chatting with Patients ② ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の IV, V, VI, VII。 復習：学習事項の確認。
11	問診①	・Unit 11: Taking a Medical History ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I, II, III, IV。 復習：学習事項の確認。
12	問診②	・Unit 11: Taking a Medical History ② ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の V, VI, VII。 復習：学習事項の確認。
13	術前・術後①	・Unit 12: Hospital Procedures ① ・副教材講読	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の I, II, III, IV。 復習：学習事項の確認。
14	術前・術後②	・Unit 12: Hospital Procedures ② ・課題の執筆、提出	教材講読、教員による解説。 予習：該当 Unit の V, VI, VII。 復習：学習事項の確認。
15	Unit 10～12 復習	・Review ④	試験範囲の解説、復習。 予習：Review 該当箇所。 復習：試験準備。

授業開始前学習	教科書 Unit 1～6 を中心とした前期学習内容の見直し。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業内で返却、または全体で講評します。							
テキスト・教材	Vital Signs [Revised Edition]: Essential English for Healthcare Professionals. Vivian Morooka, et. al. 南雲堂. (2018)							
参考書	Fundamentals of Nursing: The Art and Science of Nursing Care. Carol R. Taylor, et. al. Wolters Kluwer Health Lippincott Williams & Wilkins, 2011 (7th edition).							
評価の基準と方法	必要出席数を踏まえた上で「定期試験(筆記): 50%、授業内活動(提出物込): 50%」を基準とします。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目	英語 I (リーディング)							
その他	前期の学習を踏まえて、教員の準備する副教材を使用しつつ引き続き専門用語の理解と専門知識の補強をねらいます。また、自己の意見を適切に言語表現することに慣れるため、各回において授業内容または医学看護学に関連した内容の英作文を課します。詳細は初回または各回に周知します。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	言語表現法Ⅱ		
科目分類	310-120-21	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	石川 創	必修・選択	選択
担当教員	石川 創	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10 後期 月曜日 10:40～12:10 金曜日 10:40～12:10	研究室	10-510
授業概要	言語表現法Ⅰを受けて、自分の考えを明確に表現できる力を強化するために、自分の意見を他者に発表することを通して、テーマに関する自分の考えを論理的にまとめる方法、自分の考えを他人に的確に伝えるための方法を学ぶ。また、この過程で明らかになった話して伝えるさいの自分の課題・書いて伝えるさいの自分の課題に対する方策を考えることを通して、よりいっそうの言語能力の向上を図ることも目的とする。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを論理的にまとめ、他人に的確に伝える能力を身につける。 ・発表を通して自分の話し方・書き方の課題を見つけ、言語能力の向上を図る。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	授業の進め方 発表順序を決める テーマの選び方、調査方法、参考文献の探し方（プレゼンテーションをより効果的に） 石川創	後期の授業の進め方について説明し、発表順序を決める。教科書の「プレゼンテーションをより効果的に」（29～31 頁）について説明し、テーマの選び方、調査方法、参考文献の探し方をアドバイスする。	講義 予習：教科書の 29～31 頁を読んでおく。 復習：教科書の 29～31 頁を復習する。発表テーマを考える。
2	発表テーマの決定 発表資料の作成 石川創	自分の発表するテーマを決めて、発表資料を作成する。	発表準備 予習：口頭発表のための資料の作成の準備を行う。 復習：発表資料の作成と発表用原稿の準備をする。
3	発表と質疑応答 石川創	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
4	発表と質疑応答 石川創	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
5	発表と質疑応答 石川創	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
6	発表と質疑応答 石川創	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
7	発表と質疑応答 石川創	学生が発表し、その内容についての質疑応答を行う。	発表・グループディスカッション 予習：発表担当者は発表資料を作成し、他の受講生は自分の発表するテーマに関する調査を行う。 復習：発表内容を振り返り、質問やアドバイスをまとめたメモを作成する。
8	発表内容の振り返り レポートのまとめ方（よい文章を書くために・さあ文章を書いてみよう） 石川創	発表内容の振り返りと、教科書の「よい文章を書くために」（11～18 頁）と「さあ文章を書いてみよう」（19～21 頁）をもとに、レポートのまとめ方を説明する。	講義 予習：教科書の 11～21 頁をもとに、発表内容のまとめ方を考える。 復習：発表内容をレポートにまとめる。
授業開始前学習	自分の発表テーマを考えておく。関連する文献を読んでおく。		
授業内課題の フィードバックの方法	発表者の発表内容については、授業時に適宜指導を行う。発表に関する質問には適宜回答する。		

テキスト・教材	『日本語表現法 新訂版』（庄司達也・山岸郁子・小野美典・安達原達晴著 翰林書房）							
参考書								
評価の基準と方法	口頭発表や質疑応答の仕方、発表資料の内容等（40%）と、学期末レポート（60%）とで評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○					
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	英語Ⅲ(リスニング)		
科目分類	310-120-22	単位数	1.0 単位
英文名称	EnglishⅢ(Listening)	授業区分	演習
科目責任者	竹村 哲明	必修・選択	必修
担当教員	竹村 哲明	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国際語としての英語は、現代社会において広く知識や情報を得るため、また他者とのコミュニケーションを円滑にはかするため、大学において継続的に学び身につけるべきスキルのひとつである。英語Ⅲでは、第二言語習得論にある四技能のうち「聞く力」の向上を目的とする。語学の礎となる聴取力の定着のため、医療現場で使われる定型文や専門用語に習熟しつつ、英語コミュニケーションに資する講義やロールプレイングを適宜まじえながら実践的に学習する。(履修生の習熟度に応じた少人数クラスを編成する)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語を介した情報収集力と読み書き能力を向上させる。 2. コミュニケーション・ツールとして英語を使うことに習熟する。 3. 現代文化および自己の生活への批判的思考力が得られる。 4. 現代的な教養のあり方について知見を深められる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の方針 ・講義: On Self-Expression ・KEYWORDS: Paragraph Writing ・英作文課題(内容は各回に発表、以下同) 	予習: シラバスの確認 復習: 課題の執筆、提出
2	恋愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: What is "Love"? ・KEYWORDS: Loanwords / DV / Terms & Analysis / Passion / Hana Yori Dango ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
3	性愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: A Brief History of Syphilis ・KEYWORDS: Fin de Si?cle / Birth Control / Kamisama, Mou Sukoshi Dake ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
4	求愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: Marriage A-la-Mode ・KEYWORDS: Slavery / Birthrate / DINKS / DEWKs / La Dame aux Camelias ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
5	親愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: Is Fraternity Universal? ・KEYWORDS: ATM / Free-Riders / Libido / Complex / Pride and Prejudice ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
6	博愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: A Cetacean Gastric Shock ・KEYWORDS: Compassion / Debris / BAE / Philanthropy / Shachi no Uta ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
7	愛護	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: Animal Experiments ・KEYWORDS: Egoism / Pet Industry / Humanism / A Defense of Cosmetics ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
8	愛玩	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: What is "Kawaii"? ・KEYWORDS: Beauty / Racism / Disney Princess / Whitewash / Aladdin ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出
9	偏愛	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・講義: What is "Lookism"? ・KEYWORDS: Signifiant / Orthodontics / Fashion / Vanity / Beauty and the Beast ・英作文課題 	予習: 教材・参考資料の確認 復習: 課題の執筆、提出

10	同性愛	・講評 ・講義： Sexuality ・KEYWORDS: Gender / Parent 1 & 2 / Homosocial / Diversity / De l'Amour ・英作文課題	予習：教材・参考資料の確認 復習：課題の執筆、提出					
11	自己愛	・講評 ・講義： Narcissus and Self-Love ・KEYWORDS: PD / Schizophrenia / Mask / Munchausen Syndrome / Kawaikute Gomen ・英作文課題	予習：教材・参考資料の確認 復習：課題の執筆、提出					
12	慈愛	・講評 ・講義： Heart for Money, or What? ・KEYWORDS: Labor / Black-ness / Care / Hospitality / Exploitation / A Tweet ・英作文課題	予習：教材・参考資料の確認 復習：課題の執筆、提出					
13	愛憎	・講評 ・講義： The Age of Self-Destruction ・KEYWORDS: Suicide / Delinquency / Esteem / Wrist-Slitting / Faces Places ・英作文課題	予習：教材・参考資料の確認 復習：課題の執筆、提出					
14	青春	・講評 ・講義： On Meaninglessness ・KEYWORDS: Aging / Death / Humanity / A 12 Year-Old Girl / Hatachi no Shuki ・英作文課題	予習：教材・参考資料の確認 復習：課題の執筆、提出					
15	まとめ	・講評 ・模擬試験	予習：課題の執筆、提出 復習：試験準備					
授業開始前学習		必要ありません。						
授業内課題のフィードバックの方法		授業内に返却もしくは講評します。						
テキスト・教材		教員が準備します(PDF/mp3等)。						
参考書		上記「学習内容」のイタリック箇所をはじめ随時指摘します。						
評価の基準と方法		必要出席数を踏まえた上で「定期試験(筆記): 50%、授業内活動(提出物込): 50%」を基準とします。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○			△	
関連科目	英語 I(リーディング)、英語 II(ライティング)							
その他	現代社会において誰しもが直面するさまざまな「愛」について、古今日欧の文化表象をふまえて批判的に検討します。身近な問題をめぐって継続的に表現することで言語能力の総合的な底上げを期しつつ、「自己の客観視」という現代日本の大学に欠けがちな知的態度の醸成、教養の自覚を促します。詳細は初回にお話します。 ※クラス分けが実施された場合は別のシラバスも掲載します。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	スペイン語		
科目分類	310-120-22	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	久々湊 直子	必修・選択	選択
担当教員	久々湊 直子	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>スペインとアメリカ大陸の広い地域、カリブ海諸国、そしてアフリカの国を含む 20 カ国以上の公用語であるスペイン語。その入門科目として初歩を学ぶ講座である。英語に次いで広範囲な社会で活用できる言語であるスペイン語とその背景にある文化・歴史を通して、英語圏とはまた違った角度から国際交流／異文化交流の足掛かりをつけることを目的としている。英語圏の視点一辺倒になりがちな日本の外国語文化教育の中で、日本人の耳になじみやすい発音を持ったスペイン語に触れ、多角的な国際理解と多様な価値観・世界観を学ぶことは、国際的感性とコミュニケーション能力を身につける。</p>		
到達目標	<p>1. 基本的な挨拶や初歩文法と会話の知識を身につける 2. スペイン語の発声の特徴に慣れ、自分から話しかける意欲と自信を身につける 3. 医療現場に必要な単語について身につけたり調べたりする能力を身につける</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 久々湊直子	・授業内容・使用教科書、辞書の説明 ・スペイン語圏について知る ・スペイン語の文字の打ち方を学ぶ	授業後にスペイン語圏とはどこのか調べて国名を書き出してみよう。
2	アルファベットと発音	教科書 p.2-3 日本語と近い発音を持ったスペイン語の発声の法則を知り、単語を見て音読できるようになる。	習った読み方（音読）について、教科書とワークシートで実際に発声をし、文字の並びを見て発声できるように練習する。
3	名詞の特徴	教科書 p.4-5 名詞の性と数、人称代名詞、ものを頼む表現について学ぶ	教科書とワークシートで名詞の性を見分け、正しい冠詞や形容詞をつけられるように練習する。人称代名詞を覚える。（次回小テスト）
4	名詞を使った会話	教科書 p.6-7 シチュエーションで会話する 1	ワークシートで Ejercicios 1 を行う。（提出）
5	ser 動詞と所有形容詞	教科書 p.8-9 Ser 動詞について学び、活用できるようになる 所有形容詞の前置形を学ぶ	ワークシートで人称代名詞と合わせて活用させた作文をつくれるようになる。（次回小テスト）
6	ser 動詞を使った会話	教科書 p.10-11 シチュエーションで会話する 2	ワークシートで Ejercicios 2 を行う（提出）
7	一般動詞現在形と前置詞	教科書 p.12-13 ar 動詞、er 動詞、ir 動詞の 3 タイプを学ぶ。 不規則動詞 ir を学ぶ。前置詞を学ぶ	一般動詞の活用で作文できるようになる。（次回テスト）
8	一般動詞を使った会話	教科書 p.14-15 シチュエーションで会話する 3	ワークシートで Ejercicios3 を行う（提出）
9	estar 動詞と Hay	教科書 p.16-17 ser 動詞、estar 動詞、hay の使い方の違いを学ぶ	ser 動詞、estar 動詞、hay の区別を復習する（次回小テスト）
10	ser, estar, hay を使った会話	教科書 p.18-19 シチュエーションで会話する 4	ワークシートで Ejercicios4 を行う（提出）
11	不規則動詞の種類 ①語根母音変化	教科書 p.20-21 語根が変化する不規則動詞を学ぶ	教科書に第 5 課出てきた 5 つの不規則動詞をマスターする（次回小テスト）
12	不規則動詞を使った会話	教科書 p.22-23 シチュエーションで会話する 5	ワークシートで Ejercicios5 を行う（提出）
13	不規則動詞の種類②1 人称単数不規則動詞	教科書 p.24-25 1 人称単数が変化する不規則動詞を学ぶ	教科書に第 6 課出てきた 7 つの不規則動詞をマスターする（次回小テスト）
14	不規則動詞を使った会話	教科書 p.26-27 シチュエーションで会話する 6	ワークシートで Ejercicios6 を行う（提出）
15	まとめ	テストに向けた質疑応答、学習方法	テスト勉強
授業開始前学習		単語	

授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業の最初に前回のワークシートについての講評を行う。							
テキスト・教材	高橋覚二、糸魚川美樹、福地恭子、リディア・サラ・カハ著『¿Qué te pasa?(ケ・テ・パサ?) —初級スペイン語、看護・医療系語彙を中心に—』朝日出版 ISBN978-4-255-55030-5 C1087							
参考書	辞書：『西和中辞典』（小学館）、『新スペイン語辞典』（研究社）、『現代スペイン語辞典』（白水社）、『プログレッシブ・スペイン語辞典』（小学館）、『和西辞典』（白水社）							
評価の基準と方法	毎回のワークシート・小テストの提出と評価（50%）、学期末試験（50%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	韓国語		
科目分類	310-120-22	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	郭 在祐	必修・選択	選択
担当教員	郭 在祐	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	韓国語入門の科目であり、韓国語の基礎について学ぶ。将来、日本人のみならず、韓国語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。特に同じアジア圏であり、近隣国であるため、本科目を通して簡単な会話ができるスキルを身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 韓国語の読み・書き方を学んだ上で、必要な文法・会話を身につける。 2. 基礎知識を習得し、短い文章の読み書きもできるようになる。 3. 言葉と関連して、韓国の文化を知る。 4. 挨拶や簡単な会話ができること。 5. 韓国語の読む・書く・聞く・話すことができるための基礎作りができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 郭 在祐	・授業のテーマや到達目標及び授業方法について説明。	予習：シラバスを事前に確認し、授業全体の流れを把握する。 復習：授業の方法及び中事項について確認する。
2	文字と発音① 郭 在祐	・基本の母音と子音の読み方	予習：母音と子音の読み方を事前に練習してくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
3	文字と発音② 郭 在祐	・合成母音や濃音と激音とパッチム	予習：濃音と激音の読み方を事前に練習してくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
4	文字と発音③ 郭 在祐	・人称代名詞と主格助詞	予習：韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
5	文字と発音④ 郭 在祐	・指示代名詞や事物・所有格	予習：韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
6	文字と発音⑤ 郭 在祐	・感謝の表現について	予習：感謝の表現について韓国と日本の相違点を考えてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
7	文字と発音⑥ 郭 在祐	・事物の位置を説明する	予習：位置 復習：学んだ内容を把握と復習する。
8	助詞について 郭 在祐	・目的語と動詞で表現する	予習：「～を」と「～に」について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
9	数字(漢数詞・固有数詞) 郭 在祐	・電話番号・日にち・価格・ものを数える	予習：数字 復習：学んだ内容を把握と復習する。
10	疑問形 郭 在祐	・「～です」と「～ですか」の表現	予習：「～です」と「～ですか」の表現について事前に内容を把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
11	存在に関する表現 郭 在祐	・「場所」「位置」「住所」	予習：「います」と「あります」の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
12	過去形の表現 郭 在祐	・「いました」と「ありました」の表現	予習：「いました」と「ありました」の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
13	尊敬語について 郭 在祐	・尊敬語の表現	予習：尊敬語の表現について事前に把握する。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
14	自己紹介 郭 在祐	・簡単な自己紹介をする	予習：自己紹介が出来るように練習をしてくる。 復習：学んだ内容を把握と復習する。
15	文字と発音⑦ 郭 在祐	文法・会話の全体について復習をしまとめる。	予習：これまで学習した文法・会話について確認する。 復習：これまで学んだ全体的内容を復習する。
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	授業中、口頭で練習した問題などをレポート用紙に書いてくる宿題を出します。宿題をチェックし、質問などに答えます。		

テキスト・教材	テキストは特にありません。毎回次回の授業内容を配布する。							
参考書	必要によって韓国語辞書は各自持参する。							
評価の基準と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テスト：小テストを 2,3 回程実施して評価する(50%)。 ・授業への積極的な参加度(出席)と 2,3 回程発表(50%)。 ・試験はありません。 							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	挨拶や簡単な会話ができ、短い文章の読み書きも出来るようになることを目標にし、韓国の文化や歴史を理解しながら韓国人との会話ができるようにする							

科目名称	英語Ⅳ(英会話)		
科目分類	310-120-22	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	竹村 哲明	必修・選択	選択
担当教員	竹村 哲明	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	国際語としての英語は、現代社会において広く知識や情報を得るため、また他者とのコミュニケーションを円滑にはかるため、大学において継続的に学び身につけるべきスキルのひとつである。英語Ⅳでは、第二言語習得論にある四技能のうち「話す力」の向上を目的とする。医療現場での英語対応力の向上と定着を目的とし、英語文化に関する講義や個別ロールプレイングの実践、留学希望者への語学試験対策も含めて、全般的なコミュニケーション英語を指導する。(履修生の習熟度に応じた少人数クラスを編成する)		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語を用いた情報収集力および発信力に習熟する。 2. 状況に即した実用的な知識・技能が身につく。 3. 高度な対人コミュニケーション力・言語運用力が向上する。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・授業の方針 ・授業内容の検討および作文執筆	予習: シラバスの確認 復習: 課題の提出
2	Case 1: Internal Medicine	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
3	Case 2: Surgery & Treatments	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
4	Case 3: Dermatology	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
5	Case 4: Plastic Surgery	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
6	Case 5: Maternity	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
7	Case 6: Terminal Care	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
8	Case 7: Psychiatry	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
9	Case 8: Orthopedics	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
10	Case 9: Otolaryngology & Immunology	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
11	Case 10: Emergency Room	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
12	Case 11: Pediatrics I	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
13	Case 12: Pediatrics II	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
14	Case 13: Pediatrics III	・Condition and Symptoms ・Phases and Assessment ・Conclusion	予習: 教材の確認 復習: 学習事項の振り返り
15	まとめ	・講評 ・模擬試験	予習: 試験準備 復習: 試験準備

授業開始前学習	必要ありません。							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回の授業時もしくは前後に対応します。							
テキスト・教材	教員が準備します(PDF/mp3 等)。							
参考書	Clinical Cases: Fundamentals of Nursing Case Studies. Natashia Scully, et. al. Elsevier Australia, 2014.							
評価の基準と方法	必要出席数を踏まえた上で「定期試験：50%、授業内活動：50%」を基準とします。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマン ケアを実践できる教養力と人 間性の養成		他者とバランスのとれた関係 性を構築できるコミュニケー ション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに 看護の役割と機能を発揮で きる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな 健康レベルの人々の課題や 地域の課題に対し、根拠に 基づいた創造的な看護実 践ができる技術力と実践力 の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎		○	○				△
関連科目	英語 I(リーディング)、英語 II(ライティング)、英語 III(リスニング)							
その他	各診療科に典型的な症例報告を読解・聴取し、教員との質疑応答やロールプレイによって病態の理解を深めつつ、適切な対応のあり方を対話の中で討論します。授業は基本的に英語で運営され適宜教員が翻訳指導する形をとるので、履修生には能動的な参加を期待します。 ※授業内容は履修生の希望により変更される可能性があります（語学試験対策、留学・進学希望者向け上級英語、コミュニケーション演習、絵本創作・読み聞かせ、等、個別対応含）。クラス分けが実施された場合も同様です。詳細は初回に相談の上で決定します。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ドイツ語		
科目分類	310-120-22	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	糟谷 恵次	必修・選択	選択
担当教員	糟谷 恵次	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期 木曜日 10:40～13:40 後期 月曜日 10:50～13:00 木曜日 12:10～13:00	研究室	10-604
授業概要	ドイツ語入門の科目であり、ドイツ語の基礎について学ぶ。ドイツ語の発音の基本、日常での平易な表現を身につけることを目標とする。将来、日本人のみならず、ドイツ語を使用する人々とコミュニケーションを図り、異文化交流することで多様な価値観（ものの見方・考え方）に触れ、異文化に関心をもつこと、他者を理解する力を高めること、人間性を高めることを期待する。		
到達目標	ドイツ語の初歩を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文を運用できるようにする（ドイツ語技能検定 5 級相当）。また、ドイツ語が使用されている国々の歴史・文化・社会にもふれ、異文化への関心と理解を深めることを目標とする。具体的には以下の内容がその目安となる。 <ul style="list-style-type: none"> ・初歩的なドイツ語単語の発音と意味を身につける。 ・初歩的なドイツ語を理解し、日常生活でよく使われる簡単な表現や文が運用できる。 ・挨拶の表現が適切に使える。自分や他人を簡単に紹介することができる。 ・広告やパンフレットなどの短い文の中心的内容が理解できる。 ・簡単な数字を聞き取り、書き取ることができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・ガイダンス授業の進め方、評価について ・ドイツ語、ドイツ語圏の国々について	講義 予習：ドイツ語圏の国々について調べておく 復習：ドイツの州と主要な都市を確認する
2	発音の基礎	アルファベット、母音と子音の発音、あいさつ	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.2～7 を読み、テキスト付属の音源で発音を聴いておく。 復習：テキスト p.2～7 の発音の不明な点を確認する。
3	動詞の現在形	Lektion 1 動詞の現在人称変化【テキスト p.10-p.12】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.10 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.10 の文法の確認
4	語順	Lektion 1 語順【テキスト p.11-p.13】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.11 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.11 の文法の確認
5	自己紹介の表現	Lektion 1 ミュンヘンで 自己紹介【テキスト p.14-p.17】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.14 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.14 の「チェックノート」の確認、次回小テストの準備
6	冠詞の格変化（1）	Lektion 2 定冠詞と不定冠詞【テキスト p.18-p.20】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.18 を読み、疑問点を確認しておく。 小テスト（L.1） 復習：テキスト p.18 の文法の確認
7	格の用法	Lektion 2 格の用法、複数形【テキスト p.19-p.21】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.19 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.19 の文法の確認
8	複数形	Lektion 2 ザルツブルクの美術館で【テキスト p.22-p.25】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.22 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.22 の「チェックノート」の確認、次回小テストの準備
9	不規則動詞の現在形	Lektion 3 不規則動詞の現在人称変化【テキスト p.26-p.28】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.26 を読み、疑問点を確認しておく。 小テスト（L.2） 復習：テキスト p.26 の文法の確認
10	es の用法	Lektion 3 非人称の es、時刻の表現【テキスト p.27-p.29】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.27 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.27 の文法の確認
11	時刻の表現	Lektion 3 ヴィーン市街で【テキスト p.30-p.33】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.30 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.30 の「チェックノート」の確認、次回小テストの準備

12	冠詞の格変化（２）	Lektion 4 定冠詞類、不定冠詞類【テキスト p.34-p.36】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.34 を読み、疑問点を確認しておく。 小テスト（L.3） 復習：テキスト p.34 の文法の確認						
13	人称代名詞の用法	Lektion 4 人称代名詞の 3 格と 4 格【テキスト p.35-p.37】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.35 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.35 の文法の確認						
14	否定の表現	Lektion 4 ハンブルクで買い物【テキスト p.38-p.41】	講義と演習（グループワーク） 予習：テキスト p.38 を読み、疑問点を確認しておく。 復習：テキスト p.38 の「チェックノート」の確認						
15	文法事項の整理と確認	前期で扱った個々の文法事項の整理と確認	講義 予習：第 2 回～第 14 回の既習事項を再確認しておく。 復習：授業で扱った前期の復習で不明な項目を再度、確認する						
授業開始前学習		ドイツ語圏の国々について調べておく。							
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で行われる小テストは、翌週の授業時に返却する							
テキスト・教材		小野寿美子著『ブーメラン・エルエー』朝日出版社							
参考書		中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧著『必携ドイツ文法総まとめ』白水社							
評価の基準と方法		グループワーク等における取り組みと小テスト（５０％）及び期末定期試験（５０％）の結果により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎		○	○				
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	基礎ゼミ I		
科目分類	310-110-21 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar I	授業区分	演習
科目責任者	高橋 泉	必修・選択	必修
担当教員	看護専任	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、大学生活を始めるにあたり大学で学ぶことの意義、主体的に学問を探究していくための基本的な技術について学ぶ。少人数グループのゼミ形式とし、共通課題について討議する場を積極的に設け、多様な視点の気づきから思考を広げ・深めていく方法を学ぶ。さらには、個人またはグループで関心のある課題をとりあげ、その課題について調べ、まとめ、発表し討議することを通して、主体的に学問を探究していく体験を行うとともに能動的に学ぶことの面白さを体験する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 駒沢女子大学で学ぶことの意味を考え表現することができる。 2. 主体的な学習態度について理解し実践することができる。 3. 自由な意見交換の中から価値観の違いに気づき、相互に協力して課題に取り組み、学びを表現することができる。 4. 自分で学習課題を見つけ、調べ、まとめた成果を他者にわかりやすく発表することができる。 5. 発表内容を振り返り、学習課題をレポートとして記述できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション ・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・自分を知る活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己を知る活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境について気づいたこと） 提出期限：4月21日（金）
2	・基礎ゼミについて全体オリエンテーション ・駒沢女子大学看護学部の特徴の理解 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミを実施する意義 ・グループメンバーおよび教員との顔合わせ ・自分を知る活動（坐禅） ・他者を知る活動 ・駒沢女子大学の環境を知る活動	授業方法：アクティブ・ラーニング 予習：坐禅とは、その作法について調べる 復習：レポート（自己を知る活動、他者を知る活動、駒沢女子大学の環境について気づいたこと） 提出期限：4月21日（金）
3	・基礎ゼミ I の進め方 ・テキスト「1 学問の世界へようこそ」 基礎ゼミ担当教員	・基礎ゼミ I の進め方 プレゼンテーション・討議について ・メールの送受信のマナー（動画視聴） ・使用テキストの説明 ・予習内容について討議	授業方法：グループワーク 予習：テキストの目次の確認および「1 学問の世界へようこそ」P1～7を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「学問とは」について整理する。
4	・テキスト「2 論理的な考え方を学ぶ」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work2.1「オリジナルな問いを考える」を実施 グループ内で2人1組になり、他のグループメンバーにインタビューをする	授業方法：グループワーク、インタビュー 予習：テキスト「2 論理的な考え方を学ぶ」P9～24を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「論理的考え方とは」について整理する。
5	・テキスト「3 レポートの書き方の基本を学ぶ」 ① 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容を討議 ・Work 3.1「作文とレポートの違い」を実施 ・図書館利用ガイダンス 1～6G：授業前半 7～12G：授業後半	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「3 レポートの書き方の基本を学ぶ」P25～39を精読 復習：ディスカッションを振り返り、「作文とレポートの違い」について整理する。 Work 3.1 (p28) の宿題の内容を所定の用紙に整理する。
6	・テキスト「3 レポートの書き方の基本を学ぶ」 ② 基礎ゼミ担当教員	・5回の宿題内容の確認 ・テキストに沿って、予習内容を討議 ・ビジュンクラウド：看護情報学 Vol.3 「大丈夫？あなたのレポート・論文の作り方」を視聴・討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「3 レポートの書き方の基本を学ぶ」P40～59を精読 復習：Work 3.4 (P58) を所定の用紙に整理
7	・文献検索の方法 ・論証型レポートの例 基礎ゼミ担当教員	・情報処理室で文献検索の実施 1～6G：授業前半 7～12G：授業後半 ・6回の宿題内容の確認 ・論証型レポートの例と評価を討議	授業方法：演習、グループワーク 予習：文献検索の方法の確認およびテキスト P60～65を精読 復習：これまでの内容を振り返りレポートの書き方を整理する。

8	・テキスト「4 学びをプランニングする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work4.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「4 学びをプランニングする」P67～82を精読し、Work4.1 (P71) を整理 復習：Work4.5 (P80) を所定の用紙に整理
9	・テキスト「5 キャリアをデザインする」 基礎ゼミ担当教員	・テキストに沿って、予習内容および Work5.1 を討議	授業方法：グループワーク 予習：テキスト「5 キャリアをデザインする」P83～101を精読し、Work5.1 (P86) を整理 復習：討議内容を振り返り自己のキャリアを所定の用紙に整理する。
10	・「自己の問い」の明確化 基礎ゼミ担当教員	・プレゼンテーションに関する動画視聴（15分） ・グループ内で自己の問いを周知 ・プレゼンテーションに向けた準備	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
11	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
12	・プレゼンテーションの準備 基礎ゼミ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献を批判的に読み整理する 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する
13	プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
14	プレゼンテーション 基礎ゼミ担当教員	2グループで発表会を行い討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す
15	まとめ 基礎ゼミ担当教員	授業の総括	授業方法：グループワーク 予習：今までの学びを整理する 復習：レポート課題「基礎ゼミ I での学びの振り返り」の作成

授業開始前学習	テキストの全体構成を確認し、内容を把握しておく							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でフィードバックする。最後のレポートは、評価後返却する。							
テキスト・教材	井下千以子著『大学の学び入門 第2版 理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで』（慶応義塾大学出版会,2020）							
参考書	必要時、参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	①グループワークの参加度（60%） ②プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） ③課題レポート（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○	○	△				
関連科目								
その他	学習上の留意点 ・積極的な態度で参加する。 ・グループワークでは、他者の意見を傾聴できること、自分の意見を述べ、考えを整理することを主眼としている。 ・プレゼンテーションでは、他者にわかりやすく伝える技術および他者の意見を聞き取ることを学ぶ。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。大学において主体的に考え学んでいくための最初の科目である。複数の教員と共に、グループワークを通して、大学では何を学ぶのかに気づき、自らの「問い」をもち、探究する姿勢を培うことを目指す。							

科目名称	基礎ゼミⅡ		
科目分類	310-110-21 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Freshmen Seminar II	授業区分	演習
科目責任者	高橋 泉	必修・選択	必修
担当教員	看護専任	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	基礎ゼミⅠでの学びを受けて、主体的に学ぶ姿勢を身につけるために、基礎ゼミⅡでは、学生が主体となって大学での学びを充実させるための技術と姿勢を学ぶ。具体的には、基礎ゼミⅠで学んだ学問の探求方法を活用して、「個人の関心のあるテーマを設定する」「そのテーマについての文献検索を行って文献を熟読する」「熟読した結果わかったことを小論文としてまとめる」「まとめたことを発表し、討議する」という体験をする。この体験を通して、基礎ゼミⅠで体験した主体的に学問を探求し、能動的に学ぶことの面白さをよりいっそう体得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活において、様々な場面で興味・関心をもち、疑問をもつことができる。 2. 興味・関心・疑問について問いを立て、考えることができる。 3. 自ら立てた「問い」について、能動的に調べることができる。 4. 調べた内容を整理・分析し、プレゼンテーションすることができる。 5. プレゼンテーションに対して討議し、再考することができる。 6. 再考した内容を小論文にまとめることができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	基礎ゼミⅡ オリエンテーション 基礎ゼミⅡ 担当教員	・基礎ゼミⅡ 全体オリエンテーション ・4 年生看護研究発表会への参加について ・担当教員と課題図書の見直し	授業方法：講義・グループワーク 予習：基礎ゼミⅠの見直し 復習：課題図書の見直し
2	・基礎ゼミⅡの進め方 基礎ゼミⅡ 担当教員	・基礎ゼミⅡの進め方 ・課題図書の見直し ・役割分担	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の見直し 復習：課題図書に関する資料収集
3	看護研究発表会への参加 (1～6G) 基礎ゼミⅡ 担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：提出課題「看護研究発表会に参加しての気づき」の整理及び提出
4	看護研究発表会への参加 (7～12G) 基礎ゼミⅡ 担当教員	基礎ゼミⅠでの学びと実際の照合	授業方法：研究発表会への参加 予習：看護研究計画書について調べる 復習：提出課題「看護研究発表会に参加しての気づき」の整理及び提出
5	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
6	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
7	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
8	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
9	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく
10	課題図書の見直し 基礎ゼミⅡ 担当教員	プレゼンテーション・討議	授業方法：グループワーク 予習：課題図書の指定箇所を精読し、疑問を調べ資料の準備をする 復習：討議後の課題を整理し調べておく

11	自分自身の「問い」の明文化 基礎ゼミⅡ担当教員	グループワーク・個人ワーク	授業方法：グループワーク・個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する						
12	プレゼンテーション準備 基礎ゼミⅡ担当教員	文献検索・個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する						
13	プレゼンテーション準備 基礎ゼミⅡ担当教員	個人ワーク	授業方法：個人ワーク 予習：自己の「問い」について文献検索を行い、批判的に文献を読む 復習：他者の意見が得られるように内容を整理する						
14	発表会 基礎ゼミⅡ担当教員	複数のグループで発表会・討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す						
15	発表会 基礎ゼミⅡ担当教員	複数のグループで発表会・討議	授業方法：プレゼンテーション 予習：自己の「問い」について他者に伝わるように整理する 復習：他者の意見を踏まえ内容を見直す 課題：小論文提出						
授業開始前学習		ゼミⅠで使用したテキストおよび学びを見直す。							
授業内課題のフィードバックの方法		その都度、返却する。小論文は評価後に返却する。							
テキスト・教材		<ul style="list-style-type: none"> ・井下千以子著『大学の学び入門 第2版 ～理論的な考え方・書き方からキャリアデザインまで～』（慶応義塾大学出版会,2020） ・グループで決定した課題図書 							
参考書		適宜、ゼミグループで検討する。							
評価の基準と方法		<ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークへの参加度（50%） 2. プレゼンテーション内容・態度・質疑応答（20%） 3. 看護研究発表会への参加度（10%） 4. 小論文（20%） 							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎	○	○	△				
関連科目		基礎ゼミⅠ							
その他		学習上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・進め方については、到達目標の達成に向けてグループで検討してきめること。 ・りんどう祭にて開催される看護研究発表会への出席は、基礎ゼミⅡの授業2回分に該当するため、必ず出席すること。 ・課外活動を取り入れる場合には、3週間前に「学外活動届」の提出が必要なため 早めに計画を立てること。 							
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容		本科目は、教育および研究実績が豊富な教員が担当している。前期の基礎ゼミⅠに引き続いて、主体的に考え学びを深めるための科目である。あらたな「問い」を見つけ、知ること・わかることを楽しむとともに、他者に伝える技術と姿勢を培うことを目指す。							

科目名称	情報処理		
科目分類	310-120-21 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Information Processing	授業区分	演習
科目責任者	須藤 真由美	必修・選択	選択
担当教員	須藤 真由美	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>情報化社会における ICT (Information and Communication Technology) の活用スキルを獲得することを目的に、コンピュータの仕組み、エクセル・ワード・パワーポイントそれぞれの知識と基本操作を理解する。そのうえで、医療情報や看護情報を適切に活用できるよう、情報の収集・情報の整理・情報の分析・情報の提示の方法を学ぶ。また情報を扱う上で理解しておくべき、知的財産権・個人情報保護などの法律や、情報セキュリティーなどの情報倫理を学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎を記述できる。 2. 情報の危険性と情報にまつわる法律について関連付けることができる。 3. 情報の社会での活用について述べるができる。 4. アンケート調査の方法とまとめかたを実施できる。 5. 統計の基礎をまとめ、応用できる。 6. 自力でデータの処理と分析及び発表ができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	情報科学概論	情報科学概論 コンピュータの操作	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 6 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
2	コンピュータの構成	OS とハードウェア WORD	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 1 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
3	情報倫理 I	ネットの利用上の注意 WORD	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 2 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
4	情報倫理 II	情報セキュリティー WORD	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 2 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
5	情報倫理 III	知的財産権 POWER POINT	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 3 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
6	ユビキタス社会	情報の伝達・ユビキタス社会 POWER POINT	授業方法は、講義と演習 (プレゼンテーション) 予習：講義プリントを配布。教科書第 3 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
7	医療の情報化	医療・介護・健康分野の ICT の活用 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：講義プリントを配布。教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
8	情報倫理 IV	個人情報保護法 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
9	データの収集・整理	アンケート・データ収集の注意点 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
10	記述統計学	尺度と基本統計量 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
11	データの視覚的表現	グラフの作成と活用 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 4 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
12	データの解析 I	検定の概念 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する
13	データの解析 II	t 検定 EXCEL	授業方法は、講義と演習 (実習) 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する

14	データの解析Ⅲ	χ2 検定 EXCEL	授業方法は、講義と演習（課題解決型学習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する						
15	データの解析Ⅳ	相関と回帰 EXCEL	授業方法は、講義と演習（課題解決型学習） 予習：教科書第 5 章を読んでくる 復習：授業内容を復習する						
授業開始前学習		1. 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、授業後に教科書、講義プリントなどを復習する。特に統計は積み重ねであることを理解し、毎回の講義内容を理解していくこと。 2. 演習では、授業後に必ず復習をして毎回の内容を十分身につけておくこと。（授業以外でもコンピュータ自習室などで、できるだけパソコンに触れて学習する。）							
授業内課題の フィードバックの方法		授業 13 回目の小試験は翌週に返却、回答する。 授業 15 回目に提出する課題は提出時に個別に講評する。							
テキスト・教材		松木秀明・須藤真由美・松木勇樹「医療・看護系のための情報リテラシー」東京図書							
参考書		松木秀明・須藤真由美・松木勇樹「医療統計学」東海大学出版会							
評価の基準と方法		期末試験（80%）及び課題レポート（20%）の結果より総合的に評価する。							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		◎					△	△	
関連科目									
その他									
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした 教育内容		SE の実務経験あり。統計を含めたコンピュータの活用全般について講義・演習を行う。							

科目名称	基礎科学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Basic Science	授業区分	講義
科目責任者	河野 均	必修・選択	選択
担当教員	河野 均	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	看護学を学ぶ際に、あらかじめ理解しておく必要のある生物学・化学・物理学について学ぶ教育科目である。生物学では「細胞の構造と機能」、「生体エネルギー」、「遺伝情報の伝達と発現」など、化学では「原子と分子の構造」、「無機化合物と有機化合物」、「酸・塩基反応と酸化・還元反応」など、物理学では「力と運動」、「熱」、「音と光」など高等学校レベルの理科の基礎的な知識を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の構造と機能、細胞の各種代謝経路、細胞の増殖、遺伝情報の維持及び伝達、生体の恒常性の維持機構などの生命現象を理解し説明できる。 2. 原子と分子の構造、無機化合物と有機化合物の構造と性質、pH、酸・塩基反応、酸化・還元反応などを理解し説明できる。 3. 力と運動、電気、熱、音と光などについて基本的な概念が理解でき、またそれを具体的な現象として正しくとらえ説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	基礎生物 生命のつくりとはたらき	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 生命の誕生 3. 細胞の種類と構造 4. 生体膜の構造と機能 	予習：教科書の筋・骨の章（第 20 章）について熟読しておく。 復習：特に細胞の構造と機能についてまとめる。 課題：生物と無生物の違い、細胞内共生説についてまとめる。
2	基礎生物 細胞増殖と体の成り立ち	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞分裂と分化 2. 細胞死 3. ホメオスタシス 	予習：教科書の筋・骨の章（第 20 章）について熟読しておく。 復習：体細胞分裂と減数分裂についてまとめる。 課題：ホメオスタシスと細胞死についてまとめる。
3	基礎生物学 生命維持のためのエネルギー生産	<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝と呼吸 2. ATP の合成と分解 3. DNA と RNA の構造 4. 遺伝情報の伝達 	予習：教科書の筋・骨の章（第 23 章と第 29 章）について熟読しておく。 復習：解糖系、クエン酸回路、電子伝達系についてまとめる。 課題：DNA からタンパク質への遺伝情報の流れをまとめる。
4	基礎化学 物質の構成と結合	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の分類 2. 原子・分子の構造と性質 3. 周期表 4. 単体・化合物の結合の種類 	予習：教科書の筋・骨の章（第 1 章と第 15 章）を熟読しておく。 復習：周期表についてまとめる。 課題：練習問題を解く。
5	基礎化学 物質の変化	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物質の三態 2. pH 3. 酸と塩基 4. 酸化と還元 	予習：教科書の筋・骨の章（第 6 章、第 18 章、第 19 章）を熟読しておく。 復習：pH、酸化と還元についてまとめる。 課題：物質の三態変化を身近な現象を用いてまとめる。
6	基礎化学 さまざまな有機化合物	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化合物の構造と分類 2. 有機化合物の命名法 3. 高分子化合物 	予習：教科書の筋・骨の章（第 16 章）について熟読しておく。 復習：炭化水素についてまとめる。 課題：有機化合物の特徴と多様性についてまとめる。
7	基礎物理学 力と運動	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動の法則 2. 重力 3. 仕事とエネルギー 4. ボディメカニクス 	予習：教科書の筋・骨の章（第 16 章）を熟読しておく。 復習：仕事とエネルギーについてまとめる。 課題：てこの原理、ボディメカニクスについてまとめる。
8	基礎物理学 電気・光・音	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気 2. 熱と温度 3. 音波 4. 光 	予習：教科書の筋・骨の章（第 9 章、第 10 章、第 12 章、第 13 章）を熟読しておく。 復習：オームの法則、ジュールの法則についてまとめる。 課題：医療領域の利用についてまとめる。
授業開始前学習	基礎科学（生物学、化学、物理学）は、専門基礎科目、専門科目等で学習する内容の土台をなしている科目であることを理解し、学習を進めてください。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業内課題の中から、生物、化学、物理、それぞれ 2 課題ずつレポートとして提出。提出後全体的講評を行う。		
テキスト・教材	基本を学ぶ 看護シリーズ 1. 自然科学の基礎知識を知る 東京化学同人		

参考書	系統看護学講座 基礎分野 医学書院							
評価の基準と方法	3回の課題レポート（生物、化学、物理）（90%）とリアクションペーパー（10%）により評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	統計学			
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位	
英文名称	Statistics	授業区分	講義	
科目責任者	松木 勇樹	必修・選択	選択	
担当教員	松木 勇樹	開講時期	1 年後期	
オフィスアワー	前期 火曜日 11:00~12:00 金曜日 13:00~15:00 後期 火曜日 11:00~12:00 金曜日 13:00~15:00	研究室	1-208	
授業概要	数理的な思考法を理解するために、統計の基礎的な概念、日常的に遭遇する問題を解決に導くための適切なデータ収集の方法とデータ分析の方法、データの正確な解釈の方法について学ぶ。また、多種多様な情報を正確に理解するための統計結果の活用の方法についても学ぶ。これらの学びを通して、統計を扱うための正しい知識、実社会の事象に対する論理的・客観的な分析力を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 事前配布した講義プリントを予め一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解してノート整理しておくこと。 統計量の計算方法や仮説検定手法の手順を単に暗記することなく、各々の本来的な目的と算出方法の背景にある考え方を理解すること。 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。 統計学的な見方考え方を身につけ、看護・保健の現場で応用できるようにする。 			
アクティブ・ラーニング型授業	無			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題	
1	統計の概念と尺度	統計学の考え方と統計学の尺度（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）	予習：基本的な数学の復習をしておくこと。 復習：統計学的尺度についてまとめておくこと。	
2	記述統計学	基本統計量（代表値、ばらつきを示す指標）	予習：授業資料の第 2 章を読んでおくこと。 復習：平均値、中央値、最頻値についてまとめておくこと。 改題レポート(演習問題)を仕上げしておくこと。	
3	様々な分布と検定の概念	統計的判断と確率、正規分布、仮説検定のロジック、帰無仮説の立て方	予習：授業資料の第 3 章を読んでおくこと。 復習：帰無仮説の立て方と、統計学的判断についてまとめておくこと。	
4	2 群の比較（対応のある場合）	母集団と標本集団の比較、Paired t-検定、符号付順位和検定（Wilcoxon の t-検定）、McNemar の χ^2 検定	予習：授業資料の第 4 章を読んでおくこと。 復習：Paired t-検定、符号付順位和検定（Wilcoxon の t-検定）、McNemar の χ^2 検定の課題レポート(演習問題)をまとめておくこと。	
5	2 群の比較（対応のない場合）	等分散の検定、t-検定、Welch の検定、順位和検定（U 検定）	予習：授業資料の第 5 章を読んでおくこと。 復習：等分散の検定、t-検定、Welch の検定、順位和検定（U 検定）についてまとめておくこと。	
6	関係を調べる① 相関係数と回帰分析	散布図とクロス表、相関係数、相関係数の検定	予習：授業資料の第 6 章を読んでおくこと。 復習：相関係数、相関係数の検定についても課題レポート(演習問題)を仕上げしておくこと。	
7	関係を調べる② χ^2 検定	2×2 表の χ^2 検定、m×n 表の χ^2 検定、McNemar の χ^2 検定	予習：授業資料の第 7 章を読んでおくこと。 復習： χ^2 検定についてまとめておくこと。	
8	多群の比較	一元配置分散分析、多変量解析の基礎	予習：授業資料の第 8 章を読んでおくこと。 復習：一元配置分散分析についてまとめておくこと。	
授業開始前学習				
授業内課題の フィードバックの方法	初回講義時に説明する。			
テキスト・教材	松木秀明他：基礎からの看護保健統計学，東京都書 講義冊子を事前配布する。			
参考書	松木秀明他：医療統計学，東海大学出版会 松木秀明他：医療・看護系のための情報リテラシー，東京図書			
評価の基準と方法	定期試験（100%）			
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもちに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○			
関連科目	疫学/保健統計学Ⅰ, 疫学/保健統計学Ⅱ							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回の授業で質問する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間工学		
科目分類	310-120-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	大瀧 保明	必修・選択	選択
担当教員	大瀧 保明	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間の行為（作業）における安全性・安楽性・効率性について理解するために、人間工学の概念、安全・安楽で効率的に行為を行うため原理について学ぶ。また、人間工学の概念を受けて、日常生活における人間の行為に人間工学の考え方が取り入れられていることに気づくことを通して、人間工学に対する理解を深め、行為を安全に安楽に、そして効率的に行うことができる素地をつくる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護領域における人間工学の適用と、その有用性について説明できる。 2. 行為（作業）の安全性、安楽性、効率性についてポディメカニクスの観点から説明できる。 3. 人間特性への配慮にもとづき、環境や機器、行為を改善する人間中心設計を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	人間工学とは何か	人間工学の概要、構成要素、関係する学問、事例にみる人間工学の考え方を学ぶ。講義ガイダンスを含む。	講義 予習：本講義の概要と目標について確認しておく。 復習：講義内容を整理し、教科書の該当ページを確認する。
2	身体の諸特性と運動機能	身体の仕組みと生体物理的な特徴について学ぶ。さらに姿勢や動作のとらえ方を理解する。	講義 予習：教科書の該当ページを一読し、関連知識を確認する。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
3	姿勢と動作の負担、効率	身体動作の力学的な分析の方法、ポディメカニクスの考え方を学ぶ。作業負担や効率の評価法を理解する。	講義（作図や計算など作業含む） 予習：教科書の該当ページを一読し、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
4	看護作業のポディメカニクス	看護作業、移送や介助などを事例に、ポディメカニクスによる分析をとおして、行為（作業）の安全性、安楽性、効率性について検討する。	講義（作図や計算など作業含む） 予習：体に負担のかかる姿勢を想起し、要因をまとめておく。 復習：講義内容から、予習で取り上げた問題を再考する。
5	人間の感覚感性とモノのデザイン	環境、設備、機器、器具に対する主観や感性を分析することを糸口に、仕様や設計との関係を考える。	講義（感性評価の演習を含む） 予習：資料を一読し、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
6	使いやすさ、わかりやすさと安全設計	ユーザビリティの考え方を学び、ヒューマンエラーを含め、様々な機器・器具に適用される安全設計を学ぶ。	講義 予習：身の回りのわかりにくいもの、使いにくい事例を挙げる。 復習：講義内容から、予習で取り上げた問題を再考する。
7	生活環境、機器、設備の人間工学	ポディメカニクス、ユーザビリティの視点から、日常および看護における行為の適正化、改善に適用される人間中心設計の考え方を理解する。	講義 予習：資料を一読し、疑問点を挙げておく。 復習：身の回りの製品、機器が有する安全配慮を整理する。
8	人間工学の展望、看護・医療へ向けて	講義を総括し、看護、医療における人間工学のこれからを展望する。	講義 予習：これまでの学習内容を振り返り、疑問点を挙げておく。 復習：講義内容を整理し、演習問題で理解を確認する。
授業開始前学習			
授業内課題のフィードバックの方法	提出された課題は、翌週の授業時に返却する。		
テキスト・教材	未定		
参考書	岡田明他編著：『初めて学ぶ人間工学』（理工図書） 勝平純司他著：『介助にいかすバイオメカニクス』（医学書院） ユニバーサルデザイン研究会編：『人間工学とユニバーサルデザイン新潮流』（日本工業出版）		
評価の基準と方法	定期試験（筆記）70%、課題および演習（提出物）30%		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎				○		△	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人体の構造と機能 I		
科目分類	310-211-11	単位数	2.0 単位
英文名称	Human Anatomy and Physiology I	授業区分	講義
科目責任者	野田 節子	必修・選択	必修
担当教員	野田 節子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人体の正常な構造と機能を理解するために、解剖学の学問領域である「人体の構造」と生理学の学問領域である「人体を構成する各器官の機能」を融合させて身体各臓器や器官の構造と機能について学ぶ。また、身体各臓器や器官の機能は相互に関連していることを理解する目的で、臓器や器官相互の関連についても学ぶ。I では、「解剖生理の基礎知識（人体と細胞、ホメオスタシス）」「骨格系・筋系・神経系」「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」などについて学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官系を構成する臓器の正確な名称と構造を知る。 2. 各器官系を構成する臓器の位置関係を立体的に理解する。 3. 各器官・臓器の主要な機能の基礎を理解する。 4. 常に各自の身体に器官・臓器を投影させて、臓器を身近に感じるようにする。 5. 身体を構成する器官・臓器を統合させて理解し、その機能を推察する。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	解剖学とは	解剖学の領域とは、解剖学の歴史、器官系について、組織とその分類について、人体の外形と方向用語	予習：教科書 1P～24P を予習する。 復習：講義内容を理解する。 10 の器官系統と 4 種類の組織を知る。
2	骨格系 - 1	骨格系とは 骨の連結、頭の骨、脊柱・胸郭を構成する骨	予習：教科書 25P～57P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。 骨の正確な名称の読み・書きを習得する。
3	骨格系 - 2	上肢と下肢の骨、 肩関節、肘関節、股関節、膝関節を構成する骨と働き	予習：教科書 57P～72P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。 関節の構造、種類、働きを習得する。
4	筋系 - 1	筋肉とは 頭の筋、くびの筋、胸腹部の筋（前胸部・背なかの筋）	予習：73P～84P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。 筋肉の正確な名称、存在部位、働きを理解する。 各自の体で実際に触れることで理解する。
5	筋系 - 2	胸腹部の筋（呼吸筋と腹部の筋） 上肢の筋と下肢の筋	予習：85P～102P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。 各自の体で実際に触れることで上肢や下肢の関節の運動や拮抗筋の作用を知る。
6	脈管系 - 1	脈管系とは 血管の構造、肺循環、体循環、門脈循環の意義 心臓、動脈系	予習：103P～126P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。特に肺循環、体循環、門脈循環の意義を理解する。全身の動脈系の分布を理解する。
7	脈管系 - 2 消化器系 - 1	静脈系 リンパ系、脾臓、胸腺、造血組織、胎児循環 消化器系とは 消化管と消化腺、口腔、咽頭、食道	予習：127P～167P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。胎児循環を知る。 消化管を順序よく説明出来るようにする。
8	消化器系 - 2	胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓	予習：168P～194P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。消化器系臓器の胸腔、腹腔、骨盤内における位置関係、働きを理解する。
9	呼吸器系 泌尿器系	呼吸器系とは 鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭、気管と気管支、肺 泌尿器系とは 腎臓（尿の産生）、尿管、膀胱、尿道	予習：195P～220P を予習する。 指定するビジュアルクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。肺循環を復習する。喉頭に発声装置があることを知る。腎臓の構造を知り、尿の産生過程を理解する。

10	生殖器系 内分泌系	生殖器系とは 男性生殖器と女性生殖器、腹膜 内分泌系とは 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、 膵島	予習：221P～252Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。男性および女性生殖器の働 きと位置関係を理解する。各内分泌腺の存在部位と働きを 知る。					
11	神経系-1	神経系とは 中枢神経系（脳髄と脊髄）	予習：253P～283Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。大脳、小脳、間脳、中脳、 橋、延髄と脊髄の構造と機能を知る。脳の血管、脳室、脳 脊髄膜					
12	神経系-2	末梢神経系脳神経 12 対と脊髄神経 31 対、 神経叢とその枝	予習：284P～299Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。脳神経 12 対の種類、働き と出入りする部位を理解する。脊髄神経の重要な枝を知 る。					
13	神経系-3	自律神経（交感神経系と副交感神経系） 主な伝導路（反射路、求心性伝導路と遠心 性伝導路）	予習：300P～312Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。自律神経系の働き、主要な 伝導路を理解する。					
14	感覚器系	感覚器系とは 視覚器、平衡聴覚器、皮膚	予習：313P～332Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。伝導路と関連付けて理解す る。					
15	発生学のあらし	受精から着床まで、基本的な体部の形の完成、 胎生第3月から（胎児の成長から）出生まで	予習：333P～350Pを予習する。 指定するビジュランクラウドを視聴する。 復習：講義内容を理解する。					
授業開始前学習		1. 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておく。 2. 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。 3. ビデオ教材（ビジュランクラウド）を通して人体の実際に触れ、臓器の形、大きさ、位置関係、個人差を確認し、人体の 構造への理解を深める。 ※視聴するビジュランクラウドのタイトルは各回の授業で指定する。						
授業内課題の フィードバックの方法		2, 3 の器官系講義終了毎に、範囲内に該当する課題を提示する。各自が自学自習することで内容の理解度を確実にする 目的である。通常の講義後に個別の質問に答えるが、最終的には全員に解説を行う。講義終了前に国家試験の過去問題を 選び冊子にして配布する。						
テキスト・教材		講義プリントを事前配布する。 藤田恒夫著：入門人体解剖学、南江堂						
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学（最新版） 医学書院						
評価の基準と方法		定期試験結果と各授業後提示の課題の結果（8：2）で評価する。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマ ンケアを実践できる教養力と 人間性の育成	他者とバランスのとれた関係 性を構築できるコミュニケー ション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに 看護の役割と機能を発揮で きる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな 健康レベルの人々の課題や 地域の課題に対し、根拠に 基づいた創造的な看護実践 ができる技術力と実践力の 育成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケー ション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間						
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人体の構造と機能Ⅱ			
科目分類	310-211-11 (J)	単位数	2.0 単位	
英文名称	Human Anatomy and Physiology Ⅱ		授業区分	講義
科目責任者	柴田 昌和		必修・選択	必修
担当教員	柴田 昌和		開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-		研究室	-
授業概要	<p>人体の正常な構造と機能を理解するために、解剖学の学問領域である「人体の構造」と生理学の学問領域である「人体を構成する各器官の機能」を融合させて身体各臓器や器官の構造と機能について学ぶ。また、身体各臓器や器官の機能は相互に関連していることを理解するために、臓器や器官相互の関連についても学ぶ。Ⅱでは、「泌尿器系」「内分泌系」「生殖器系」「感覚器系」「その他（免疫系、老化のしくみ、胎児の血液循環）」などについて学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器の構造・機能について理解し、説明できる。 2. 各臓器から分泌されるホルモンの名称と機能を理解し、説明できる。 3. 女性・男性生殖器の構造と機能の理解と性周期を説明できる。 4. 赤血球・白血球の機能と浮腫のメカニズムを理解し、説明できる。 5. 身体の防御機構を理解し、説明できる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	無			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題	
1	泌尿器系（腎臓の構造）	腎臓の構造と機能に関する解説	予習：指定参考書の「p211-221」を読む。 復習：「p277 復習と課題」の問題①②③を解き、講義内容の復習をする。	
2	泌尿器系（尿の生成）	尿生成のメカニズムの解説 レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系の解説	予習：指定参考書の「p222-225」を読む。 復習：「p277 復習と課題」の問題④⑤⑥を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
3	泌尿器系（排尿路）	排尿路（尿管・膀胱・尿道）の解説	予習：指定参考書「p255-229」を読む。 復習：「p277 復習と課題」の問題⑦⑧を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
4	泌尿器系（体液）	体液の調節についての解説 アシドーシス・アルカローシスにつて解説	予習：指定参考書の「p222-225」を読む。 復習：「p277 復習と課題」の問題⑨⑩を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
5	内分泌系	自律神経機能につて解説 内分泌系の働きの解説	予習：指定参考書などで、「p241-253」を読む。 復習：「p280 復習と課題」の問題①～⑤を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
6	内分泌系（下垂体）	視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体（副甲状腺）のホルモンの作用の解説	予習：指定参考書の「p254-265」を読む。 復習：「p280 復習と課題」の問題⑥～⑨を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
7	内分泌系（その他）	副腎・胸腺・膵臓・腎臓・胃・精巣・卵巣松果体のホルモンの作用の解説	予習：指定参考書の「p265-280」を読む。 復習：「p280 復習と課題」の問題⑩⑪⑫を解き、講義内容の復習をする。	
8	生殖器系（男性）	男性生殖器の解説	予習：指定参考書の「p461-466」を読む。 復習：「p499 復習と課題」の問題①②③を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
9	生殖器系（女性）	女性生殖器系の解説	予習：指定参考書の「p466-474」を読む。 復習：「p499 復習と課題」⑤～⑧の問題を解き、講義内容の復習をする。	
10	生殖器系（性周期）	卵巣周期・月経周期とホルモンと作用の関係を解説	予習：指定参考書の「p475-487」を読む。 復習：「p499 復習と課題」の問題⑨～⑫を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
11	感覚器系	視覚器の解説	予習：指定参考書「p393-407」を読む。 復習：「p432 復習と課題」の問題⑬⑭を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	
12	感覚器系	聴覚器・味覚器・嗅覚器の解説	予習：指定参考書の「p408-432」を読む。 復習：「p432 復習と課題」⑯～⑳の問題を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。	

13	血液	赤血球と白血球の形態と作用の解説 浮腫についての解説	予習：指定参考書の「p126-147」を読む。 復習：「p148 復習と課題」の問題⑮～⑳を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。					
14	発生	神経系の発生の解説 胎児循環の解説	予習：指定参考書の「p475-498」を読む。 復習：「p499 復習と課題」の問題㉓㉔を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。					
15	代謝と免疫	運動の代謝と免疫（身体の防御）について解説	予習：指定参考書「p351-354、p439-447」を読む。 復習：「p457 復習と課題」の問題①～⑤を解き、講義内容の復習をする。前回小試験の復習。					
授業開始前学習	「人体の構造と機能Ⅰ」で学んだ人体の構造について、各講義の項目範囲を復習しておく。さらに、各講義の項目に相当する範囲について、参考文献を読むことで理解が深まる。							
授業内課題の フィードバックの方法	各講義開始前に、前週の講義内容の小試験をおこなうので、小試験内容の復習をする。							
テキスト・教材	系統看護学講座 専門基礎分野「人体の構造と機能1」解剖生理学 第11版 第1刷 医学書院 各講義ごとにレジュメを配布する							
参考書	解剖生理学ワークブック 医学書院 シンプル生理学 第7版 南江堂 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版 医学書院							
評価の基準と方法	定期試験(配点100点)により評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	△		
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ、薬理学							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容	死体解剖資格を有し、肉眼解剖の経験を通して、人体の構造と機能について分かりやすい講義を行う。							

科目名称	生化学		
科目分類	310-211-11	単位数	1.0 単位
英文名称	Biochemistry	授業区分	講義
科目責任者	西山 一郎	必修・選択	必修
担当教員	西山 一郎	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>人体の構造と機能を学ぶために必要とされる、生化学的な基礎知識の習得を目指す。まず糖質、脂質、タンパク質、核酸等の主要な生体構成成分の化学構造や生化学的特性を体系的に学ぶ。また、物質代謝に必要な不可欠な酵素や補酵素の性質を学び、酵素反応の基礎についても理解を深める。次いで糖質、脂質、タンパク質が生体内においてどのように代謝されるのかを、同化と異化の両面から学習する。</p>		
到達目標	<p>1. 酵素の基質特異性、温度依存性、pH 依存性などの基本的性質を説明できる。また、アインザイムや補酵素、酵素反応速度論の初歩についても説明できる。 2. 基本的な糖質の化学構造とその代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、グリコーゲンの合成・分解）の概要を説明できる。また、血糖値の調節機構や糖尿病の概要についても説明できる。 3. 基本的な脂質の化学構造とその代謝（β酸化、脂肪酸の生合成、コレステロールの生合成等）の概要を説明できる。また、各種リポタンパク質の働きや脂質の体内輸送および脂質異常症の初歩についても説明できる。 4. タンパク質の化学構造とその代謝（アミノ基転移反応、尿素回路、脱炭酸反応等）の概要を説明できる。また、代表的な先天性アミノ酸代謝異常症の概要についても説明できる。</p>		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	酵素・西山一郎	酵素の作用機序と性質、補酵素、アインザイム、酵素反応速度論の初歩	<p>講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、酵素の性質やアインザイムについて確認する。 復習：酵素の作用機序と性質、補酵素、アインザイム、酵素反応速度論に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【活性化エネルギー、至適温度、至適 pH、基質特異性、ホロ酵素、アポ酵素、補酵素、アインザイム、逸脱酵素、ミカエリス定数】</p>
2	糖質の化学・西山一郎	単糖、オリゴ糖、多糖、単糖の分類、グリコシド結合と加水分解	<p>講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、単糖の分類やグリコシド結合について確認する。 復習：単糖、オリゴ糖、多糖、単糖の分類、グリコシド結合と加水分解に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【単糖、二糖、多糖、アルドース、ケトース、ペントース、ヘキソース、グリコシド結合、脱水縮合、加水分解】</p>
3	糖質の代謝 1・西山一郎	解糖系、クエン酸回路、電子伝達系	<p>講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、解糖系やクエン酸回路、電子伝達系などについて確認する。 復習：解糖系、クエン酸回路、電子伝達系などに関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【解糖系、基質レベルのリン酸化、コリ回路、クエン酸回路、還元当量、電子伝達系、酸化的リン酸化、脱共役タンパク質】</p>
4	糖質の代謝 2・西山一郎	糖新生・ペントースリン酸回路・グリコーゲンの代謝	<p>講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、糖新生・ペントースリン酸回路・グリコーゲンの代謝について確認する。 復習：糖新生・ペントースリン酸回路・グリコーゲンの代謝に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【糖新生、グルコース 6-ホスファターゼ、ペントースリン酸回路、グリコーゲンシンターゼ、グリコーゲンホスホリラーゼ、糖尿病、HbA1c】</p>
5	脂質の化学・西山一郎	脂肪酸とトリアシルグリセロール、リン脂質とコレステロール、リポタンパク質	<p>講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、各種の脂質の化学的特性について確認する。 復習：各種の脂質の化学的特性に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【脂肪酸、トリアシルグリセロール、エステル結合、グリセリン脂質、両親媒性、コレステロール、胆汁酸、リポタンパク質、キロミクロン、HDL、LDL、脂質異常</p>

								症]
6	脂質の代謝・西山一朗	β酸化・ケトン体の生成と利用、脂肪酸の生成・コレステロールの生成						講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、β酸化やケトン体の生成、脂肪酸やコレステロールの生成について確認する。 復習：β酸化やケトン体の生成、脂肪酸やコレステロールの生成に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【β酸化、ケトン体、ケトアシドーシス、n-3 系列、n-6 系列、必須脂肪酸、HMG-CoA 還元酵素】
7	タンパク質の化学・西山一朗	アミノ酸の構造、ペプチド結合とタンパク質の高次構造、電気的性質						講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、アミノ酸やタンパク質の構造や化学的特性について確認する。 復習：アミノ酸の構造、ペプチド結合とタンパク質の高次構造、電気的性質に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【芳香族アミノ酸、含硫アミノ酸、分枝アミノ酸、必須アミノ酸、非必須アミノ酸、ペプチド結合、一次～四次構造、両性電解質、等電点】
8	タンパク質の代謝・西山一朗	アミノ基転移反応、尿素回路、脱炭酸反応、含窒素化合物の生成、先天性アミノ酸代謝異常症						講義 予習：事前配付資料の該当部分を読み、アミノ基転移反応や尿素回路、脱炭酸反応、含窒素化合物の生成、先天性アミノ酸代謝異常症について確認する。 復習：アミノ基転移反応や尿素回路、脱炭酸反応、含窒素化合物の生成、先天性アミノ酸代謝異常症に関する重要用語を確認し、配付資料の例題を見直す。特に以下の用語が説明できるようにしておく。【アミノ基転移酵素、AST、ALT、尿素回路、脱炭酸反応、生理活性アミン、セロトニン、アドレナリン、γ-アミノ酪酸、ヒスタミン、一酸化窒素、フェニルケトン尿症、メーブルシロツ
授業開始前学習	高等学校の「生物基礎」や「化学基礎」の内容を復習しておくことが望ましい。							
授業内課題のフィードバックの方法	第 6 回の授業の日に、授業内容に関する課題を Google のクラスルームから割り当てる。提出物の評価は第 7 回の授業までに解説を付けて返却する。							
テキスト・教材	テキストは使用しない。 冊子印刷した資料を、第 1 回目の授業で配付する。							
参考書	1. 木元幸一・後藤潔・大西淳之 編著『N ブックス 人体の構造と機能 四訂生化学』（建帛社） 2. 田宮信雄[訳]『ヴォート生化学』（東京化学同人）【図書館 2 階 464/ヴ/2】 3. 浅井将ほか[訳]『イラストレイテッド生化学』（丸善出版）【図書館 2 階 491.4/ハ】							
評価の基準と方法	定期試験（筆記）100%で評価する。定期試験は、五肢択一問題（各 4 点）を 25 問出題する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目	「人体の構造と機能」や「栄養学」と密接に関連する内容が含まれるため、これらの科目の内容と合わせて総合的に理解することが重要である。							
その他	1. 単位取得のためには、8 回の授業の 3 分の 2 以上（すなわち 6 回以上）の出席を必要とする。公欠に相当しない欠席が 3 回以上になると単位取得ができないので、注意すること。 2. 授業は対面形式で行うが、Google のクラスルームを併用する。毎回の授業はデスクトップレコーダーで録画し、クラスルームから視聴できるようにするので、復習や定期試験対策などに役立ててほしい。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	感染防御学		
科目分類	310-211-21 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	堀 良子	必修・選択	必修
担当教員	堀 良子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>病原体と感染症の基本概念, 生体防御機能を担う免疫機構および感染予防策に関する基礎知識を学習する。各種病原体(細菌, ウイルス, 真菌, 原虫・蠕虫, プリオン)の一般的性状を整理し, 病原体全般の概念を習得した後, 感染と発症, 感染の経過, 感染が成立するための要因(感染源, 感染経路, 易感染性宿主), 日和見感染や医療関連感染について学ぶ。また, 感染に対する防御の仕組みおよび標準予防策, 滅菌・消毒などの感染症に対する予防に関して理解を深める。さらに, 感染症の診断法, 検査材料の採取法や保存法, 治療法などに関して学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌, ウイルス, 真菌, 原虫の性状(大きさ・形・構造・増殖)の違いが説明できる。 2. 感染が成立するための要因や医療関連感染・市中感染について説明できる。 3. 感染症の診断(発熱・発疹・下痢)・検査(検体の採取・保存法)・治療(抗菌薬)について説明できる。 4. 感染症の予防対策(標準予防策)や生体の感染防御の仕組み(自然免疫と獲得免疫)について説明できる。 5. 各種病原微生物(細菌・ウイルス・真菌・原虫・プリオン)による感染症の発症機序と病態について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	・ガイダンス ・病原微生物の基礎知識	・講義の進め方 ・微生物学の歴史 ・病原体の性状, 形態, 増殖など ・グラム染色法	講義 予習: 微生物について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
2	感染症とは	・感染と発症(発病), 感染症成立の要因 ・病原微生物と宿主との相互関係 ・日和見感染とは ・医療関連感染	講義 予習: 感染と発症について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
3	感染症の診断, 検査, 治療(1)	・感染症とする診断の根拠 ・感染症に伴う症状 ・感染症患者からの検査材料の採取法, 保存法 ・細菌, ウイルス, 真菌, 原虫感染症の検査法	講義 予習: 感染症と診断について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
4	感染症の診断, 検査, 治療(2)	・感染症の治療 ・選択毒性, 殺菌・静菌作用, 抗菌力を表す指標 ・各種病原体に対する抗微生物薬 ・薬剤耐性菌, 伝播方式, 薬剤耐性機構	講義 予習: 感染症の治療について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
5	感染症の予防対策(1)	・標準予防策 ・感染経路別予防策 ・ワクチン(弱毒・不活化・トキソイドワクチンなど) ・血清療法	講義 予習: ワクチンについて調べておく 復習: 講義内容をまとめる
6	感染症の予防対策(2)	・滅菌と消毒の違い ・滅菌法(高圧蒸気滅菌法, 乾熱滅菌法など) ・物理的消毒法(煮沸消毒法, 紫外線照射法) ・化学的消毒法(高・中・低水準消毒薬など)	講義 予習: 滅菌について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
7	感染防御のしくみ(1)	・免疫とは, 免疫の仕組み ・免疫を担う細胞(マクロファージ, リンパ球など) ・自然免疫と獲得免疫(体液性, 細胞性免疫)	講義 予習: 免疫について調べておく 復習: 講義内容をまとめる
8	感染防御のしくみ(2)	・感染症に対する生体防御機構 ・アレルギー(I・II・III・IV型アレルギー) ・自己免疫疾患, 免疫不全症	講義 予習: アレルギーについて調べておく 復習: 講義内容をまとめる

9	知っておきたい感染症 (1)	・細菌によるおもな感染症	講義 予習：細菌による感染について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
10	知っておきたい感染症 (2)	・ウイルス／真菌／原虫／ダニによるおもな感染症	講義 予習：ウイルスについて調べておく 復習：講義内容をまとめる					
11	知っておきたい感染症 (3)	・細菌による毒素型／感染型食中毒 ・ウイルス／原虫／蠕虫による食中毒	講義 予習：食中毒について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
12	知っておきたい感染症 (4)	・細菌／ウイルス／真菌／原虫／昆虫による性感染症	講義 予習：性感染症について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
13	知っておきたい感染症 (5)	・細菌／ウイルス／真菌／蠕虫／プリオンによる人畜共通感染症 ・細菌／ウイルス／原虫／蠕虫による昆虫媒介感染症	講義 予習：蠕虫について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
14	知っておきたい感染症 (6)	・ウイルス性肝炎 (A / B / C / D / E 型肝炎) ・ウイルス性かぜ症候	講義 予習：ウイルス性肝炎について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
15	医療処置別，高齢者感染防止対策	・尿路感染症／手術部位感染／人工呼吸器関連肺炎／カテーテル関連血流感染症 ・誤嚥性肺炎／褥瘡感染症／肺結核予防対策／ノロウイルス性胃腸炎の予防対策／疥癬の予防対策	講義 予習：高齢者感染防止対策について調べておく 復習：講義内容をまとめる					
授業開始前学習		教科書，配布資料，参考書の該当する項目を読んで講義内容の概要を把握しておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		質問や課題に対する回答は次回の講義時間で説明する。						
テキスト・教材		資料を配布する						
参考書		系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 医学書院						
評価の基準と方法		定期試験 100%により評価する						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成					
		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	教育機関（大学）における教育・研究者としての経験を活かして，講義を行う。							

科目名称	栄養学		
科目分類	310-211-11	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	原 純也	必修・選択	必修
担当教員	原 純也	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	臨床における栄養について理解するために、栄養についての基礎的な知識や栄養についての基礎的な知識、そして疾病の治療における栄養の意義について学ぶ。また、栄養と疾病予防、健康の維持・増進との関連について、発達段階に応じた栄養管理という観点から学ぶ。食事療法を行っている対象とかがかわるさいに必要となる食事療法の基本的な考え方についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.各疾患の病因と病態、症状、診断と治療を理解し、栄養素の大切さを説明できる。 2.栄養・食事療法による疾病の治療促進や再発の予防の方法について記述できる。 3.ライフステージ別の栄養管理と栄養教育について説明できる。 4.栄養必要量の算出と栄養補給法の選択による栄養摂取量と食事の構成を具体的に述べる事ができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 原 純也	授業の進め方 臨床栄養学の意義と目的	教科書 P2～15 アクティブ・ラーニング GW 栄養と食事について Key word 人間栄養学 チーム医療
2	栄養素の種類と働き 原 純也	各栄養素の役割について 栄養素の種類とその役割	教科書 P18～42 Key word エネルギー・産生栄養素、ビタミン、ミネラル、食物繊維
3	食物の消化と吸収及びエネルギー代謝 原 純也	消化と吸収の概要 代謝経路	教科書 P46～71・P74～89 Key word 消化吸収経路 エネルギー代謝
4	食事と食品 原 純也	日本人の食事摂取基準 食品に多く含まれる栄養素	教科書 P92～111 Key word 摂取基準 指標と目的
5	栄養ケア・マネジメント① 原 純也	栄養ケア・マネジメント概要 栄養スクリーニング 栄養アセスメントの概要	教科書 P114～129 アクティブ・ラーニング GW アセスメント手法 Key word スクリーニング法、アセスメント法 栄養補給法 栄養教育 モニタリング法
6	栄養状態の評価・判定① 原 純也	栄養アセスメントの意義 各種栄養アセスメント法を実践	教科書 P132～145 Key word SGA ODA
7	栄養状態の評価・判定② 原 純也	食事調査法	教科書 P146～149 アクティブ・ラーニング GW 食事調査評価 Key word 食事調査法
8	ライフステージと栄養 原 純也	乳児期から高齢期における特徴 栄養ケア・マネジメントの要点について	教科書 P152～186 Key word ライフステージ別栄養管理
9	臨床栄養① 原 純也	病院食の概要 栄養補給方法 経腸栄養法と種類 静脈栄養法と種類	教科書 P188～205 Key word 一般食 特別食 栄養補給法
10	臨床栄養② 原 純也	やせ（サルコペニア・フレイル含む）について栄養療法について 肥満症・メタボリックシンドロームの栄養療法について 循環器疾患の栄養療法	教科書 P206～208 Key word PEM マラスムス クワシオルコル メタボリックシンドローム 適正体重 適正エネルギー摂取
11	臨床栄養③ 原 純也	消化器疾患の栄養療法について	教科書 P208～216 Key word 胃腸疾患 肝臓疾患 膵臓疾患 下痢 便秘
12	臨床栄養④ 原 純也	内分泌代謝（特に糖尿病）における栄養療法 腎臓疾患における栄養療法 血液疾患における栄養療法	教科書 P216～223 Key word 2型糖尿病 1型糖尿病 妊娠糖尿病 CKD 病期分類 貧血 白血病
13	臨床栄養⑤ 原 純也	食物アレルギーにおける食事療法 摂食嚥下障害患者の栄養食事療法	教科書 P223～228 Key word 特定原材料 除去食 学会分類 2021

		その他疾患の栄養療法						
14	臨床栄養⑥ 原 純也	がん患者の栄養食事療法		教科書 P230～236 Key word 術前・術後栄養管理 がん悪液質 副作用				
15	健康づくりと食生活 原 純也	生活習慣病予防のための栄養療法 健康栄養指針について 食の安全		教科書 P238～251 Key word 生活習慣病予防 食生活施策				
授業開始前学習		◇準備学習 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておく。 ◇学習上の留意点 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。						
授業内課題の フィードバックの方法		初回講義時のガイダンスで説明する。						
テキスト・教材		系統看護学講座 鈴木志保子 外山健二 中村丁次 専門基礎分野 栄養学 医学書院						
参考書		系統看護学講座 足立香代子 寺本房子 中村丁次 別巻 栄養食事療法 医学書院						
評価の基準と方法		定期試験（100％）での得点数にて評価する。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	薬理学		
科目分類	310-211-11 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	下枝 貞彦	必修・選択	必修
担当教員	下枝 貞彦	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	臨床で用いられる薬物について理解し、対象が効果的で安全な薬物療法を受けることができるように、薬物療法の目的、薬物の投与経路と作用機序、薬効の個人差に影響する因子、薬物の有害反応など薬物療法の基礎的な知識について学ぶ。また、臨床において使用頻度の高い薬物を取り上げ、その薬物を使用するさいの留意点を学ぶことを通して、効果的で安全な薬物療法についての理解を深める。さらには、薬物による医療事故（誤薬、混合禁忌・飲み合わせなど）防止、薬物に対する法律についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.薬の用量と作用の関係を説明できる。 2.薬物が作用するしくみについて、例をあげて説明できる。 3.薬物の吸収、分布、代謝、排泄と薬効発現の関わりについて説明できる。 4.薬物の選択、用法、用量の変更が必要となる要因について具体例をあげて説明できる。 5.疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を説明できる。 6.代表的な薬物相互作用について例をあげ、その機序を説明できる。 7.薬物依存性、耐性について具体例をあげて説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
第 1 回	ガイドンス・薬理学を学ぶにあたって・薬理学の基礎知識 下枝貞彦	薬理学の基本的知識、薬力学、薬物動態学、薬物相互作用、個別化治療などの原則を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書第 1 部第 1・2 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 2 回	抗感染症薬 抗がん剤 下枝貞彦	呼吸器感染症、消化器感染症、尿路感染症、性感染症、髄膜炎、薬剤耐性菌、肺がん、乳がん、胃がん、大腸がん、肝細胞がんなどに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書第 2 部第 1 章 2 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 3 回	免疫治療薬 抗アレルギー・抗炎症薬 下枝貞彦	自己免疫性疾患、臓器移植の拒絶反応、アレルギー性疾患、喘息、アナフィラキシーショック、関節リウマチなどに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 3 章 4 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 4 回	末梢での神経活動に作用する薬物 中枢神経系に作用する薬物 下枝貞彦	交感神経系・副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する医薬品、うつ病、躁うつ病、てんかん、脳血管疾患、パーキンソン病、認知症などに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 5 章 6 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 5 回	心臓・血管系に作用する薬物 呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物 下枝貞彦	心不全、虚血性心疾患、高血圧症、閉塞性動脈硬化症、貧血、DIC、慢性閉塞性肺疾患、消化性潰瘍、肝疾患、脾炎、腎不全、子宮内膜症、尿失禁などに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 7 章 8 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。
第 6 回	物質代謝に作用する薬物 皮膚科用薬・眼科用薬 漢方薬 下枝貞彦	糖尿病、バセドウ病、甲状腺炎、骨粗鬆症、ビタミン欠乏症、アトピー性皮膚炎、皮膚真菌症、褥瘡、白内障、緑内障、加齢性黄斑変性症などに作用する医薬品の基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2 部第 9 章 10 章および 12 章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。

第7回	救急の際に使用される薬物 消毒薬 輸液製剤・輸血剤 看護業務に必要な薬の知識・薬剤師とのコミュニケーションの取り方 下枝貞彦	心停止・ショック、気管支喘息発作、血栓症、けいれん発作、薬物中毒などに作用する医薬品、感染制御に求められる予防策、消毒薬の選択、電解質の補正とそれらに関わるの基本的知識を修得し、看護に必要な医薬品の適正使用に関する基本的事項を身につける。 病院勤務看護師に必要な処方せんの読み方、医療経済と薬のコスト、基本的な調剤用語などを理解することで、薬剤師と共通専門用語を用い医療現場でコミュニケーションをとる方法を身につける。	授業方法：講義 予習：教科書 2部第11章 13章および付章をよく読んでおく。 復習：課題解決型学習用に配布された講義プリント（サブノート）に記述漏れがないかを確認するとともに、当日の講義内容について重要事項を再度教科書で振り返ること。					
第8回	医療現場で役立つ臨床薬理学総合演習 下枝貞彦	医薬品の作用する過程を理解することで、看護における医薬品のリスクを回避するための基本的事項が修得できたかを確認するための演習問題を通じ、本講到達目標の達成度を自己点検する。	授業方法：講義 予習：第1講から第7講まで配布されたプリントを再度よく読んでおく。 復習：配布された課題解決型演習問題を理解するためのまとめを行う。					
授業開始前学習	講義予定項目の SBO を確認し、テキストの該当範囲を読んでから講義に臨むこと。また、講義の後は必ず復習をし、わからないことをそのままにしないで、参考書等で調べること							
授業内課題のフィードバックの方法	講義資料は原則サブノート方式となっており、受講しながら重要事項やキーワードを講義時間内に記入させることで、授業内課題とそのフィードバックが毎回できるよう工夫している。さらに、次の講義開始時には冒頭で前回のサブノートを振り返りながら、教員が最重要箇所の復習を行っている。							
テキスト・教材	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③（最新版） 医学書院 なお、必要に応じて講義プリントも配布する。							
参考書	安原一・小口勝司：わかりやすい薬理学 第4版、ヌーヴェルヒロカワ							
評価の基準と方法	小テスト（20%）、定期試験（80%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	◇学習目標 1.薬の用量と作用の関係を説明できる。 2.薬物が作用するしくみについて、例をあげて説明できる。 3.薬物の吸収、分布、代謝、排泄と薬効発現の関わりについて説明できる。 4.薬物の選択、用法、用量の変更が必要となる要因について具体例をあげて説明できる。 5.疾病と薬物の作用に関する知識を修得し、医薬品の作用する過程を説明できる。 6.代表的な薬物相互作用について例をあげ、その機序を説明できる。 7.薬物依存性、耐性について具体例をあげて説明できる。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	1 年生が理解できる範囲内で、血液内科専属のがん専門薬剤師としての実務経験上、リスクマネジメントの観点から本講義を修学する意義を具体的に解説している。特にハイリスク薬である抗悪性腫瘍薬、電解質製剤、インスリン製剤、カテコラミン製剤、抗凝固剤などについて看護師であってもその薬効、用法用量に熟知していることで医療事故を水際で回避できることを強調している。したがって、ハイリスク薬を中心に自らの臨床経験を基に、医薬品安全管理の側面からも、講義を展開している。							

科目名称	病態生理学		
科目分類	310-221-22 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Clinical Pathology	授業区分	演習
科目責任者	看護学部	必修・選択	必修
担当教員	八十川 要平	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>疾病によって生じた生体の病的な状態を理解するために、生体に障害や異常が生じたさいの身体状態について学ぶ。具体的には、疾病の分類（先天異常、退行性変化、循環障害、進行性変化、炎症、腫瘍）の理解、これらが各臓器に生じた場合の生体機能の変化やその生体機能の変化が全身に及ぼす影響について学ぶ。また、ここでの学びを「疾病と治療」の理解に繋げることができるようにする。本科目で学んだ病態生理の理解方法が看護実践を行うさいの根拠となることも学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の身体における本来の働きとその乱れについて理解し、述べることができる。 2. 先天異常、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍の疾病について、それぞれのパターンを説明できる。 3. 皮膚・体温調節、免疫、体液調節のそれぞれのしくみと病態生理について説明できる。 4. 血液のはたらき及び循環、呼吸、消化・吸収、腎・泌尿器、内分泌・代謝、生殖のそれぞれのしくみと病態生理について説明できる。 5. 脳・神経、筋肉、感覚器のそれぞれのはたらきと病態生理について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス 臨床病態学を学ぶための 基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進め方 ・正常と病気の状態 ・循環障害（虚血と梗塞、充血とうっ血、浮腫と腹水・胸水、出血） ・細胞・組織の障害（細胞の損傷と適応、細胞の死、変形、圧力による臓器の障害、炎症） 	<p>予習：教科書 p.2～14 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：病気、循環障害、細胞、炎症</p>
2	臨床病態学を学ぶための 基礎知識	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症（病原体、感染の成立、生体の治療と予防） ・腫瘍（良性腫瘍と悪性腫瘍、転移、がん遺伝子） ・先天異常と遺伝子異常（奇形、遺伝子・染色体異常） ・老化と死（老化、死の定義） 	<p>予習：教科書 p.14～26 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：感染、腫瘍、遺伝子、死</p>
3	皮膚・体温調節のしくみ と病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚の生体防御のしくみとその障害（皮膚の構造と機能、傷害、生体反応による異常） ・体温調節のしくみとその障害（しくみ、発熱、高体温、低体温） 	<p>予習：教科書 p.28～37 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：皮膚の機能、体温調節</p>
4	免疫のしくみと病態生 理	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫のしくみ（免疫反応、自己寛容と自己免疫のしくみ） ・免疫反応の低下（免疫不全、細胞の機能低下） ・免疫反応の過剰（アレルギー反応による障害、自己免疫疾患） 	<p>予習：教科書 p.40～54 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：免疫反応、免疫不全、自己免疫</p>
5	体液調節のしくみと病 態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・体液・電解質の調節とその異常 ・酸・塩基平衡のしくみとその異常 	<p>予習：教科書 p.56～70 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：体液・電解質、脱水症、酸と塩基平衡</p>
6	血液のはたらきと病態 生理	<ul style="list-style-type: none"> ・骨髄の機能とその障害 ・赤血球の機能とその障害 ・白血球の機能とその障害 ・血小板と出血傾向 	<p>予習：教科書 p.72～88 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：骨髄、赤血球、白血球、血小板</p>
7	循環のしくみとその病態 生理	<ul style="list-style-type: none"> ・心臓のポンプ機能と病態生理（構造と機能、排出機能の障害） ・血圧調節と末梢循環のしくみと病態生理（血圧と血圧調節、血圧調節と末梢循環の障害） 	<p>予習：教科書 p.90～117 を熟読する 復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる キーワード：心臓、血圧、末梢循環</p>

8	呼吸のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器の構造と機能 ・呼吸困難と呼吸不全 ・呼吸器系の防御機構の障害 ・換気の障害 ・ガスの拡散障害 ・肺循環の障害 ・呼吸調節の障害 	<p>予習：教科書 p.120～139 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：呼吸器、呼吸運動、呼吸困難、咳嗽、喀痰</p>					
9	消化・吸収のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管の構造と機能 ・咀嚼・嚥下の障害 ・胃・腸管の障害 ・消化・吸収の障害 	<p>予習：教科書 p.142～174 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：消化管、咀嚼、嚥下、消化・吸収</p>					
10	消化・吸収のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・肝臓・胆嚢の機能とその障害 ・膵臓の機能とその障害 ・腹腔腔・腹膜・腸間膜の機能とその障害 	<p>予習：教科書 p.142～174 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜</p>					
11	腎・泌尿器のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・腎臓の構造と機能 ・腎機能の障害 ・泌尿器のしくみと病態生理 	<p>予習：教科書 p.176～194 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：濾過機能、尿のたくわえと排泄</p>					
12	内分泌・代謝のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌のしくみとその異常 ・糖代謝とその異常 ・脂質代謝とその異常 ・尿酸代謝とその異常 ・カルシウム・リンの代謝とその異常 	<p>予習：教科書 p.196～219 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：ホルモン、血糖値、インスリン</p>					
13	生殖のしくみと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器の機能とその異常 ・男性生殖器の機能とその異常 	<p>予習：教科書 p.222～233 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：女性生殖器、男性生殖器</p>					
14	脳・神経、筋肉のはたらきと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・脳・神経、筋肉の機能 ・脳循環のしくみとその障害 ・髄膜・髄液のはたらきとその障害 ・脳腫瘍 ・頭痛 ・睡眠障害 ・意識と認知の障害 ・運動制御のしくみとその障害 ・筋収縮のしくみとその障害 	<p>予習：教科書 p.236～263 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：脳・神経、筋肉</p>					
15	感覚器のはたらきと病態生理	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚器の機能とその異常 ・聴覚器の機能とその異常 ・味覚・嗅覚とその異常 ・皮膚感覚とその異常 	<p>予習：教科書 p.266～278 を熟読する</p> <p>復習：教科書の図・表を確認し、講義内容をまとめる</p> <p>キーワード：感覚器</p>					
授業開始前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能 I、II の知識を復習して授業に臨むこと。 2. 講義の予定範囲を教科書や講義プリントであらかじめ一読し、講義の後に必ず復習をして十分理解しておくこと。 3. 知識を断片的に覚えるのではなく、他の事柄とも関連付けて理解すること。 							
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進 2 医学書院							
参考書	必要時、参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	<p>期末試験（100%）</p> <p>※遠隔講義最終日に成績評価試験を実施する。</p>							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容	<p>消化器外科医の現役医師として実務経験を有している。人体の構造と機能において正常から逸脱する場合の様々な症状・徴候のメカニズムに共通する現象、疾病に対する対応や対処の原則について講義する。</p>							

疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)

科目名称	疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)		
科目分類	310-221-21 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Disease and Treatment I (Internal medicine)	授業区分	演習 【オンデマンド授業】
科目責任者	「疾病と治療 I」担当者	必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療 I」担当者	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	看護学を学ぶにあたり、医療についての理解のもとに、看護学実践の基礎となる臨床医学全般について、内科学を中心に病態生理を理解する。内科総論としては、症候論、診断、治療を学ぶ。各論として人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。主に血液、内分泌系、消化器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、アレルギー・膠原病・感染症の内科的治療について学習する。また、高齢社会に伴い高齢者特有の疾患について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学と医療の違いを説明できる。 2. 疾病の誘因、生活習慣と病気の関連、病気の身体的・心理的影響を説明できる。 3. 確定診断に至るまでの問診・検査法を説明できる。 4. 各論として全身性疾患について、病理、病態生理を含めた診断と治療を関連付けられる。 5. 様々な症状について述べることができ、その症状由来の原因と関連づけることができる。 6. 加齢現象、高齢者疾患の特徴を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	医療とは Evidence based practice 総合医療 老年の病態・疾病論	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の導入 1. 医療とは、医学とは 2. 医師の役割 ・原因不明または複数の疾患を有する人への診断・治療：不明熱、発熱・体重減少・貧血などを主訴とする疾患 ・高齢者疾患の症状とその病態生理（老化現象、高齢者疾患の特徴） 	<p>予習：医療・医学・医師の役割、チーム医療について事前学習しておく 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論の第 2 章～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
2・3	消化器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管疾患の病態と内科的治療：潰瘍、ポリープ、腸炎、悪性腫瘍 ・胆嚢・肝臓・膵臓疾患の病態と内科的治療：肝炎ウイルスと肝疾患、胆道疾患、膵疾患 	<p>予習：成人看護学 5 消化器 2～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
4～5	呼吸器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器疾患の症状と病態生理：咳、痰、喀血、呼吸困難と呼吸不全、チアノーゼ ・呼吸器疾患の病態と内科的治療：気管支喘息、間質性肺炎、COPD、悪性腫瘍、呼吸器感染症 	<p>予習：成人看護学 2 呼吸器 2～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
6～7	循環器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の症状と病態生理、および内科的治療：動悸、不整脈、頻脈、除脈、血圧異常、虚血性心疾患、心不全 	<p>予習：成人看護学 3 循環器 2～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
8～9	腎・高血圧疾患	腎疾患の症状および病態生理と内科的治療（透析を含む）	<p>予習：成人看護学 8 腎・泌尿器 2～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
10～11	免疫・アレルギー疾患	免疫・アレルギー疾患の病態と内科的治療：食物アレルギー、SLE、RA、PSS、シェーグレン症候群、PM/DM	<p>予習：成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 2～4 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>
12～13	代謝・内分泌疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌疾患とその病態生理：ホルモン、ネガティブフィードバック ・機構代謝疾患の病態と内科的治療：糖尿病、高脂血症、高尿酸血症 ・内分泌疾患の病態と内科的治療：機能亢進症と機能低下症 	<p>予習：成人看護学 6 内分泌・代謝 2～5 章を読んでおく</p> <p>復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる</p>

14～ 15	血液疾患	血液・造血器疾患の病態と内科的治療 ・骨髄の機能、多血症、再生不良性貧血、造血幹細胞移植、骨髄異形形成症候群 ・白血病、悪性リンパ腫、血小板の機能、血液凝固因子、血友病		予習：成人看護学 4 血液・造血器 2～4 章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる				
授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	初回ガイダンスで説明する。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2, 3, 4, 5, 6, 8, 11] (医学書院) ・専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論(医学書院) ・必要時、講義プリントを配布する。 							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 別巻 医学概論 (医学書院) 							
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	◇学習目標 看護学実践の基礎となる臨床医学全般について、内科学を中心に病態生理を理解する。 ※遠隔授業における授業計画は初回ガイダンス時に改めて説明を行う。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	現職の医師が、自身の専門分野の実務経験を活かして、それぞれの分野の疾病及び治療に関する講義をします。							

科目名称	疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)		
科目分類	310-221-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Disease and Treatment Ⅱ (Surgery)	授業区分	演習
科目責任者	教務関連部会	必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅱ」担当者	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	外科学を中心に人体の生理・解剖学とその病理を理解するとともに、外科的治療のもたらす効果と障害についても学ぶ。また麻酔学・蘇生学も学びクリティカルケアについて学ぶ。特に人の身体各器官系統に起こる代表的な健康障害について、疾病のメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後を学ぶ。主に消化器系、呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、女性生殖系系の健康障害と外科的治療について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の生理とその病的状態を理解するとともに、外科の発展の歴史を知り、外科的治療のもたらす効果と障害について説明できる。 2. 解剖学の知識を活かし、外科的治療について説明できる。また、麻酔学・蘇生学を理解し、クリティカルケアについて説明できる。 3. 外科的治療による身体的、心理的影響について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	外科総論	・外科総論：無菌法、基本的な外科手技、創傷の治癒過程	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
2	救急医学	・ショックと救急医学：ショックの分類と病態生理、救急外科	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
3	麻酔学	・麻酔科学総論：周手術期管理 ・麻酔学各論：局所麻酔・全身麻酔(吸入麻酔薬の薬理)	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
4	疼痛緩和	・疼痛緩和の意義と治療 ・緩和ケア	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
5	乳腺・内分泌疾患	・乳腺・内分泌疾患の病態と外科的治療：乳腺疾患、甲状腺疾患の外科、その他の内分泌外科疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
6～7	消化器疾患	・上部および下部消化器疾患の病態と外科的治療 ・肝胆膵臓疾患の病態と外科的治療	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
8～9	呼吸器疾患	・呼吸器疾患の病態と外科的治療：肺がん ・呼吸器疾患の病態と外科的治療：縦隔の構造とその他の肺疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
10～11	循環器疾患	・循環器疾患の病態と外科治療：虚血性心疾患 ・循環器疾患の病態と外科治療：弁膜症、心筋症、心膜疾患 ・循環器疾患の病態と外科治療：大血管疾患と末梢血管疾患、先天性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
13～14	腎・泌尿器疾患	・腎・泌尿器疾患の病態と外科的治療：非腫瘍性疾患、腫瘍性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
15	女性生殖器の疾患	・非腫瘍性疾患、腫瘍性疾患	予習：学修内容にあるテキスト該当ページを読んでおく。 復習：授業を振り返り、教科書と照らし整理する。
授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に小テストを行うことがある。その場合には、担当教員が該当時間内に解説を行い、質問に回答する。		
テキスト・教材	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門分野Ⅱ 成人看護学【1】～【11】/医学書院 2. 別巻 臨床外科看護各論/医学書院 		

3. 別巻 臨床外科看護総論／医学書院								
参考書	当日、プリント配布							
評価の基準と方法	定期試験 100%で評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目である。担当教員は全員が医師免許を有し、医療施設にて診療・治療の医師業務を行っている。本科目では、担当教員が専門とする診療科での実務経験を活かし、受講生が最新の外科治療について理解できるよう講義する。							

疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)

科目名称	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)			
科目分類	310-221-22 (J)	単位数	2.0 単位	
英文名称	Disease and Treatment Ⅲ (motor neuron and sensory of organs disease)		授業区分	演習
科目責任者	教務関連部会		必修・選択	必修
担当教員	「疾病と治療Ⅲ」担当者		開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-		研究室	-
授業概要	人の身体各器官系統すなわち運動系器官、神経系器官、感覚系器官に起こる代表的な健康障害について、臨床医学の各領域で、解剖・生理と正常の機能を学ぶ。またそれらの疾病におけるメカニズム・主要症状と病態・診断・治療・合併症・予後およびリハビリテーション、社会福祉資源の活用についても学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動・神経・感覚器疾患の病態と診断・治療について説明できる。 2. 人体の生理とその病的状態を理解するとともに、治療のもたらす効果と障害について説明できる。 3. 治療による身体的、心理的影響について考察できる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習 ・レポートなどの課題	
1・2	神経系疾患の病態と治療	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患論：脳血管障害、脳腫瘍 ・疾患論：脳腫瘍、頭部外傷 ・疾患論：脳卒中、くも膜下出血の手術 	<p>予習：教科書の「神経系の解剖・生理」に目を通し、既習学習ノートの確認をする。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
3～4	神経系疾患の病態と治療 (脳神経内科)	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患論：脱髄疾患、パーキンソン病 ・疾患論：認知症 ・疾患論：筋疾患・神経筋接合部疾患、ALS 	<p>予習：教科書の「神経系の解剖・生理」に目を通し、既習学習ノートの確認をする。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
5	リハビリテーション総論	・リハビリテーション医療とチームアプローチ	<p>予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
6	放射線治療学総論	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線治療の適応と特徴 ・放射線治療の実際 	<p>予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
7～9	筋・骨系疾患の症状と病態生理 (整形外科)	<ul style="list-style-type: none"> ・脊椎・腰椎の疾患 ・四肢の疾患、骨腫瘍 ・骨折、脱臼、その他の外傷 	<p>予習：教科書の本時該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
10～11	感覚器系疾患の病態生理 (皮膚科)	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患の病態と治療① ・皮膚疾患の病態と治療② 	<p>予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
12～13	感覚器系疾患の病態生理 (眼科)	<ul style="list-style-type: none"> ・白内障、緑内障、視神経 ・網膜剥離、全身疾患と眼 	<p>予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
14～15	感覚器系疾患の病態生理 (耳鼻咽喉科)	<ul style="list-style-type: none"> ・耳、鼻の疾患 ・咽頭、喉頭の疾患 (永久気管孔造設等) 	<p>予習：教科書の本時の該当内容に目を通し、ノートを整理する。</p> <p>復習：本時の学びを教科書を振り返りながらポイント整理する。</p>	
授業開始前学習	各疾患の病態、診断、治療方法、合併症の理解を深めるために、解剖・生理の知識を復習して授業に臨むこと。			
授業内課題のフィードバックの方法	講義初回のガイダンス時に説明する。			

テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論／医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経／医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器／医学書院 ・必要時、講義プリントを配布する。 							
参考書	特記なし							
評価の基準と方法	定期試験（100%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	現役の医師または理学療法士として担当する項目の疾患・治療に携わっており、その経験に基づいて講義をおこなう。							

科目名称	疾病と治療Ⅴ(精神)		
科目分類	310-211-12 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	加藤 隆	必修・選択	必修
担当教員	加藤 隆	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	生物学的モデルとしての脳と精神のつながりや、人間の精神現象と精神症状の特徴を学習し、それらを踏まえ、統合失調症や気分障害などの代表的な精神疾患に関する病態・治療、予後等の基礎的知識について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医療に携わる者が持つべき精神医学の基本的知識を習得する。 2. 精神症状を表す医学用語について説明できる。 3. 個々の精神疾患に特徴的な症状、基本的な治療法、リハビリテーションについて説明できる。 4. 以上の習得を通して精神疾患のある患者への接し方について説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	精神医学概論 加藤 隆	精神医学の歴史について学び、精神医学とは何か、精神疾患とは何かについて学ぶ。 ・精神医学とは ・精神医学の歴史 ・脳機能の局在と精神機能の概要 ・了解と説明	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 2 章 D・第 5 章 A・B 及び C-①を読んでおく。 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。 課題：「了解と説明」について、レポート課題を掲示する。期日までに取り組み、提出すること。
2	精神症状論 加藤 隆	人格と性格の違い、様々な精神症状について学ぶ。 ・人格とは何か、人格と性格の違い ・様々な精神症状と精神医学的用語	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 A・B 及び C-①を読んでおく。 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。
3	統合失調症と関連障害 加藤 隆	統合失調症とその類縁疾患の特性や治療、予後について学ぶ ・統合失調症とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 B 及び C-②、第 6 章 C-②及び D を読み、疾患と関連する症状、治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。
4	気分障害 加藤 隆	気分障害の特性や治療、予後について学ぶ ・気分障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 B 及び C-③、第 6 章 C-②及び D を読み、疾患と関連する症状や治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。
5	神経症性障害・摂食障害 パーソナリティ障害 加藤 隆	神経症性障害・摂食障害・パーソナリティ障害の特性や治療、予後について学ぶ ・神経症性障害とは ・摂食障害とは ・パーソナリティ障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 B 及び C-④及び⑥、第 6 章 B 及び C-②を読み、疾患と関連する症状や治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。
6	発達に関する精神障害 加藤 隆	発達に関する精神障害の特性や治療、予後について学ぶ ・発達に関する精神障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 B 及び C-⑥、第 6 章 B 及び C-②を読み、疾患と関連する症状や治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。
7	認知症と老年期精神障害 加藤 隆	認知症と老年期精神障害の特性や治療、予後について学ぶ ・認知症とは ・老年期精神障害とは ・上記の主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第 5 章 B 及び C-⑥、第 6 章 B 及び C-②を読み、疾患と関連する症状や治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。

8	精神作用物質に関する精神障害 加藤 隆	精神作用物質に関する精神障害の特性や治療、予後について学ぶ ・精神作用物質に関する精神障害とは ・主要な症状、経過、治療、予後について	授業方法：「講義」「課題解決型学習」 予習：教科書第5章B及びC-⑤、第6章B及びC-②を読み、疾患と関連する症状や治療をまとめる 復習：授業中の提示する課題（Google Forms）に取り組み、期限内に提出する。本日の学びをノートにまとめておく。					
授業開始前学習	すでに履修した教科目（人体の構造と機能、心理学、生化学、臨床薬理学）の中で精神・神経系に関係する部分を復習しておくことを勧めます。講義の予定項目について教科書の該当する範囲を一読し、講義の後は復習して次回に繋げる。精神症状は多くの精神疾患に共通して現れることが多いので、精神症状を表す医学用語を十分に理解しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたリアクションペーパーに対して、フィードバックを行う。							
テキスト・教材	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 第6版第2刷 医学書院 ※ 講義資料を配布します。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・西丸 甫夫、西丸 四方：やさしい精神医学 第5版 南山堂 ・上島 国利、立山 万里、三村 将：精神医学テキスト-精神障害の理解と治療のために- 改訂第4版 南江堂 ・加藤進昌：看護のための最新医学講座 12巻 精神疾患 中山書店 ・中井久夫、山口直彦：看護のための精神医学 第2版 医学書院 							
評価の基準と方法	定期試験を実施する。 ・試験の結果と課題レポートの評価を合わせ、総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他	◇学習目標 精神医学は人間のこころ（精神現象）を扱う学問であり、その基礎的知識はすべての医学領域において必須である。とくに精神科医療においては医療者（医師、看護師など）が医療を実践するうえで、患者のこころの痛みに対する「共感」や「受容」を基にした「関わり方」が重視される。そのために患者の個別的な背景、精神状態を理解し、問題点を把握する能力を獲得することが学習目標となる							
予習・復習の所要時間	講義時間 15時間+予習・復習時間 30時間							
実務経験を活かした教育内容	精神科医、精神保健指定医としての実務経験を活かし、精神障害や精神疾患の特徴、診断、治療について具体的なケースを踏まえながら講義する。							

科目名称	医療概論		
科目分類	310-221-11 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	稲富 恵子	必修・選択	選択
担当教員	稲富 恵子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	将来、人々の健康に携わるよりよい医療人になるために、医療の歴史の変遷や現状から医療の多様性と広がりを理解する。その中で、生命とは、健康とは、医療とはなど医療の原点について考えるとともに、医療人として医療の主人公である人への畏敬の念をもち、生活者に共感し、生活や背景を重視した支援を行う重要性と心構えを学ぶ。		
到達目標	1. 医療の成り立ちを理解し説明できる 2. 医療法の改正がなぜ行われてきたかを理解する 3. 患者・家族の身に寄り添う医療とは何かを考えた態度がとれる		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	医療とは	医学と医療、医療の歴史、医療を支える人々、医療従事者の守秘義務	講義 予習：教科書の該当ページを読んでおく 復習：配布された資料の中で覚えておく事柄に目印をつける
2	医療を実践するに当たって必要なこと	医療法、医療法の改正、医療対策の動向、医療圏、医療保険の種類	講義 予習：自分の医療保険証の種類を確認しておくこと 復習：本日学んだ法律のもとで医療を実践できることを復習
3	在宅医療の推進	患者・家族の心に寄り添う努力、慢性疾患・急性疾患、特定行為とは	講義 予習：祖父・祖母の健康状態を確認しておくこと 復習：患者・家族に寄り添うとは；自分の考えを A4 1 枚に
4	チーム医療	患者中心の医療 患者共同の医療（情報共有）	講義・発表と意見交換（レポート提出） 予習：教科書の該当ページを読んでおく 復習：意見交換で心に残ったことをノートにメモしておく
5	お薬手帳	病診連携・病病連携	講義 予習：お薬手帳がありましたら見てきて下さい 復習：複数のお薬手帳を再度よく見比べて下さい
6	災害時医療	DMAT、災害拠点病院、トリアージ	講義・お薬手帳で気付いたことを口頭での報告 予習：教科書の該当ページを読んでおく 復習：配布資料の不足部分をさらに詳しく補っておく
7	生活習慣病	生活習慣病命名の由来、病気の種類	講義 予習：成人病のちがいを調べておくこと 復習：配布資料を参考に、病気の概略を知っておく
8	医療安全と医療職に求められる態度	インシデントレポート、院内医療事故防止のための体制、ヒトやモノの誤認	講義 予習：人・物品の誤認防止のための工夫を考えておくこと 復習：8 回分の配布資料をざっとまとめて眺めておく
授業開始前学習	次の授業のための課題を調べてくる		
授業内課題のフィードバックの方法	授業内での口答発表		
テキスト・教材	学生のための医療概論 第 4 版 医学書院 2020 年 2 月 1 日発行		
参考書	国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会 2021 年 8 月 31 日発行		
評価の基準と方法	筆記試験（80%）レポート（20%）（総合点が合格すれすれの場合は口頭発表者に +α）		
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	◎	○			○			
関連科目	臨床医学 倫理学 心理学 公衆衛生学							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	臨床医としての経験を活かし、医療の成り立ち、医療法の改正、患者・家族の身に寄り添う医療について講義する。							

科目名称	生涯発達学		
科目分類	310-211-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	尾花 真梨子	必修・選択	必修
担当教員	尾花 真梨子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間の発達段階を理解するために、生涯発達の観点で胎児期から老年期までの身体的・心理・社会的な側面における発達的特徴とそれに関連する理論を概観し、心身の発達の様相とそのプロセス、発達に影響を及ぼす諸要因について学ぶ。また、各発達段階においてよくみられる発達上のさまざまな問題について概観し、健全な発達のための要件について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「発達」のメカニズムや理論について説明することができる。 2. 各発達段階の様相と一生涯にわたる発達過程に関連づけることができる。 3. 発達に影響し得る諸要因を記述することができる。 4. 発達上の諸課題について、説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	生涯発達とは何か：発達心理学の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス：授業の進め方、到達目標、成績評価など ・発達心理学における「発達」 ・発達心理学の諸理論 	<p>講義</p> <p>予習：シラバスを熟読しておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、「発達とは何か」について説明できるようにする。また、発達心理学の基本的理論の特徴についてまとめる。</p>
2	胎生期の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・心と身体の初期発達 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、胎生期の発達について説明できるようにする。</p>
3	乳幼児の発達①	<ul style="list-style-type: none"> ・「乳幼児期」とは ・乳幼児期における感覚と身体・運動の発達 ・乳幼児期における認知発達 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>
4	乳幼児期の発達②	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期における記憶・言語の発達 ・乳幼児期における感情発達 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>
5	児童期の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童期」とは ・児童期における学びと対人関係の発達 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>
6	青年期の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・「青年期」とは ・子どもからおとなに変化していくプロセス 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>
7	成人期の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・「成人期」とは ・成人期の発達理論 ・成人期の諸課題 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>
8	老年期の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・「老年期」とは ・我が国の高齢化の歴史と現状 ・老年期における発達と諸課題 	<p>講義</p> <p>予習：当該発達段階について調べ、概要をおさえる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：配布されたレジュメを振り返り、講義内容を整理してテクニカルタームをまとめる。</p>

授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> 各発達段階への関心を持ち、それと関連する社会的な問題や出来事について調べる。 レジュメや参考資料等をよく読んで、内容を整理・まとめる。ヒトの発達を全体として理解できるようにしておく。 							
授業内課題の フィードバックの方法	毎回リアクションペーパーを課します。翌週の授業冒頭にコメント・共有し、必要に応じて補足します。							
テキスト・教材	特に指定しません。毎回レジュメを配布し、それを基に授業を進めます。							
参考書	授業中に適宜紹介します。							
評価の基準と方法	定期試験（60%）および平常点（授業への取り組みやリアクションペーパーの提出など；40%）を総合的に判断する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○	△	
関連科目	「心理学」「臨床心理学」							
その他	本科目の履修を通して、自分自身の育ちや育ってきた環境が今の自分にどのような影響を与えているかを振り返りましょう。ぜひ、自分自身や周囲への関心を持ちながら学習してください。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	人間関係論		
科目分類	310-211-21 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Human Relations	授業区分	演習
科目責任者	奥井 良子	必修・選択	必修
担当教員	奥井・松尾	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	人間関係の形成に関する理解を深め、人間の発達過程における対人関係の重要性を知るとともに、人間関係における社会的相互作用、自己理解のための理論を理解する。また、自己理解を深め、対象との良好な関係づくりの基盤となるコミュニケーションの基礎的技術を学び、多様な価値観を持つ人々と人間関係を良好に保つ能力を身に付ける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の重要性について述べるができる。 2. 発達過程における対人関係の特徴について述べるができる。 3. 自己理解を深めるための理論と技術について説明することができる。 4. 人間関係形成におけるコミュニケーションの重要性について述べるができる。 5. コミュニケーションの基礎的技術について説明することができる。 6. 援助場面におけるコミュニケーションのあり方について、多角的に検討することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 人間関係とは 奥井 良子	本授業の進め方 人間関係に関する基本的概念	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
2	発達過程と人間関係 奥井 良子	幼児、小児、青年期の発達過程と人間関係成立の特徴 成人、老年期の発達過程と人間関係	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
3	社会的相互作用 奥井 良子	社会的相互作用と社会的役割 援助的役割	講義 予習：教科書第 2 章、4 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
4	看護における人間関係 奥井 良子	看護における人間関係の特徴	講義 予習：教科書第 11 章、第 12 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
5	看護における人間関係 奥井 良子	様々な健康状態にある人々との人間関係	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
6	看護における人間関係 奥井 良子	保健医療福祉の専門職間の人間関係 チームワーク	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
7	看護における人間関係 奥井 良子	「患者になること、患者の家族になること」 小テスト	講義、テスト 予習：第 1 回から 6 回の講義内容の復習。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
8	コミュニケーション 松尾 真規子	コミュニケーションの基本的概念と構造 コミュニケーションの基礎的技術	講義 予習：教科書の第 5 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
9	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	援助場面におけるコミュニケーション	講義 予習：教科書の第 6 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
10	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	相談援助の技術 1	講義 予習：教科書の第 7 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
11	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子、奥井良子	相談援助の技術 2	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回の授業内容を振り返っておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。
12	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	プリーフェサピ ー 1	講義 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。
13	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子、奥井良子	プリーフェサピ ー 2	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。

14	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子、奥井良子	援助場面におけるコミュニケーションの基礎的技術の活用	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：援助場面におけるコミュニケーションについての自己の課題を整理しておく。						
15	人間関係形成とコミュニケーション 松尾 真規子・奥井良子	人間関係形成と看護への活用	講義 予習：これまでのノートを振り返り、疑問点を整理しておく。 復習：今まで配布された資料や、自分でまとめたノートをよく読んでおく。						
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		第4回授業でレポート課題を提示し、レポートに対して個別にフィードバックする。 第7回授業内で小テストを行い、解答内容に応じて補足説明を行う。 授業後のリアクションペーパー及びグループワークやロールプレイに関する気づきに対しては、授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材		系統看護学講座 基礎分野 人間関係論第3版 医学書院							
参考書									
評価の基準と方法		評価比率は、小テスト 15%、課題レポート 25%、最終試験 60%とする。 2/3以上の出席（リアクションフォームの提出）で評価の対象となる。							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	◎	○	△		△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容		本科目は奥井、松尾 2 名の教員が協同で指導する科目である。 奥井は、心理臨床で臨床心理士として、また保健・医療の臨床で看護師としての実務経験を有し、人間関係に関する基本的概念、発達過程による人間関係の形成および社会的役割、医療者としての人間関係について講義する。 松尾は、心理臨床、地域の保健医療福祉の現場で保健師・精神保健福祉士としての実務経験を有し、コミュニケーションの概念や技術についての講義、ロールプレイを担当する。							

科目名称	看護関係法規		
科目分類	310-211-12 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	林田 丞太	必修・選択	必修
担当教員	林田 丞太	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	看護職が知っておく必要のある法令を理解するために、法の基礎的な概念を受けて、看護法、医事法、保健衛生法、薬務法、労働法、社会保険法、福祉法などについて学ぶ。また、法令に基づいて看護が行われていることを理解するために、看護実践に関する事例検討を行うことを通して、法令と看護実践の関係について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 法令とは何を説明することができる 2 看護に関する法令とその概要を説明することができる 3 法令と看護実践の関係を例をあげて説明することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	法律の基礎知識	法律の基礎知識について	講義・グループワーク 予習：法律の基礎知識について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
2	看護法（保健師助産師看護師法・人材確保法）・医事法（医療法）	看護法（保健師助産師看護師法・人材確保法）・医事法（医療法）について	講義・グループワーク 予習：看護法・医事法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
3	保健衛生法（健康増進法、地域保健法、感染症法、予防接種法、検疫法）	保健衛生法（健康増進法、地域保健法、感染症法、予防接種法、検疫法）について	講義・グループワーク 予習：保健衛生法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
4	保健衛生法（母体保護法、がん対策基本法、臓器移植法、母子保健法、学校保健安全法）	保健衛生法（母体保護法、がん対策基本法、臓器移植法、母子保健法、学校保健安全法）について	講義・グループワーク 予習：保健衛生法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
5	薬務法（薬事法、薬剤師法、薬物取締法、医薬品医療機器等法）	薬務法（薬事法、薬剤師法、薬物取締法、医薬品医療機器等法）について	講義・グループワーク 予習：薬務法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
6	労働法（労働安全衛生法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法）	労働法（労働安全衛生法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児介護休業法）について	講義・グループワーク 予習：労働法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
7	社会保険法（医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害保障保険、介護保険）	社会保険法（医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害保障保険、介護保険）について	講義・グループワーク 予習：社会保険法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
8	福祉法（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、発達障害者福祉法）	福祉法（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神障害者福祉法、発達障害者福祉法）について	講義・グループワーク 予習：福祉法について調べておく 復習：本日学んだ内容についてまとめておく
授業開始前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義後には必ず復習をして学習内容を十分理解しておく。 2. 授業で興味をもった概念についてさらに調べてみるなど積極的な学習を行う。 		
授業内課題のフィードバックの方法	講評等の資料配布にてフィードバックを行う。		
テキスト・教材	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(4)：看護をめぐる法と制度/メディカ出版		
参考書	講義内で適宜紹介する。		
評価の基準と方法	定期試験 50%及び、レポート 50%の結果により総合的に評価する		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	学習上の留意点 課題には主体的に取り組む。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	本科目について実践経験のある者が担当します。							

科目名称	公衆衛生学		
科目分類	310-211-12	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	松木 勇樹	必修・選択	必修
担当教員	松木・井上(浩)	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学習し、集団の疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。また、主要疾患の現状と予防、衛生行政、医療制度、地域保健、母子保健、高齢者保健、学校保健、産業保健、医療、福祉等の状況、食品衛生、感染症予防などについて、各種統計資料を参考にしながら、保健統計指標の動向や意義を理解する。また、保健医療行政などの保健・医療システムについて、社会構造の変化を捉えた健康増進実践活動としての健康サービス、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念を説明できる。 2. 人口動態・人口静態が理解できる。 3. 地域・母子・小児・学校保健が理解し説明できる。 4. 成人保健について理解し説明できる。 5. 高齢者保健と精神保健の現状を理解し説明できる。 6. 国民栄養・食品衛生について理解し説明できる。 7. 環境保健・産業保健について理解し説明できる。 8. 国際保健協力の仕組みと現状を理解し説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	健康の概念、予防医学 松木勇樹	健康の概念について、WHO の健康の定義、健康観の歴史的変遷、予防医学の概念、ヘルスプロモーションの概念などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
2	人口静態・人口動態統計 松木勇樹	国勢調査の方法と現状、人口の推移、将来推計人口、人口動態統計の要素（出生・死亡・婚姻・離婚・死産）の定義と各々の指標、生命表、平均寿命、平均余命などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
3	母子保健・小児保健 松木勇樹	母子保健の概要、母子保健の指標と現状、家族計画、乳児の保健、小児保健の現状、母子保健行政などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
4	学校保健・成人保健 松木勇樹	学校保健の概要と現状の問題点、学齢期の健康状態、学校保健行政などについて学ぶ。また成人保健については生活習慣病、健康日本 21 などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
5	高齢者保健・精神保健 松木勇樹	高齢者保健の現状の問題点、高齢者の健康状態と疾患、介護保険などについて学ぶ。また精神保健と障害者保健についても学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
6	国民栄養・食品衛生 井上浩一	国民栄養の現状と問題点、栄養障害、国民健康・栄養調査の概要について学ぶ。また食品衛生の意義と現状、食中毒の分類、食中毒の予防などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
7	環境保健、感染症 松木勇樹	生活環境の指標と疾病予防、地域環境と健康障害、公害の歴史、地球環境問題と健康影響などについて学ぶ。また感染症の疫学について概要を学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
8	産業保健・国際保健 松木勇樹	産業保健の定義と目的、労働災害の現状、産業看護、職業病などについて学ぶ。また国際保健協力のしくみと現状について学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。

授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	松木秀明編；よくわかる専門基礎講座 公衆衛生，金原出版							
参考書	国民衛生の動向，厚生労働統計協会 鈴木庄亮監修；シンプル公衆衛生学，南江堂							
評価の基準と方法	定期試験（100%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目	疫学（保健統計Ⅰ）							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回の授業で質問する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	社会福祉学		
科目分類	310-211-12 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	西田 幸典	必修・選択	必修
担当教員	西田 幸典	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	この科目の目的は、我が国における社会保障制度の全体像を理解し、医療人として、医療がその一部を構成していることを理解することである。また、社会保障における社会福祉の基本的な考え方を理解することである。この科目は、看護専門領域における看護の対象の支援を考えるにあたって、その礎となる知識を学修するものとして位置づけられる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障制度における社会福祉の考え方を説明することができる。 2 社会保障制度の体系を説明することができる。 3 社会保険制度の基本的内容（概要）を説明することができる。 4 公的扶助制度の基本的内容（概要）を説明することができる。 5 社会福祉制度（高齢者・児童・障害者）の基本的内容（概要）を説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	社会保障体系	社会保障の概念、社会保障制度の分類	予習：社会保障体系について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
2	社会保険制度	医療保険制度	予習：医療保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
3	社会保険制度	医療保険制度、年金保険制度	予習：医療保険制度、年金保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
4	社会保険制度	介護保険制度	予習：介護保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
5	社会保険制度	労働者災害補償保険制度、雇用保険制度	予習：労働者災害補償保険制度、雇用保険制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
6	公的扶助制度	生活保護制度	予習：生活保護制度について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
7	社会福祉制度	障害者総合支援法	予習：障害者総合支援法について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
8	社会福祉制度	障害者総合支援法、公費負担医療	予習：障害者総合支援法、公費負担医療について調べて意見をまとめておく 復習：本日学んだ内容についてノートにまとめておく
授業開始前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義前に教科書の該当部分を読んでくること。 2. 毎回の授業内容を、次回の講義までに必ず復習を行い、理解を深めておくこと。 		
授業内課題のフィードバックの方法	翌授業日の冒頭に時間を設ける。		
テキスト・教材	福田素生 他著 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 第 22 版 医学書院		
参考書	社会福祉法規研究会編 社会福祉六法 令和 3 年版 新日本法規 介護保険六法 令和 2 年版 中央法規 国民の福祉と介護の動向 2020/2021 厚生労働統計協会		
評価の基準と方法	定期試験 80%、リアクションペーパーと授業態度 20%により評価する。		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		
関連科目								
その他	<p>学習上の留意点</p> <ol style="list-style-type: none"> この科目の内容は看護師国家試験において頻出です。 定期試験の学習は、授業で配布した資料を中心に、教科書を参考にして行うと良いです。 							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目について実務経験のある者が担当します。							

科目名称	疫学(保健統計 I)		
科目分類	310-211-12	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	松木 勇樹	必修・選択	必修
担当教員	松木(秀)・松木(勇)	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	疫学の目的、対象、方法を理解し、疫学・統計学の基本知識を身につける。人間集団の健康水準及び疾病異常に関与する要因、人々の健康・声明に関連する生活習慣や環境と疾病の発生、治療と症状の改善などの因果関係を推論するために実施されている疫学研究のデータや調査の結果の読み方およびその活用方法を学習する。また、地域における健康水準の向上に役立てる解決策を見いだす方法について理解し、保健活動における統計の意義を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学の概念を説明できる。 2. 標本抽出・標準化とマッチングについて説明できる。 3. 偏りと交絡について説明できる。 4. スクリーニングを理解し、様々な指標が計算できる。 5. 記述疫学について説明できる。 6. 分析疫学について説明できる。 7. 介入研究について説明できる。 8. 因果関係論について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	疫学の定義と歴史 松木勇樹・松木秀明	疫学とは、何を対象にどのような目的で行うものかを学習する。 歴史的な疾病と疫学の関係について理解する。	予習：シラバスに沿って資料集の事前学習を必ずしてくる。 復習：資料集を配布する。授業後、内容を復習しておくこと。
2	疫学で用いる健康指標 松木勇樹・松木秀明	疫学で用いる健康指標について、比、率、割合の違いを理解する。 罹患率、有病率、地名率などについて学習する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。
3	疫学で用いる健康指標 松木勇樹・松木秀明	年齢調整死亡率、標準化死亡比について学習する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。 課題提出：年齢調整死亡率・標準化死亡比などの演習問題
4	標本抽出と対象の選定 松木勇樹・松木秀明	母集団と標本について理解。無作為抽出法・有意抽出法について、その原理と方法を学習する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。 課題提出：年齢調整死亡率、標準化死亡比などの演習問題
5	疫学方法論 松木勇樹・松木秀明	疫学の方法：記述疫学、分析疫学、患者対象研究、コホート研究、介入研究、横断研究についてその概要について学習する	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。
6	疫学方法論 松木勇樹・松木秀明	相対危険度、寄与危険度、寄与危険度割合について理解し、計算問題を解く。またそれらの解釈を行う。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。 課題提出：相対危険度、寄与危険度などに関する演習問題
7	疫学方法論 松木勇樹・松木秀明	オッズ比について理解し、計算問題を解く、またその応用について学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。
8	偏りと交絡 松木勇樹・松木秀明	疫学研究の結果に影響を及ぼすバイアスと交絡について理解する。またこれらできるだけ少なくする方法論を学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。
9	スクリーニング 松木勇樹・松木秀明	スクリーニングについて理解し、特異度、敏感度、偽陽性率、偽陰性率について学習する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。 課題提出：スクリーニングに関する演習問題
10	スクリーニング 松木勇樹・松木秀明	陽性反応的中度、真正反応的中度などについて学習する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。

11	スクリーニング 松木勇樹・松木秀明	ROC 曲線を理解し、スクリーニングの成果の判断について学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。					
12	因果関係論 松木勇樹・松木秀明	因果関係の基本的基準について理解する。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。					
13	疫学の応用 松木勇樹・松木秀明	感染症に関する過去の疫学の応用例について学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。					
14	疫学の応用 松木勇樹・松木秀明	環境保健に関する過去の疫学の応用例について学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。					
15	疫学の応用 松木勇樹・松木秀明	生活習慣に関する疫学の応用について学ぶ。	予習：資料集を読んでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、計算問題は解けるようにしておくこと。					
授業開始前学習	シラバスに沿って資料集の事前学習を必ずしてくる。疫学を学習するためには公衆衛生学や基本的な統計学の知識が必要である。授業前に公衆衛生学や統計学の復習をしておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	「疫学資料集 I・II」を配布する。							
参考書	中村好一著：基礎から学ぶ楽しい疫学，医学書院							
評価の基準と方法	定期試験（80%） 提出物（20%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目	公衆衛生学							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回授業で質問すること。 ◇提出物の課題 1. 年齢調整死亡率・標準化死亡比などの演習問題 2. 相対危険度、寄与危険度、寄与危険度割合などに関する演習問題 3. スクリーニングに関する演習問題							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	セクシュアリティ論		
科目分類	310-221-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	杵淵 恵美子	必修・選択	選択
担当教員	杵淵 恵美子	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 火曜日 10:00～13:00 後期 火曜日 10:00～13:00	研究室	1-305
授業概要	人間の性(ヒューマンセクシュアリティ)について基本的概念及び知識を修得する。人間のライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達、性意識や性行動の特徴を理解する。また、人々のセクシュアリティの尊厳やセクシュアリティに関する人権を擁護した行動、看護におけるセクシュアリティに関連した支援について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の性(ヒューマンセクシュアリティ)について基本的概念を説明することができる。 2. 人間のライフサイクルにおけるセクシュアリティの発達、性意識や性行動の特徴を記述することができる。 3. セクシュアリティの尊厳やセクシュアリティに関連する人権を擁護した行動について説明することができる。 4. 看護におけるセクシュアリティに関連した支援について考えることができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	無		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ヒューマンセクシュアリティ	<ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアリティの概念 2. セクシュアリティの側面 	予習：本授業科目の目標を確認しておく 復習：講義内容を整理し、不明点を調べる
2	人間のセクシュアリティの特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアリティと生殖 2. セクシュアリティの捉え方の変遷 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
3	ライフサイクルとセクシュアリティ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期、学童期のセクシュアリティ 2. 思春期、青年期のセクシュアリティ 3. 成人期、老年期のセクシュアリティ 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
4	性意識と性行動	<ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアリティに関連した親密性の過程 2. 現代日本人の性行動 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
5	セクシュアリティの諸問題	<ol style="list-style-type: none"> 1. STD 2. 性の商品化 3. 性暴力 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
6	セクシュアル マイノリティ	<ol style="list-style-type: none"> 1. LGBTQ 2. 障害者のセクシュアリティ 3. 中・高齢者のセクシュアリティ 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
7	セクシュアルヘルス	<ol style="list-style-type: none"> 1. セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 2. 性の権利宣言 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
8	セクシュアリティと看護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病とセクシュアリティ 2. セクシュアリティと看護実践 	予習：授業内容に関連する疑問点を明らかにしておく 復習：学修内容を整理し、予習内容での疑問点を解決する
授業開始前学習			
授業内課題の フィードバックの方法	授業初回のガイダンスで説明する。		
テキスト・教材	資料を作成し配布する		
参考書	初回授業時に紹介する		
評価の基準と方法	レポート課題 100%		
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成 多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	◎		△	○			
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	臨床心理学		
科目分類	310-221-12	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	鳥羽 翔太	必修・選択	選択
担当教員	鳥羽 翔太	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	心理的な問題に対するかかわり方を理解し、心理的な支援ができるようになるために、臨床心理学の概念、臨床心理学と精神医学の違い、心理的な問題を抱えている人の理解のしかた・回復へ向けてのかかわり方、さらには心理的な問題発生を予防するためのかかわり方などについて学ぶ。また、臨床心理学に対する理解を深め、よりよい支援ができるようになるために、心理療法の諸理論および行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法、自律訓練法、認知行動療法などについて学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の概念、臨床心理学と精神医学の違いについて説明できる。 2. 心理的な問題を抱えている人の理解のしかた・回復へ向けてのかかわり方、心理的な問題発生を予防するためのかかわり方などについて、具体例を挙げて述べるができる。 3. 心理療法の諸理論（自律訓練法・認知行動療法を含む）について説明できる。 4. 行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理学の概念 ・臨床心理学と精神医学の違い ・授業目的に関する説明 	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：臨床心理学、科学、理論、実践、心理療法、アセスメント、介入
2	心理療法の理論 1	<ul style="list-style-type: none"> ・精神分析についての概要 	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：精神分析、自我、防衛機制、生涯発達、対象関係、アタッチメント
3	心理療法の理論 2	<ul style="list-style-type: none"> ・来談者中心療法についての概要 	(課題解決型学習) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：来談者中心療法、カウンセリング・マインド
4	心理療法の理論 3	<ul style="list-style-type: none"> ・自律訓練法・認知行動療法についての概要 	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：自律訓練法、認知行動療法、条件づけ、モデリング
5	心理アセスメント 1	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察によるアセスメントの概要及びその実践 	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、観察法、ストレンジ・シチュエーション法
6	心理アセスメント 2	<ul style="list-style-type: none"> ・面接によるアセスメントの概要及びその実践 	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、臨床面接法
7	心理アセスメント 3	<ul style="list-style-type: none"> ・心理検査によるアセスメントの概要及びその実践 ・自己理解の促進 	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、心理検査、質問紙法、投影法、自己理解
8	連携とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携についての基本的な考え方 ・コミュニケーションスキルの習得 	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：多職種連携、ソーシャルスキル、アサーション
授業開始前学習	講義に関する理解を深めるため、講義の後に必ず復習をすること。		
授業内課題の フィードバックの方法	レポートについては授業内で適宜フィードバックを行う。		

テキスト・教材	講義プリントを配布する。							
参考書	適宜、授業の中で紹介する。							
評価の基準と方法	受講者数によって、以下のどちらかで評価を行う。 ・小レポートと期末レポート：複数の小レポート（40%）、期末レポート（60%）を総合して評価する。 ・小レポートと期末試験：複数の小レポート（40%）、期末試験（60%）を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		○			△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	健康教育学		
科目分類	310-221-12 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	小林 優子	必修・選択	選択
担当教員	小林 優子	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	前期 火曜日 10:00～14:00 後期 火曜日 10:00～14:00	研究室	1-301
授業概要	健康教育学を必要とする対象者に対して健康教育学を実施するための知識を身につけるために、健康教育学の概念、活用できる行動科学に関連する理論やモデルとその活用方法について学ぶ。個人の健康行動を変える教育活動に加え、組織のプログラム、政策、マスメディアなどの影響について学ぶ。		
到達目標	1.健康教育学の対象者の特徴と目標を述べることができる。 2.健康教育学の理論やモデルについて、その適用と特徴について説明することができる。 3.健康教育学の理論やモデルを活用した健康教育学の具体的な方法を述べることができる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	小林優子	授業ガイダンス 健康教育学の定義 KAP (KAB) モデル	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」1 章～3 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
2	小林 優子	ヘルス・ピラーフ・モデル(保健信念モデル)	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」4 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
3	小林 優子	セルフ・エフィカシー（自己効力感）	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」5 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
4	小林 優子	エンパワメント ヘルスローカスオブコントロール	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」6 章ならびに、8 章～9 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
5	小林 優子	トランスセオレティカルモデル（行動変容ステージモデル）	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」7 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
6	小林 優子	ストレスとストレスマネジメント SOC、NIOSH ストレスモデル	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」10 章～12 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
7	小林 優子	ヘルスリテラシー	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」13 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。
8	小林 優子	行動経済学（ナッジ）と健康教育学 健康教育学のまとめ	授業は駒沢女子大学教科書シリーズ「健康教育学」14 章に沿って行う。 事前学習、事後学習は classroom にワークシートを掲出する。 think pair share またはグループワークを実施する。

授業開始前学習	テキストの2.黒江ゆり子他：成人看護学概論/成人保健、メヂカルフレンド社は2年次前期の成人看護学概論で用いたものである。また、3.黒田裕子他：看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版、学研は1年次の看護理論のテキストである。両方のテキストの該当する箇所を目を通しておくこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	原則として翌週の授業内でフィードバックを行う。							
テキスト・教材	1.小林優子著『駒沢女子大学教科書シリーズ 健康教育学』（駒沢女子大学） 2.黒江ゆり子他著『成人看護学概論/成人保健』（メヂカルフレンド社） 3.黒田裕子他著『看護診断のためのよくわかる中範囲理論第3版』（学研）							
参考書	1.一般社団法人日本健康教育学会編『健康行動理論による研究と実践』（医学書院） 2.Karen Glanz 他編、曾根智史他訳『健康行動と健康教育理論、研究、実践』（医学書院） 3.Karen Glanz 他編、木原雅子他訳『健康行動 その理論、研究、実践の最新動向』（メディカルサイエンスインターナショナル） 4.宮坂 忠夫 川田 智恵子編『最新 保健学講座 別巻1 健康教育論』（メヂカルフレンド社） 5.松本千明『健康行動理論の基礎』（医歯薬出版株式会社） 6.中村裕美子他『標準保健師講座 公衆衛生							
評価の基準と方法	授業ごとの課題 20%、定期試験 80% 毎回の授業後に提出課題を課している。授業に欠席した回の課題点は0点とする。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○		
関連科目								
その他	◇学習上の留意点 専門基礎科目「健康の支援」の選択科目とされているが、保健師教育課程希望者にとっては必修科目である。看護の実践、公衆衛生看護、看護の統合で活用できる科目である。いくつかの理論を学ぶが、具体と理論を結びつけながら学習を深めるために、予習や復習が必要である。グループワークや発表など、アクティブラーニングの授業形態をとるので意欲的に積極的に学んでほしい。 健康教育学で重要な内容を8回分精選して授業をするために、欠席をしないことが望ましい。欠席した場合の資料の入手や内容についての補習は主体的に自らの責任において行ってほしい。 ◇提出する課題 毎回の授業後に提出課題を課している。授業に欠席した回の課題点は0点とする。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15時間+予習・復習時間 30時間							
実務経験を活かした教育内容	看護師として患者教育を行ってきた実務経験、地域住民や看護師を対象にした健康教育をおこなってきた実務経験から、実践例を生かした教育を実施する。							

科目名称	看護学概論		
科目分類	310-311-11 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Introduction to Nursing	授業区分	講義
科目責任者	安藤 郁子	必修・選択	必修
担当教員	安藤 郁子	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	前期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30 後期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30	研究室	1-304
授業概要	看護のパラダイムを理解するために、看護学の核となる概念（人間・環境・健康・看護）について学ぶ。また、自己の看護観を醸成するために、看護の歴史の変遷、主な看護理論の看護の概念について学ぶ。さらには、どのような看護実践においても必要となる基礎的・基本的な概念について学ぶ。具体的には、看護の機能と役割（地域包括ケアシステム 含）、援助的人間関係の概念、看護倫理の概念、コミュニケーションの概念、看護技術の概念、健康の段階と基本的な看護援助、看護の記録・報告、看護提供システムなどについて学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護とは」について、自分の考えを深め、自分の言葉で述べることができる 2. 看護の主要概念である看護、人間、環境、健康の意味と関連性を説明できる 3. 看護および我が国の看護教育の歴史的背景・変遷から、現在の看護・看護教育の課題を述べることができる 4. 看護における倫理の必要性と看護活動における法的根拠を述べることができる 5. チーム医療における看護職の役割を説明できる 6. 看護におけるコミュニケーションの目的と意義および日常のコミュニケーションとの違いを説明できる 7. 看護実践における看護技術の目的と関連性を説明できる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	Introduction 看護を学ぶにあたって 看護とは何か 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業オリエンテーション 2. 基礎看護学の科目構成 3. 大学で看護学を学ぶ姿勢 正解を求めることから自分の意見を持つ事へ 4. 「看護とは何か」「どんな仕事なのか」現時点での自分の考えを明らかにし、グループで共有する 	講義・グループワーク 現時点の看護に対する考え方を各自が発表しグループ内で共通する点、異なる点、その理由等を話し合い、発表できるようにまとめる 予習：シラバスを読んで学修内容を把握して臨む 課題：看護についてのイメージ、看護師の仕事のイメージを説明できるように A4 レポート用紙 1 枚以内に記述し、グループ内で発表できるようにしておく。（提出課題） 復習：グループワークで共有した意見を加えて看護とは何か、看護師とは何をする人なのかについてまとめておく
2	看護とは何か 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで話し合った内容の発表を聞き、「看護とは何か」についての考えを深める 2. ナイチンゲールの看護の考え方「生命力の消耗を最小にする」とは 	講義・グループ発表 予習：1 回目のグループワーク、グループメンバーの意見を聞き、自分の考える看護についてさらに深め、記録しておく 復習：自己の生活を振り返り、「生命力の消耗を最小にする」とは具体的にどのようなことを指すのかを考えてみる
3	看護の役割と機能 看護の専門性 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナイチンゲールの考える「看護における観察」の目的と意味 2. ハンダーソンの看護の考え方「看護の独自の機能」とは 3. 看護の様々な定義から看護の多面性を考える 	講義 課題：「看護にとって観察とは」について自分の考えを A4 1 枚程度にレポートのまとめる（提出課題） 予習：看護における「観察」の目的は何か、自分の考えをまとめておく 復習：看護における観察の目的、意味、必要性について整理しておく
4	看護の対象となる人間の理解 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の捉え方 <ol style="list-style-type: none"> ①人間の共通性 人間の持つ基本的欲求 ②ライフサイクルと発達課題 ③人間の個別性 生活とそれぞれの個人の持つ役割 そのらしさとは-自己概念 	講義 予習：テキスト p82～p95 を読み講義に臨む 人間にはどんな特徴があるかについて自分の考えをまとめておく 復習：看護の対象となる人間について自分の考えが変化した部分をまとめておく
5	看護の対象となる人間を取り巻く環境 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境が人間に与える影響と反応 <ol style="list-style-type: none"> ①人間を取り巻く環境 ②環境へ適応するとは ③人間の持つホメオスタシス 	講義 予習：テキスト p96～p100 を読み講義に臨む 復習：人間の発達課題、基本的欲求についてまとめておく

6	看護の対象となる人間の健康とは 病気と健康障害 健康増進に向けた看護の役割	1. 健康の概念の歴史的経緯と変遷 2. 看護における健康の概念 ① ナイチンゲールの考える健康 ② 持てる力を最大に活用するとは 3. 健康増進に向けた看護の役割 ① 健康・病気・障害とは ② プライマリヘルスケア ③ ヘルスプロモーション	講義・演習 患者さんの「持てる力を活用する」とはどうか、ミニ事例を元に具体的に考える 予習：生活する中で健康・不健康と感じる場面をまとめてくる テキスト p101～108 を読み講義に臨む 復習：看護と健康の関連についてまとめておく
7	援助の提供と看護技術 安藤郁子	1. 看護技術の構造と特徴 2. エビデンスと art 3. 技術修得への道のり 4. 看護技術の提供と問題解決思考の関係	講義 予習：テキスト P142～P143 を読んで講義に臨む 一般的な技術と看護の技術の相違を考えてみる 復習：看護技術の特徴についてまとめておく
8	看護の歴史的変遷 安藤郁子	看護の過去から現在まで 1. 看護のはじまり 2. 近代における看護とその特徴 3. 現代における看護とその特徴	講義 予習：テキスト P50～p65 を読んで講義に臨む 復習：看護の発展の経緯を知り、現在の看護の課題を考えてみる
9	看護教育の歴史的変遷 安藤郁子	日本における職業的看護の発展 1. 看護教育のはじまり 2. 看護養成施設の変遷 3. 現在の看護教育の課題 4. ジェネラリストとスペシャリスト	講義 予習：テキスト P66～p78 を読んで講義に臨む 復習：現在の看護基礎教育の問題点に対する自己の考えをまとめておく
10	看護実践を支える法 安藤郁子	看護師の職業としての法的規則 1. 保健師助産師看護師法 2. 医療法 3. 医療事故における法的責任 4. 医療事故事例を通し事故防止のための役割と責任を考える 5. インシデントレポートとは	講義・演習 予習：テキスト p178～p180 p261～270 まで読み講義に臨む 復習：看護師の職業としての法的規則を整理しておく 看護学生として医療事故を防ぐための留意点・ポイントについて、自分でできることをまとめておく
11	看護における倫理 安藤郁子	1. 倫理とは何か ① グループワーク 事例を通して倫理とは何かを考える ② 医療倫理の原則 2. 専門職としての倫理 ① 職業倫理 ② 看護者の倫理綱領 3. 看護とインフォームドコンセント	講義・グループワーク 予習：テキスト p178～p205 まで読み講義に臨む 復習：看護師にとって何故「倫理」が必要なのか A41 枚程度にまとめる（提出課題）
12	看護の継続性と他職種連携	1. チーム医療とは 2. 看護提供システム 3. 地域包括ケアシステム	講義 予習：テキスト P128～P139 を読んで講義に臨む 復習：チーム医療の重要性、チーム医療における看護の役割を整理しておく
13	看護におけるコミュニケーション 安藤郁子	1. コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの種類と方法 3. コミュニケーションの構成要素と成立過程 4. 看護におけるコミュニケーションの特徴	講義 予習：テキスト P167～P176 を読んで講義に臨む 自己のコミュニケーションの傾向を考えてみる 日常のコミュニケーションと看護におけるコミュニケーションの違いについて考えてくる 復習：コミュニケーションの意義と必要性、コミュニケーション技法についてまとめておく
14	看護における観察と記録 安藤郁子	1. 記録とは ① 看護における記録の目的 ② 医療・看護における記録の特徴 ③ 看護記録の種類と方法 2. 記録にける法的規則 3. 看護における記録の実際 ① 事例を通し具体的な記録の留意点とポイントを確認する	講義・演習 予習：日常の中の記録の目的、どんなときに記録するのか等を自分の行動と考えをまとめて講義に臨む 復習：記録の重要性、記録の原則的注意事項をまとめておく 課題：15 コマの授業を通し、看護における自己の考えの変化をまとめておく（提出課題）
15	まとめ 安藤郁子	1. 看護学概論のまとめ ① 自分の看護に対する考え方がどのように変化したかを考える	講義・演習 予習：1 回目の授業でまとめた看護に対する考え方を読み、何がどのように変化したかを考えてくる 復習：15 コマの授業を通し「看護」「人間」「環境」「健康」とはなにか、自己の考えをまとめておく

授業開始前学習	<p>看護とは何か？何をする人なのか？現時点での自分の考えを A4 レポート用紙 1 枚程度にまとめて下さい。 <注意事項> ①表紙は不要です。 ②レポート用紙の 1 行目に 学籍番号 氏名を必ず記載して下さい。 ③原本を提出してください。手書きでもパソコンでも構いません。 ④一部をコピーし、自分で保管してください。1 回目の授業と 15 回目の授業で使用します。 質問のある方は i-andoh@komajo.ac.jp までご連絡ください。 メールを送る際には、タイトルに「看護学概論〇〇について、学籍番号、自分の</p>							
授業内課題の フィードバックの方法	課題、レポート、ミニテストについては次回の授業に補足説明と解説を行う							
テキスト・教材	<p>「看護学概論」メディカルフレンド 「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます・小玉津子訳 日本看護協会出版会</p>							
参考書	ナイチンゲール著 湯槇ます他訳「看護覚え書き」現代社							
評価の基準と方法	筆記試験（ミニテストを含む）90%、課題提出・レポート内容・発表内容・グループワークの他者評価 10%で総合的に評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△	△		◎	○		
関連科目	看護理論、看護過程の基礎、基礎看護方法論 I、基礎看護方法論 II、基礎看護方法論 III、基礎看護学実習 I、基礎看護学実習 I							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容	担当者は看護師の実務経験を有しており、当該科目を担当した経験がある							

科目名称	看護理論		
科目分類	310-311-11 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Nursing Theory	授業区分	講義
科目責任者	安藤郁子	必修・選択	必修
担当教員	安藤 郁子	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30 後期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30	研究室	1-304
授業概要	看護実践における看護理論活用の有用性を理解するために、看護理論（大理論・中範囲理論・小理論）の概念、看護理論の看護実践への活用方法について学ぶ。また、事例として提示した看護場面に対する看護理論の活用の実際を通して、看護理論の活用方法を体験的に学ぶ。さらには、看護実践において用いられることの多い看護理論を理解し、看護実践へ活用を可能にするために、各々の看護理論の概要について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の意義と必要性を説明することができる 2. 広範囲理論・中範囲理論・小範囲理論の違いを説明することができる 3. 各理論の特徴を説明することができる 4. 各理論の実践での活用方法を説明することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	看護理論とは 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護を学ぶ意義 2. 看護理論の定義と構成要素 3. 広範囲理論・中範囲理論・小範囲理論の違い 4. 看護理論を実践に活用する意義 5. 看護理論を実践に活かす方法 	講義 予習：シラバスを読み、授業の概要を確認しておく 復習：看護理論の活用方法、理論の種類と違いについてまとめる
2	看護理論 1 安藤郁子	看護理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. ニード論（V.ヘンダーソン） 2. 適応理論（ロイ） 3. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：看護学概論で学習した V.ヘンダーソンの理論について見なおしておく 復習：各理論家の理論の特徴を整理しておく
3	看護理論 2 安藤郁子	看護理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 対人関係理論（ペプロウ・トラベルビー） 2. セルフケア理論（オレム） 3. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：既習した理論家の理論の特徴を整理しておく 復習：各理論家の理論の特徴を整理しておく
4	情動的中範囲理論 1 安藤郁子	情動的中範囲理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 危機理論 2. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：テキストのフインクの危機理論について読んでおく 復習：ストレスとは何か、危機理論の特徴についてまとめる
5	情緒的中範囲理論 2 安藤郁子	情動的中範囲理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスコーピング理論とケア 2. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：自分が日頃感じているストレスについて具体例を挙げてくる 復習：ストレスとは何か、危機理論の特徴についてまとめる
6	情動的中範囲理論 3 安藤郁子	情動的中範囲理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 悲嘆の心理プロセスとケア 2. 不安とケア 3. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：悲嘆、不安の違いについて自分の考えをまとめる 復習：悲嘆・不安を持つ患者のケアについてまとめる
7	社会的中範囲理論 安藤郁子	社会的中範囲理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 役割理論 2. コーチング理論 3. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義・演習 予習：社会の中で今、自分の持つ役割を列挙してくる 復習：コーチングとティーチングの違い、適応について整理しておく
8	認知的中範囲理論 安藤郁子	認知的中範囲理論と活用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己概念・ボディイメージ 2. ミニ事例による看護場面での活用方法の実際 	講義 予習：看護学概論で学習した自己概念の内容が説明できるようにしておく 復習：自己のボディイメージ、自己概念を考えてみる

授業開始前学習	看護学概論で学習した理論について、復習して臨むこと							
授業内課題の フィードバックの方法	ミニテストに対する解説およびコメントで行う							
テキスト・教材	黒田優子監修「よくわかる中範囲理論」Gakken							
参考書	講義の中でその都度紹介する							
評価の基準と方法	小テスト+課題+定期試験 100%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	○		△
関連科目	看護学概論、看護方法論Ⅰ、看護方法論Ⅱ、看護方法論Ⅲ、看護過程の基礎、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ							
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	担当者は看護師の実務経験を有しており、他大学や病院において理論とその活用方法についての講義の経験を持つ。							

基礎看護方法 I (生活行動の援助技術)

科目名称	基礎看護方法 I (生活行動の援助技術)		
科目分類	310-311-21 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	菊地由美	必修・選択	必修
担当教員	門脇・菊地・北澤・糸川・樋口	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	対象の状態・状況にあった生活行動の援助を実施できるようにするために、各々の生活行動援助技術についての概念、技術を適用するさいの基礎的・基本的な知識、基礎的・基本的な知識を活用しての援助方法について学ぶ。具体的には、各々の看護技術を適用するさいの原理・原則、安全性・安楽性・自立性の理解ができ、この理解を受けて、対象の状態・状況にあった援助を考え、考えた援助を実施し、実施した援助を評価することを学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護技術とは何かを自分の言葉で表現することができる。 2.日常生活行動の援助に関する看護の基本的知識について説明することができる。 3.日常生活行動の援助に関する看護の基本的技術を習得することができる。 4.看護の対象の個性にあわせた看護技術活用の必要性を理解し、個別的な看護について記述することができる。 5.看護師・患者の役割体験を通して、看護を実践する基礎的な能力を身につけることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習 ・レポートなどの課題
1・2	(第 1 回) 科目ガイダンス 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平 (第 2 回) 共通技術 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	(第 1 回) 学修の進め方、実習室使用のルール (第 2 回) 看護技術とは、観察・記録・報告、コミュニケーションの目的と意義、ボディメカニクスの原理と実際	(第 1 回) 講義 予習：実習室の手引きを読んでおくこと 復習：様々なルールについて再確認しておくこと (第 2 回) 講義 予習：テキスト P2-5 「看護技術に共通する要素」を読んでおくこと。 視聴覚教材「コミュニケーション」に関するものを視聴しておくこと。 復習：観察や記録をする際の重要点、看護におけるコミュニケーションの重要点について復習しておくこと
3・4	感染防止の技術 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	感染予防の意義と原則 スタンダードプリコーション	講義/演習 予習：テキスト「感染予防」の章を読んでおくこと 復習：行動の根拠を確認し、衛生的な手洗いと手指消毒を正しい方法でできるように練習しておくこと
5・6	環境調整技術①② 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	療養生活の快適な環境 病床環境のアセスメントと環境整備 ベッドとその周囲の観察 ベッドメイキング	講義/演習 予習：テキスト「環境整備」の章を読んでおくこと。 視聴覚教材「ベッドメイキング」に関するものを視聴しておくこと 復習：事例（様々な状況）を想定した環境整備の必要性和実施内容について学修しておくこと。 ベッドメイキングの基本技術を練習し、看護師 2 人で行うベッドメイキングの練習を積んでおくこと
7・8	活動・休息援助技術①② 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	活動と休息の意義 援助の基礎知識とアセスメント ボディメカニクス ポジショニングと体位変換	講義/演習 予習：テキスト「活動援助」を読んでおくこと。 視聴覚教材「体位変換」に関するものを視聴しておくこと 復習：体位変換の方法、安楽な体位について援助の手順を学習しておくこと

9・10	環境調整技術③ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	ベッドメイキング（技術確認） 環境調整	演習 予習：2人で行うベッドメイキングが一通りできるように練習しておくこと。 復習：技術を評価し課題を明確にした上で、更に練習を重ね精度を上げること。 *一定基準を満たすまで再チェック
11・12	生活援助技術の統合Ⅰ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	複合技術 「臥床患者のリネン交換」	演習 予習：「臥床患者のリネン交換」に関する視聴覚教材を視聴しておくこと 復習：基本手順を根拠とともに復習し、自己・他者評価を行い技術の精度を上げること。
13 a/b	生活援助技術の統合Ⅰ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	技術チェック	演習 予習：課題の技術について練習し技術試験に臨むこと。 復習：自己・他者評価を行い、課題を明確にすること。
14・15	清潔・衣生活援助技術①② 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	清潔援助の意義と目的 援助方法選択のためのアセスメント 清潔援助の基本技術	講義/演習 予習：テキスト「清潔ケア」を読んでおくこと。視聴覚教材「寝衣交換」に関するものを視聴しておくこと。 復習：清潔援助に共通する原理原則、様々な清潔援助の方法の意義と留意点を復習し、各援助の手順作成や援助計画立案に活かすこと。
16・17	清潔・衣生活援助技術③④ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	事例を用いた清潔援助部分浴（手浴・足浴）	演習 予習：視聴覚教材「清潔援助：部分浴」に関するものを視聴しておくこと。 復習：各援助について、演習後に必ず実習室で自己学習しておくこと。
18・19	生活援助技術の統合Ⅱ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	事例患者の清潔援助 （アセスメント～評価まで）	演習 予習：事例課題を記述し、必要な技術を予習しておくこと 復習：実施内容を評価し、計画を修正する
20・21	清潔・衣生活援助技術⑤⑥ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	事例を用いた清潔援助 清拭、洗髪	演習 予習：視聴覚教材「清潔援助：清拭、洗髪」に関するものを視聴しておくこと。 復習：各援助について、演習後に必ず実習室で自己学習しておくこと。
22・23 a/b/c/d	生活援助技術の統合Ⅱ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	技術チェック	演習 予習：必要書類を整え、課題技術を練習し臨むこと。 復習：自己・他者評価を行い、課題を明確にすること。
24・25	活動・休息援助技術③④ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、桑川広平	移乗・移送の技術	演習 予習：視聴覚教材「移動・移送」に関するものを視聴しておくこと 復習：ストレッチャーと車椅子の点検について確認しておくこと

26・27	食事援助技術 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	食事の意義 栄養と食事に関するアセスメント 嚥下体験 食事の援助	講義 予習：テキスト「食事援助」を読んでおくこと。視聴覚教材「食事援助」に関するものを視聴しておくこと。 復習：誤嚥予防の為に注意事項とその根拠を復習しておくこと。 食事援助の原則的留意事項について整理しておくこと。 レポート課題を期日までに提出すること。					
28・29・30	(第28・29回) 排泄援助技術 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平 (第30回) 生活援助技術の統合Ⅲ 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	(第28・29回) 排泄の意義 援助方法の選択のためのアセスメント 便器の種類と排泄の援助 汚染物の取り扱い (第30回) 「看護技術とは」 課題のフィードバック等	(第28・29回) 講義 予習：テキスト「排泄ケア」を読んでおくこと。 視聴覚教材「排泄援助」に関するものを視聴しておくこと。 復習：排泄援助を選択するために必要な情報について復習しておくこと。 排泄援助の際の留意点と観察のポイントを整理しておくこと。 (第30回) 講義 予習：自分なりの「看護技術とは」の考えについて、まとめてくること 復習：本科目すべての授業内容について復習し、筆記試験に臨むこと。					
授業開始前学習	・人体の機能と構造、看護学概論で学習した内容を理解して臨んでください。							
授業内課題のフィードバックの方法	各演習の事前・事後課題のフィードバックについては単元毎に行い、課題の返却については随時行う。							
テキスト・教材	看護がみえる vol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 駒沢女子大学ノートシリーズ「基礎看護方法Ⅰ」 視聴覚教材：基礎 B オリジナル動画、ビジュランクラウド							
参考書	適時紹介する							
評価の基準と方法	筆記試験（60%）、技術チェック（30%）、課題・レポート等提出物（10%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	○	◎	△
関連科目	看護学概論、基礎看護学実習Ⅰ							
その他	<演習時> ・指定された服装で、身だしなみを整えて参加してください。 ・演習の欠席は、技術習得に影響を及ぼすため、健康管理に気をつけて臨んでください。 <看護技術の自己学習> ・事後課題や技術習得に向けて、授業時間外に技術の練習時間が必要となります。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は、複数の担当者が協同で指導する科目であり、全ての教員が看護師の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、看護技術の基本が身につけられるよう授業を行う。							

科目名称	基礎看護方法Ⅱ(ヘルスアセスメント)		
科目分類	310-311-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	菊地 由美	必修・選択	必修
担当教員	門脇・菊地・北澤・糸川・樋口	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	対象の身体的・心理的・社会的側面におけるアセスメントをできるようにするために、各側面についてのアセスメントを行なうさいに必要となる基礎的・基本的な知識や方法について学ぶ。具体的には、身体的なアセスメントにおいては、アセスメントの目的にあったデータ収集項目がわかり、解剖学的・生理学的な知識に裏づけられた正確なフィジカルイグザミネーション、フィジカルアセスメントができるようにする。心理的・社会的なアセスメントにおいては、アセスメントの目的にあったデータ収集項目がわかり、看護の視点で知識に裏づけられたアセスメントができるようにする。また、身体的・心理的・社会的側面におけるアセスメント結果を統合し、ヘルスアセスメントができる素地を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.ヘルスアセスメントの概念、意義、目的を述べるができる 2.視診、触診、打診、聴診の方法および留意点を述べるができる 3.身体各部の形態と機能について説明することができる 4.身体各部のフィジカルイグザミネーションの留意事項について説明することができる 5.身体各部のフィジカルイグザミネーションを実施し、アセスメントすることができる 6.心理・社会的側面のアセスメントの意味と方法についてその根拠も含め説明することができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	ヘルスアセスメントとは 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	看護におけるヘルスアセスメントの意義、目的、方法、看護上の留意点	講義 予習：テキスト P2-6、ノートシリーズ該当箇所を予習して臨むこと 復習：ヘルスアセスメントの看護にとつての意味を整理しておくこと
2・3	フィジカルアセスメントに必要な基本技術 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	フィジカルアセスメントの基本技術(問診、視診、聴診、打診、触診)	講義/演習 予習：テキスト P7-22、ノートシリーズ該当箇所を予習して臨むこと 復習：基本技術の留意事項を理解し自己練習しておくこと
4	バイタルサインのアセスメント 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	バイタルサインの観察とアセスメント	演習 予習：既習の知識・技術の復習をして臨むこと 復習：様々な状況設定下でバイタルサインの観察ができるよう自己練習しておくこと
5・6	呼吸器系のフィジカルアセスメント 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	呼吸器系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント	講義/演習 予習：事前課題(ノートシリーズ該当箇所)、肺音聴取の部位と音の特徴について学修し、動画を視聴しておくこと 復習：肺音の種類と特徴、聴取部位を整理しておくこと、肺音聴取の方法について、自己学習を行い基本技術の習得を目指すこと
7・8	循環器系のフィジカルアセスメント 菊地由美、門脇淳子、樋口美樹、北澤友美、糸川広平	循環器系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント	講義/演習 予習：事前課題(ノートシリーズ該当箇所)、心音聴取の部位と音の特徴について学修し、動画を視聴しておくこと 復習：胸部骨格の位置関係、心音の特徴及び異常音の意味について整理しておくこと、心音聴取の部位について、自己学習を行い基本技術の習得を目指すこと

9・10	腹部および消化器系の フィジカルアセスメント 菊地由美、門脇淳子、 樋口美樹、北澤友美、 桑川広平	腹部および消化器系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント		講義/演習 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所）、腸蠕動聴取部位と音の特徴について学修し、動画を視聴しておくこと 復習：腹部および消化器のフィジカルイグザミネーションに必要な知識を整理しておくこと、腹部の聴診の方法について、自己学習を行い基本技術の習得を目指すこと				
11・12	感覚・神経・運動系の フィジカルアセスメント 菊地由美、門脇淳子、 樋口美樹、北澤友美、 桑川広平	感覚・神経・運動系のフィジカルアセスメント 目的と基礎知識の理解 フィジカルイグザミネーションの実際とアセスメント		講義/演習（実習） 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所）、感覚・神経・運動系の診察手技を学修し、動画を視聴しておくこと 復習：感覚・神経・運動系のイグザミネーションに必要な知識を整理しておくこと、感覚・神経系のイグザミネーションの方法とその意味について整理し、基本技術の理解を目指すこと。 ROMと日常生活の関係について整理し、ROM制限のある患者の日常生活援助のアセスメントができるようにしておくこと。				
13 ・ 14 (a/b)	フィジカルイグザミネーションとアセスメントの統合 菊地由美、門脇淳子、 樋口美樹、北澤友美、 桑川広平	技術チェック：呼吸器、循環器、腹部および消化器のフィジカルイグザミネーションの統合		演習（実習） 予習：呼吸器・循環器・腹部および消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際とアセスメントの基準を学修しておくこと 復習：達成できなかった項目について、各自、技術習得をめざし、自己練習しておくこと				
15	心理・社会的側面のアセスメント 菊地由美、門脇淳子、 樋口美樹、北澤友美、 桑川広平	心理的側面のアセスメント 社会的側面のアセスメント		講義 予習：事前課題（ノートシリーズ該当箇所） 復習：ストレス、自己知覚、家族に関するアセスメントはどのような項目について行うか整理しておくこと				
授業開始前学習	・人体の機能と構造 I、II で学習した内容を理解して臨んでください。 ・基礎看護方法 I で学習した看護に共通する基本技術を復習して臨んでください。							
授業内課題の フィードバックの方法	各演習の事前・事後課題のフィードバックについては単元毎に行い、課題の返却については随時行う。							
テキスト・教材	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 駒沢女子大学ノートシリーズ「基礎看護方法Ⅱ」							
参考書	授業内で随時紹介する							
評価の基準と方法	筆記試験（70%）、技術チェック（20%）、課題・記録等の提出物（10%）より総合的に評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	△
関連科目	基礎看護方法Ⅰ、看護過程の基礎							
その他	<演習時> ・指定された服装で、身だしなみを整えて参加してください。 ・クリップボード、聴診器（所有の方）を持参してください。 ・演習の欠席は、技術習得に影響を及ぼすため、健康管理に気をつけて臨んでください。 <看護技術の自己学習> ・事後課題や技術習得に向けて、授業時間外に技術の練習時間が必要となります。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かし た教育内容	本科目は、複数の担当者が協同で指導する科目であり、全ての教員が看護師の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、観察技術の基本が身につけられるよう授業を行う。							

基礎看護方法Ⅲ(診療の援助技術)

科目名称	基礎看護方法Ⅲ(診療の援助技術)		
科目分類	310-311-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	門脇 淳子	必修・選択	必修
担当教員	門脇・菊地・北澤・糸川・樋口	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	検査・処置・治療を受ける対象に対して対象のニーズを理解し、治療・処置・検査が安全・安楽・正確に実施できるようにするために、各々の診療の援助技術についての概念、技術を適用するさいの基礎的・基本的な知識、基礎的・基本的な知識を活用しての援助方法について学ぶ。具体的には、各々の診療の援助技術を適用するさいの原理・原則、安全性・安楽性の理解ができ、この理解を受けて、対象の状態・状況にあつた的確な援助ができるようにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療の援助技術を実施するために、根拠となる知識について記述できる。 2. 診療の援助技術の実施について、安全・安楽・自立の観点から説明できる。 3. 診療の援助技術を安全に行うための事故防止策について述べるができる。 4. 検査・処置・治療が対象者の日常生活にどのような影響を及ぼしているのか述べるができる。 5. 対象に合った診療の援助技術を計画・実施し、評価できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習 ・レポートなどの課題
1~3	授業の進め方 感染防止の技術 —無菌操作— 門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	科目ガイダンス 診療の援助に必要な基本技術 <ol style="list-style-type: none"> 1. 洗浄・消毒・滅菌 2. 無菌操作 <ol style="list-style-type: none"> ①無菌操作の原理・原則 ②滅菌物の取扱い <ul style="list-style-type: none"> ・注射器・注射針の取扱い ・アンブルからの薬液の吸い上げ ・滅菌布の開き方 ・滅菌手袋の装着 ・その他の滅菌物 3. 感染性廃棄物の取扱い 	講義・演習(実習) 予習：清潔・汚染の区別および無菌操作の基本、原則(看護がみえる① 25~33、37~41)を読んでください。 復習：注射器・注射針・注射薬の無菌的取扱、滅菌布の開き方、滅菌手袋の装着ができるようにしておいてください。
4~6	症状・生体機能管理技術 —静脈血採血— 門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査の必要性・種類 2. 検査における看護の役割 3. 生体検査 <ol style="list-style-type: none"> ①生体検査の必要性・種類 ②生体検査を受ける患者の援助 4. 検体検査 <ol style="list-style-type: none"> ①血液検査 ②尿検査 5. 採血の種類と援助の方法 6. 静脈血採血 <ol style="list-style-type: none"> ①静脈血採血の目的と方法 ②静脈血採血に使用する物品の特徴 ③静脈血採血時の留意事項 ④採血合併症とその予防 ⑤静脈血採血の実際(シミュレーター) 	講義・演習(実習) 予習：看護が見える②(2~19)の静脈血採血の手順、前腕(肘窩)の神経走行・血管走行の図示を講義ノートにまとめてください。 シミュレーターでの静脈血採血ができるよう視聴覚教材を視聴し、一連の援助ができるよう自己学習してきてください。 復習：検査における看護の役割、生体検査・検体検査を受ける患者の援助について整理しておいてください。
7~9	与薬の技術 1 —薬物療法— 門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物療法における看護師の役割(法的根拠他) 2. インシデント・アクシデントの実際と6R 3. 処方箋とその見方・看護師の責任 4. 配合禁忌の薬剤 5. 薬剤の保管上の留意 6. 与薬形態による吸収と排泄のプロセス、与薬の方法と留意点 <ol style="list-style-type: none"> ①経口と薬・口腔内と薬 ②外用薬：吸入・点眼・点鼻・直腸内と薬・経皮的と薬 ③注射(筋肉・皮下・皮内・静脈) 7. 筋肉内注射技術の実際 <ol style="list-style-type: none"> ①注射指示の確認(6R) ②注射部位(中殿筋)の選定 ③注射技術の手順と根拠 ④感染性廃棄物 	講義・演習(実習) 予習：看護が見える① p.244~283、看護が見える② p.30~56 を読み、筋肉内注射の手順および留意点を講義ノートにまとめてください。 筋肉内注射で起こる危険性の高い合併症について整理し、中殿筋・三角筋の神経および血管の走行を図示してください。 復習：筋肉内注射の部位選定方法、注射部位に適した筋肉・皮厚のアセスメント、神経の走行について確認し、筋肉内注射の手順とその根拠、注射による与薬を受ける患者への援助についてまとめておいてください。 また、皮下注射(上腕伸側部)

10~12	<p>与薬の技術2 —点滴静脈内注射—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 点滴静脈内注射の実際</p> <p>①点滴の準備 ②点滴静脈内注射の固定方法 ③滴下数の計算と確認 ④点滴静脈内注射実施前・中・後の観察</p> <p>2. 点滴静脈内注射を受けている患者の日常生活援助（歩行、トイレ、更衣）</p> <p>3. 点滴静脈内注射実施中の観察</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：看護が見える② p.57~91 を読み、手順と留意点をまとめてきてください。</p> <p>点滴静脈内注射の滴下数計算、滴下調整、生活援助技術で学習した技術（寝衣交換、車いす移乗・移送、歩行介助）を復習してきてください。</p> <p>復習：点滴静脈内注射の準備、実施前・中・後の留意事項、点滴静脈内注射を受けている患者に必要な日常生活援助について整理しておいてください。</p>
13~15	<p>侵襲を伴う排泄援助技術1 —一時的導尿—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 無菌的導尿</p> <p>①導尿の目的と種類 ②無菌的導尿の方法と留意点 ③無菌的導尿の実際 ④導尿を受ける患者への援助</p> <p>2. 一時的導尿の実際</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：看護が見える② p.266~296 を読み、手順をまとめてきてください。</p> <p>基礎看護方法 I（生活援助の技術）および本科目で学習した内容（特に排泄のメカニズム、寝衣交換、陰部・殿部の清潔援助、患者の羞恥心への配慮、無菌物の取り扱い、汚染物の取り扱い）について知識・技術を学習しておいてください。</p> <p>復習：一時的導尿の手順および根拠について整理しておいてください。</p>
16	<p>侵襲を伴う排泄援助技術2 —洗腸—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 洗腸</p> <p>①洗腸の目的と種類 ②洗腸の方法と留意点 ③洗腸の実際 ④洗腸を受ける患者への援助</p> <p>2. グリセリン洗腸の実際</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：看護が見える② p.297~311 を読み、手順をまとめてきてください。</p> <p>基礎看護方法 I で学習した便器の当て方を復習しておいてください。</p> <p>復習：グリセリン洗腸の手順および根拠について整理しておいてください。</p>
17	<p>診療の援助技術の統合1 —事例展開—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>診療の援助技術で学習した技術を事例に適用した応用技術の検討</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：事例の情報を解釈しておいてください。</p> <p>復習：看護の枠組みで事例の情報を分析しておいてください。</p>
18	<p>呼吸・循環を整える技術 —酸素療法—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 酸素吸入療法</p> <p>①効率的な呼吸法と姿勢 ②酸素の取り扱いと留意事項</p> <p>2. 酸素吸入の実際</p> <p>①酸素ボンベの取扱い ②酸素吸入器の種類</p>	<p>講義</p> <p>予習：看護が見える② p.202~229 を読み、酸素ボンベの取扱いとその留意点をまとめておいてください。</p> <p>復習：酸素療法を受ける患者への援助についてまとめておいてください。</p>
19	<p>診療の援助技術の統合2 —事例展開—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>診療の援助技術で学習した技術を事例に適用した応用技術の検討</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：最も優先度の高い項目をアセスメントしておいてください。</p> <p>復習：最も優先度の高い看護上の問題について計画を立案し、援助計画を作成しておいてください。</p>
20・21	<p>苦痛の緩和・体温調整の技術 —電法—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 電法と生体反応</p> <p>①温熱刺激と生体反応 ②冷刺激と生体反応</p> <p>2. 電法の方法</p> <p>①目的と留意事項 ②温電法の実際 ③冷電法の実際 ④快適で効率的な電法の方法を考える</p>	<p>講義・演習（実習）</p> <p>予習：看護が見える① p.284~305 を読み、電法の手順および留意点をまとめてきてください。</p> <p>復習：体温管理が必要な患者への援助についてまとめておいてください。</p>
22	<p>診療の援助技術の統合3 —事例展開—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>診療の援助技術で学習した技術を事例に適用した応用技術の実際（技術チェック）</p>	<p>演習（実習）</p> <p>予習：援助計画に基づき実施できるように、技術を練習しておいてください。</p> <p>復習：実施した援助について、SOAP で看護記録を記載しておいてください。</p>
23	<p>診療の援助技術の統合4 —事例展開・まとめ—</p> <p>門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平</p>	<p>1. 診療の援助技術の統合についてのフィードバック</p> <p>2. 事例展開のまとめ</p>	<p>講義</p> <p>予習：実施した援助技術について振り返りを行い、自己の課題を明確にしておいてください。</p> <p>復習：看護目標対して評価をしておいてください。</p>

授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能を復習して臨んでください。特に、神経や血管の走行、代謝のしくみ、排泄のメカニズムについての知識を復習しておきましょう。 ・基礎看護方法Ⅰ（生活の援助技術）等で学んだ内容、基本的な技術を確認しておいてください。 							
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートの記述内容に対する講評、あるいは個別にコメントを入れて返却するなどの方法で行う。							
テキスト・教材	<ul style="list-style-type: none"> ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ基礎看護学② 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③ 医学書院 ・授業の中で適宜紹介する 							
評価の基準と方法	筆記試験（60％）、技術試験（30％）課題レポート・記録等の提出物（10％）により総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	○	◎	△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員のすべてが看護師の実務経験を有している。							

科目名称	看護過程の基礎		
科目分類	310-311-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	安藤郁子	必修・選択	必修
担当教員	安藤 郁子	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	前期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30 後期 水曜日 14:30～16:30 金曜日 10:30～11:30	研究室	1-304
授業概要	看護実践を行うための思考を導くプロセスを理解するために、看護過程を活用する意義や看護過程の基本的な考え方について学ぶ。具体的には、看護を実践するさいは、どのようなことをどのような順序でどのように考えていくのかという看護を実践するさいの手続きがわかるようにする。また、事例演習を通して、看護実践における看護過程の活用法についての理解を深めるとともに、看護過程を活用する意義を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を活用する意義および目的を述べることができる。 2. 既習の知識の看護過程への活用方法を理解し、看護過程のプロセスに活用することができる 3. 看護過程の構成要素を述べるができる。 4. 紙上事例を用いて実践に至るまでの一連のプロセスを体験することにより手続きおよび考え方・進め方を説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> ①看護過程の系統的・目的的・意図的なデータ収集 ②収集したデータを基にした根拠に基づいたアセスメント ③対象の生活行動と健康状態との関連性の統合および看護問題の明確化 ④対象の抱えている問題の優先順位の決定 ⑤問題解決のための目標を設定・実施可能な計画の立案 ⑥対象の反応を基にした評価と計画の修正 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	看護過程とは何か 1 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題解決過程とは 2. 看護過程と問題解決過程との関係 3. 看護過程の構成要素 	講義 予習：1 年次に学習した看護理論と中範囲理論の事例展開を復習しておく 復習：生活している中で無意識に行っている「問題解決」の場面をあげ、その時の自己の「思考プロセス」をふり返ってみる
2	看護過程とは何か 2 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者体験の中から以下について考える <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の問題や課題と認識した事象は何か 2) 患者の問題や課題と判断した理由は何か 3) 患者は結果としてどうなったら良いか＋（目指すゴールは？） 4) 患者はどうしたらゴールにたどり着けるか？ 	講義・演習 予習：1 年次に学習した看護理論と中範囲理論が活用できるよう復習しておく（配布プリントおよびノートを持参する） 復習：事例を読み返し、気になるデータにマークを付け、その理由を考える
3 4	看護過程の構成要素 1 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 1. アセスメントとは <ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメントの定義と種類 2) 目的的、意図的、系統的なデータ収集とは 3) 「概念枠組み」による違い（ロイ・ゴードン・ヘンダーソン） 4) データ収集の手段と方法 5) データの分析とは 6) データ分析の基準とその方法 	講義 予習：ロイ、ヘンダーソンの看護の概念枠組みについて確認しておく 復習：分析が必要だと考えるデータの意味を調べておく
5 6	データ収集の実際 安藤郁子	概念枠組みに沿ったデータの分類と意味付け	講義・演習 予習：1 年次に学習した看護理論の「人間を観る枠組み」の復習しておく（配布プリントおよびノートを持参する） 復習：時間内に分類できなかったデータを枠組みに沿って分類しておく
7	看護過程の構成要素 2 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 2. 看護の診断とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護問題とは 2) 問題と課題の違い 3) 看護問題の種類と表現のルール 4) 共同問題とは 	講義 予習：配布プリントの「看護問題とは」を熟読し不明点を明らかにしておく 復習：看護で取り扱う問題の種類と表現方法を説明できるようにしておく
8	診断までのプロセスの実際 安藤郁子	データの分析と看護問題の明確化	演習 予習：看護問題とは何かについて復習しておく 復習：分析した内容を見直し、必要があれば修正しておく
9	看護過程の構成要素 3 安藤郁子	<ol style="list-style-type: none"> 3. 計画立案とは <ol style="list-style-type: none"> 1) 優先順位の決定方法 2) 看護目標の原則と表現方法 3) 解決策を考える際の視点とルール 4) 解決策の表現方法 	講義 予習：マズローの欲求の階層を見なおしておく 復習：援助目標と行動目標の違いを明確にしておく

10	目標設定の実際 安藤郁子	看護問題を解決する目標設定	演習 予習：目標設定のルールを見なおしておく 復習：グループで話し合った目標を見なおし、必要があれば各自で修正する
11 12	情動的・社会的・認知的中範囲理論の活用 の実際 安藤郁子	ストレスコーピング理論、役割理論、コーチング理論、自己概念を活用したアセスメント	演習 予習：看護理論で学習した理論を見なおしておく 復習：グループで行ったアセスメントを見なおし、必要があれば各自で修正する
13 14 15 16	事例展開 1 安藤郁子	人間を見る枠組みに沿ったアセスメント	演習 予習：項目毎にアセスメントに必要なデータを見なおしておく 復習：グループで行ったアセスメントを見なおし、必要があれば各自で修正する
17 18 19 20	事例展開 2 安藤郁子	目標の設定と具体策の立案	演習 予習：達成可能な目標の条件を見なおしておく 復習：グループで行った目標設定・具体策を見直し、各自で加筆・修正する
21 22	事例展開 3 安藤郁子	評価	演習 予習：看護過程の一連を見なおし、実施可能な具体策になっているか確認する 復習：実施を振り返り修正点を明確にする
23	まとめ	一連の過程の振り返り	講義・演習 予習：一連の過程を振り返り、不明点を明確にしておく 復習：看護過程の考え方について整理しておく

授業開始前学習	既習の講義ノートや基礎看護学実習 I で使用した自己学習ノート等を持参できるよう整理しておいて下さい。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業中にコメントする							
テキスト・教材	黒田優子監修「よくわかる中範囲理論」Gakken V,ヘンダーソン「看護の基本となるもの」日本看護協会出版会 医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』（メディックメディア）※老年看護学方法論と同じ教科書							
参考書	検査データ、形態機能学、解剖生理学、病態生理学、薬物療法と看護、検査療法と看護など事例のアセスメントに必要な知識に関する本を各自で必ず持参して下さい。							
評価の基準と方法	グループワークの参加の程度（協力制、積極性、協調性、傾聴力など）＋ミニテスト＋退出物＋定期試験の結果＝100%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当					○	◎		△
関連科目	看護学概論、看護方法論Ⅰ、看護方法論Ⅱ、看護方法論Ⅲ、看護過程の基礎、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ							
その他	<p>* 皆さんの進行度に合わせて講義・演習のスケジュールを変更することがありますので、各回でお伝えする次回までの課題を聞き漏らさないようにして下さい。</p> <p>看護過程は教員が講義により知識を伝達する科目ではありません。皆さんが自分たちの知識と創造力を活用して自ら考え、自分なりの結論を出す「考え方」を学ぶ科目です。</p> <p>こんな看護をしたいという看護者一人ひとりをもつ思いを具現的に実践するための方法論の1つです。自分の看護に対する考え方、実習での経験、患者さんに対する思いなどを文字として表現しながら、患者さんに適した看護を考えていきます。演習では、①1つの正解を求めるのではなく、その時、その場の、その患者さんの個別性に即した看護を考えて、②どのように書くのかといった「書き方」にこだわるのではなく、「なぜそのように考えるのか」を意識してください。妥当性の高いアセスメントをするためには、検査データ、形態機能学、解剖生理学、病態生理学、薬理学、薬物療法と看護ヘルスアセスメントヘルスアセスメントなど知識が必要になります。まだ、学習していない内容もあると思いますが、図書館や参考書を活用しながら、必ず事前学習をして臨んで下さい。また、自分の考えたことをチームに伝えるための文章表現能力が必要です。文章作成が苦手な方は相手に伝わる文章表現も一緒に学んで下さい。</p> <p>基礎看護学実習Ⅰの経験をもとに、みなさんの主体的な参加と「どのような看護をしたいか」「看護の対象をどのように捉えるか」について表現しあうことを期待します。</p>							

	知識を暗記する科目ではありませんので、分からない部分がある場合は、そのままにせず積極的に質問して下さい。質問がある方はいつでも研究室にお越し下さい。
予習・復習の 所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間
実務経験を活かした 教育内容	担当者は看護師の実務経験を有しており、他大学や病院において看護過程・看護診断の研修会の講師の経験がある。

科目名称	地域ふれあい実習		
科目分類	310-311-21	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	実習
科目責任者	橘 達枝	必修・選択	必修
担当教員	看護専任	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域で暮らす人々とその生活の様子を、実際に人々とふれあう体験を通して学ぶ。具体的には、稲城市が提供する様々な地域住民サービスの場に出かけ、参加し、人々の生活の様子を見聞することで、参加している人たちにとってその活動が持つ意味を考える。また、地域の人々同士のふれあいの過程を理解し、日々地域で暮らす人々から看護職に求められる役割について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域で暮らす人々とその生活の様子を述べることができる。 2.見学・参加した活動がもつ意味を参加者の立場で述べるができる。 3.地域で暮らす人々の生活についての学びをディスカッションし発表できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1 週目	看護専任	<p>1 日目（月）実習オリエンテーション（学内）</p> <p>2 日目（火）～4 日目（木）（臨地）</p> <p>・地域の人々が集う場に出向き、様々な人との交流を通して、暮らしや生活の様子を知る。</p> <p>5 日目（金）グループ毎に中間のまとめ（学内）</p>	<p>臨地実習 （臨地実習要項 2022 年版参照）</p>
2 週目	看護専任	<p>6 日目（月）～8 日目（水）（臨地）</p> <p>・地域の人々が集う場に出向き、様々な人との交流を通して、暮らしや生活の様子を知る。</p> <p>9 日目（木）発表準備（学内）</p> <p>・複数施設での見学・参加経験から、人々の生活についての学びを共有し、実習報告会の準備を行う。</p> <p>10 日目（金）実習報告会（学内）</p> <p>・1 グループ 20 分程度で発表と質疑を行う。</p>	<p>臨地実習 （臨地実習要項 2023 年版参照）</p>
授業開始前学習	臨地実習要項 2023 年版参照		
授業内課題の フィードバックの方法	臨地実習要項 2023 年版参照		
テキスト・教材	特になし		
参考書			
評価の基準と方法	実習評価表に基づき、実習目標の到達度、実習態度、記録を総合的に評価する。		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△	◎			
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	基礎看護学実習 I			
科目分類	310-311-31 (J)	単位数	1.0 単位	
英文名称	Foundations of Nursing Care Practice : Practicum I		授業区分	実習
科目責任者	菊地 由美		必修・選択	必修
担当教員	門脇・菊地・北澤・糸川・樋口		開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-		研究室	-
授業概要	初めての医療現場を体験することから、病院の概要や特徴、病院における看護の役割を学ぶ。対象者とのコミュニケーションや観察から、対象者の様子や療養生活の実際を知り、日常生活行動の援助を看護師と共に一部体験する。看護学生として倫理的態度を理解するとともに自己の課題を洗い出す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.病院の組織と機能、看護部の役割を概観し、多職種及び看護の役割を理解することができる 2.対象者の思いや療養環境に関心に向け、対象を理解することができる 3.看護におけるコミュニケーションの意味と方法を理解することができる 4.対象に行われている看護援助とその根拠を理解することができる 5.看護学生として礼節をもった責任ある行動をとることができる 6.実習を通して自己についての理解を深め、今後の成長の方向性を表現することができる 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題	
1 週目	菊地由美 門脇淳子 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	実習前ガイダンス 1 日目（臨地実習） ・病院・病棟オリエンテーション ・受け持ち患者とコミュニケーション 2 日目（臨地実習） ・看護師のシャドウイング ・受け持ち患者とコミュニケーション 3 日目（臨地実習） ・日常生活援助の見学/一部参加 4 日目（臨地実習） ・日常生活援助の見学/一部参加 ・最終カンファレンス 5 日目（学内） ・学びのまとめと共有（成果発表） ・実習記録・課題レポート提出	実習 事前の課題等については実習要項参照のこと。	
授業開始前学習	既習の科目内容、技術の内容を確実に復習して臨むこと。			
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録は随時コメントして返却する 在学期間中は、提出した実習記録の閲覧ができる。			
テキスト・教材	基礎看護学に使用したすべてのテキスト			
参考書	実習中に適宜紹介する			
評価の基準と方法	評価表に基づき評価する：実習点（記録物、学内活動含む）80%、レポート課題 20%			

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○	◎	△	△
関連科目	看護学概論、基礎看護方法Ⅰ他							
その他	必要な予防接種および手続きを完了しておくこと、実習開始前後に健康・行動観察期間が必要となる							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員の全員が看護師の実務経験を有している。							

科目名称	基礎看護学実習Ⅱ		
科目分類	310-311-32 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Foundations of Nursing Care Practice : Practicum II	授業区分	実習
科目責任者	門脇 淳子	必修・選択	必修
担当教員	門脇・菊地・北澤・糸川・樋口	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	看護の対象が健康上の問題を解決するための看護の方法について体験を通して学び、患者との援助関係を築く能力、問題解決思考に基づいた看護過程を展開できる能力、日常生活援助を実施・評価する基礎的能力を養う。受け持ち患者と援助を通し、よりよい関係性を構築できるコミュニケーション能力を学習する。また、健康障害が患者の行動や日常生活にどのような影響を及ぼしているかをアセスメントし、必要な援助を考え、計画に基づいた具体的な援助を実施・評価するための方法を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち患者とより良い関係を築くことができる 2. 健康障害が受け持ち患者の行動や日常生活にどのような影響を及ぼしているのかアセスメントし、必要な看護を計画・実施・評価・修正することができる <ul style="list-style-type: none"> ・対象の全体像をとらえることができる ・対象の看護上の問題を明らかにすることができる ・対象に看護上の問題を解決するための計画を立案することができる ・立案した計画を実施することができる ・実施した援助を評価し、評価結果を対象に合った援助のために活用することができる 3. 受け持ち患者が必要としている看護援助を実施し振り返りができる 4. 看護学生として、誠実で責任ある態度で実習に臨むことができる 5. 実習での体験とこれまでの学習を統合し、自己の学修課題を明確にすることができる 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	<p>1 日目(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟オリエンテーション、受け持ち患者の決定、受け持ち患者の状態をおおよそ把握する。 <p>2 日目(火)～3 日目(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 日目に把握した受け持ち患者の状態を受けて、重点的に情報収集が必要になる項目を明らかにし、その項目についてのアセスメントを行う。 <p>4 日目(木)～5 日目(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「行動計画」に記載した援助計画に基づき、看護師とともに受け持ち患者に日常生活の援助を実施し、実施した援助を評価する。 ・アセスメント内容を確認し、全体像を明らかにしたうえで、看護上の問題点を明確化する。 	<p>事前課題：</p> <p>看護過程の概念（基本的な看護過程）、看護モデルに基づく看護過程の展開について説明できるようにしておく。</p> <p>復習（毎日）：</p> <p>実習目的・目標を念頭において実習での学びを振り返り、以下の学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護援助における自己の学習課題を明らかにする。（明らかになった学習課題に対しては、実習中に解決できるように努める） ・現段階における対象の健康上の問題を解決するための看護の方法を明らかにする。 ・対象が健康上の問題を解決するための看護を行う上で大切なことは何かを明らかにする。 <p>看護技術について：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者の援助に必要な看護技術を練習しておく。（バイタルサインは、正確に測定できるようにしておく）

2 週目	門脇淳子 菊地由美 樋口美樹 北澤友美 糸川広平	<p>～6 日目（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントによって明らかになった看護上の問題に対して、看護目標、介入（具体策）を立案する。 <p>6 日目（月）～9 日目（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護計画に基づき行動計画を立案し、受け持ち患者に対する援助を実施し、評価する。 ・受け持ち患者に実施した援助を評価し、必要時、立案した看護計画を追加、修正する。 ・最終カンファレンスにおいては、実習目標の達成度と今後の課題、「対象の健康上の問題を解決するための看護」において大切になることは何かについて発表する。 <p>10 日目（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習での患者との関わりを通して、自己の看護観についてレポートにまとめる。 <p>※ 1 週目、2 週目を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受け持ち患者とより良い関係を構築することができる。 ・受け持ち患者の健康上の問題を解決するための看護の方法を考えることができる。 ・受け持ち患者に関わる多職種の役割を理解する ・看護援助における自己の学習課題を明らかにすることができる。 	同上					
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の看護学概論、看護理論、基礎看護方法Ⅰ（生活行動の援助技術）、基礎看護方法Ⅱ（ヘルスアセスメント）、基礎看護方法Ⅲ（診療の援助技術）、看護過程の基礎、専門基礎科目の復習をして臨むこと。 ・生活行動の援助技術に関しては、看護技術の原理・原則、根拠に基づいた基本的な技術を何度も練習しておくこと。 							
授業内課題のフィードバックの方法	実習中の日々の記録、看護過程の展開、および課題レポートの記述内容については個別にコメントを入れて返却する。							
テキスト・教材	基礎看護学で使用したすべてのテキスト							
参考書	実習中に適宜紹介する							
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○		○	◎	◎	○
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員のすべてが看護師の実務経験を有している							

科目名称	地域・在宅看護学概論		
科目分類	310-311-11 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	橘 達枝	必修・選択	必修
担当教員	沖田・笠原・橘	開講時期	1 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを支えるために、生活の基盤である地域を理解し、生活を支えるための保健、医療、福祉制度と活用方法について学ぶ。地域で生活する人々を支えるための看護の基礎的知識について学びを深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域で生活する人々の暮らしと多様性を理解し、地域の環境が暮らしに及ぼす影響を説明できる。 2.暮らしと健康をめぐる社会の動向をとらえ、地域で暮らす対象を支えるしくみや保健、医療、福祉制度の概要を説明できる。 3.地域・在宅看護の対象・意義・役割について説明できる。 4.地域・在宅看護の基本となる倫理について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	地域の人々の暮らしと健康 橘達枝	ようこそ「地域・在宅看護」の世界へ 1.暮らしを知り、とらえることの意味 2.暮らしのなかの健康課題を見つけ出す視点	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p2～10）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
2	人々の暮らしと地域・在宅看護（1）	人々の暮らしの理解 1.暮らしとは 2.健康の多様性	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p12～18） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
3	人々の暮らしと地域・在宅看護（2）	地域・在宅看護の役割 1.地域・在宅看護の基盤となる考え方 2.地域・在宅看護に求められる役割	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p18～24） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
4	人々の暮らしと地域・在宅看護（まとめ）	暮らしの理解 1.自分と友人の暮らし 2.暮らしを支える看護	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p25～29） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
5	暮らしの基盤となる地域の理解（1）	暮らしと地域 1.地域の定義 2.地域の多様性	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p32～38） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
6	暮らしの基盤となる地域の理解（2）	地域システム 1.システム思考 2.地域包括ケアシステム 3.地域共生社会	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p38～50） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
7	暮らしの基盤となる地域の理解（まとめ）	地域の理解 1.自分の暮らす地域の特性 2.安心して暮らし続けるための課題	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p51～55） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。
8	地域・在宅看護の対象（1）	地域・在宅看護の対象者 1.地域による多様性 2.ライフステージによる多様性 3.健康レベルの多様性	講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p58～75） 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。

9	地域・在宅看護の対象 (2)	家族の理解 1.家族の現状 2.家族とその変遷	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p75~85) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
10	地域・在宅看護の対象 (3)	家族の理解 4.家族の発達と課題 5.家族発達理論	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p85~87) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
11	地域・在宅看護の対象 (まとめ)	家族の理解 6.家族システム理論	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p87~89) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
12	暮らしを支える地域・在宅看護 (1)	暮らしを支える様々な職種 1.暮らしを支える 2.訪問看護 3.多職種連携	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p104~110、144~162) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
13	暮らしを支える地域・在宅看護 (2)	倫理的課題 1.成年後見制度 2.アドバンス・ケア・プランニング	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p202~204、89) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
14	暮らしを支える地域・在宅看護 (3)	暮らしを支える看護 1.暮らしにおけるリスク 2.地域・在宅看護におけるリスクマネジメント	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p133~136) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
15	暮らしを支える地域・在宅看護 (4)	暮らしを支える看護 3.暮らしと災害 4.地域・在宅看護と災害対策	講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p137~142) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。						
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		各授業において、授業での学びや課題を学生は紙面又は Forms にて提出する。学生からの質問や補足解説が必要な内容は、翌回の授業時等にフィードバックを行う。							
テキスト・教材		河原加代子他編：『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤』（医学書院）							
参考書		なし							
評価の基準と方法		授業の参加態度・課題学習（60%）、レポート（40%）							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成						
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○			△	◎	○		
関連科目									
その他								コロナ禍の緊急事態宣言の状況により、授業計画を変更する場合、適宜周知する。	
予習・復習の所要時間								講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間	
実務経験を活かした教育内容								実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。	

科目名称	地域包括ケア概論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	橘 達枝	必修・選択	必修
担当教員	沖田・笠原・橘	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域包括ケアについて、現状と展望について学び、地域特性に応じた支援活動の実際を知り、地域包括ケアシステムの一員として必要な基礎的能力を身につける。地域包括ケアの概念とその考え方について政策の変遷や時代背景から理解し、主に成人・高齢者を切り口に様々な職種の立場からの地域活動展開について知る。住民・多職種・看護職等の連携を促進し、地域包括ケア実現に向けた地域活動の現状・課題について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域包括ケアシステムについて説明できる 2.社会保障制度（介護保険・医療保険）の概要と利用方法を説明することができる。 3.訪問看護の制度のしくみと看護の役割を説明することができる。 4.介護保険制度における地域・在宅看護マネジメントを説明することができる。 5.地域・在宅看護における看護師が果たす役割について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	地域・在宅看護の場と人々の暮らし	<p>さまざまな看護実践の場</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.医療機関で提供される看護 2.住まいで提供される看護 3.さまざまな職種で支える地域での暮らし 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 144～154）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
2	地域包括ケアシステムと地域・在宅看護の役割	<p>支え合って生きる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域包括ケアシステム 2.地域に暮らす対象者と看護 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 45～50、89～94）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
3	地域・在宅看護の制度と社会資源（1）	<p>地域・在宅看護に関わる制度とその活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.社会背景の変化と社会保障制度の展開 2.訪問看護サービスと医療保険制度 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 168、175～177）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
4	地域・在宅看護の制度と社会資源（2）	<p>地域・在宅看護に関わる制度とその活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.訪問看護サービスと介護保険制度 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 168～175）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
5	地域・在宅看護の制度と社会資源（3）	<p>地域・在宅看護に関わる制度とその活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 3.訪問看護の制度 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 183～197）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
6	地域・在宅看護の制度と社会資源（4）	<p>地域・在宅看護に関わる制度とその活用</p> <ol style="list-style-type: none"> 4.高齢者に関する法制度 5.障害者・難病に関する法制度 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 202～207）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
7	地域・在宅看護マネジメント	<p>介護保険制度上の地域・在宅看護マネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ケアマネジメント業務のながれ 2.介護支援専門員の役割 3.地域包括支援センター 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 358～380）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
8	地域・在宅看護における連携・協働	<p>多職種連携・多職種協働</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.看護師の役割 2.訪問看護における連携・協働の実際 	<p>講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング）</p> <p>予習：教科書の該当ページを読む。（p 340～347）</p> <p>復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>

授業開始前学習	既習の地域・在宅看護学概論を再学習し系統別に整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	各授業において、授業での学びや課題を学生は紙面又は Forms にて提出する。学生からの質問や補足解説が必要な内容は、翌回の授業時等にフィードバックする。							
テキスト・教材	河原加代子他編：『系統看護学講座 地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤』（医学書院） 河原加代子他編：『系統看護学講座 地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践』（医学書院）							
参考書	テキスト以外に必要な参考書は適宜紹介する。必要な資料はその都度配布する。							
評価の基準と方法	定期試験（筆記）50%・課題学習 50%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目								
その他	コロナ禍の緊急事態宣言の状況により、授業計画を変更する場合、適宜周知する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目名称	成人看護学概論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	小林 優子	必修・選択	必修
担当教員	飯塚・奥井・小林(優)・長嶋	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	成人看護学の目的と役割、看護方法を理解するために、成人各期の身体的、精神的、社会的な特徴を理解し、成人期における疾病の予防やそのための社会システムの機能、健康の回復過程に沿った看護の特徴と方法を学ぶ。成人看護学を学ぶ上で欠かせない理論・概念の活用や、成人看護学における倫理的課題について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.成人期にある人の生活と健康について説明できる。 2.成人期にある人の健康問題と看護の役割を説明できる。 3.成人を対象とする保健・医療・福祉のシステムを説明できる。 4.健康の回復過程に沿った看護の特徴について記述できる。 5.成人をとらえる上での主要概念を説明できる。 6.病気を持った成人の家族の看護を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	成人看護学への導入 小林 優子	成人看護学の構造と学習の目的、目標について 成人看護学 I ガイダンス	授業は、教科書・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
2	対象の理解 1 飯塚 麻紀	対象の理解 成人期の発達と生活 —青年期・壮年期—	授業は、教科書（テキスト第 1 章）・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
3	対象の理解 2 飯塚 麻紀	対象の理解 成人期の発達と生活 —壮年期・向老期—	授業は、教科書（テキスト第 1 章）・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
4	成人の生活と健康問題 1 飯塚 麻紀	成人を取り巻く社会環境と成人の生活	授業は、教科書（テキスト第 2 章・第 3 章）・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
5	成人の生活と健康問題 2 飯塚 麻紀	成人の健康の動向と保健・医療・福祉政策	授業は、教科書（テキスト第 2 章・第 3 章）・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
6	成人の生活と健康問題 3 小林 優子	成人の労働、労働に関する政策	授業は、教科書（テキスト第 2 章・第 3 章）・配布資料をもとに講義を行います。講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。

7	成人看護学の主要概念 1 小林 優子	自己概念、ボディイメージ	授業は、参考書 1.第 3 章・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
8	成人看護学の主要概念 2 小林 優子	アンドラゴジー、エンパワメント、自己効力理論	授業は、教科書（テキスト第 4 章）参考書（1.第 2 章（））・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
9	成人看護学の主要概念 3 小林 優子	危機理論、ストレスコーピング理論	授業は、教科書（テキスト第 4 章）、参考書 1.第 2 章・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
10	成人の健康に応じた看護 1 飯塚 麻紀	急性期・周術期	授業は、教科書（テキスト第 5 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear などを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。 課題については授業中に説明いたします。
11	成人の健康に応じた看護 2 奥井 良子	慢性期	授業は、教科書（テキスト第 5 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
12	成人の健康に応じた看護 3 小林 優子	がん看護	授業は、教科書（テキスト第 5 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
13	成人の健康に応じた看護 4 長嶋 祐子	リハビリテーション	授業は、教科書（テキスト第 5 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
14	成人の健康に応じた看護 5 奥井 良子	終末期	授業は、教科書（テキスト第 5 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。
15	成人看護学における看護倫理 小林 優子	成人看護学における倫理的課題 成人看護学概論のまとめ	授業は、教科書（テキスト第 4 章）・配布資料をもとに講義を行います。 講義の途中で適宜、think pair shear、グループワークなどを活用します。 事前学習ならびに事後学習のためのワークブックを用意します。 ワークブックにしたがって予習と復習をしてください。

授業開始前学習	1. テキストの該当するページを読んで授業に臨んでください。 2. ワークブックにしたがって事前学習を行った上で授業に臨んでください。
授業内課題の フィードバックの方法	原則として翌週の授業内でフィードバックいたします。

テキスト・教材	黒江ゆり子他著『新体系看護学全書成人看護学概論／成人保健』（メヂカルフレンド社）							
参考書	黒田裕子監修『看護診断のためのよくわかる中範囲理論』（学研メディカル秀潤社） その他授業内で紹介する。							
評価の基準と方法	定期試験 100%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○				◎	△		
関連科目	成人看護学方法論Ⅰ・Ⅱ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱにつながる基盤となる科目である。							
その他	<p>◇学習目標 成人各期の発達課題を理解し、成人期に生じやすい健康問題と、予防や健康増進への看護について理解する。</p> <p>◇学習上の留意事項 成人看護は、10代後半～60代までの幅広い年齢の人々と、その家族を対象とした看護である。成人期にある人々には、進路選択、就職、結婚、子育て、退職と人生のライフイベントが多くある。その人々が病気を抱えたとき、本人がどう対処するのかを支援する看護学領域である。さらに、健康障害をもつ患者の家族の特徴、家族への具体的な援助方法についても学ぶ。成人の健康状態に応じた看護では、その時の家族についても関心をもって授業に臨むこと。そして、自分自身が成人期の「青年期」にあることを意識して自分自身を見つめ、さらに成人期にある自分の家族を意識しながら、健康を守ること、病気に対処することを深く考えること。 重要な内容を15回ピックアップしての講義であるため、毎回出席することが望ましい。欠席の場合は資料入手や補習は自主的に行うこと。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	担当教員全員が、成人系病棟、クリニック、保健センターなどにおける実務経験を有しており、実務経験を活かして教育にあたる。							

科目名称	成人看護学方法論 I (急性期)		
科目分類	310-311-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	飯塚 麻紀	必修・選択	必修
担当教員	飯塚・奥井・小林(優)・近藤・長嶋・野村・吉野	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	急性発症あるいは慢性疾患の急性増悪により救急処置や集中治療管理を必要とする生命危機状態にある人や周術期にある人への看護を理解するために、主要な疾患の急性期の病態と検査、処置、治療に沿った看護援助を学ぶ。苦痛の緩和、合併症の予防、回復促進のために適切な看護を看護過程を用いて具体的に考えるとともに、急性期に必要な看護援助についてその原理やしくみを理解し、安全安楽な実施方法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 救急処置、集中治療管理を必要とする人、周術期にある対象の特徴を述べるができる。 2. Basic Life Support (BLS)に必要な知識を説明し、実践することができる。 3. 主要な疾患の、検査、処置、治療における看護援助を根拠に基づいて説明することができる。 4. 事例を基に看護過程を展開し、苦痛の緩和、合併症予防、回復のための適切な看護を考えることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	急性期看護への導入 飯塚麻紀 小林優子	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 急性期看護の対象理解に必要な基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) 侵襲による生体反応 2) ショックの病態 3. がん治療に必要な知識 <ol style="list-style-type: none"> 1) がんの病態 2) がん治療の種類 	<p>【事前学習】成人看護学概論の復習 (特に「急性期看護」「がん看護」、疾病と治療Ⅱの復習 (侵襲・ショック))</p> <p>【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
3・4	救急看護・クリティカルケア (1) 循環器疾患 飯塚麻紀 長嶋祐子	<p>急性循環器機能障害患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性心筋梗塞患者の看護 2. 弁膜症・不整脈患者の看護 	<p>【事前学習】心臓の解剖生理の復習、テキスト2 [3]循環器 134-145、175-206</p> <p>【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
5・6	救急・クリティカルケア (2) 呼吸器疾患 飯塚麻紀 長嶋祐子	<p>急性呼吸機能障害患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急性呼吸不全で人工呼吸器を使用する患者の看護 2. 呼吸器感染症 (肺炎) 患者の看護 	<p>【事前学習】肺の構造と機能の復習、テキスト2 [2] p 192-195、142-153</p> <p>【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
7・8	救急・クリティカルケア (3) 脳神経疾患 飯塚麻紀 長嶋祐子	<p>急性脳機能障害患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳梗塞患者の看護 2. 脳出血患者の看護 	<p>【事前学習】脳の解剖生理の復習、テキスト2 [7] p 122-143</p> <p>【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
9・10	周術期にある患者と家族への看護 (1) (2) 飯塚麻紀	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 周術期とは 2) 手術の目的と種類 3) 手術を受ける人の特徴 (手術侵襲・創傷治療) 2. 術前の看護 	<p>【事前学習】テキスト1 : p 8-46、72-96</p> <p>【講義】臨床で実際に使用する医療器機・資材に触れ、ディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
11・12	周術期にある患者と家族への看護 (3) (4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 術中の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻酔・体位による影響 2) 安全管理 2. 術後の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 術後合併症 2) 術後管理 (ドレーン管理・術後離床) 	<p>【事前学習】テキスト1 : p 98-138、140-201</p> <p>【講義】臨床で実際に使用する医療器機・資材に触れ、ディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
13・14	手術を受ける人の看護 (1) (2) 飯塚麻紀	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大腸がんで手術を受ける人の看護 2. 直腸がんで手術を受ける人の看護 	<p>【事前学習】大腸・直腸の解剖生理の復習、テキスト1 : p 341-349</p> <p>【講義】臨床で実際に使用する医療器機・資材に触れ、ディスカッションしながら理解を深める</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>
15・16	BLS (Basic Life Support) 全員	<ol style="list-style-type: none"> 1. BLS の知識 2. BLS の実践 (演習) 	<p>【事前学習】BLS に関する事前課題</p> <p>【演習】救急蘇生のシミュレーターを用いて実践する</p> <p>【事後学習】授業内容を振り返り整理する</p>

17・18	手術を受ける人の看護 (3) (4) 飯塚麻紀 小林優子	1. 肺がんで手術を受ける人の看護 2. 乳がんで手術を受ける人の看護	【事前学習】肺・乳房の解剖生理、テキスト1 : p 268-279、394-404 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する					
19・20	手術を受ける人の看護 (5) (6) 野村美紀 吉野靖代	1. 前立腺がんで手術を受ける人の看護 2. 変形性股関節症で手術を受ける人の看護	【事前学習】前立腺・股関節の解剖生理、テキスト1 : p 404-412、427-442 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する					
21・22	手術を受ける人の看護 (7) 飯塚麻紀 周術期にある患者と家族の看護 (5) 飯塚麻紀	1. 胆石症で手術を受ける人の看護 2. 看護過程導入	【事前学習】胆のうおよび周囲臓器の解剖生理、テキスト2 [5] 248-252 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する					
23・24	看護過程演習 (1) 飯塚麻紀 小林優子	看護過程演習 (グループワーク) 1. 情報の整理とアセスメント 2. 全体発表	【事前学習】看護過程ワークブック、テキスト1 : p 327-341 【講義】グループワークでのディスカッション、発表の質疑応答を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの修正					
25・26	看護過程演習 (2) 飯塚麻紀 小林優子	看護過程演習 (グループワーク) 1. 情報の統合 2. 看護問題の抽出 3. 全体発表	【事前学習】看護過程ワークブック、テキスト1 : p 327-341 【講義】グループワークでのディスカッション、発表の質疑応答を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの修正					
27・28	看護過程演習 (3) 飯塚麻紀 小林優子	看護過程演習 (グループワーク) 1. 看護計画の立案 2. 全体発表 3. 胃がんで手術を受ける人の看護 (まとめ)	【事前学習】看護過程ワークブック、テキスト1 : p 327-341 【講義】グループワークでのディスカッション、発表の質疑応答を通して理解を深める 【事後学習】看護過程ワークブックの修正					
29・30	手術を受ける人の看護 (7) 飯塚麻紀 急性期看護のまとめ 飯塚麻紀	1. くも膜下出血で手術を受ける人の看護 2. 急性期看護のまとめ	【事前学習】脳の解剖生理の復習、テキスト2 [7]124-130 【講義】事例・国家試験問題等を活用しディスカッションしながら理解を深める 【事後学習】授業内容を振り返り整理する					
授業開始前学習	・テキスト該当ページを読んで授業に臨んでください。 ・提示された事前課題がある場合には、必ず完成させて授業に臨んでください。							
授業内課題の フィードバックの方法	フィードバックの方法、日時は授業内で提示します。							
テキスト・教材	1. 新体系看護学全書 経過別成人看護学① 周術期看護、メジカルフレンド社 2. 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護②～⑩							
参考書	授業の中で適宜紹介する							
評価の基準と方法	①定期試験 (70%) ②看護過程ワークブック (30%)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○	△	
関連科目	成人看護学概論 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ 疾病と治療Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 薬理学							

<p>その他</p>	<p>◇学習目標：救命処置や集中治療を必要とする人や周術期にある人の特徴を理解し、主要な疾患の病態と検査・処置・治療に沿った看護援助を学ぶ。</p> <p>◇学習上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず事前学習を行って授業に臨むこと 成人看護学（急性期）は非常に幅広い疾患・機能障害を持つ人を対象とする看護である。 そのため、解剖生理、病態生理、疾病の理解が基盤にないと看護援助を考えることは非常に難しい。 ・全ての授業に出席すること グループワーク・実技等は補講を行うことはできない。 また各講義は国家試験に頻出される重要な疾患をピックアップして行う。
<p>予習・復習の 所要時間</p>	<p>講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間</p>
<p>実務経験を活かした 教育内容</p>	<p>担当教員全員が、成人系病棟・クリニック等における実務経験を有しており、その経験を生かして授業を行う。</p>

科目名称	老年看護学概論		
科目分類	310-311-11 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	小林小百合	必修・選択	必修
担当教員	小林 小百合	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	前期 水曜日 13:00~16:00 後期 金曜日 9:00~12:00	研究室	1-302
授業概要	高齢期にある対象者の身体・精神・心理・社会的な特徴を理解し、高齢者の健康問題や生活障害をとらえるための多角的な視点と援助方法の概要を学習する。また、高齢者をとりまく社会状況と社会制度について基礎的な知識を得て、社会システムの構築という視点で高齢者ケアを考える視点を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的、心理的、社会的な特徴について述べるができる。 2. 高齢者に特徴的な健康問題や生活障害について述べるができる。 3. 高齢社会の課題と主な社会制度について説明することができる。 4. 高齢者看護の理念と基本的な考え方が説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 回目	老年看護学の理念、目標、基本姿勢 小林小百合	老年看護学の理念、目標、基本姿勢について	講義、グループワーク 予習：シラバスを読んでくる。「高齢者」、「老い」についての自分なりのイメージをまとめておく 復習：授業ノート資料の整理、高齢者のイメージについて再考する
2 回目	高齢者の特徴 小林 小百合	高齢者の特徴：ライフサイクルからみた高齢期の特徴、高齢期の発達課題	講義 予習：「老年看護学」第 1 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
3 回目	高齢者のとらえ方、高齢者観 小林 小百合	高齢者のとらえ方、高齢者観：エイジズム、サクセッフルエイジング、高齢者虐待	講義 予習：「老年看護学」第 2 章 C を読んでおく 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
4 回目	加齢に伴う変化 小林 小百合	加齢に伴う変化：生理的加齢変化、フィジカルアセスメントの方法	講義 予習：「老年看護学」第 4 章、「老年看護 病態・疾患論」第 1、3 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
5 回目	高齢期に特徴的な疾患 小林 小百合	高齢期に特徴的な疾患：認知症、心不全、脳卒中、高血圧、糖尿病、パーキンソン病、肺炎、COPD、骨粗鬆症など	講義 予習：「老年看護学」6 章、「老年看護 病態・疾患論」第 4 章を読んでくる 復習：配布資料を参考に、教科書に記載されている疾患についてまとめておく（提出課題）
6 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 1 小林 小百合	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 1：老年症候群、廃用症候群、日常生活動作の低下と密接な関連を持つ老年症候群と基本的看護	講義 予習：「老年看護学」第 5 章、「老年看護 病態・疾患」第 2 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
7 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 2 小林 小百合	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 2：慢性疾患に付随する老年症候群	講義 予習：「老年看護学」第 5 章、「老年看護 病態・疾患」第 6 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
8 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 3 小林 小百合	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 3：急性疾患に付随する老年症候群	講義 予習：「老年看護学」第 7 章、「老年看護 病態・疾患」第 5 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする
9 回目	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 4 小林 小百合	高齢期に特徴的な健康問題や生活障害と基本的な看護 4：薬物療法、手術療法、検査	講義 予習：「老年看護学」第 7 章、「老年看護 病態・疾患」第 5 章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする

10回目	高齢社会と社会保障 小林 小百合	高齢社会と社会保障：人口統計、医療保険制度、介護保険制度、権利擁護など	講義 予習：「老年看護学」第2章 AB を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする					
11回目	高齢者と家族、地域コミュニティ 小林 小百合	高齢者と家族、地域コミュニティ：家族構成の変化、社会的交流、地域の一員としての高齢者	講義 予習：「老年看護学」第9章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする					
12回目	高齢者のリスクマネジメント 小林 小百合	高齢者のリスクマネジメント：高齢者のリスク、災害時のリスクマネジメント	講義 予習：「老年看護学」第10章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする					
13回目	終末期ケア 小林 小百合	終末期ケア：高齢者の終末期の特徴、看取り、家族へのケア	講義 予習：「老年看護学」第8章を読んでくる 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする					
14回目	高齢者の生きてきた時代を知る 老年看護におけるアクティビティケア 小林 小百合	高齢者の生きてきた時代を知る：時代背景と価値観、役割意識、流行、楽しみなどを通して、「その人らしさ」を形成しているものへの理解 老年看護におけるアクティビティケア：アクティビティケアの基本的な考え方、高齢者にとってのアクティビティケアの効果	講義、グループワーク 予習：大正～昭和～平成にかけての主な出来事を調べ、高齢者の生きてきた時代が分かる年表を作成する（提出課題） 「高齢者のアクティビティ」、「アクティビティケア」について調べておく 復習：自分が受けたいアクティビティケアを具体的にイメージしてまとめておく					
15回目	まとめ 小林 小百合	まとめ	講義、グループワーク 予習：1～14回の講義内容を見直ししておく 復習：配布資料や教科書を見直し、授業ノートの整理をする					
授業開始前学習	◇準備学習 ・シラバスを参考に、教科書の該当部分を事前に読んでおく。 ・高齢者に関連する時事問題について関心を持ち、日ごろからニュース、新聞などの情報を得ておく。 ・予習、復習を十分に行い、知識の定着を図る。とくに、高齢者の特徴を理解するためには、「生涯発達学」「人間関係論」「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」「病態生理学」「疾病と治療Ⅰ」の内容と関連させて学習すること。 ◇学習上の留意事項 積極的に授業に参加すること。							
授業内課題のフィードバックの方法	第5回・第14回の課題については、第15回の授業内で全体の講評を行う。5回程度の小テストを実施し、その都度、授業内で解説を行う。							
テキスト・教材	専門分野Ⅱ 老年看護学 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論							
参考書	講義内で適宜紹介する。							
評価の基準と方法	授業中の小テストやレポートなどの課題30%、筆記試験70%によって評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目								
その他	◇学習目標 高齢者の特徴、高齢者看護の目的を理解し、高齢者看護の方法を身につける。また、高齢者をとりまく制度や施策に関する知識を深める。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして講義する。							

科目名称	老年看護学方法論		
科目分類	310-311-22 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	演習
科目責任者	小林小百合	必修・選択	必修
担当教員	小林(小)・武田・松戸・森	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康障害や生活障害を持つ高齢者への看護実践のために、学んだ知識を統合しながら、アセスメントから実施・評価に至る老年看護の看護過程を展開する方法を学ぶ。また、科学的根拠と高齢期の対象者の状況理解に基づいて、臨床看護実践で必要とされる基本的な看護技術について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の全体像をアセスメントするための視点を述べることができる。 2. 健康障害や生活障害をもつ高齢者のアセスメントができる。 3. アセスメントに基づいて、個々の高齢者にあつた看護計画の立案ができる。 4. 高齢期の対象者への看護実践で必要とされる嚥下・食・排泄・清潔・生活リズムなどへの援助について、基本的な看護技術が習得できる。 5. 実施場面のロールプレイを通して、ケアを評価できる。 6. 一連の学習過程を通して、老年看護の実践に必要な知識・技術・態度の習得にむけた自己課題を述べることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1, 2	1 回目：ガイダンス、老年看護学における看護実践の特徴と看護過程 2 回目：老年看護の展開のための基礎知識と実践① 小林小百合	授業の進め方、課題の確認 解説：看護過程 解説：高齢者総合的機能評価（CGA：Comprehensive Geriatric Assessment）	講義 予習：老年看護学概論の復習、「看護がみえる vol.4 看護過程の展開」p36-45 を読んでくる 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題：事前課題（口腔ケア・排泄ケア）の提出（GWE 上 4/5 9 時までに記入）
3, 4	老年看護の展開のための基礎知識と実践②③ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	口腔ケア、排泄ケア：解説と実技演習	講義・演習 予習：援助技術の事前課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入 課題：援助技術の事前課題（食・嚥下）の提出（GWE 上 4/12 9 時までに記入）
5, 6	老年看護の展開のための基礎知識と実践④⑤ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	食・嚥下：解説と実技演習	講義・演習 予習：援助技術の課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入 課題：援助技術の事前課題（清潔ケア、整容、環境整備）の提出（GWE 上 4/19 9 時までに記入） 「食」の課題（5/8 月 9 時提出期限）
7, 8	老年看護の展開のための基礎知識と実践⑥⑦ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	清潔ケア、整容、環境整備：解説と実技演習	講義・演習 予習：援助技術の課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入
9, 10	老年看護の展開①② 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	看護過程 事例提示 解説 ゴードンの機能的健康パターン、老年期の特徴	講義・演習 予習 教科書「看護過程の展開」p54-69 を読んでくる 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
11, 12	老年看護の展開③④ 小林小百合	病態生理 健康知覚-健康管理パターン	講義・演習 予習 事例の疾患と治療について調べておく。「看護過程の展開」p58 をノートに整理しておく 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
13, 14	老年看護の展開⑤⑥ 小林小百合	栄養-代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン、睡眠-休息パターン	講義・演習 予習 事例の疾患と治療について調べておく。「看護過程の展開」p59-62 をノートに整理しておく 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく

15, 16	老年看護の展開⑦⑧ 小林小百合	認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン、 役割-関係パターン、セクシュアリティ-生殖パター ン、コーピング-ストレス耐性パターン、価値-信念パタ ーン	講義・演習 予習 事例の疾患と治療について調べておく。「看護過程 の展開」p63-67をノートに整理しておく 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題 援助技術の事前課題（バイタルサイン測定）の 提出（GWE 上 5/31 9 時まで記入）					
17, 18	老年看護の展開⑨⑩ 小林小百合・松戸典 文・武田藍・（ ）	全体像（アセスメントの統合）、プロブレムリストにつ いての説明 看護計画 課題 2：事例のバイタルサイン測定ための行動計 画（行動計画用紙）	講義・演習 予習 事例の疾患と治療について調べておく。「看護過程 の展開」p58をノートに整理しておく 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題 2 提出期限 6/21 授業開始時					
19, 20	老年看護の展開⑪⑫ 小林小百合・松戸典 文・武田藍・（ ）	フィジカルアセスメント 看護過程の事例で実施してみる 課題 2：事例のバイタルサイン測定を実施した評価 （行動計画用紙）	演習 予習 援助技術の事前課題 復習 演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題 スプレッドシートに記入 課題：課題 2 提出期限 6/28 授業開始時					
21, 22	老年看護の展開⑬⑭ 小林小百合・松戸典 文・武田藍・（ ）	評価 看護サマリー 看護過程の振り返り	講義・演習 予習 事例の看護過程の資料を見直す 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく					
23	老年看護の専門性 まとめ 小林小百合・松戸典 文・武田藍・（ ）	老年看護の専門性 CNS 特別講義（ゲストスピー カー） まとめ 課題 3 レポート「老年看護の専門性」	講義 予習 老人看護専門看護師について調べる 復習 学習内容を整理し、疑問点を解決しておく 課題 課題 3 レポート提出期限 7/10（月）12 時					
授業開始前学習	◇準備学習 シラバスを参考に、老年看護学概論をはじめ、基礎看護方法Ⅰ、病態生理学、疾病と治療Ⅰで学習した内容を十分復習し、さらに、基礎看護方法Ⅱ・Ⅲ、看護過程の基礎の学習内容と関連付けながら学習を進めること。春休みの課題に各自でしっかり取り組んでおくこと。 ◇学習上の留意点 ・積極的に授業に参加すること。 ・グループワークを行う機会が多いので、自分の考えをもち他者にきちんと伝える力、他者の多様な意見を受け入れながら、課題解決に向けてグループメンバーと協力して取り組む姿勢を身に付けて欲しい。							
授業内課題の フィードバックの方法	援助技術や事例アセスメントの記録用紙については数回程度の提出を課し、グループワーク時に全体にコメントする。また、必要時個別のコメントによりフィードバックをおこなう。							
テキスト・教材	医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』（メディックメディア） 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論（医学書院）							
参考書								
評価の基準と方法	授業中の課題やレポートなど50%、筆記試験50%によって評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		○	◎	○	
関連科目								
その他	◇学習目標 健康障害や生活障害持つ高齢者の QOL 向上のためのアセスメントの視点について理解し、看護実践のための計画立案の仕方や具体的な看護の方法を習得する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 46 時間+予習・復習時間 44 時間							
実務経験を活かした 教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして講義する。							

科目名称	小児看護学概論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	高橋 泉	必修・選択	必修
担当教員	高橋 泉	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	前期 火曜日 09:00～12:00 後期 火曜日 09:00～12:00	研究室	1-312
授業概要	多様化している現代において、子どもが健やかにこころと身体を育てていくことができるような援助を行うために、小児看護の理念、各発達段階における子どもの身体・心理・社会的特徴とその影響因子、発達の評価、家族の特徴、子どもと家族を取り巻く環境と社会の変化等を学び、小児看護の基礎となる考え方を学習する。また、健康に育つための日常生活の世話の原則と方法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.子どもの看護をする上で必要な理念、看護者の姿勢について述べるができる。 2.小児看護の目標、対象、特徴について説明ができる。 3.家族を理解する上で必要な理論について説明ができる。 4.子どもの成長発達の原理原則と成長過程について説明ができる。 5.各発達段階の子どもの特徴を形態的・機能的・心理社会的側面から具体的に説明できる。 6.子どもの発達課題・成長発達の評価方法について説明できる。 7.子どもにとっての栄養の重要性および各期の栄養の特徴について説明できる。 8.成長発達段階に応じた日常生活の援助について実施できる。 9.子どもにとっての遊び・学習の重要性と発達に応じた援助について説明できる。 10.子どもにとっての安全な環境とその調整について考えることができる。 11.子どもの健康問題の特徴と小児保健政策や子どもの法律を社会背景と関連づけて説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	小児看護学ガイダンス・ 小児看護学の概要 高橋 泉	4年生までの小児看護学関連科目の組み立て 小児看護の特徴と理念	講義 予習：教科書①第1章 P1～8、P15～18を熟読 復習：教科書・資料の整理
2	小児看護における看護 者の倫理 高橋 泉	子どもの権利、小児看護実践者としての姿勢 大切にしたいこと	講義・ディスカッション 予習：教科書①P 18～24を熟読 復習：教科書・資料の整理
3	子どもと家族 高橋 泉	子どもにとっての家族とは何か 家族理論 子どもと家族をとり巻く社会背景と家族の状況	講義・ディスカッション 予習：教科書①第7章 P 154～166を熟読。 復習：教科書・資料の整理
4	子どもの成長発達 1 原理・原則・評価 高橋 泉	新生児期から思春期までの成長発達の原理・ 原則と成長過程および発達評価の概要	講義・ディスカッション 各自の母子手帳を参考に発達の評価の概要を確認する。 予習：教科書①第2章 P 30～51を熟読 復習：教科書・資料の整理 課題1 提示：日常生活の援助に関する自己学習ノートの 作成
5	子どもの成長発達 2 新生児・乳児 高橋 泉	新生児・乳児期の形態的・機能的・心理社会的 発達の特徴	講義 各自の母子手帳と照合しながら成長発達の確認をする 予習：教科書①第5章 P 116～124、第6章 P 132～ 138を熟読し人体の構造と機能と関連づける 復習：教科書・資料の整理
6	子どもの成長発達 3 幼児期 高橋 泉	幼児期の形態的・機能的・心理社会的発達の特 徴	講義 各自の母子手帳と照合しながら成長発達の確認をする 予習：教科書①第5章 P 100～108を熟読 復習：教科書・資料の整理
7	子どもの成長発達 4 学童・思春期 高橋 泉	学童・思春期の形態的・機能的・心理社会的 発達の特徴	講義 予習：教科書①第5章 P 116～124、第6章 P 132～ 138を熟読 復習：教科書・資料の整理 課題2 提示 ①自分で離乳食を調理し、その離乳食を試食し摂食嚥下 についてレポートする。 ②離乳食の進め方について摂食嚥下機能の発達と関連づ けて論述する。

8	子どもの日常生活の援助1 高橋 泉	基本的な生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（休息と睡眠、排泄）	講義 予習：教科書①第4章～6章の関連する箇所を熟読 復習：教科書・資料の整理					
9	子どもの日常生活の援助2 高橋 泉	基本的な生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（衣服、清潔）	講義 予習：教科書①第3章～5章の関連する箇所を熟読 復習：教科書・資料の整理					
10	子どもの日常生活の援助3 高橋 泉	基本的な生活習慣の自立の過程および自立を促す援助（食事）	講義 予習：教科書①P80～87、P101～102、P118～119を熟読 復習：教科書・資料を整理					
11	子どもの日常生活の援助4 (演習) 高橋 泉	摂食嚥下の体験、離乳食の与え方および成長発達評価の実際 自分またはきょうだいの母子手帳を準備する (離乳食嚥下体験は、変更の可能性あり)	演習 予習：教科書の関連する箇所及び課題2の内容を熟読しシミュレーションしておく 復習：教科書・資料の整理					
12	子どもの遊びと学習 高橋 泉	子どもにとっての遊びの意義と発達、学習の意義とその援助	講義 予習：教科書①第4章-6章の関連する箇所を熟読 復習：教科書・資料の整理 Google Formsにて自分またはきょうだいの小児期の事故・外傷のエピソードの提出					
13	子どもの安全と環境 高橋 泉	子どもに起こりやすい事故の特徴と成長発達・環境との関連、事故を予防するための看護	講義・討論 予習：自分自身またはきょうだいの事故・外傷のエピソードを記述し事前提出 復習：子どもの事故を成長発達・環境と関連づけて整理する。					
14	子どもの健康と保健統計 高橋 泉	子どもの健康問題の特徴、小児保健統計、小児保健政策、学校保健	講義・討論 予習：教科書①第1章P8-P15、第8章の関連する箇所を熟読し、各自で「現代の子どもの健康問題」について調べ整理する。 復習：教科書・資料の整理					
15	子どもの健康増進に向けた看護師の役割まとめ 高橋 泉	健康に育てるための看護師の役割をグループで討論し、プレゼンテーションをする。	討論 予習：既習の子どもの成長発達を見直す 復習：成長発達を促す看護師の役割を整理					
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> 各授業に関連する章を熟読し、重要な箇所メーカーを引き、疑問に思ったことを明らかにしましょう。 各授業の終了ごとに、テキスト・授業資料を基に学んだ内容の整理をしておきましょう。 特に、内容と関連する他の科目（生涯発達学、人体の構造と機能ⅠとⅡ、栄養学）も合わせて復習しておきましょう。 							
授業内課題のフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> 第4回～7回目の講義内容は、次の授業の最初に知識確認の小テストを行います。これは、評価対象となります。 課題1と2は、評価対象となります。評価後に返却をします。詳細は授業初回のガイダンスにて説明をします。 							
テキスト・教材	奈良間美保他著『系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学1』（医学書院 最新版）							
参考書	筒井真優美 監修、『小児看護第2版 パーフェクト臨床実習ガイド』（照林社,2017）、愛育研究所編『日本子ども資料年鑑』（KTC 中央出版,2022） その他は講義の中で提示する							
評価の基準と方法	小テスト 20%、定期試験 60%、課題 20%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		△	◎	○		
関連科目	生涯発達学、人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ、栄養学							
その他	学習目標 小児看護の理念、各発達段階における子どもの身体・心理・社会的特徴とその影響因子、発達の評価、家族の特徴、子どもと家族を取り巻く環境と社会の変化等を学び、小児看護の基礎となる知識と考え方を学習する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目の担当教員は、小児看護の実務経験を有している。その経験を活かし、子どもとその家族に興味関心が持てるように、小児看護の理念・小児看護を実践する上で必要な知識と考え方等について講義・討議を行う。							

科目名称	母性看護学概論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	水野 真希	必修・選択	必修
担当教員	高山・那須野・水野	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	母性看護の対象はマタニティサイクルにある母子と家族だけでなく、あらゆるライフステージにある人々への性と生殖に関わる健康を支援する役割も担っている。妊娠、分娩、産褥期にある女性と胎児・新生児及びその家族（以下母子とその家族）に必要なケアを提供するために必要な周産期看護を学ぶ。また、性の健康支援に必要なライフステージにある人々への支援の在り方について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 性の健康の概念を説明できる 社会、特に医療現場での性に関わる課題を説明することができる 子どもから高齢者までの各ライフステージにおける性の健康についての特徴を説明できる それぞれのライフステージにおける疾患や障害などの健康問題と性との関連を説明できる 性に対する自己の価値観や態度を考察する 性の健康に対する支援の在り方、看護師の役割を考察する 日本社会でのマタニティサイクルにある母子と家族に関わる課題について説明することができる マタニティサイクルにある母子と家族への支援体制（社会資源）を説明することができる マタニティサイクルにある家族それぞれの発達や役割を理解し、アセスメントの視点を説明することができる。 正常な過程にある妊産褥婦及び胎児新生児の健康支援のみならず、身体、精神、社会的にリスクを抱える母子を総合的に分析し、必要な支援を考察する マタニティサイクルにある母子と家族への支援の特徴と看護師の役割を説明することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	セクシュアルヘルス1・水野	ガイダンス 性の健康の概念 人の性の成り立ちと仕組み、性の多様性	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
2	セクシュアルヘルス2・水野	社会（特に医療現場）での性をめぐる課題や取り組み	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
3	セクシュアルヘルス3・水野	子どもの生と sexuality education	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
4	セクシュアルヘルス4・水野	生殖期の性の健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
5	セクシュアルヘルス5・水野	疾患や障害と性の健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
6	セクシュアルヘルス6・水野	疾患、治療による生殖への影響	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
7	セクシュアルヘルス・7	更年期・老年期の性と健康	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
8	セクシュアルヘルス8・水野	ライフサイクルにある人々の性と生殖に関わる法と支援体制	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
9	セクシュアルヘルス9・水野	性と生殖をめぐる倫理的課題	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
10	マタニティサイクル1・水野	母子保健の現状と課題	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
11	マタニティサイクル2・高山	マタニティサイクルにある母子と家族に関わる法と支援体制（医療保健福祉）1	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。
12	マタニティサイクル3・那須野	マタニティサイクルにある母子と家族に関わる法と支援体制（医療保健福祉）2	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。

13	マタニティサイクル4・水野	マタニティサイクルにある家族それぞれの発達や役割と支援の在り方	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。					
14	マタニティサイクル5・水野	身体、精神、社会的にリスクを抱える母子と家族への支援	講義 予習：指定された教科書を読んでくる。 復習：配布された資料をまとめる。					
15	マタニティサイクル6・水野	マタニティサイクルにある母子と家族への支援と看護師の役割	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。					
授業開始前学習	講義、グループワーク、ディスカッションで授業を進めていく。 授業前に教科書や配布資料を読み、事前課題をまとめて発表できるように準備しておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でのレポート課題は課題への取り組み姿勢として評価していく。							
テキスト・教材	母性看護学Ⅰ 概論・ライフサイクル 南江堂 最新版 母性看護学Ⅱ マタニティサイクル 南江堂 最新版							
参考書	授業開始時に提示していく							
評価の基準と方法	◇評価基準 ①授業態度及びGWDへの取り組み 20%・・・相互評価表を用いて評価 ②課題への取り組み姿勢 20%・・・同上 ③試験 60%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△		△	◎	○		
関連科目	母性看護学Ⅱ、母性看護学実習							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	実務経験を活かし、マタニティサイクルにある母子と家族だけでなく、あらゆるライフステージにある人々への性と生殖に関わる健康への支援を提供するための看護師の役割や必要な能力について講義をする。							

科目名称	精神看護学概論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	松尾 真規子	必修・選択	必修
担当教員	岡・畠山(卓)・松尾	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	対象となる人を多角的視点から包括的に理解し、あらゆるライフステージにおける心理社会的課題をふまえ、心の健康とは何か、その維持や向上について考える。また、精神保健医療福祉の歴史の変遷、現在の地域精神保健福祉の法や制度をふまえ、精神疾患をもつ人をとりまく現状を理解し、権利擁護やソーシャルインクルージョンの実現に向けた看護の役割を考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本における精神保健医療の動向について説明できる。 2. 精神看護における対象理解の概念について説明できる。 3. ライフサイクルと精神保健について理解し、各発達段階の心理社会的課題を説明できる。 4. 精神保健医療及び看護の歴史について説明できる。 5. 精神保健医療福祉の制度及び社会資源について説明できる。 6. 精神状態の状態像や精神症状について説明できる。 7. 当事者の体験談を通じて、精神疾患をもって生きることを理解し、自分の考えを述べることができる。 8. リエゾン精神看護学について理解し、説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	現代社会と心の問題 松尾真規子	授業の進め方 精神保健医療の近年の動向	講義およびディスカッション 予習：教科書（医学書院）p.2～30 を読んでおく 復習：精神保健医療の動向を整理しておく
2	生物学的側面からの心の理解 松尾真規子	脳の機能と構造 神経伝達物質の作用機序 自律神経系	講義 予習：教科書（南江堂）p.34～43 を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理しておく
3	心理学的側面からの心の理解 松尾真規子	フロイトの精神力動理論 防衛機制	講義・ディスカッション 予習：教科書（医学書院）p.79～90 を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理しておく
4	ライフサイクルと精神保健 松尾真規子	エリクソンの漸成的発達理論 ポウルビイの愛着理論	講義・ディスカッション 予習：教科書（医学書院）p.97～106 を読んでおく 復習：各発達段階の心理社会的課題を整理しておく
5	心の危機とストレス理論 松尾真規子	ストレスとは ストレス反応 ストレスコーピングとストレスマネジメント	講義・ディスカッション 予習：教科書（医学書院）p.31～37 を読んでおく 復習：さまざまなストレス理論について整理しておく
6	対人関係の看護理論（プロセスレコード） 松尾真規子	対人関係の看護理論 プロセスレコードと再構成	講義・グループワーク 予習：教科書（南江堂）p.223～227 を読んでおく 復習：課題に取り組む
7	包括的に人を理解するモデル 松尾真規子	バイオ・サイコ・ソーシャルモデル ストレングスモデル	講義・グループワーク 予習：教科書（南江堂）p.105～110、120～123 を読んでおく 復習：自身の強みについて振り返っておく
8	精神看護に関する理論 セルフケア看護モデル 畠山卓也	セルフケア看護モデルを用いた看護実践のあり方を学び、精神看護におけるアセスメントの特徴について理解する	講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書（南江堂）第VI章 4 および 5 を読んでおく 復習：授業中に配信する課題（Google Forms）に取り組む、期限までに提出すること
9	状態像の理解 松尾真規子	精神状態の状態像の理解	講義 予習：教科書（医学書院）p.159～164 を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理しておく
10	精神症状の理解 松尾真規子	事例を用いた精神症状の理解	講義・グループワーク 予習：教科書（医学書院）p.165～181 を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理しておく
11	精神保健福祉活動と法制度 精神医療の歴史の変遷 畠山卓也	精神科医療の歴史の変遷について理解し、これからの精神医療のあり方について自らの考えを深める	講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書（医学書院）第7章 A および B を読んでおく 復習：授業中に配信する課題（Google Forms）に取り組む、期限までに提出すること

12	精神保健福祉活動と法制度 精神保健福祉法と入院制度、患者の処遇 島山卓也	精神保健福祉法に基づく患者の入院制度や患者の処遇について学び、倫理的な観点から法制度を守り、看護実践に携わることの重要性を理解する	講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書（医学書院）第7章 E および F を読んでくこと 復習：授業中に配信する課題（Google Forms）に取り組み、期限までに提出すること					
13	精神保健福祉に関する社会資源 松尾真規子	精神保健福祉手帳による支援 障害者総合支援法による支援 精神科医療における社会資源	講義 予習：教科書（南江堂）p.249～258 を読んでおく 復習：本日の授業内容を整理しておく					
14	当事者活動とピアサポーター 岡 京子	当事者の体験を通し、リカバリーのプロセスとピアサポートの役割について理解する	講義・グループワーク・ディスカッション 予習：教科書（南江堂） p 122～128（リカバリー） p 215～219（セルフヘルプグループ） p 275～277（ピアサポーター） 復習：授業中に配信する課題（Google Forms）に取り組み、期限までに提出すること					
15	精神看護の専門性 リエゾンコンサルテーションとリエゾン精神看護 島山卓也	リエゾンコンサルテーションとリエゾン精神看護について学び、身体疾患を持ちながら心理的課題に直面している人への看護支援や精神看護専門看護師の行う看護実践について概要を理解する	講義・グループワーク・ディスカッション（教科書は使用しません。当日配付資料があります） 予習：これまでの授業での学びを通して、精神看護専門看護師について知りたいことについて課題に回答する（Google Forms） 復習：授業中に配信する課題（Google Forms）に取り組み、期限までに提出すること					
授業開始前学習	精神疾患をもつ人の手記や精神科医療の報道記事などに触れておく							
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に質疑応答の時間を設ける。リアクションペーパーで質問があった場合には、翌週の授業内にフィードバックを行う。							
テキスト・教材	1. 系統看護学講座 精神看護学（1）精神看護の基礎 第6版 医学書院 2. 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア 改訂第3版 南江堂							
参考書	1. 中井久夫他 看護のための精神医学 医学書院 2. 野末聖香編 リエゾン精神看護 患者ケアとナース支援のために 医歯薬出版株式会社							
評価の基準と方法	小テスト 20% レポート 20% 定期試験 60%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	○			◎	△		
関連科目	精神看護学方法論 精神看護学実習 疾病と治療Ⅴ 人間関係論							
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容	看護師・保健師として臨床及び地域の精神保健医療福祉に携わってきた教員が、その実務経験を活かし、メンタルヘルス及び精神疾患をもつ人をとりまく課題や歴史・制度、社会資源等について講義する。							

科目名称	公衆衛生看護学概論		
科目分類	310-311-12	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	中田 晴美	必修・選択	必修
担当教員	富塚・中田	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動の基本概念などについて学習する。また、地域・集団を対象とした健康ニーズをアセスメントするための技術である地域診断について学習する。さらに、地域・集団のニーズを解決するための看護職の技術である保健指導として家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動について習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念・定義について説明できる。 2. 公衆衛生看護の基盤となる概念について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の歴史の概要を説明できる。 4. 公衆衛生看護の活動方法の概要を説明できる。 5. 演習課題の地域診断に基づく健康課題の抽出までの方法を述べられる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	公衆衛生の理念 中田晴美	公衆衛生看護の理念と公衆衛生看護の歴史的背景	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
2	公衆衛生看護の基盤となる概念 中田晴美	公衆衛生看護の基盤となる概念 ポピュレーションアプローチ 一次予防・二次予防・三次予防 パートナーシップ 住民参加 施策化	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
3	公衆衛生看護の基盤となる概念 中田晴美	公衆衛生看護で用いる理論 プリシード・プロセスモデル コミュニティ・アズ・パートナーモデル	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
4	公衆衛生看護の活動方法 中田晴美	公衆衛生看護の活動方法 家庭訪問 健康相談 健康教育 地域組織活動 地域診断	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
5	地域診断の方法 中田晴美 富塚美和	地域診断の方法 1 演習課題の資料を用いて、情報収集	グループワーク 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域の情報を整理する
6	地域診断の方法 中田晴美 富塚美和	地域診断の方法 2 演習課題の地域のアセスメント	グループワーク 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域のアセスメントをすすめる
7	地域診断の方法 中田晴美 富塚美和	地域診断の方法 3 演習課題の地域のアセスメントとディスカッション	グループワークと発表 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域のアセスメントを完了する
8	まとめ 中田晴美	公衆衛生看護の実際と課題	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：全体のまとめとして、課題レポートを作成する
授業開始前学習	公衆衛生看護学の基礎となる概念や展開方法について学びます。広い視野で考えながらすすめましょう。		

授業内課題の フィードバックの方法	課題レポートは、講評を授業内でコメントします。							
テキスト・教材	1. 標美奈子他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』（医学書院）							
参考書	1. 井伊久美子他編『保健師業務要覧』（日本看護協会出版会）							
評価の基準と方法	試験 60% 課題レポート 40%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	ヘルスプロモーション活動論		
科目分類	310-311-12 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	中田 晴美	必修・選択	必修
担当教員	土屋・中田・大信田	開講時期	2 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域社会の中で生活する人々の生活状況に応じた健康課題を学び、人々が主体的に課題を解決できるよう、地域における保健活動を理解することを目的とする。特に、学校保健・産業保健・口腔保健を中心とした保健活動の基本的な方法と考え方を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスプロモーションの理念・定義について説明できる。 各分野で行われているヘルスプロモーションの概念について説明できる。 ヘルスプロモーションの活動の方法について説明できる。 ヘルスプロモーション活動を行う上での看護職の役割と他職種連携について説明できる。 自らの健康保持増進のための望ましい生活について考えることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ヘルスプロモーションとは 中田晴美	授業ガイダンス ヘルスプロモーションの定義・概念	講義 予習：既習の公衆衛生看護学概論のヘルスプロモーションについて確認する。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
2	ヘルスプロモーション活動とは 中田晴美	「健康日本 21」と行政分野で行われているヘルスプロモーション活動の実際	ディスカッション 予習：「健康日本 21」の概要を調べる。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
3	産業保健 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動①	講義 予習：産業保健、労働者の健康課題等に関連する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
4	産業保健 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動②	講義 予習：産業保健、労働者の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
5	産業保健 根岸茂登美	産業保健におけるヘルスプロモーション活動③	講義 予習：産業保健、労働者の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
6	学校保健 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動①	講義 予習：学校保健、児童生徒の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
7	学校保健 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動②	講義 予習：学校保健、児童生徒の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
8	学校保健 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動③	講義 予習：学校保健、児童生徒の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
9	学校保健 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動④	講義 予習：学校保健、児童生徒の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
10	学校保健 大信田真弓	学校保健におけるヘルスプロモーション活動⑤	講義 予習：学校保健、児童生徒の健康課題等に関する内容を調べ確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。
11	歯科保健 土屋陽子	ライフサイクルに沿った歯科保健、ヘルスプロモーション活動の実際①	講義 予習：「健康日本 21」の「歯・口腔の健康」について読んで内容を確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。

12	歯科保健 土屋陽子	ライフサイクルに沿った歯科保健、ヘルスプロモーション活動の実践②	講義 予習：「健康日本 21」の「歯・口腔の健康」について読んで内容を確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。						
13	メンタルヘルス 土屋陽子・中田晴美 ゲストスピーカー（保健所・市）	保健所におけるメンタルヘルス対策と市におけるメンタルヘルス活動の協働	講義 予習：「健康日本 21」の「心の健康」を読み、内容を確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。						
14	生活習慣と生活習慣病 中田晴美	疾病予防と健康の保持増進	ディスカッション 予習：「健康日本 21」の「主な生活習慣病の発生予防と重症化予防の徹底」を読み、内容を確認しておく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく。						
15	まとめ 中田晴美	まとめ	ディスカッション 予習：「健康日本 21」の「次期国民健康づくり運動の推進に向けて」を読み、内容を確認しておく。 復習：学習内容を振り返り、疑問点を解決する。						
授業開始前学習		公衆衛生看護学概論で学んだ「健康の概念」や「健康日本 21」の基本方針や理念、取り組みなどについて復習、予習をして臨むこと。							
授業内課題の フィードバックの方法		課題レポートは講評を授業内でコメントします。							
テキスト・教材		なし							
参考書		1. 厚生労働省ホームページ『健康日本 21』 2. 平野かよ子他著『ナースングラフィカ健康支援と社会保障②公衆衛生』（メディカ出版）							
評価の基準と方法		試験 60% 課題レポート 40%							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成		
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当						○	◎	△	
関連科目									
その他									
予習・復習の 所要時間		講義時間 30 時間+予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容		本科目は、実務経験のある教員が、その経験を活かして講義を担当する。							

科目名称	医療安全学		
科目分類	310-311-11	単位数	1.0 単位
英文名称	-	授業区分	講義
科目責任者	櫻井 美代子	必修・選択	必修
担当教員	櫻井 美代子	開講時期	1 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	医療における安全管理の理論を理解し、医療安全に関する考え方、社会・医療施設における医療安全のシステム、リスク発生の原理とヒューマンエラーについて学ぶ。また、ケアに伴い発生するインシデントや事故事例を通して患者に害を与えない看護実践について考える。さらに、看護職の法的規定を再確認し、医療の不確実性と医療の質について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療における安全の重要性を理解できる。 2. 医療の現場で発生する事故の種類と発生要因について述べるができる。 3. 事故事例を通して患者に害を与えない看護の役割について考えることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	医療安全の概念	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国の医療安全の取り組み 2. 医療安全と看護倫理 3. 看護における法的責任 	講義： 予習：保健師助産師看護師法について学習しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
2	看護業務と医療事故	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人は何故ミスをするのか 2. 危険要因からみた事故 	講義： 予習：テキスト（第 1 章）を読み疑問点を挙げて置く 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
3	患者の尊厳と医療安全	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と看護倫理のジレンマ 2. 抑制は誰のためにするのか 	講義： 予習：看護倫理綱領について学習しておく 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
4	医療事故を防ぐための条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全とコミュニケーション 2. マニュアルの遵守 3. 看護記録 	講義： 予習：チーム医療の概念を調べて置く 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
5	ヒヤリ・ハット事例の分析	<ol style="list-style-type: none"> 1. PCA とは 2. ヒヤリ・ハット報告書の書き方 	講義： 予習：テキスト（第 8 章）を読む疑問点を挙げて置く 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
6	事故分析と再発防止対策 1	事故事例の分析と再発防止の検討	演習：グループワーク 予習： 復習：グループワークの内容を整理し疑問点を解決しておく
7	事故分析と再発防止対策 2	分析結果と再発防止対策の発表	演習：グループワーク、発表 復習：グループの発表を整理し、疑問点を解決しておく
8	医療の安全と質の保証	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職の条件とは 2. 臨地実習に向けて 	講義： 予習：労働安全衛生について調べて置く 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決しておく
授業開始前学習	看護倫理綱領について読んでから授業に臨むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	グループワークの発表内容は、当日のコメントを加えて最終日に返却する。		
テキスト・教材	1. 川村治子著：医療安全 看護の統合と実践②（医学書院）		
参考書	1. 宮脇美保子著；看護実践のための倫理と責任。中央法規。2014		
評価の基準と方法	定期試験（筆記）100%		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の育成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の育成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の育成		多様な場においてさまざまな健康レベルの人々の課題や地域の課題に対し、根拠に基づいた創造的な看護実践ができる技術力と実践力の育成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間+予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	臨床心理学		
科目分類	310-221-12	単位数	2.0 単位
英文名称	Clinical Psychology	授業区分	講義
科目責任者	鳥羽 翔太	必修・選択	選択
担当教員	鳥羽 翔太	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	臨床心理学の歴史背景を踏まえ、臨床心理学とは何かを学ぶ。また、心理療法の諸理論および行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法、自律訓練法、認知行動療法、薬物療法などの治療の実際を知り、保健医療領域において、支援を必要とする人々と適切な支援の方法を学習する。これらの学習により、基本的な心の働きの知識、人の変化の原理の理解を深め、看護場面で対象者の支援に活かすことのできる基礎的知識を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学の歴史背景を踏まえ、臨床心理学とは何かを説明できる。 2. 心理療法の諸理論（自律訓練法・認知行動療法を含む）について説明できる。 3. 行動観察や面接・心理検査によるアセスメントの視点と方法について説明できる。 4. 臨床心理学の基礎的知識を看護場面で対象者の支援に活かす方法について、具体例を挙げて述べるができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス	・臨床心理学の歴史および概要 ・授業目的に関する説明	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：臨床心理学、科学、理論、実践、心理療法、アセスメント、介入
2	心理療法の理論 1	・精神分析についての概要	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：精神分析、意識と無意識、防衛機制
3	心理療法の理論 2	・自我心理学についての概要	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：自我、生涯発達、発達課題、アイデンティティ
4	心理療法の理論 3	・対象関係論についての概要	(課題解決型学習) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：対象関係、アタッチメント、メンタライゼーション
5	心理療法の理論 4	・来談者中心療法についての概要	(課題解決型学習) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：来談者中心療法、カウンセリング・マインド
6	心理療法の理論 5	・認知行動療法についての概要	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：認知行動療法、条件づけ、モデリング
7	心理療法の理論 6	・システム論的アプローチについての概要	(課題解決型学習) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：家族療法、コミュニティ心理学
8	心理療法の理論 7	・その他の心理療法についての概要	(課題解決型学習) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：自律訓練法、遊戯療法、集団療法
9	異常心理学 1	・精神障害をはじめとした異常心理学に関する講義	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：異常心理学、精神障害
10	異常心理学 2	・発達障害をはじめとした異常心理学に関する講義	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：異常心理学、発達障害
11	心理アセスメント 1	・行動観察によるアセスメントの概要及びその実践	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、観察法、ストレンジ・シチュエーション法

12	心理アセスメント 2	・面接によるアセスメントの概要及びその実践	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、臨床面接法					
13	心理アセスメント 3	・心理検査によるアセスメントの概要及びその実践	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：アセスメント、心理検査、質問紙法、投影法					
14	連携とコミュニケーション	・多職種連携についての基本的な考え方 ・コミュニケーションスキルの習得	(グループワーク) 予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：多職種連携、ソーシャルスキル、アサーション					
15	自己理解とセルフ・マネジメント	・これまで学習した臨床心理学の知見を総合的に捉え、自己理解に役立てる	予習：特に必要ない 復習：配布されたプリントを見返すこと キーワード：統合的視点、自己理解、セルフ・マネジメント					
授業開始前学習	講義に関する理解を深めるため、講義の後に必ず復習をすること。							
授業内課題のフィードバックの方法	レポートについては授業内で適宜フィードバックを行う。							
テキスト・教材	講義プリントを配布する。							
参考書	適宜、授業の中で紹介する。							
評価の基準と方法	受講者数によって、以下のどちらかで評価を行う。 ・小レポートと期末レポート：複数の小レポート（40%）、期末レポート（60%）を総合して評価する。 ・小レポートと期末試験：複数の小レポート（40%）、期末試験（60%）を総合して評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎			△
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	人間関係論		
科目分類	310-211-23 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Human Relations	授業区分	演習
科目責任者	奥井 良子	必修・選択	必修
担当教員	奥井・松尾	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	円滑な人間関係の構築に必要な知識を得るために、人間関係の形成に関する理解を深めることを通して人間の発達過程における対人関係の重要性について学ぶ。また、人間関係における社会的相互作用、自己理解のための理論を理解することを通して、自己理解を深め、多様な価値観を持つ人々と人間関係を良好に保つ能力を身に付ける。さらには、対象との良好な人間関係づくりの基盤となるコミュニケーションの基礎的技術についても学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係の重要性について述べるができる。 2. 発達過程における対人関係の特徴について述べるができる。 3. 自己理解を深めるための理論と技術について説明することができる。 4. 人間関係形成におけるコミュニケーションの重要性について述べるができる。 5. コミュニケーションの基礎的技術について説明することができる。 6. 援助場面におけるコミュニケーションのあり方について、多角的に検討することができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	ガイダンス 人間関係とは 奥井 良子	本授業の進め方 人間関係に関する基本的概念	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
2	発達過程と人間関係 奥井 良子	幼児、小児、青年期の発達過程と人間関係成立の特徴 成人、老年期の発達過程と人間関係	講義 予習：教科書第 1 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
3	社会的相互作用 奥井 良子	社会的相互作用と社会的役割 援助的役割	講義 予習：教科書第 2 章、4 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
4	看護における人間関係 奥井 良子	看護における人間関係の特徴	講義 予習：教科書第 11 章、第 12 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
5	看護における人間関係 奥井 良子	様々な健康状態にある人々との人間関係	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
6	看護における人間関係 奥井 良子	保健医療福祉の専門職間の人間関係 チームワーク	講義 予習：教科書第 10 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
7	看護における人間関係 奥井 良子	「患者になること、患者の家族になること」 小テスト	講義、テスト 予習：第 1 回から 6 回の講義内容の復習。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
8	コミュニケーション 松尾 真規子	コミュニケーションの基本的概念と構造 コミュニケーションの基礎的技術	講義 予習：教科書の第 5 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
9	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	援助場面におけるコミュニケーション	講義 予習：教科書の第 6 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
10	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	相談援助の技術 1	講義 予習：教科書の第 7 章をよく読んでくる。 復習：本日の授業を振り返り、ノートにまとめる。
11	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子, 奥井良子	相談援助の技術 2	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回の授業内容を振り返っておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。
12	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子	グループセラピー 1	講義 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。
13	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子, 奥井良子	グループセラピー 2	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：グループワークでの気づきを整理しておく。

14	援助場面におけるコミュニケーションと人間関係 松尾 真規子・奥井良子	援助場面におけるコミュニケーションの基礎的技術の活用	演習（グループワーク・ロールプレイ） 予習：前回のグループワークにおける課題を整理しておく。 復習：援助場面におけるコミュニケーションについての自己の課題を整理しておく。						
15	人間関係形成とコミュニケーション 松尾 真規子・奥井良子	人間関係形成と看護への活用	講義 予習：これまでのノートを振り返り、疑問点を整理しておく。 復習：今まで配布された資料や、自分でまとめたノートをよく読んでおく。						
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		第4回授業でレポート課題提示し、レポートに対して個別にフィードバックする。 第7回授業内で小テストを行い、解答内容に応じて補足説明を行う。 授業後のリアクションペーパー及びグループワークやロールプレイに関する気づきに対しては、授業内でフィードバックする。							
テキスト・教材		系統看護学講座 基礎分野 人間関係論第3版 医学書院							
参考書									
評価の基準と方法		評価比率は、小テスト 15%、課題レポート 25%、最終試験 60%とする。 2/3以上の出席（リアクションフォームの提出）で評価の対象となる。							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○		◎		△	
関連科目									
その他									
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間							
実務経験を活かした教育内容		本科目は奥井、松尾 2 名の教員が協同で指導する科目である。 奥井は、心理臨床で臨床心理士として、また保健・医療の臨床で看護師としての実務経験を有し、人間関係に関する基本的概念、発達過程による人間関係の形成および社会的役割、医療者としての人間関係について講義する。 松尾は、心理臨床、地域の保健医療福祉の現場で保健師・精神保健福祉士としての実務経験を有し、コミュニケーションの概念や技術についての講義、ロールプレイを担当する。							

科目名称	公衆衛生学		
科目分類	310-211-13	単位数	1.0 単位
英文名称	Public Hygiene	授業区分	講義
科目責任者	松木 勇樹	必修・選択	必修
担当教員	松木・井上(浩)	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>公衆衛生の理念と目的、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学習し、集団の疾病予防や健康増進へのアプローチの方法等、保健予防・医療に関する知識を習得する。また、主要疾患の現状と予防、衛生行政、医療制度、地域保健、母子保健、高齢者保健、学校保健、産業保健、医療、福祉等の状況、食品衛生、感染症予防などについて、各種統計資料を参考にしながら、保健統計指標の動向や意義を理解する。また、保健医療行政などの保健・医療システムについて、社会構造の変化を捉えた健康増進実践活動としての健康サービス、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。</p> <p>◇教育内容 「別表 3：健康支援と社会保障制度 別表 1：個人・家族・集団・組織の支援」</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念を説明できる。 2. 人口動態・人口静態が理解できる。 3. 地域・母子・小児・学校保健が理解し説明できる。 4. 成人保健について理解し説明できる。 5. 高齢者保健と精神保健の現状を理解し説明できる。 6. 国民栄養・食品衛生について理解し説明できる。 7. 環境保健・産業保健について理解し説明できる。 8. 国際保健協力の仕組みと現状を理解し説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	健康の概念、予防医学 松木勇樹	健康の概念について、WHO の健康の定義、健康観の歴史の変遷、予防医学の概念、ヘルスプロモーションの概念などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
2	人口静態・人口動態統計 松木勇樹	国勢調査の方法と現状、人口の推移、将来推計人口、人口動態統計の要素（出生・死亡・婚姻・離婚・死産）の定義と各々の指標、生命表、平均寿命、平均余命などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
3	母子保健・小児保健 松木勇樹	母子保健の概要、母子保健の指標と現状、家族計画、乳児の保健、小児保健の現状、母子保健行政などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
4	学校保健・成人保健 松木勇樹	学校保健の概要と現状の問題点、学齢期の健康状態、学校保健行政などについて学ぶ。また成人保健については生活習慣病、健康日本 21 などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
5	高齢者保健・精神保健 松木勇樹	高齢者保健の現状の問題点、高齢者の健康状態と疾患、介護保険などについて学ぶ。また精神保健と障害者保健についても学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
6	国民栄養・食品衛生 井上浩一	国民栄養の現状と問題点、栄養障害、国民健康・栄養調査の概要について学ぶ。また食品衛生の意義と現状、食中毒の分類、食中毒の予防などについて学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
7	環境保健、感染症 松木勇樹	生活環境の指標と疾病予防、地域環境と健康障害、公害の歴史、地球環境問題と健康影響などについて学ぶ。また感染症の疫学について概要を学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。疑問点は次回の授業時に質問すること。
8	産業保健・国際保健 松木勇樹	産業保健の定義と目的、労働災害の現状、産業看護、職業病などについて学ぶ。また国際保健協力のしくみと現状について学習する。	予習：教科書をよんでおくこと。 復習：授業後内容を復習し、教科書の章末問題は各自解いておくこと。

授業開始前学習								
授業内課題の フィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	松木秀明編；よくわかる専門基礎講座 公衆衛生，金原出版							
参考書	国民衛生の動向，厚生労働統計協会 鈴木庄亮監修；シンプル公衆衛生学，南江堂							
評価の基準と方法	定期試験（100%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目	疫学/保健統計 I							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回の授業で質問する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	疫学/保健統計Ⅱ			
科目分類	310-221-14	単位数	2.0 単位	
英文名称	Epidemiology and Health statistics Ⅱ		授業区分	講義
科目責任者	松木 勇樹	必修・選択	選択	
担当教員	松木(秀)・松木(勇)		開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-	
授業概要	<p>疫学/保健統計Ⅰの学習をふまえ、保健統計に関する各種データの処理方法や解析方法について学習する。疫学的調査や研究を正しく実施し、その結果に基づいた正しい意志決定を行うための基本的知識を身につける。また、保健統計資料の収集とその活用方法について理解し、応用ができるようになることを目指す。地域における保健予防対策の企画、立案および評価のための基礎的能力を養う。</p> <p>◇教育内容 「別表 3：健康支援と社会保障制度 別表 1：疫学、保健統計学」</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症・食中毒の発生時に保健師として対応する事項が説明できる。 2. 生活習慣病の疫学について理解でき、また研究計画が立案できる。 3. 地域保健における疫学の応用が理解でき、実践できる。 4. 疫学が健康政策にどのように応用されているかを理解し、説明することができる。 			
アクティブ・ラーニング 型授業	無			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題	
1	健康指標 松木勇樹・松木秀明	疫学・保健統計学Ⅰで学習した研究指標について、さらに内容を深める。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
2	保健統計学 松木勇樹・松木秀明	帰無仮説の考え方、統計学を疫学に応用する事例で、仮説検定の理解を深める。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
3	保健統計学 松木勇樹・松木秀明	統計学で学習した対応のある t-検定について具体的な医療データで検定を行う。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
4	保健統計学 松木勇樹・松木秀明	対応のない t-検定を利用し、具体的医療データで検定を行う。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
5	保健統計学 松木勇樹・松木秀明	χ^2 検定、オッズ比、相対危険度、寄与危険度、寄与危険割合を計算し、因果関係を判断する能力を養う。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
6	保健統計学 松木勇樹・松木秀明	多変量解析の疫学への応用について学ぶ。	予習：資料集を配布するので該当箇所を読んでおく。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
7	感染症の疫学 松木勇樹・松木秀明	食中毒発生時の保健師の役割、マスターテーブルの作成法、原因食品の単球包について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。 課題提出：マスターテーブルに関する演習問題	
8	感染症の疫学 松木勇樹・松木秀明	感染症発生時の疫学について、具体的事例で学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
9	環境保健の疫学 松木勇樹・松木秀明	過去の公害の発生とその疫学的手法と解釈について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
10	環境保健の疫学 松木勇樹・松木秀明	生活環境の変化と健康影響について、疫学視点から学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
11	がんの疫学 松木勇樹・松木秀明	がんの疫学について、過去および現在の疫学調査の概要を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
12	栄養の疫学 松木勇樹・松木秀明	栄養障害の疫学的研究について学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	
13	生活習慣病の疫学 松木勇樹・松木秀明	生活習慣病と疫学的研究について、過去の事例から学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。	

14	生活習慣病の疫学 松木勇樹・松木秀明	現在の生活習慣病と疫学的研究の概要を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。					
15	健康政策と疫学 松木勇樹・松木秀明	健康政策への疫学的研究の応用を学ぶ。	予習：資料集の該当箇所を読んでおくこと。 復習：授業後、練習問題を解けるようにしておくこと。					
授業開始前学習	シラバスに沿って授業をすすめる。したがって資料集を読み、事前学習を必ずしてくること。							
授業内課題の フィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	「疫学資料集Ⅰ・Ⅱ」を配布する。							
参考書	中村好一著；基礎から学ぶ楽しい疫学，医学書院							
評価の基準と方法	定期試験（90%） 提出物（10%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○			△	◎	○		
関連科目	疫学/保健統計Ⅰ、公衆衛生学							
その他	◇学習上の留意点 授業終了後は、理解できなかった箇所をノートに整理し、次回の授業で質問すること。 ◇提出物の課題 食中毒におけるマスターテーブル法に関する演習問題							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	母性看護学Ⅱ		
科目分類	310-321-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Maternal-Child Nursing Ⅱ	授業区分	演習
科目責任者	那須野 順子	必修・選択	必修
担当教員	高山・那須野・水野	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	マタニティサイクルにある母子と家族の身体的・心理社会的変化とその看護について学ぶ。マタニティサイクルの各期における変化を多面的に捉え、健康の維持増進、正常からの逸脱の予防および異常時の看護を学ぶ。さらに、その看護を実践するための看護技術を学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルにある母子と家族の身体的・心理社会的変化と適応過程から、対象の理解ができる。 2. 正常な経過をたどる母子と家族への看護を理解できる。 3. 正常からの逸脱および異常の状態にある母子と家族への看護を理解できる。 4. 産褥期にある母子および家族の紙上事例から情報収集し、論理的に解釈・分析・統合することで、適正な看護上の課題を導き出すことができる。さらにその課題に対して、エビデンスに基づいた目標設定・計画立案ができる。(看護過程) 5. 母性看護実践のための基本的看護技術を習得できる。(演習) 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 母性看護学の概念 那須野順子、水野真希、高山奈美	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 授業内容のオリエンテーション 3. 母性看護学における基本的用語 4. 母性看護学とは 	<p>講義</p> <p>予習：2 年次に既習済みの「母性看護学Ⅰ」で使用した教科書や講義資料を復習し、母性の特性と理念についてノートにまとめる。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。</p>
2-3	妊娠期の看護① 妊娠期の看護② 高山奈美、那須野順子	<ol style="list-style-type: none"> ① 妊娠経過に伴う母体と胎児、家族の変化とヘルスアセスメント ② 妊婦の健康診査とケア 	<p>講義</p> <p>予習：教科書や参考図書の該当箇所を熟読し、『妊娠期』の予習資料を完成させる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、予習資料を補完する。また学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。疑問点は教科書等で調べ、ノートに記載しておく。</p>
4-5	分娩期の看護① 分娩期の看護② 高山奈美	<ol style="list-style-type: none"> ① 分娩経過に伴う産婦の心身の変化、産婦および胎児のヘルスアセスメント ② 分娩各期のケア 	<p>講義</p> <p>予習：教科書や参考図書の該当箇所を熟読し、『分娩期』の予習資料を完成させる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、予習資料を補完する。また学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。疑問点は教科書等で調べ、ノートに記載しておく。</p>
6-8	産褥期の看護① 産褥期の看護② 産褥期の看護③ 那須野順子、高山奈美	<ol style="list-style-type: none"> ① 正常な産褥経過とヘルスアセスメント ② 褥婦の健康診査とケア ③ 授乳方法の確立に向けた支援 	<p>講義</p> <p>予習：教科書や参考図書の該当箇所を熟読し、『産褥期』の予習資料を完成させる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、予習資料を補完する。また学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。疑問点は教科書等で調べ、ノートに記載しておく。</p>
9-10	新生児期の看護① 新生児期の看護② 那須野順子	<ol style="list-style-type: none"> ① 新生児の特徴、新生児期の正常経過とヘルスアセスメント ② 子宮外生活適応過程とケア 	<p>講義</p> <p>予習：教科書や参考図書の該当箇所を熟読し、『新生児期』の予習資料を完成させる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、予習資料を補完する。また学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。疑問点は教科書等で調べ、ノートに記載しておく。</p>
11-14	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の異常と看護 2. 分娩期の異常と看護 3. 産褥期の異常と看護 4. 新生児期の異常と看護 高山奈美、那須野順	<ol style="list-style-type: none"> 1. ハイリスク妊婦への看護の実際 2. 分娩期の正常経過からの逸脱と看護、産科処置と産科手術 3. 産褥期の正常経過からの逸脱と看護 4. 新生児期の正常経過からの逸脱と看護 	<p>講義</p> <p>予習：教科書や参考図書の該当箇所を熟読し、講義に該当する各期の予習資料を完成させる。また、疑問点を挙げておく。</p> <p>復習：講義資料と教科書を復習し、予習資料を補完する。また学んだこと、感じたこと、疑問点等をノートに整理しておく。疑問点は教科書等で調べ、ノートに記載しておく。</p>

	子								
15	妊娠・分娩・産褥・新生児期のヘルスアセスメント 水野真希、高山奈美、那須野順子	妊娠・分娩・産褥・新生児期のヘルスアセスメントの実際							
16-25	看護過程の展開 那須野順子、高山奈美、水野真希	産褥期における母子および家族における看護過程の展開 1. 母性看護における看護過程とは 2. アセスメントの実際 3. 全体像、長期目標・短期目標の設定 4. 看護計画の立案							
26	帝王切開を受ける妊産褥婦への看護 特別な配慮を要する母子への看護 那須野順子	1. 帝王切開を受ける妊産褥婦への看護 2. 帝王切開事例における看護過程の実際 3. 特別な配慮を要する母子への看護							
27-30	母性看護実践のための基本的看護技術 那須野順子、高山奈美、水野真希	1. 褥婦の健康診査 2. 新生児の健康診査							
授業開始前学習									
授業内課題のフィードバックの方法		授業内で、口頭および提出課題の添削等を通して、随時フィードバックを行う。							
テキスト・教材		1. 森恵美他：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①』（医学書院） 2. 大平光子他編：『母性看護学Ⅱ マタニティサイクル第3版』（南江堂） 3. 平澤美恵子他監修：『写真でわかる母性看護技術 アドバンス』（インターメディカ）							
参考書		1. 森恵美他著：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②』（医学書院） 2. 医療情報科学研究所：『病気がみえる vol10 産科第4版』（メディックメディア） 3. 馬場一憲編：『目でみる妊娠と出産』（文光堂）							
評価の基準と方法		定期試験(筆記) 60%、事前学習課題・課題レポート等すべての提出課題 40%							
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針		教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			○	△		◎	○	○	
関連科目		疾病と治療Ⅳ：妊娠・分娩・産褥・新生児期の各期における異常の病態生理についての理解が不可欠である。							
その他		1. 学修内容は本シラバスのとおりだが、講義や演習日程については初日のガイダンスにて説明を行う。 2. 『事前学習課題』は評価対象となるため、提示されてから提出期限までに計画的に進めておくこと。 3. 学修する範囲が広いので、『予習資料』は講義前に必ず行ってから受講すること。 4. 事前学習課題、予習資料、講義資料等はすべて「母性看護学実習」で使用するため、整理し、ファイリングすること。							
予習・復習の所要時間		講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容		本科目は複数の担当者がオムニバスおよび協同で指導する科目であり、担当教員全員が助産師としての実務経験を有している。本科目では、その経験を活かした講義・演習を行う。							

科目名称	小児看護学Ⅱ		
科目分類	310-321-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Pediatric Nursing Ⅱ	授業区分	演習
科目責任者	秋田由美	必修・選択	必修
担当教員	秋田・木村・橋浦	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	さまざまな健康レベルにある子どもと家族が体験している状況に対して適切な援助を行うために、病気や入院が子どもと家族に及ぼす影響、子どものフィジカルアセスメント、子どもによくみられる症状、さまざまな状況および健康レベルにある子どもと家族への援助など基礎的な知識・援助方法を習得する。また、事例を用いた看護過程をとおして子どもや家族の抱えている問題・課題の解決に必要な思考を身につけるとともに、主体的にものごとに取組む姿勢や自己洞察力を培い、小児看護の果たす役割を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.健康障害や入院が子どもと家族に与える影響と援助について述べるができる。 2.子どもと家族における倫理的課題と看護の役割について述べるができる。 3.子どもの看護に必要な技（フィジカルアセスメント・コミュニケーション）の目的・方法を述べるができる。 4.子どもの観察技術（バイタルサインズ測定、身体計測）を実施することができる。 5.子どもによく見られる症状と援助について述べるができる。 6.様々な状況や健康レベルにある子どもと家族の状況を理解し、ニーズを充足するための看護を説明することができる。 7.演習事例の子どもの身体・心理・社会的側面からみた影響を説明できる。 8.演習事例の子どもと家族の看護上の問題を説明できる。 9.演習事例の子どもと家族のニーズを充足するためのケア計画を立案することができる。 10.演習事例の個性性に合わせた看護援助を実施できる。 11.看護過程演習における自己の学びを表現することができる。 12.リーダーおよびメンバーとしての役割を理解した上で各演習に参加することができる。 13.医療・保健・福祉・教育との連携の中での小児看護の役割について述べるができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1・2	健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 ①秋田由美 ②橋浦里実	①ガイダンス、健康障害や入院による子どもと家族の変化、倫理的課題、保健・福祉・教育との連携、ストレス状況にある子どもと家族の対処 ②小児病棟の特徴、起こりやすい事故とその予防	①授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①p196～223を熟読する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ②授業方法：講義 予習：教科書①p212～223を熟読する。 復習：教科書・講義資料を復習し、小児病棟で起こりやすい事故と予防のための看護を整理する。
3・4	③さまざまな状況にある子どもと家族の看護 ④子どもの看護に必要な技術 秋田由美	③診断・治療にともない様々な制限をうける子どもや検査や処置を受ける子どもと家族への看護 ④子どものフィジカルアセスメントの特徴と実施方法、発達のアセスメント	③授業方法：講義 予習：第1・2回の講義を復習（特に教科書①p196～209、216～218を熟読）したうえで、教科書①p416～478の病院で実施されている検査や処置の種類とその方法を整理し、それらが子どもにとってどういう体験かを考える。 復習：小児特有の看護技術について、教科書・講義資料をもとに整理する。 ④授業方法：講義・グループワーク 予習：教科書①p284～342を熟読し、事前課題を充実させる。 復習：事前課題のケア計画を加筆修正する。
5・6	小児看護技術演習 秋田由美 橋浦里実 木村節子	身体計測、VS測定、おむつ交換など小児特有の看護技術	授業方法：技術演習、グループワーク 予習：ビジュランクラウド「看護」→「小児のフィジカルアセスメント」→「乳児～6か月のフィジカルアセスメントを中心に（約30分）」を視聴し、技術演習のイメージしておく。 復習：事前課題のケア計画に追加修正し、自己のケア計画に何が不足していたかを整理する。実施後の評価を記載し、レポートする。
7・8	⑦健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美 ⑧小児看護過程演習 秋田由美	⑦子どもによくみられる症状（下痢・嘔吐・脱水）の発生機序及び子どもへの影響とその看護 ⑧小児看護過程（ガイダンス、情報の整理）	⑦授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①p383～p397を熟読する。子どもの腎機能の発達について整理する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ⑧授業方法：講義 予習：第6回講義で提示した胃腸炎の子どもの事例を熟読し、教科書②p266～268、277～280も合わせて読み、分からないことを調べ、整理する。 復習：アセスメント例を熟読する。

9・10	健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 ゲストスピーカー、橋浦里実	心身障害（ハイリスク新生児含む）のある子どもと家族の看護Ⅰ・Ⅱ	授業方法：講義 予習：教科書①p229～238・480～492、②p18-64を熟読し、疾病と治療Ⅴ（小児）の復習をしておく。ビジュラクラウド「看護→ライフストーリー Vol.3」を視聴する。 復習：教科書・講義資料を整理する。障害を持つ子どもと家族への看護について自分の考えをまとめる。
11・12	①健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 木村節子 ②健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 ゲストスピーカー	①先天的な健康障害をもつ子どもと家族の看護 ②小児医療における保育・遊び	①授業方法：講義 予習：教科書②p2-15、66-84を熟読し、疾病と治療Ⅴ（小児）の復習をしておく。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ②授業方法：講義・演習 予習：医療保育専門士について調べ整理しておく。 復習：医療保育専門士の役割、専門性について整理し、小児医療における保育・遊びの意味、重要性、役割について自分の考えをまとめる。
13・14	さまざまな状況にある子どもと家族の看護 秋田由美	③手術を受ける子どもと家族への看護（痛みの看護を含む） ④子どもによくみられる症状（発熱、発疹）の発生機序及び子どもへの影響とその看護	③授業方法：講義 予習：2年次の成人看護学Ⅱ（急性期）の周術期を復習したうえで、教科書①p256～268、344～353を熟読し、子どもの術前・術後管理を整理する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ④授業方法：講義、ディスカッション 予習：教科書①p377～383、408～410を熟読し、体温上昇時に体内で何が起るのか、発疹の種類、発疹を起こす疾患について整理する。第8回で提示した川崎病の子どもの事例について教科書②p205～207、218～222や図書館の資料等を参考に、看護過程の情報
15・16	小児看護過程演習 秋田由美 橋浦里実 木村節子	看護過程演習（情報の整理、アセスメント）	授業方法：講義、グループワーク 予習：第8回授業で提示した川崎病の子どもの事例について看護過程のアセスメントを記述して持参する。 復習：看護過程のアセスメントの追加修正をする。
17・18	子どもの看護に必要な技術 秋田由美 橋浦里実 木村節子	子どもの安全（ベッド柵の上げ下ろし）、シーネ固定法・点滴確認、子どもの内服など小児特有の看護技術	授業方法：技術演習、グループワーク、発表 予習：第4回講義で配布した資料をもとに小児特有の看護技術について整理する。 復習：上記予習の加筆・修正をする。
19・20	子どもの看護に必要な技術 秋田由美 橋浦里実 木村節子	看護過程事例（川崎病）の環境整備・観察など小児特有の看護技術	授業方法：シミュレーション、グループワーク、発表 授業方法：技術演習、グループワーク、発表 予習：川崎病事例の子どもの環境整備、VS測定のカケア計画を作成する。 復習：ケア計画の追加・修正、実施評価を記載する。
21・22	①健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美 ②健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 木村節子	①慢性状態にある子どもと家族の看護 ②外来における子どもと家族への看護	①授業方法：講義、グループワーク 予習：教科書①p248-251を熟読し、慢性状態にある子どもと家族の看護において重要なことは何かを考え、整理する。また、教科書②p113～117、128～134を熟読し、気管支喘息とその看護について整理する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ②授業方法：講義 予習：教科書①p223-228を熟読する。 復習：教科書・講義資料を整理する。
23・24	③健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美 ④小児看護過程演習 秋田由美 橋浦里実 木村節子	③子どもによくみられる症状（呼吸困難）の発生機序及び子どもへの影響とその看護 ④看護過程演習（情報の整理～看護上の問題課題の抽出）	③授業方法：授業、ディスカッション 予習：教科書①252～256、353～360を熟読し、子どもが呼吸困難に陥りやすい要因について整理する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ④授業方法：グループワーク、発表 予習：第20回で提示した喘息の子どもの事例について、看護過程の情報・知識の整理、アセスメントを記載する。 復習：看護過程の様式の追加、修正をする。
25・26	小児看護過程演習 秋田由美 橋浦里実 木村節子	看護過程演習（問題の要因、看護の方向性）	授業方法：グループワーク、発表 予習：第20回で提示した喘息の子どもの事例について、看護過程のアセスメントを記載する。 復習：様式の追加、修正をする。看護過程に基づいたケア計画を書く。
27・28	子どもの看護に必要な技術 秋田由美 橋浦里実 木村節子	看護過程事例の観察（子どもの吸入）、環境整備など小児特有の看護技術	授業方法：シミュレーション、グループワーク、発表 授業方法：技術演習、グループワーク、発表 予習：喘息事例の子どもの環境整備、薬液吸入のケア計画を作成する。 復習：ケア計画の追加・修正、実施評価を記載する。

29・30	㊸さまざまな状況にある子どもと家族の看護 橋浦里実 ㊹健康障害を持ち生活・入院する子どもと家族の看護 秋田由美	㊸特殊な状況（虐待、不登校、災害、自死の遺族など）の体験をしている子どもと家族の看護 ㊹終末期にある子どもと家族の看護	㊸授業方法：講義 予習：教科書①p239～246、p494～511を熟読し、災害や児童虐待の種類を整理する。 復習：教科書・講義資料を整理する。 ㊹授業方法：講義 予習：教科書①p269～282を熟読し、終末期にある子どもと家族、その看護をイメージする。 復習：教科書・講義資料を整理する。					
授業開始前学習	春休み課題として事前に提示された疾病と治療Ⅴ（小児）の復習とケア計画の作成、知識の整理を必ず行う。							
授業内課題のフィードバックの方法	課題は授業内の発表やグループワークで共有し、全体にフィードバックする。またグループワークはピア評価、看護過程はルーブリック評価を行い、それぞれ個別にGWE上でフィードバックする。							
テキスト・教材	奈良間美保他著『系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学①②』（医学書院 2021） ※予習の教科書①または②は上記テキストを示す。							
参考書	筒井真優美 監修『小児看護実習ガイド』（照林社 2017）、その他は適宜講義内で提示する。							
評価の基準と方法	定期試験（60%）、課題内容および演習での授業態度（40%）で総合的に評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎	○	○	
関連科目	疾病と治療Ⅴ（小児）、小児看護学Ⅰ							
その他	予習を前提として授業を進行します。予習は必ず行ってきてください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が共同で指導する科目であり、担当教員全員が小児看護の実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、受講生が病気や障害のある子どもと家族に対する看護を考え実践できるように、講義・ディスカッション、看護過程のグループワークや技術演習を行う。							

科目名称	成人看護学Ⅲ(慢性期)		
科目分類	310-321-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Adult Health Nursing Ⅲ (Chronic care)	授業区分	演習
科目責任者	長嶋 祐子	必修・選択	必修
担当教員	飯塚・奥井・小林(優)・近藤・長嶋・野村・吉野	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	成人期に起こりやすい疾患や障害のうち、慢性の経過をたどり、生活上のサポートや生涯にわたって生活のコントロールを必要とする対象への看護を学ぶ。国民の死因統計上の課題となる疾患、慢性難治性疾患、あるいはさまざまな理由により身体機能を喪失した対象をとりあげ、対象のセルフケア能力を高める支援、家族へのサポート、社会的支援システムなどを含めた援助方法(援助技術含む)について学習する。慢性の経過をたどり、終末を迎えた対象の支援では、がんをとりあげ、全人的苦痛を緩和するための支援、終末期の充実した生活のあり方を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の特徴と治療が対象の生活にどのような影響を及ぼすか説明できる。 2. 薬物療法・放射線療法・食事療法・運動療法などの治療を受ける患者の援助を説明できる。 3. 慢性疾患の急性増悪期にある模擬患者の看護過程の展開ができる。 4. 終末期にある患者の全人的苦痛を理解し、看護援助について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1 2	慢性病とその看護-1 長嶋祐子 奥井良子 近藤浩子	慢性疾患を抱え生活する人と家族の特徴と看護 オリエンテーション 成人患者のセルフケアや学習を推進するための基本	講義・演習(グループワーク) 予習: 事前レポート 復習: 授業内容の整理
3 4	看護過程演習-1 成人看護学教員	慢性期看護の看護過程の概要説明 慢性心不全患者の看護過程(1) -情報収集・アセスメント-	演習(グループワーク、発表) 予習: 事前レポート(看護過程) 復習: 各自、看護過程レポート修正
5 6	看護過程演習-2 成人看護学教員	慢性心不全患者の看護過程(2)(3) -関連図・全体像- -看護計画-	演習(グループワーク、発表) 予習: 事前レポート(看護過程) 復習: 各自、看護過程レポート修正
7 8	看護過程演習-3 成人看護学教員	慢性心不全患者の看護過程(4)(5) 看護計画発表、実施、評価 看護過程まとめ	演習(グループワーク、発表) 予習: 事前レポート(看護過程) 復習: 各自、看護過程レポート修正
9 10	慢性病とその看護-2 長嶋祐子	脳・神経機能障害の退院支援が必要な人への看護 脳梗塞・脳出血後遺症をもって生活する人への支援 神経難病をもって生活する人への支援	講義 予習: 教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習: 各自、授業内容の整理
11 12	慢性病とその看護-3 長嶋祐子	消化・排泄機能障害を抱えて生活する患者とその家族への看護 潰瘍性大腸炎やクローン病をもって生活する人への支援 栄養・代謝機能障害を抱えて生活する患者とその家族への看護 肝硬変をもって生活する人への支援	講義 予習: 教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習: 各自、授業内容の整理
13 14	慢性病とその看護 4 長嶋祐子	血液・免疫機能障害を有する人とその家族への看護 HIV 感染症/AIDS 診断～療養生活 運動機能障害を有する人とその家族への看護 慢性関節リウマチをもって生活する人への支援(ステロイド)	講義 予習: 教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習: 各自、授業内容の整理
15 16	慢性病とその看護-5 奥井良子 近藤浩子	呼吸機能障害をもつ人とその家族への看護 慢性呼吸不全もつ人への看護 呼吸器感染症をもつ人への看護	講義 予習: 教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習: 授業内容の整理

17 18	慢性病とその看護-6 長嶋祐子	循環機能障害をもつ人とその家族への看護 弁膜症、不整脈などによって心不全に至った人への看護 がん治療を受ける人の症状マネジメントと看護	講義 予習：教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習：授業内容の整理					
19 20	技術演習1・2 成人看護学教員	循環機能障害のある患者への看護 標準 12 誘導心電図/循環器に必要な検査 呼吸機能障害のある患者への看護 呼吸を助ける技術	技術演習 予習レポート 復習レポート					
21 22	慢性病とその看護-7 近藤浩子 長嶋祐子	血液・免疫機能障害をもつ人とその家族への看護 悪性リンパ腫で治療を受ける人への看護（化学療法） 白血病で治療を受ける人への看護（骨髄移植）	講義 予習：教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習：授業内容の整理					
23 24	慢性病とその看護-8 奥井良子	代謝・内分泌機能障害をもつ人とその家族への看護 糖尿病をもって生活する人への看護（インスリン療法） 糖尿病の合併症を併発した際の生活と援助"	講義 予習：教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習：授業内容の復習					
25 26	技術演習3・4 成人看護学教員	糖尿病を持って生活する人への看護 血糖自己管理とインスリン自己の看護技術 感染症、放射線治療を受ける人への看護 感染防御、放射線防護の看護技術	技術演習 予習レポート 復習レポート					
27 28	慢性病とその看護-9 奥井良子	腎機能障害を持つ人とその家族への看護 慢性腎疾患で透析を受ける人への看護 内分泌機能障害をもつ人とその家族への看護 甲状腺疾患で薬物療法を受けて生活する人への看護	講義 予習：教科書該当ページを読み、疑問点を整理する。 復習：授業内容の整理					
29 30	慢性病とその看護-10 長嶋祐子	終末期にある患者と家族への看護 慢性疾患をもって生活する人の看護（まとめ）	講義 予習：授業の総復習 復習：授業内容の整理					
授業開始前学習	看護過程レポートの指定部分まで取り組む。 課題レポートを作成し、グループワーク・発表の準備を行う。							
授業内課題の フィードバックの方法	技術演習、看護過程（グループワーク）実施の際は課題を課す。課題（ワークブック・レポート等）の具体的内容および返却・解説のタイミングについては、初回授業ガイダンス時に提示する。							
テキスト・教材	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1～11]（医学書院、東京） 2. 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美編 成人看護学『慢性期看護』、第4版、南江堂							
参考書	1. 野川道子編、『看護実践に活かす中範囲理論』（メジカルフレンド） 2. マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳、『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』（照林社） 3. マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳、『アセスメント覚え書 機能的健康パターンと看護診断』（医学書院） 4. T.ヘザー・ハードマン他、NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023（医学書院） 5. 講義の際適時提示する							
評価の基準と方法	技術演習の事前・事後学習のレポート（20%）、看護過程レポート（20%）、定期試験（60%）で評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもった看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成 多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎	○	○	
関連科目	疾病と治療1、生活援助技術、フィジカルアセスメント、診療・治療援助技術、看護過程、成人看護学Ⅰ（概論）、成人看護学Ⅱ（急性期）、健康教育学							
その他	学習目標 慢性疾患や障害を抱え生活する成人の、急性増悪期、慢性期、終末期にある生活や心理・社会面を考慮した看護援助を学習する。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	成人看護学教員全員が病院等で看護師実務経験がある。臨床看護の経験を活かし、慢性疾患患者の看護について講義・演習を実施する。							

科目名称	老年看護学Ⅱ		
科目分類	310-321-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Gerontological Nursing II	授業区分	演習
科目責任者	小林小百合	必修・選択	必修
担当教員	小林(小)・武田・松戸・森	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康障害や生活障害を持つ高齢者への看護実践のために、学んだ知識を統合しながら、アセスメントから実施・評価に至る老年看護の看護過程を展開する方法を学ぶ。また、科学的根拠と高齢期の対象者の状況理解に基づいて、臨床看護実践で必要とされる基本的な看護技術について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の全体像をアセスメントするための視点を述べることができる。 2. 健康障害や生活障害をもつ高齢者のアセスメントができる。 3. アセスメントに基づいて、個々の高齢者にあった看護計画の立案ができる。 4. 高齢期の対象者への看護実践で必要とされる嚥下・食・排泄・清潔・生活リズムなどへの援助について、基本的な看護技術が習得できる。 5. 実施場面のロールプレイを通して、ケアを評価できる。 6. 一連の学習過程を通して、老年看護の実践に必要な知識・技術・態度の習得にむけた自己課題を述べることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1, 2	1 回目：ガイダンス、老年看護学における看護実践の特徴と看護過程 2 回目：老年看護の展開① 小林小百合	1 回目：授業の進め方、課題の確認 ゴードンの機能的健康パターン、老年期の特徴 2 回目：事例提示 事例の病態生理をまとめるための基本的知識	講義 予習：老年看護学Ⅰの復習、春休みの課題 復習：ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを整理しておく 課題：事例の病態生理とゴードンの枠組みでの 11 パターン分のアセスメント（5/9 提出期限）
3, 4	老年看護の展開のための基礎知識と実践①② 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	高齢者総合的機能評価（CGA：Comprehensive Geriatric Assessment） 食・嚥下（誤嚥予防、嚥下テスト、嚥下体操など）：解説と実技演習	講義・演習 予習：春休みの課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入
5, 6	老年看護の展開のための基礎知識と実践③④ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	口腔ケア、排泄ケア：解説と実技演習	講義・演習 予習：春休みの課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入
7, 8	老年看護の展開のための基礎知識と実践⑤⑥ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	清潔ケア、整容、環境整備：解説と実技演習	講義・演習 予習：春休みの課題 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入
9, 10	老年看護の展開②③ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	事例の病態生理（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク、発表） 予習：事例のアセスメント 復習：グループワークの内容を個人のアセスメントに反映する
11, 12	老年看護の展開④⑤ 小林小百合	事例の健康知覚-健康管理パターン（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク、発表） 予習：事例のアセスメント 復習：グループワークの内容を個人のアセスメントに反映する
13, 14	老年看護の展開⑥⑦ 小林小百合	事例の栄養-代謝パターン、排泄パターン、活動-運動パターン、睡眠-休息パターン（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク、発表） 予習：事例のアセスメント 復習：グループワークの内容を個人のアセスメントに反映する
15, 16	老年看護の展開⑧⑨ 小林小百合	事例の認知-知覚パターン、自己知覚-自己概念パターン、役割-関係パターン、セクシュアリティ-生殖パターン、コーピング-ストレス耐性パターン、価値-信念パターン（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク、発表） 予習：事例のアセスメント 復習：グループワークの内容を個人のアセスメントに反映する
17, 18	老年看護の展開⑩⑪ 小林小百合・松戸典文・武田藍・（ ）	全体像（アセスメントの統合）、プロブレムリストについての説明 事例の全体像、プロブレムリスト（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク、発表） 予習：事例のアセスメント全体を見直す 復習：グループワークの内容を個人のアセスメントの統合、全体像、プロブレムリストに反映する

19, 20	老年看護の展開⑫⑬ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	看護計画、評価についての説明 事例の看護計画（グループワークと発表）	講義・演習（グループワーク） 予習：看護過程 復習：グループワークの内容を個人の看護計画に反映する					
21, 22	老年看護の展開⑭⑮ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	個人課題をもとに、グループとしての看護計画を再度検討する さらに、グループの看護計画をもとに、事例のバイタルサイン測定の行動計画を立案する バイタルサイン測定の基礎技術の確認	演習 予習：事例の看護計画、春休みの課題、バイタルサインの基本的な測定手技 復習：グループワークの内容を個人の行動計画に反映する					
23、 24、25	老年看護の展開⑯⑰ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	バイタルサイン測定を事例で実施してみる（相互に看護師患者役になり全員実施）	演習 予習：事例の行動計画 復習：演習で実施した内容を振り返り、GWE 上の課題スプレッドシートに記入					
26	老年看護の展開⑱ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	実施したことの評価（日々の評価）を行う 看護問題に対応した SOAP 記録をおこなう	演習 予習：事例の行動計画 復習：演習で実施した内容を振り返り、行動計画用紙に SOAP で記載する					
27, 28	老年看護の展開⑳㉑ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	看護計画の評価 看護サマリーの書き方 看護過程の振り返り	講義・演習 予習：看護過程、前回までの演習内容の振り返り 復習：看護計画を評価し、看護サマリーを書いてみる					
29, 30	29 回目：老年看護の専門性（ゲストスピーカー） 30 回目：まとめ 小林小百合・松戸典文・武田藍・()	老年看護の専門性（ゲストスピーカー） まとめ	講義 予習：老人看護専門看護師について調べる 復習：講義内容の整理 レポート課題：「老年看護の専門性について」					
授業開始前学習 ◇準備学習 シラバスを参考に、老年看護学 I をはじめ、看護援助論、生活援助技術、フィジカルアセスメントで学習した内容を十分復習し、さらに、看護過程の学習内容と関連付けながら学習を進めること。春休みの課題に各自でしっかり取り組んでおくこと。 ◇学習上の留意点 ・積極的に授業に参加すること。 ・グループワークを行う機会が多いので、自分の考えをもち他者にきちんと伝える力、他者の多様な意見を受け入れながら、課題解決に向けてグループメンバーと協力して取り組む姿勢を身に着けて欲しい。								
授業内課題のフィードバックの方法 援助技術や事例アセスメントの記録用紙については数回程度の提出を課し、グループワーク時に全体にコメントする。また、必要時個別のコメントによりフィードバックをおこなう。								
テキスト・教材 医療情報科学研究所編：『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』（メディックメディア） 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 専門分野Ⅱ 老年看護病態・疾患論（医学書院）								
参考書								
評価の基準と方法 授業中の課題やレポートなど 50%、筆記試験 50%によって評価する。								
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎	○	○	
関連科目								
その他				◇学習目標 健康障害や生活障害持つ高齢者の QOL 向上のためのアセスメントの視点について理解し、看護実践のための計画立案の仕方や具体的な看護の方法を習得する。				
予習・復習の所要時間				講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間				
実務経験を活かした教育内容				担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして講義する。				

科目名称	精神看護学Ⅱ		
科目分類	310-311-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychiatric Nursing Ⅱ	授業区分	演習
科目責任者	畠山卓也	必修・選択	必修
担当教員	岡・畠山(卓)・松尾	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	精神疾患の病因、症状、治療を理解した上で、精神障害者への援助方法の基本および看護について学ぶ。また、精神看護の基本である対人関係や治療的コミュニケーションスキルを、プロセスレコードやロールプレイなどの具体的な看護技術を通じて習得すると同時に、セルフマネジメント方法についても学ぶ。セルフケア看護モデルを使い、精神障害者のアセスメント方法ならびに個別的な看護の実践について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神疾患の病因ならびに治療や看護について説明できる。 2.精神看護についての考え方、理論やモデルについて学び、障害を持つ人への援助方法を説明できる。 3.精神に障害を持つ人への援助を適切なアセスメント方法を説明できる。 4.精神看護過程の方法を修得する。 5.対人関係能力のスキルを高め、治療的人間関係の構築するための方法を修得する。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1・2	主な精神症状の特徴と 疾病の理解と看護 畠山卓也	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・統合失調症の病因 ・統合失調症の症状と治療 ・統合失調症を持つ人の看護 	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1（「第 5 章 B 精神症状論と状態像」 「第 5 章 C 精神障害の診断と分類 ②統合失調症」）教科書 2（「第 VI 章 対象を理解するための考え方 3-2-A 統合失調症」「第 IX 章 事例から学ぶ精神疾患と看護 1 統合失調症」）を読み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を解決する。
3・4	主な精神症状の特徴と 疾病の理解と看護 畠山卓也	<ul style="list-style-type: none"> ・うつ病・双極性障害の病因 ・うつ病・双極性障害の症状と治療 ・うつ病を持つ人の看護 ・双極性障害を持つ人の看護 	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1（「第 5 章 B 精神症状論と状態像」 「第 5 章 C 精神障害の診断と分類 ③気分障害」）教科書 2（「第 VI 章 対象を理解するための考え方 3-2-B 気分障害」「第 IX 章 事例から学ぶ精神疾患と看護 2 気分障害」）を読み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を解決する。
5・6	主な精神症状の特徴と 疾病の理解と看護 畠山卓也	<ul style="list-style-type: none"> ・不安障害を持つ人の看護 ・強迫性障害を持つ人の看護 ・心的外傷後ストレス障害を持つ人の看護 ・災害と心のケア 	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1（「第 5 章 B 精神症状論と状態像」 「第 5 章 C 精神障害の診断と分類 ④神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害」）教科書 2（「第 VI 章 対象を理解するための考え方 3-2-C 神経性障害、ストレス関連障害および身体症状症」「第 IX 章 事例から学ぶ精神疾患と看護 3 強迫症/強迫性障害、4 パニック症/パニック障害」）を読み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を解決する。
7・8	主な精神症状の特徴と 疾病の理解と看護 岡京子（7） 畠山卓也（8）	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールなど依存症を持つ人の看護（7） ・摂食障害を持つ人の看護（8） ・解離性障害を持つ人の看護（8） ・身体表現性障害を持つ人の看護（8） 	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1（「第 5 章 B 精神症状論と状態像」 「第 5 章 C 精神障害の診断と分類 ④神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害、⑤精神作用物質使用による精神および行動の障害、⑥各発達段階であらわれやすい精神障害・心的不調」）教科書 2（「第 VI 章 対象を理解するための考え方 3-2-D 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、E 精神作用物質関連障害」「第 IX 章 事例から学ぶ精神疾患と看護、5 アルコール使用障害、6 摂食障害」）を読み、疑問点を整理して

9・10	主な精神症状の特徴と 疾病の理解と看護 松尾真規子 (9) 畠山卓也 (10)	・発達障害を持つ人の看護 (9) ・パーソナリティ障害を持つ人の看護 (10) ・性同一性障害を持つ人の看護 (10)	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1 (「第 5 章 B 精神症状論と状態像」 「第 5 章 C 精神障害の診断と分類 ⑥各発達段階であら われやすい精神障害・心的不調、⑦その他」) 教科書 2 (「第VI章 対象を理解するための考え方 3-2-F パーソナ リティ障害、G 性行動の障害 (性関連性障害)、I 神経 発達障害 (自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症)」 「第IX章 事例から学ぶ精神疾患と看護、7 パーソナリティ 障害、8 引きこもり」) を読み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノート
11・12	主な治療法と看護 畠山卓也	主な治療法と看護 ・薬物療法に伴う看護 (11) ・電気けいれん療法に伴う看護 (12) ・精神科施設における安全管理 (12)	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1 (第 6 章 精神科での治療 C 薬物療 法、D 電気けいれん療法その他) 教科書 2 (第VIII章 治 療・ケア・支援の方法 1-A 薬物療法、B 薬物療法におけ る看護の役割、C 電気けいれん療法、D 修正型無けいれ ん ECT における看護の役割、5 安全管理) を読み、疑問 点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。
13・14	検査とアセスメント (13) 松尾真規子 主な治療法と看護 (14) 松尾真規子	検査とアセスメント ・生物学的・心理学的・社会的アセスメント (検査) 主な治療法と看護 ・精神療法	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1 (第 6 章 精神科での治療 B 精神療 法) 教科書 2 (第VI章 対象を理解するための考え方 2 生物学的側面からアプローチする検査、第VII章 心理・社 会的側面の検査、第VIII章 治療・ケア・支援の方法 2 心 理的側面からアプローチする治療・ケア・支援) を読み、 疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。自身のエゴグラムを作成し、自己理解を深める。
15・16	主な治療法と看護 (15) 松尾真規子 治療的かかわり 1 (16) 松尾真規子	主な治療法と看護 ・精神科リハビリテーション (作業療法・SST な ど) 治療的かかわり 1 ・治療的人間関係に生かすプロセスレコード	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 2 (第VIII章 治療・ケア・支援の方法 3 精 神看護におけるさまざまな技法、4-D 医療機関におけるリハ ビリテーションのさまざまな技術) を読み、疑問点を整理して おくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。プロセスレコードの課題について取り組む。
17・18	治療的かかわり 2・3 松尾真規子、畠山卓 也、岡京子	・治療的人間関係に生かすコミュニケーションスキ ル ・カウンセリング的アプローチ ・アサーション ・リラクゼーション	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 2 (第VIII章 治療・ケア・支援の方法 3 精 神看護におけるさまざまな技法) を読み、疑問点を整理して おくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。演習の実施結果をレポートする。
19・20	治療的かかわり 4・5 松尾真規子	・当事者主体のリハビリプログラム (WRAP)	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：WRAP について調べてくること。教科書 2 (第VIII章 治療・ケア・支援の方法 4-1-A 当事者のリハビリ) を読 み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。WRAP の体験レポートを作成する。
21・22	治療的かかわり 6 (21) 松尾真規子 看護理論と看護過程 1 (22) 松尾真規子・畠山卓 也	治療的かかわり 6 ・家族支援と家族心理教育 看護理論と看護過程 1 ・精神看護におけるアセスメント理論 (セルフケ ア理論・対人関係理論)	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 1 (P256-265) 教科書 2 (第VII章 心 理・社会的側面の検査 B 家族機能、第VIII章 治療・ケ ア・支援の方法 2-B 心理教育、第VI章 対象を理解する ための考え方 4 精神看護におけるアセスメントの特徴、5 アセスメントに用いられる主な理論) を読み、疑問点を整理 しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。
23・24	看護理論と看護過程 2・3 畠山卓也、松尾真規 子、岡京子	看護理論と看護過程 2 ・看護過程の展開、事例紹介と情報収集 ・模擬事例の MSE に取り組む 看護理論と看護過程 3 ・看護過程の展開、アセスメント ・模擬事例のセルフケアアセスメント、ケース像の 作成に取り組む。	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク 予習：模擬事例の精神症状のアセスメント (MSE)、セル フケアのアセスメントに取り組んでくる (グループワークを行いま す)。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。模擬事例の MSE、セルフケアアセスメントを作成 して提出する。ケース像を完成させる。
25・26	看護理論と看護過程 4・5 畠山卓也、松尾真規 子、岡京子	看護理論と看護過程 4 ・看護過程の展開、ケース像の発表と患者の課 題の明確化 ・模擬事例の看護の方向性を考える。 看護理論と看護過程 5 ・看護過程の展開、看護計画立案 ・模擬事例の看護計画を立案する。	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク 予習：模擬事例のケース像に基づき、患者の課題とケア計 画について取り組んでくる。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を 解決する。模擬事例の看護計画を作成して提出する。

27・28	継続看護 1・2 松尾真規子・岡京子	継続看護 1 ・地域移行に伴う看護（精神科訪問看護） 継続看護 2 ・地域移行に伴う看護（社会資源・ACT）	講義・課題解決型学習・グループワーク 予習：教科書 2（第Ⅷ章 治療・ケア・支援の方法 4 社会的側面からアプローチする治療・ケア・支援）を読み、疑問点を整理しておくこと。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を解決する。模擬事例の退院後初回訪問で実践するケア内容を整理する。模擬事例の地域生活上の課題を考える。					
29・30	看護理論と看護過程 6 畠山卓也、松尾真規子、岡京子 まとめ 畠山卓也	看護理論と看護過程 6 ・看護過程の展開、まとめ まとめ ・精神障害者への看護とは	講義・演習・課題解決型学習・グループワーク・ディスカッション 予習：看護過程を全て提出できるように準備してくる。 復習：授業で取り組んだ内容をノートに整理し、疑問点を解決する。看護過程の実践・評価を作成して提出する。					
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・重要：疾病と治療Ⅵ（精神障害）及び精神看護学Ⅰで学んだことを踏まえ、授業を行います。既習科目の復習を行うことで授業の学習効果が高まります。教科書 1「第 5 章 B 精神症状論と状態像」については、理解しているということを前提にして、疾患と看護の授業を進めていきますので、しっかり復習しておいてください。 ・学修課題の内容について必ず教科書の関連ページに目を通してから授業に望むこと。 ・授業後は、授業中に配布されたプリントや教科書で復習しておくこと。 							
授業内課題のフィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業内で取り組む課題レポート（リアクションペーパーを含む）については、1 週後の授業（奇数回の授業）の冒頭に全体に対してコメントをフィードバックする。必要に応じて、課題レポートに個別のコメントを入れ、学生にフィードバックする。 ・課題のフィードバックに関しては、Google Classroom から行う（テキストファイルもしくは動画）こともあります。 ・わからないことは、積極的に質問してください。 							
テキスト・教材	<ol style="list-style-type: none"> 1.系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学① 第 6 版第 2 刷 医学書院（2022 年度購入済） 2.精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア－対象者の力を引き出し支える（改訂第 3 版）萱間真美、稲垣中編集 南江堂（2023 年度購入） 							
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神看護学実習ハンドブック 一般社団法人日本精神科看護協会監修 草地仁史・中村博文・畠山卓也・三谷梨絵子・若井亮治編著 中央法規出版 2022 年 2.看護師のための精神科でのコミュニケーションとケア 畠山卓也編著 ナツメ社 2021 年 3.みてわかるできる 映像・事例で学ぶ看護過程「精神看護学」草地仁史編集 学研 2022 年 4.ストレングスから見た精神看護過程 萱間真美編集 医学書院 2021 年 5.精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子編著 医歯薬出版株式会社 							
評価の基準と方法	レポート 30%、筆記試験 70% レポートには、以下の課題が含まれます。提出がない場合、評価の対象になりません。 <ul style="list-style-type: none"> ・プロセスレコード ・演習のレポート ・看護過程一式 							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎	○	○	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病と治療Ⅵ（精神障害） ・精神看護学Ⅰ 							
その他	◇学習目標 精神疾患や精神障害者への援助方法の基本および看護について学習し、治療的コミュニケーションスキル、セルフマネージメントの方法を習得する。セルフケア看護モデルの活用方法を学習し、精神障害者のアセスメントおよび看護の方法を学習する。 ◇学習上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・Google Classroom を積極的に活用します。授業時はスマートフォン、タブレットなど Google Forms を使用できる端末をご持参ください。 ・インターネットや新聞を活用し、各回の授業に関連する内容の概要を調べたり把握する。 ・学修内容に関連した書籍を読んだり、ビデオ・映画などを見て、学修の理解を深めること。 							
予習・復習の所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	主に病院で精神看護実践に携わってきた精神看護専門看護師の教員（畠山卓也・岡京子）と、保健師として地域の精神保健福祉に携わってきた教員（松尾真規子）が、その実務経験を活かし、精神疾患をもつ人の看護実践、社会復帰への援助、看護師が実践できるセラピーについて、講義と演習を行う。							

科目名称	在宅看護学Ⅱ		
科目分類	310-311-23 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Home Health Nursing Ⅱ	授業区分	演習
科目責任者	橘 達枝	必修・選択	必修
担当教員	沖田・笠原・橘	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	在宅で特殊な医療機器を使用しながら療養生活を送る対象者が増加しており、専門職として高度な知識と技術、判断力が求められている。本科目では対象となる人々のクオリティ・オブ・ライフを向上させるために、対象者の抱える課題を解決するための計画の立て方や在宅看護ケア提供に必要な技術を習得する。また、在宅療養に必要な医療機器の基本的な操作方法や管理方法および療養者や家族への指導方法について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養における日常生活援助に関する知識と援助の具体的方法を説明できる。 2.在宅での医療的ケアについて、必要とする療養者およびその家族に説明できる。 3.医療的ケアを安全に提供する知識と援助方法を説明できる。 4.在宅療養者およびその家族を理解し、在宅看護の特徴について説明できる。 5.介護保険制度や社会資源の具体的な利用方法を理解できる。 6.看護過程を用いて、在宅療養者とその家族の抱える課題の解決策を示すことができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1・2	<p>【第 1 回】生活を支える基本技術 (1)</p> <p>【第 2 回】生活を支える基本技術 (2)</p>	<p>【第 1 回】 生活を支えるコミュニケーション技術 1.家庭訪問 2.面接・相談技術 3.教育技術</p> <p>【第 2 回】 清潔の援助 1.清潔のアセスメント 2.清潔援助実施に際しての注意点 3.清潔援助の実際</p>	<p>【第 1 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 第 1 回 予習：教科書の該当ページを読む。（p312～320）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 2 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p350～359）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
3・4	<p>【第 3 回】生活を支える基本技術 (3)</p> <p>【第 4 回】生活を支える基本技術 (4)</p>	<p>【第 3 回】 移乗・移動の援助 1.移乗・移動のアセスメント 2.移乗・移動の援助</p> <p>【第 4 回】 食事・栄養の援助 1.食事・栄養の援助の基本 2.食事・栄養のアセスメント 3.経口摂取の援助</p>	<p>【第 3 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p358～368）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 4 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p327～328）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
5・6	<p>【第 5 回】在宅療養者と家族への支援 (1)</p> <p>【第 6 回】生活を支える医療的ケア (1)</p>	<p>【第 5 回】 在宅療養者と家族の生活を支援する方法 1.訪問看護の制度と機能 2.家族支援 3.療養移行支援</p> <p>【第 6 回】 栄養管理 1.経管栄養法と看護 2.在宅中心栄養法と看護</p>	<p>【第 5 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：在宅看護学Ⅰの既習内容（教科書 p93～107、121～132、141～151）を復習しておく。復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 6 回】 講義・演習（課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング） 予習：教科書の該当ページを読む。（p329～338）復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>

7・8	<p>【第7回】 生活を支える基本技術 (5)</p> <p>【第8回】 生活を支える医療的ケ ア(2)</p>	<p>【第7回】 排泄の援助 1.排泄のアセスメント 2.尿失禁と看護 3.排便コントロール</p> <p>【第8回】 排泄管理 1.導尿、膀胱留置カテーテルと看護 2.ストーマと看護</p>	<p>【第7回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p339~344、346 ~348)復習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自 分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第8回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p344~346、348 ~350)復習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自 分で調べた内容を含め、整理する。</p>
9・10	<p>【第9回】 生活を支える医療的ケ ア(3)</p> <p>【第10回】 生活を支える医療的ケ ア(4)</p>	<p>【第9回】 呼吸管理 1.在宅における呼吸アセスメント 2.呼吸リハビリテーション</p> <p>【第10回】 呼吸管理 3.在宅酸素法と看護 4.在宅人工呼吸療法と看護</p>	<p>【第9回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p368~371)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p> <p>【第10回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p371~378)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p>
12・11	<p>【第11回】 生活を支える医療的ケ ア(5)</p> <p>【第12回】 生活を支える医療的ケ ア(6)</p>	<p>【第11回】 褥瘡管理 1.褥瘡のアセスメント 2.褥瘡予防とケア 3.褥瘡ケア</p> <p>【第12回】 服薬管理 1.服薬のセサメント 2.在宅療養における服薬支援</p>	<p>【第11回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p378~390)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p> <p>【第12回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p390~398)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p>
13・14	<p>【第13回】 生活を支える基本技術 (6)</p> <p>【第14回】 在宅療養者と家族への 支援(2)</p>	<p>【第13回】 日常生活の事故防止・予防 1.転倒・転落の防止 2.誤嚥・窒息の防止 3.熱中症の防止 4.独居・認知症高齢者の防災</p> <p>【第14回】 療養上のリスクマネジメント 1.リスクマネジメントの概念 2.アクシデントの特徴 3.リスクマネジメントの実際</p>	<p>【第13回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p398~409)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p> <p>【第14回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p174~189)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p>
15・16	<p>【第15回】 在宅療養者と家族への 支援(3)</p> <p>【第16回】 在宅療養者と家族への 支援(4)</p>	<p>【第15回】 地域・在宅看護と認知症ケア 1.認知症の理解 2.認知症ケアのためのケアシステム 3.認知症の療養者・家族への看護</p> <p>【第16回】 地域・在宅看護と小児ケア 1.医療的ケア児の理解 2.医療的ケア児を支えるケアシステム 3.医療的ケア児への看護</p>	<p>【第15回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p254~265)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p> <p>【第16回】 講義・演習(課題研究型・グループワーク・ディスカッション・ 発表によるアクティブ・ラーニング) 予習:教科書の該当ページを読む。(p285~297)復 習:授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内 容を含め、整理する。</p>

17・18	<p>【第 17 回】 在宅療養者と家族への支援 (5)</p> <p>【第 18 回】 在宅療養者と家族への支援 (6)</p>	<p>【第 17 回】 地域・在宅看護と難病ケア 1. 難病の理解 2. 難病療養者を支えるケアシステム 3. 難病療養者への看護</p> <p>【第 18 回】 地域・在宅看護とエンド・オブ・ライフケア 1. エンド・オブ・ライフケアのアプローチ 2. エンド・オブ・ライフケアのケアシステム 3. 末期がん療養者へのエンド・オブ・ライフケアと看護 4. 非がん療養者へのエンド・オブ・ライフケアと看護</p>	<p>【第 17 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p215～224) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 18 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p202～215) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
19・20	<p>【第 19 回】 在宅療養者と家族への支援 (7)</p> <p>【第 20 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (1)</p>	<p>【第 19 回】 療養者と家族への具体策 (援助、指導) のグループワークと発表 1. 認知症の療養者・家族への支援 2. 非がん療養者・家族への支援 3. まとめ</p> <p>【第 20 回】 地域・在宅看護の個別支援 1. 在宅看護過程 2. 事例紹介</p>	<p>【第 19 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：第 15 回・第 18 回授業の復習をしておくこと。復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 20 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
21・22	<p>【第 21 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (2)</p> <p>【第 22 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (3)</p>	<p>【第 21 回】 地域・在宅看護の個別支援 3. 情報の整理とアセスメント (療養者)</p> <p>【第 22 回】 地域・在宅看護の個別支援 3. 情報の整理とアセスメント (療養者)</p>	<p>【第 21 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 22 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
23・24	<p>【第 23 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (4)</p> <p>【第 24 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (5)</p>	<p>【第 23 回】 地域・在宅看護の個別支援 3. 情報の整理とアセスメント (介護者)</p> <p>【第 24 回】 地域・在宅看護の個別支援 4. 訪問看護計画の立案</p>	<p>【第 23 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 24 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>
25・26	<p>【第 25 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (6)</p> <p>【第 26 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (7)</p>	<p>【第 25 回】 地域・在宅看護の個別支援 4. 訪問看護計画の立案</p> <p>【第 26 回】 地域・在宅看護の個別支援 5. 訪問看護の実施</p>	<p>【第 25 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 26 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習：教科書の該当ページを読む。(p110～121) 復習：授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>

27・28	<p>【第 27 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (8)</p> <p>【第 28 回】 在宅看護の展開方法 (看護過程) (9)</p>	<p>【第 27 回】 地域・在宅看護の個別支援 6.訪問看護の評価</p> <p>【第 28 回】 訪問看護の実施および評価 7.訪問看護計画の修正</p>	<p>【第 27 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p110~121) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 28 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 教科書の該当ページを読む。(p110~121) 復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>					
29・30	<p>【第 29 回】 訪問看護に必要な基本技術 (1)</p> <p>【第 30 回】 訪問看護に必要な基本技術 (2)</p>	<p>【第 29 回】 家庭訪問に必要な技術・マナーの実際 1.コミュニケーション技術 2.面接技術 3.観察技術 4.教育・指導技術 5.相談技術 6.訪問時のマナー</p> <p>【第 30 回】 家庭訪問に必要な技術・マナーの実際 1.ロールプレイの発表 2.まとめ</p>	<p>【第 29 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 第 1 回授業の復習をしておく。復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p> <p>【第 30 回】 講義・演習 (課題研究型・グループワーク・ディスカッション・発表によるアクティブ・ラーニング) 予習: 第 1 回授業の復習をしておく。復習: 授業の内容を振り返り、さらに文献など自分で調べた内容を含め、整理する。</p>					
授業開始前学習	在宅看護の展開では、既習の在宅看護学 I を再学習し系統別に整理しておくこと。							
授業内課題の フィードバックの方法	各授業において、授業での学びや課題を学生は紙面又は Forms にて提出する。学生からの質問や補足解説が必要な内容は、翌回の授業時等にフィードバックする。							
テキスト・教材	河野あゆみ編:『新体系看護学全書 在宅看護論』(メヂカルフレンド社)							
参考書	テキスト以外に必要な参考書は適宜紹介する。必要な資料はその都度配布する。							
評価の基準と方法	授業の参加態度・課題学習 (60%)、看護過程 (40%)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		○	△		◎	○	○	
関連科目								
その他	<p>◇学習目標 訪問看護師に活動の基本となる知識を習得し、在宅療養における日常生活援助の方法および看護過程の展開を習得する。また、医療依存度の高い在宅看護技術(経管栄養・在宅中心静脈栄養・在宅酸素療法・膀胱留置カテーテル等)に関する知識と具体的な方法について理解する。</p> <p>◇学習上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は在宅看護実習を実施するために必要不可欠な知識や技術を学ぶ。 ・既習の「看護の基本」の各科目等と関連づけながら統合して学習する。 ・効果的なグループワークができるよう、グループメンバー各自が積極的に取り組む。 ・コロナ禍の緊急事態宣言の状況により、授業計画を変更する場合、適宜周知する。 							
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目名称	公衆衛生看護学概論			
科目分類	310-321-14	単位数	1.0 単位	
英文名称	Introduction to Public Health Nursing		授業区分	講義
科目責任者	土屋 陽子	必修・選択	選択	
担当教員	土屋・富塚	開講時期	4 年前期	
オフィスアワー	-	研究室	-	
授業概要	公衆衛生看護活動の基本概念などについて学習する。また、地域・集団を対象とした健康ニーズをアセスメントするための技術である地域診断について学習する。さらに、地域・集団のニーズを解決するための看護職の技術である保健指導として家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動について習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念・定義について説明できる。 2. 公衆衛生看護の基盤となる概念について説明できる。 3. 公衆衛生看護活動の歴史の概要を説明できる。 4. 公衆衛生看護の活動方法の概要を説明できる。 5. 演習課題の地域診断に基づく健康課題の抽出までの方法を述べられる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題	
1	公衆衛生の理念 土屋陽子	公衆衛生看護の理念と公衆衛生看護の歴史的背景	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する	
2	公衆衛生看護の基盤となる概念 土屋陽子	公衆衛生看護の基盤となる概念 ポピュレーションアプローチ 一次予防・二次予防・三次予防 パートナーシップ 住民参加 施策化	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する	
3	公衆衛生看護の基盤となる概念 土屋陽子	公衆衛生看護で用いる理論 プリシード・プロシードモデル コミュニティ・アズ・パートナーモデル	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する	
4	公衆衛生看護の活動方法 土屋陽子	公衆衛生看護の活動方法 家庭訪問 健康相談 健康教育 地域組織活動 地域診断	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する	
5	地域診断の方法 土屋陽子 富塚美和	地域診断の方法 1 演習課題の資料を用いて、情報収集	グループワーク 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域の情報を整理する	
6	地域診断の方法 土屋陽子 富塚美和	地域診断の方法 2 演習課題の地域のアセスメント	グループワーク 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域のアセスメントをすすめる	
7	地域診断の方法 土屋陽子 富塚美和	地域診断の方法 3 演習課題の地域のアセスメントとディスカッション	グループワークと発表 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、演習地域のアセスメントを完了する	
8	まとめ 土屋陽子	公衆衛生看護の実際と課題	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：全体のまとめとして、課題レポートを作成する	
授業開始前学習	公衆衛生看護学の基礎となる概念や展開方法について学びます。広い視野で考えながらすすめてみましょう。			
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートは、講評を授業内でコメントします。			

テキスト・教材	1. 標美奈子他『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』（医学書院）							
参考書	1. 井伊久美子他編『保健師業務要覧』（日本看護協会出版会）							
評価の基準と方法	試験 60% 課題レポート 40%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	地域看護活動論		
科目分類	310-311-13	単位数	2.0 単位
英文名称	Community Health Nursing Practice	授業区分	講義
科目責任者	富塚 美和	必修・選択	必修
担当教員	杵淵・小林(小)・高橋(泉)・富塚・土屋・中田・松尾	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域社会の中で生活する人々のライフステージや社会構造の変化など特性を踏まえた人々の健康課題と法律や制度について理解し、健康課題を解決するために看護職が行う家族支援・保健指導、セルフヘルプグループへの支援方法について学習する。また、保健活動における、保健・医療・福祉の様々な職種による連携のあり方と看護師もしくは保健師の役割について理解し、個人・家族・集団・組織・コミュニティを対象とした地域看護活動の基本的な方法と考え方を学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.地域看護活動の概念と歴史的変遷および法制度について説明できる。 2.地域看護活動の場と特性について説明できる。(行政機関・病院・在宅・学校・産業) 3.地域看護活動の技術について説明できる(個別支援・グループ支援) 4.対象(母子・成人・高齢者・精神・障害児・難病)に応じた地域看護活動について説明できる。 5.対象(感染症・災害・国際)に応じた地域看護活動について説明できる。 6.地域ケアシステムの構築過程を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法(アクティブ・ラーニング)・予習・復習・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 地域看護学とは 中田晴美・富塚美和	地域看護学の概念 地域看護学の歴史 社会環境の変遷と健康への影響	授業方法：講義 予習：テキストの第1部第1章・2章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
2	行政の仕組みと関係法規 中田晴美	地域看護活動に関わる行政の仕組みと関係法規	授業方法：講義 予習：テキストの第1部第3章・4章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる (ディスカッション)
3	地域看護活動に関わる理論 富塚美和	地域看護活動の基礎となる理論と活動の実際 (プライマリヘルスケア・ヘルスプロモーション・行動変容理論・家族看護論など)	授業方法：講義・グループワーク 予習：テキストの第1部第5章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
4	地域看護活動の場と特性 富塚美和	行政機関・病院・在宅・学校・産業における地域看護活動の概要と実際	授業方法：講義 予習：テキストの第1部第5章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
5	地域看護活動の技術① 富塚美和	家庭訪問・健康相談・健康診査・健康教育・地域診断	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第1章のA・B・C・Dを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
6	地域看護活動の技術② 土屋陽子	グループ支援の概要と看護活動の実際 地域ケアシステム構築過程における看護活動	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第1章のEを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
7	対象別保健活動① ～難病保健活動～ 富塚美和	難病施策と地域看護活動の実際	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章のDを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
8	対象別保健活動② ～成人保健活動～ 富塚美和	成人保健看護活動の概要と実際	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章のBを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
9	対象別保健活動③ ～母子保健活動～ 杵淵恵美子	地域における母子保健活動の概要と実際	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章Aを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
10	授業方法：講義 対象別保健活動④ ～障害児保健活動～ 高橋泉	地域における障害児保健活動の概要と実際 病院と地域の連携	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章のFを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
11	対象別保健活動⑤ ～高齢者保健活動～ 小林小百合	地域における高齢者保健活動の概要と実際 高齢者虐待の定義と実態	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章のCを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる
12	対象別保健活動⑥ ～精神保健活動～ 松尾真規子	精神保健活動に関わる保健活動の実際 病院と地域の連携	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章のFを読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる

13	災害看護活動 感染症対策 富塚美和	災害看護活動の概要と実際 感染症対策の概要と看護活動の実際	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第2章Gと第3章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる					
14	国際看護活動 土屋陽子	国際看護の関連機関と看護活動の実際	授業方法：講義 予習：テキストの第3部第4章を読んでおく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる					
15	まとめ 土屋陽子・富塚美和	地域住民と地域看護活動のあり方	授業方法：講義 予習：対象を取り上げ、実際の地域看護活動を調べておく 復習：学んだことを整理し、ノートにまとめる					
授業開始前学習	講義前には、シラバスで予定されている内容を確認し、教科書を読み参加してください。講義後には、ディスカッション内容や疑問点をまとめてください。							
授業内課題の フィードバックの方法	授業のレポートについては、授業後半に全体の講評および個別の質問に回答する。							
テキスト・教材	豊島泰子編著：看護師のための地域看護学，ピラールプレス							
参考書	国民衛生の動向 講義の中で適宜紹介する							
評価の基準と方法	試験 60% 課題 40%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△			◎	○	○	
関連科目								
その他	地域におけるさまざまな対象の理解と看護師・保健師の活動内容を学びます。積極的な姿勢で学びましょう。							
予習・復習の 所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	公衆衛生看護技術論		
科目分類	310-321-24	単位数	2.0 単位
英文名称	Public Health Nursing Practice	授業区分	演習
科目責任者	富塚 美和	必修・選択	選択
担当教員	土屋・富塚・中田	開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	保健師活動の基本となる地域診断について既存の資料や地区踏査などから情報収集、アセスメントから、健康課題をあげ、課題に対する計画策定、評価という一連の流れについて実習予定地域を対象に行う。さらに、あげられた課題について実際に行われている保健活動を考察し、プレゼンテーションを行う。また、公衆衛生看護活動における看護技術である保健指導のうち健康相談、家庭訪問、健康教育について講義および事例を用いた看護展開とロールプレイにより習得し、公衆衛生看護学実習へつなげる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子を対象とした家庭訪問の事例に対する訪問計画を立案することができる。 2. 訪問計画に基づき家庭訪問場面をロールプレイにて実施できる。 3. 設定された事例に対し、健康教育指導案を立案することができる。 4. 指導案に基づき健康教育をロールプレイにて実施できる。 5. 対象に応じた健康診査をロールプレイにて実施できる。 6. 対象に応じた健康相談をロールプレイにて実施できる。 7. 地区診断に必要な情報を収集、分析し健康課題を抽出できる。 8. 地域の健康課題を解決するための方法を列挙できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1-8	地域診断 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	授業のガイダンス 地域診断の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1-3 回：講義・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・地域診断に関する講義 ・地域診断に必要な保健統計を収集 ・地域診断に必要な社会資源や関係機関の把握 予習：配付資料およびテキストの地域診断を読んでおく 復習：調べたことを整理し、地域診断記録にまとめる ■ 4-6 回：グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・得られた情報に基づき地域の健康課題の予測 ・解決すべき健康課題を特定し、優先順位の決定 ・健康課題を解決するための保健活動の検討 予習：配布資料・既存データを整理し地域診断記録を見直しておく 復習：地域診断内容を統合し、地域診断記録にまとめる ■ 7 回：プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・地域診断についてプレゼンテーションの実施 ■ 8 回：グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションに基づき、地域診断記録に追加・修正 予習：地域診断の発表に向け、これまでの資料を整理しておく 復習：地域診断における一連のプロセスから、学びを整理し課題レポートにまとめる
9-11	健康相談 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	成人に対する健康相談の展開	<ul style="list-style-type: none"> ■ 9 回：講義・グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・健康相談に関する講義 ・講義内容に基づき健康相談場面のロールプレイ ■ 10 回：グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・設定した事例に対する健康相談の計画立案 ■ 11 回：グループワーク <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき健康相談場面のロールプレイ 予習：テキストの健康相談、成人保健活動を読んでおく 復習：健康相談についての学びを整理し、課題レポートにまとめる

12-15	健康診査 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	乳幼児健康診査の展開 (4か月児・1歳6か月児・3歳児)	<p>■12-13回：講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康診査に関する講義 健康診査における問診、健康相談場面の計画立案 <p>予習：テキストおよび配布資料の健康診査、健康相談、乳幼児の成長発達過程について読んでおく 復習：学んだことを整理し、課題レポートにまとめる</p> <p>■14回：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 1歳6か月児健康診査の問診場面のロールプレイ <p>予習：テキストの健康診査、乳幼児の成長発達過程について読んでおく 復習：ロールプレイの結果を整理し、課題レポートにまとめる</p> <p>■15回：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 1歳6か月児健康診査の相談場面のロールプレイ <p>予習：テキストの健康相談、乳幼児の成長発達過程について読んでおく 復習：健康診査についての学びを整理し、課題レポートにまとめる</p>
16-19	家庭訪問 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	家庭訪問の展開	<p>■16-18回：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭訪問に関する講義 設定した事例（新生児）に対する家庭訪問計画の立案 家庭訪問演習実施の準備 <p>予習：テキストおよび配布資料の母子保健活動、家庭訪問、新生児の成長発達過程を読んでおく 復習：学んだことを整理し、家庭訪問演習実施に向けた準備</p> <p>■19回：ロールプレイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 設定した事例（新生児）の家庭訪問演習の実施 <p>予習：テキストおよび配布資料の母子保健活動、家庭訪問、新生児の成長発達過程を読んでおく 復習：家庭訪問の一連のプロセスを整理し、訪問計画の評価・修正および課題レポートをまとめる</p>
20-29	健康教育 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	健康教育の展開	<p>■20-22回：講義・グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育に関する講義 設定した事例に対する健康教育の計画を立案 <p>■23-27回：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育指導案に基づく教材作成 <p>予習：テキストおよび配布資料の高齢者保健活動、健康教育を読んでおく 復習：学んだことを整理し、課題用紙をまとめる 健康教育演習の実施に向けた準備</p> <p>■28回：プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育の発表 <p>■29回：グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康教育実施後の指導案および教材の評価・修正 <p>予習：テキストおよび配布資料の高齢者保健活動、健康教育を読んでおく 復習：健康教育実施の一連のプロセスを整理し、指導案の評価・修正および課題用紙をまとめる</p>
30	まとめ 土屋陽子・中田晴美・ 富塚美和	公衆衛生看護活動技術（地域診断・健康相談・健康教育・家庭訪問）のまとめ	<p>■30回：講義</p> <ul style="list-style-type: none"> 公衆衛生看護学技術のまとめについての講義 <p>予習：公衆衛生看護技術（地域診断・健康相談・健康教育・家庭訪問）について配布資料およびテキストを読み直しておく 復習：講義・演習全体からの学びを整理し、課題レポートをまとめる</p>
授業開始前学習	教科書の次回授業部分を事前に読んでおくこと。 自らが居住する地域の自治体の広報誌や保健福祉サービス一覧に目を通しておくこと。 次回の授業内容を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。		
授業内課題の フィードバックの方法	授業中に、課題レポートについての個別の質問に回答し、授業後半で講評を伝える。		
テキスト・教材	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論，医学書院 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術，医学書院 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動，医学書院		
参考書	必要時、授業の中で紹介する。		
評価の基準と方法	授業内課題レポート 60%、演習実施状況 40%（実習評価表に基づく）		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△			◎	○	○	
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	学校保健活動論			
科目分類	310-321-13 (J)	単位数	1.0 単位	
英文名称	School Health Practice		授業区分	講義
科目責任者	佐藤 百合子		必修・選択	選択
担当教員	佐藤 百合子		開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-		研究室	-
授業概要	学校保健の定義と意義、対象、歴史、学校保健制度とシステムと法体系について理解する。児童・生徒および学校における不登校やいじめ、アレルギー疾患、薬物乱用防止など現状の課題について理解する。また、学校保健を推進する養護教諭の職務と役割、保健室の機能について理解し、健康診断や感染症予防などにおける活動と学校保健における健康課題の解決方法・技術について学習する。さらに、障害児のための教育の現状と具体的な支援体制について理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健における看護の意義と目的を列挙できる。 2. 学校保健活動の場の特性と健康課題を説明できる。 3. 学校保健活動の基盤となる法体系について説明できる。 4. 学校保健活動の実際と養護教諭の役割を記述できる。 5. 学校保健と地域保健の連携の必要性と方法について記述できる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題	
1	学校保健・看護の理念と活動	学校保健・看護の理念と活動 学校保健・看護の歴史と現状	講義 予習：テキスト内「(第 1 章)学校保健とは／(第 2 章) 第 1 節チームとしての学校で取り組む学校保健／(第 3 章)ヘルスプロモーション」を事前に読んでおく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決する。	
2	学校保健活動の場の特性と健康課題	学校保健の目的と内容 学校保健の法律と制度	講義 予習：テキスト内「(第 1 章)学校保健とは／(第 2 章) 第 1 節チームとしての学校で取り組む学校保健／(第 3 章)ヘルスプロモーション」を事前に読んでおく。 復習：テキストと講義内容から総合的にレポートにまとめる。	
3	学校保健活動の場の特性と健康課題	発育・発達状況について 1. 発達段階別健康課題健康障害について 2. 現代の子どもにみられる疾病異常の概説とその対処法	講義 予習：テキスト内「(第 4 章)子どもの発育発達と学校保健／(第 5 章) 第 7 節 学校保健活動（健康・発達・行動上の課題を有する子どもへの支援）」を事前に読んでおく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決する。	
4	学校保健活動の場の特性と健康課題	精神的健康に関わる問題 1. 不登校 2. いじめ・児童虐待障害児の学校教育と支援	講義（グループワーク） 予習：不登校、いじめ、児童虐待について関心のある記事、ニュースを選び、自分の意見をまとめる。 復習：講義内容から総合的にレポートにまとめる。	
5	学校保健活動と養護教諭の役割	学校保健活動の実際 学校保健行政に関する法体系 学校保健組織と人材 保健室の目的と機能	講義 予習：テキスト内「(第 2 章)第 2 節 学校保健経営」を事前に読んでおく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決する。	
6	学校保健活動と養護教諭の役割	養護教諭の職務 1. 学校保健安全法に基づく、健康観察、健康診断等の制度の概説と意義 2. 学校事故、災害、犯罪の現状とそれらへの対処法について 3. 性に関する問題やその指導法について	講義（グループワーク） 予習：テキスト内「(第 5 章)学校保健活動内第 2 節 健康観察、第 3 節 健康診断、第 4 節 健康相談・健康相談活動、第 5 節 保健指導、第 10 節 学校安全及び学校の危機管理」を事前に読んでおく。日本の性教育の現状を調べてくる。 復習：テキストと講義内容から総合的にレポートにまとめる。	
7	学校保健活動と養護教諭の役割	養護教諭の職務 4. 喫煙、飲酒、薬物乱用の問題やその指導法について 5. 学校環境の位置づけ、教室内外の環境衛生管理について 6. 応急手当について	講義（グループワーク） 予習：テキスト内「(第 5 章)学校保健活動内第 1 節 健康教育、第 6 節 救急処置、第 8 節 感染予防、第 9 節 学校環境衛生」を事前に読んでおく。 復習：学習内容を整理し、疑問点を解決する。	
8	学校保健活動と養護教諭の役割	学校保健活動と地域保健活動との連携の必要性と実際	講義（グループワーク） 予習：今までのレポートを事前に読んでくる。 復習：総括レポートをまとめる。	
授業開始前学習	予習として指定された内容について、該当部分をテキストで確認して臨む。 講義で学習した内容に関してレポートにまとめる。			

授業内課題の フィードバックの方法	授業の出席用紙にて質問事項も募集し、翌週の授業にて、全体の場で回答をしていく。 提出されたレポートに関しては、2 週後に全体の講評を行う。また必要に応じて、個別の質問に回答を行う。							
テキスト・教材	養護教諭必携シリーズ 新版 学校保健（チームとしての学校で取り組むヘルスプロモーション）/編著者：徳山美智子・竹鼻ゆかり・三村由香里・上村弘子/東山書房							
参考書	養護教諭の活動の実際、ここがポイント！学校救急処置、新訂版 学校保健実務必携							
評価の基準と方法	試験（60%）、課題レポート（40%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△			◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容	中学校・高等学校にて養護教諭として実践してきた経験あり。学校保健活動や保健室経営、現代の児童生徒の健康課題、関係機関・多職種との連携についての講義を行う。							

科目名称	産業保健活動論			
科目分類	310-321-13	単位数	1.0 単位	
英文名称	Occupational Health Nursing Practice		授業区分	講義
科目責任者	中田 晴美	必修・選択	選択	
担当教員	土屋・富塚・中田	開講時期	3 年前期	
オフィスアワー	-	研究室	-	
授業概要	産業保健における看護活動の定義と意義、歴史的発展と法体系を理解する。とくに労働衛生の基本である 3 管理である健康管理、作業環境管理、作業管理と総括管理と労働衛生教育について理解する。さらに、職場の状況をアセスメントするために必要な視点と健康課題に対する個人・集団・組織への支援方法（保健指導、健康教育、健康づくり、連携）および、活動上の留意点（安全配慮義務、個人情報保護）などの概要を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健における看護活動の定義と意義について説明できる。 2. 産業保健の歴史的発展と法体系を説明できる。 3. 労働衛生の 3 管理 5 分野に基づいた実際の活動を説明できる。 4. 労働者に特徴的な健康課題とアセスメントについて説明できる。 5. 産業保健の展開方法の概要について説明できる。 			
アクティブ・ラーニング型授業	有			
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題	
1	産業保健の理念と目的 中田晴美	産業保健の定義を学ぶ 産業看護の役割・機能を学ぶ	講義 予習：テキストの第 1 章を読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
2	産業保健の歴史と現状 土屋陽子・中田晴美	産業保健・産業看護の歴史的発展と現状を学ぶ	講義 予習：テキストの第 4 章を読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
3	産業保健の制度とシステム 中田晴美	産業保健の制度とシステムを学ぶ 1 労働安全衛生に関する法規 労働安全衛生に関する組織と人材、管理体制	講義 予習：テキストの第 2～3 章を読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
4	産業保健の制度とシステム 中田晴美	産業保健の制度とシステムを学ぶ 2 労働衛生の 3 管理 5 分野：作業環境管理、作業管理、健康管理、総括管理、労働衛生教育 健康診断：一般健康診断と特殊健康診断	講義 予習：テキストの 6 章の該当ページを読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
5	労働者の健康課題と予防活動 中田晴美	労働者の健康課題と予防活動を学ぶ 1 労働災害及び業務上疾病の推移と現状 職業性疾患 作業関連疾患	講義 予習：テキストの第 6 章の該当ページを読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
6	労働者の健康課題と予防活動 富塚美和	労働者の健康課題と予防活動を学ぶ 2 生活習慣病 メンタルヘルス	講義 予習：テキストの第 6 章と 7 章の該当ページを読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
7	労働者の健康課題と予防活動 中田晴美 (ゲストスピーカー)	労働者の健康課題と予防活動を学ぶ 3 雇用形態 女性労働者 高齢労働者	講義 予習：テキストの第 8 章 9 章の該当ページを読んでおく 復習：学んだことをノートに整理する	
8	まとめ 中田晴美	産業保健・産業看護活動の展開と課題	ディスカッション 予習：テキストの第 10 章を読んでおく 身近な労働者に、健康課題に対する自身の取り組みや、職場で配慮してほしいと感じたことなどの話を聞く。 復習：ディスカッションを活かしてレポートを作成する	
授業開始前学習	講義前には、シラバスで予定されている内容を確認し、教科書を読み参加してください。講義後には、ディスカッション内容や疑問点を要約してください。			
授業内課題のフィードバックの方法	レポートについては、全体の講評をお知らせします。			
テキスト・教材	河野啓子著『産業看護学』（日本看護協会出版会）			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 厚生労働統計協会編『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 2. 井伊久美子他編『保健師業務要覧』日本看護協会出版会 			
評価の基準と方法	試験 80% 課題レポート 20%			

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△			◎	○		
関連科目								
その他	近い将来、自身も労働者になりますので、産業保健活動に関心をもって学んでください。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	公衆衛生看護管理論		
科目分類	310-321-14	単位数	1.0 単位
英文名称	Nursing Administration and Management for Public Health Nursing	授業区分	講義
科目責任者	土屋 陽子	必修・選択	選択
担当教員	土屋・富塚・中田	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動における保健師の管理的な機能としての基礎的な知識を理解するとともに、情報管理、組織・運営管理、人材育成、予算管理の具体的な実践方法を学ぶ。さらに、感染症や災害などに対する危機管理について段階に応じた保健師の役割や活動について理解する。また、実習地域の実習を通して行った地域診断より把握した健康課題を解決するために必要な社会資源や保健事業をあげ、さらに必要な活動・事業の計画と予算を含む地域資源開発や保健計画策定について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.公衆衛生看護管理の定義と特徴を述べることができる。 2.情報管理、組織管理・運営管理、人材育成、予算管理について、具体的な実践方法を説明できる。 3.健康危機管理における段階に応じた保健師の役割と活動について説明できる。 4.事業計画の策定から評価までのプロセスを説明できる。 5.地域診断で把握した健康課題を解決するために、必要となる社会資源や保健事業を考察できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	公衆衛生看護管理の概念と機能 土屋陽子	事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織・運営管理、人材育成、人事管理	講義 予習：テキストの公衆衛生看護管理を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
2	公衆衛生看護管理の概念と機能 土屋陽子	事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織・運営管理、人材育成、人事管理	講義 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理する
3	公衆衛生看護管理の概念と機能 土屋陽子	健康危機管理 1	講義 予習：テキストの健康危機管理を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
4	公衆衛生看護管理の概念と機能 土屋陽子	健康危機管理 2	講義 予習：テキストの健康危機管理を読んでおく 復習：本時の授業内容とテキストを整理する
5	事業計画の立案 土屋陽子 中田晴美	保健事業計画の立案プロセスの課題に取り組む 1	グループワーク 予習：テキストの保健医療福祉における施策化と事業化を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、実習地域のアセスメントを再考する
6	事業計画の立案 土屋陽子 中田晴美	保健事業計画の立案プロセスの課題に取り組む 2	グループワークと発表 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、実習地域の保健授業計画案の作成をすすめる
7	健康危機管理演習 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	健康危機管理：事例演習 1	グループワーク 予習：配布資料を読んでおく 復習：本時の授業内容を整理し、実習地域の保健事業計画案を完成させる
8	健康危機管理 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	健康危機管理：事例演習 2	グループワークと発表 予習：配布資料を読んでおく 復習：全体のまとめとして、課題レポートを作成する
授業開始前学習	講義前には、シラバスで予定されている内容を確認し、教科書を読み出席してください。講義後には、ディスカッション内容や疑問点を要約してください。		
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートは個別に返却します。		
テキスト・教材	標美奈子他編『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』（医学書院）		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中村裕美子他著『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』（医学書院） 2. 中谷芳美他著『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』（医学書院） 3. 井伊久美子他編『保健師業務要覧』（日本看護協会出版会） 		
評価の基準と方法	試験 60% 課題レポート 40%		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△			◎	○		
関連科目								
その他	公衆衛生看護管理の意義・役割は、公衆衛生看護活動そのものと重なり重要な分野です。積極的にディスカッションをしながらすすめます。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	家族看護学		
科目分類	310-321-14	単位数	1.0 単位
英文名称	Family Nursing	授業区分	講義・演習
科目責任者	園川 雄二	必修・選択	選択
担当教員	園川・高見	開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>家族および家族看護学の基礎理論をもとに、社会システムの中でひとつの単位として家族を理解することを学ぶ。また、家族の主体性を尊重したセルフケア機能の向上を目指す看護の役割について理解する。それらの学習を通して、患者および家族のQOLの向上を目指した支援において、家族を一つの単位としてとらえて看護することの意義を理解する。</p> <p>◇教育内容 「別表 3：成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、看護の統合と実践 別表 1：個人・家族・集団・組織の支援、公衆衛生看護活動展開論」</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の個々の発達段階における特徴を述べることができる。 2. システムとしての家族について述べるができる。 3. 看護対象としての家族像の形成・捉えかたを説明できる。 4. 家族の健康を引き出す看護過程について記述できる。 5. 家族を取り巻く社会的・文化的背景について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	家族看護学の考え方	ガイダンス 家族看護学を学ぶ意義：看護学における家族の理解 家族の中の家族 家族をどうとらえるか 家族は歴史と価値観をもっている 家族看護学の発展と動向 家族看護研究の展開	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。また今までの臨地実習で体験した家族への看護について思い起こしてください。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
2	家族看護学の対象理解	発達する家族（発達理論の特徴） システムとしての家族 家族像の形成とアセスメントモデル	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
3	家族看護学の対象理解	家族をどうとらえるか（アセスメントモデルの活用） 家族を取り巻く文化的・社会的背景 家族看護における看護者の役割と援助姿勢	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
4	家族看護過程	家族をどうとらえるか 健康な家族についての考え方	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 グループ討議：事例を通して看護を考える。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
5	家族看護の実践に役立つ考え方	アセスメントモデルを活用した事例展開 慢性疾患をもつ患者の家族への看護 家族とのパートナーシップ	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 グループ討議：事例を通して看護を考える。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
6	家族看護の実践に役立つ考え方	救急医療・集中治療の場における家族への看護 精神疾患をもつ患者の家族への看護	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 グループ討議：事例を通して看護を考える。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
7	家族看護の実践に役立つ考え方	高齢者介護を行っている家族への看護 終末期看護の家族への看護 療養場の移行に伴う家族への看護	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 グループ討議：事例を通して看護を考える。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。
8	家族看護の発展と今後の動向	院内における家族看護専門看護師の役割と活動 乳児をもつ家族・入院治療を受ける病児をもつ家族への看護 臨床における家族看護の課題	講義 予習：テキストの該当ページを必ず読み、大事な個所をノートして授業に臨む。 グループ討議：事例を通して看護を考える。 復習：大事な個所をノートに追記し、振りかえりを行う。

授業開始前学習	家族看護学の対象者は、すべての発達段階にある人々のため、それぞれの発達段階の特徴や疾患など関連科目を復習しておくこと。また、各領域実習での看護実践事例を振り返り、健康な家族の在り方をどのように考え、看護過程を展開してきたかを整理して授業に臨んでください。							
授業内課題の フィードバックの方法	初日講義時に説明する。							
テキスト・教材	資料を配布する							
参考書	山崎あけみ、原玲子編；家族看護学 改訂第2版，南江堂 鈴木和子 他著；家族看護学 理論と実践，日本看護協会出版会 その他 適宜文献紹介または資料を配布する。							
評価の基準と方法	定期試験（100%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	○			◎	○		
関連科目								
その他	◇提出物の課題 臨地実習で体験した家族看護について、下記のテーマをひとつ選び、自分の看護を考察し、レポートする。A4 用紙 2 枚以内（参考文献を含む）その他、大学の規定に従い作成すること。 1. 健康な家族とはどのような家族なのか？ 2. ストレスに対処している家族とは？ 3. 機能している家族とは？							
予習・復習の 所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	健康と食事		
科目分類	310-311-23 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Health and Therapeutic Diet	授業区分	演習
科目責任者	松戸 典文	必修・選択	必修
担当教員	松戸・西村(一)・上條・横瀬	開講時期	3 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	生活習慣病と呼ばれる肥満症、糖尿病、メタボリックシンドローム、脂質異常症、高血圧症、慢性腎臓症（CKD）などの予防や、これらの症状や病態、治療法に対応した食事・栄養管理は、疾病の進行や合併症、再発防止につながり、対象となる人々がより健康的な生活を送るために重要である。この科目では、臨床栄養学をもとに看護の視点から、症状改善や維持、健康な人に対する疾病予防のための食事・栄養管理について学生自身が治療食を調理し試食を体験することで、対象となる人々を理解し、自立・自律した食生活を送ることができるよう支援の在り方、方法を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.生活習慣病を含む健康と食事との関連性を説明できる。 2.対象となる人々の栄養アセスメントができ、必要な支援を説明できる。 3.疾患の治療および療養生活に必要な特別な食事、食生活について説明できる。 4.対象となる人々が、自立・自律した食生活を送ることができるよう支援できる。 5.NST の中での看護職の役割を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	健康と食事について 松戸典文	ガイダンス ・栄養のマネジメント、NST とは ・一般食（常食・流動食・軟食）、治療食の目的と種類	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。
2	治療食の実際① 松戸典文	糖質・脂質コントロール食 ・疾病と病態、目的と種類、患者への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。
3	食事指導の実際① 松戸典文 上條広高	嚥下食 ・疾病と病態、目的と種類、患者への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。
4	食事指導の実際② 松戸典文 上條広高	栄養補給法	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。
5	治療食の献立作成と調理、支援の実際① 松戸典文 上條広高	治療食の献立作成と調理①	演習(調理実習) 予習：事前に指定した内容についてテキストや文献、インターネットなどで情報を整理しておくこと。 復習：調理実習で作成した治療食について、試食の感想を含めてまとめておくこと。
6	治療食の献立作成と調理、支援の実際② 松戸典文 上條広高	治療食の献立作成と調理②	演習(調理実習) 予習：事前に指定した内容についてテキストや文献、インターネットなどで情報を整理しておくこと。 復習：調理実習で作成した治療食について、試食の感想を含めてまとめておくこと。 課題：授業内で指示をする。
7	栄養のアセスメント① 横瀬富美子	生活環境、生活習慣を意識した食生活診断 身体的な栄養状態の評価の方法 栄養のアセスメントに基づいた栄養補給・栄養教育のプランの作成	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。

8	栄養のアセスメント② 横瀬富美子	生活環境、生活習慣を意識した食生活診断 身体的な栄養状態の評価の方法 栄養のアセスメントに基づいた栄養補給・栄養教育のプランの作成	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。					
9	治療食の実際② 松戸典文	蛋白コントロール食 ・疾病と病態、目的と種類、患者への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。					
10	治療食の実際③ 松戸典文	食塩コントロール食 ・疾病と病態、目的と種類、患者への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。					
11	食事指導の実際① 西村一弘	個別指導の適応、方法と実際	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。					
12	食事指導の実際② 西村一弘	集団指導の適応、方法と実際	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。					
13	治療食の実際④ 松戸典文	アレルギーの病態と食事の関係 ・小児アレルギー食（小麦・乳・卵の除去食）の目的と種類 ・小児アレルギー食を必要とする患者と家族への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。					
14	治療食の実際⑤ 松戸典文	アレルギーの病態と食事の関係 ・小児アレルギー食（小麦・乳・卵の除去食）の目的と種類 ・小児アレルギー食を必要とする患者と家族への指導	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。 課題：授業内で指示をする。					
15	まとめ 松戸典文	疾病の予防、健康の保持・増進 治療食を摂取する患者に対する看護の役割 まとめ	予習：臨床栄養学の講義の復習を行い、テキスト「栄養食事療法」の該当部分を熟読する。 復習：講義内容を整理し、ポイントをまとめる。					
授業開始前学習		教科書での予習を行った前提で授業を進めます。また、前回の授業で学習した内容を授業開始時に質問しますので、予習・復習を必ずしましょう。						
授業内課題の フィードバックの方法		授業での質問は当日または次回の授業で説明を行なう。 課題提示するレポートは次回授業日を締め切りとし、次の回以降の授業日に講評を行い、質問について回答する。						
テキスト・教材		系統看護学講座 別巻：栄養食事療法(医学書院)						
参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・ナースング・グラフィカ、疾病の成り立ち(4)：臨床栄養学(メディカ出版) ・系統看護学講座、専門基礎分野、人体の構造と機能[3]：栄養学 第12版(医学書院) ・尾岸恵三子、正木治恵編著：看護栄養学 第3版(医歯薬出版) 						
評価の基準と方法		授業への取り組み 20%、 提出物 30%、 定期試験 50%						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△		○		◎	○		
関連科目	臨床栄養学							

<p>その他</p>	<p>学習目標 食事が及ぼす健康への影響について、看護職としての基本的な知識を習得し、対象となる人々への食事や食品の選択ができ、自立・自律した食生活が送れるように支援ができることを目標とする。</p> <p>◇学習上の留意点 食べることは生きるためだけではなく、療養生活を送るなかでは、「食事」が唯一の楽しみである人もいます。しかし、治療食と呼ばれる特別な食事の中には、栄養は十分であっても、味や食感、見た目が悪く、食事への楽しみを低下させてしまう場合があります。講義や演習を通じて、知識だけではなく実際に食べる方の気持ちを考えながら、看護職としてどのように支援できるかを常に考えて学んでほしい。</p>
<p>予習・復習の 所要時間</p>	<p>講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間</p>
<p>実務経験を活かした 教育内容</p>	<p>本科目は複数の担当者が協同で指導する科目であり、担当教員のうち、松戸典文は看護師として NST 摂食嚥下チームでの実務経験を、横瀬富美子は日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士として病院での NST 活動の実務経験を、西村一弘は管理栄養士として現在クリニックなどで栄養指導を行っており、個別指導・集団指導について講義を行う。上條広高は現在病院の管理栄養士として活動しており、本科目では、その経験を活かし学生が、治療食を調理演習できるように指導を行う。</p>

科目名称	チーム医療		
科目分類	310-321-14	単位数	1.0 単位
英文名称	Team-Based Health Care	授業区分	講義
科目責任者	看護専任	必修・選択	選択
担当教員	看護専任	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	医療ケアとチーム医療の概念を知り、チームの構成員が担う役割や他の専門職種への理解を深めることで、職種間のコミュニケーションの重要性を知り、自らの職種の役割、責任を考えることができるようになることを目的とする。チーム医療を担うメディカルスタッフをゲストスピーカーとして招き、チーム医療のシステム・そのあり方、メディカルスタッフ各々の役割を学習し、対象となる人々の健康上の課題および目標を共有することの重要性、メディカルスタッフの緻密な連携・協働の必要性を認識し、チーム医療を実践する基礎的知識を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チーム医療の必要性と構造を説明できる。 2. チーム内のコミュニケーションの重要性を説明できる。 3. 多職種でのチームワークをとる必要性と方法を説明できる。 4. 医療チームにおける看護師の役割と責任について説明することができる。 5. 医師と看護師の協働の在り方を説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	チーム医療とは	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進め方 ・チーム医療とは ・チーム医療の必要性 ・チーム医療の要素 	<p>予習：臨地実習を振り返り、受け持ち患者を中心とした医療者の関わりを思い出しておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、チーム医療についてのイメージを持ち、課題レポートにまとめる。</p> <p>【グループワーク】</p>
2	チーム医療とは	紙上事例を用いて、事例の取り組みについての役割分担と協働・連携について	<p>予習：臨地実習を振り返り、受け持ち患者を中心とした医療者の関わりを思い出しておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、チーム医療についてのイメージを持ち、課題レポートにまとめる。</p> <p>【グループワーク】</p>
3	臨床現場で活躍する医療チーム	病院で活躍する医療チームの協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および医療チームについて調べておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、病院で活躍する医療チームの協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。</p> <p>【ディスカッション】</p>
4	臨床現場で活躍する医療チーム	紙上事例を用いて、事例の取り組みについての役割分担と協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および医療チームについて調べておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、病院で活躍する医療チームの協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。</p> <p>【ディスカッション】</p>
5	在宅療養を支える多職種チーム	訪問看護ステーションの現場から協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および多職種チームについて調べておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、在宅療養を支える多職種の協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。</p> <p>【ディスカッション】</p>
6	在宅療養を支える多職種チーム	紙上事例を用いて、事例の取り組みについての役割分担と協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および多職種チームについて調べておく。</p> <p>復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、在宅療養を支える多職種の協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。</p> <p>【ディスカッション】</p>

7	チーム医療の実践	地域包括支援センターの現場から、協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および医療チームについて調べておく。 復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、チーム医療の実践における協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。 【ディスカッション】</p>					
8	チーム医療の実践	紙上事例を用いて、事例の取り組みについての役割分担と協働・連携について	<p>予習：ゲストスピーカーの職種および医療チームについて調べておく。 復習：講義・ディスカッション内容をまとめ、チーム医療の実践における協働・連携についてわかったことを、課題レポートにまとめる。 【ディスカッション】</p>					
授業開始前学習	<p>1. 臨地実習での経験をふり返り、受け持ち患者を中心とした医療者の関わりを復習して授業に臨むこと。 2. 臨地実習での様々な状況をイメージして、自分自身の意見をもって積極的に授業に参加すること。</p>							
授業内課題のフィードバックの方法	課題レポートについては、授業内でコメント・ディスカッションする。							
テキスト・教材	なし							
参考書	必要時、参考文献を紹介する。							
評価の基準と方法	課題レポート（100%）							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当			△	○	◎	○		
関連科目								
その他	多種多様な保健医療スタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療・ケアを提供することを理解していただきたいと思います。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	医療安全		
科目分類	310-311-14 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Medical safety	授業区分	講義
科目責任者	小林 優子	必修・選択	必修
担当教員	小林(優)・長嶋	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	医療における安全管理の理論を理解するとともに、臨床現場および在宅看護における安全対策の取り組みを知り、医療安全に関する考え方、社会・医療施設における医療安全のシステム、リスク発生の原理とヒューマンエラーについてを理解する。また、安全で信頼される医療を提供するための行政の取り組み、医療チームの一員としての行動について学習する。さらに実際のケアにともない発生するインシデント、事故事例を通して事故後の対応を学ぶ。また事例を通して看護業務上の危険と防止策について臨床現場でのリスク管理を学ぶ。これらの学習を通して看護職の法的規定を再確認し、医療の不確実性と医療の質について考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全と看護の責務に関する法令や制度の概要について説明ができる。 2. 看護業務と医療事故の関連性について説明できる。 3. 医療事故が起こる要因について説明できる。 4. 医療事故の背景にある医療システムやヒューマンエラーについて説明できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 医療安全を学ぶ意義 小林 優子	授業ガイダンス 医療安全・リスクマネジメントの歴史と動向 医療安全と看護の現状	予習：テキスト「医療安全と看護の理念」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
2	医療安全と医療従事者の責任 小林 優子	医療安全のためのリスクマネジメントの目的 医療事故における医療従事者の責任	予習：テキスト「医療安全と看護の理念」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
3	医療事故発生のメカニズム ヒューマンエラー 小林 優子	医療事故のメカニズムと防止の考え方 医療事故防止に有用な理論とヒューマンエラー	予習：テキスト「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
4	医療施設における医療安全管理の実際 ゲストスピーカー	医療安全管理室の構成、機能	予習：テキスト「医療安全への取組と医療の質の評価」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
5	リスク分析 1 小林 優子・長嶋 祐子	リスク分析の概要 m-SHEL モデル 根本原因分析（RCA 分析）	予習：テキスト「事故発生のメカニズムとリスクマネジメント」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。 グループワークと発表
6	リスク分析 2 小林 優子	事例を使った根本原因分析（RCA 分析）の実際	予習：分析事例を読み、わからない言葉を調べておく。 復習：ワークブックの内容をまとめる。 グループワークと発表
7	ケーススタディと対策 小林 優子	さまざまな医療事故事例からみた対策 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策	予習：テキスト「看護業務に関連する事故と安全対策」「医療従事者の安全を脅かすリスクと対策」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
8	医療安全管理のための教育 授業のまとめ 小林 優子	医療安全管理のための教育研修 授業のまとめ	予習：「チームで取り組む安全文化の醸成」「看護学生の実習と安全」を読む。 復習：ワークブックの内容をまとめる。
授業開始前学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. テキストの該当範囲を読み、わからない言葉を調べておく。 2. これまでの実習経験を想起しながら授業に参加する。 3. 医療安全のためには決められたことを決められたとおりにすることが必須であり、この授業に参加する態度に十分留意する。（遅刻、欠席、早退、記録物の記入漏れなどは減点対象とする。） 		
授業内課題のフィードバックの方法	原則として翌週の授業の中でフィードバックを行う。		
テキスト・教材	松下由美子他著『ナースングラフィカ看護の統合と実践② 医療安全』（メディカ出版）		
参考書	長野展久著『看護事故の舞台裏』（医学書院） 石川雅彦著『RCA 実践マニュアル』（医学書院） 中島和江他著『ヘルスケアリスクマネジメント医療事故防止から診療記録開示まで』（医学書院） 嶋森好子他著『医療安全とリスクマネジメント』（ヌーベルヒロカワ） 河野龍太郎著『医療におけるヒューマンエラー』（医学書院）		

評価の基準と方法	定期試験（80%）、課題の提出物（20%） 課題の提出物は、毎回の授業後の提出レポートとグループワークの提出物による。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△				◎	○	○	
関連科目								
その他	<p>◇学習目標</p> <p>病院などの医療機関の管理をめぐる様々な問題とリスクマネジメントを含む具体的な管理の手法について、安全管理、質の管理、質と患者満足度、医療におけるリスクマネジメントを通して学んでいく。医療管理の具体的なアプローチには、診療科・医療チームの編成、作業方法・稼働率の分析、院内レイアウトから診療計画、作業標準時間の設定、医療情報の伝達分析、医療時事故・紛争発生の予防など様々なものがあり、時代・社会・地域・他の産業という広い視点から医療管理の課題と問題解決のための手法を習得する。</p> <p>とくに最近では患者の権利意識の高まりのなか、医療訴訟が増加しており、その訴因の分析と状況把握、解決の方策なども学ぶ。</p>							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	医療事故調査委員会の外部委員の経験を生かし、医療事故の背景、患者遺族の状況、医療機関の医療安全管理などについて授業を行う。							

科目名称	母性看護学実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Maternal-Child Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	高山奈美	必修・選択	必修
担当教員	高山・那須野・水野	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	妊産褥婦および胎児期を含む新生児とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解する。また、母性看護学の講義での学びを臨床現場で体験的に学び、母性看護学領域における看護の実際を学ぶ。必要な看護を実践するための基礎的知識・母性看護特有の技術と態度を学ぶ。特に実習を通し、母性とは何か、家族になること、親になることは何かについて考える。また周産期看護の実践に向けウェルネス視点と問題解決思考の双方から妊産褥婦および新生児とその家族の健康保持、増進を援助できるよう学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マタニティサイクルにある母子と家族を包括的にアセスメントし、看護上の課題から必要な看護を展開できる。 2. 医療チームメンバーと適切なコミュニケーションを取り、マタニティサイクルにある母子と家族の目標達成に向けて協働することができる。 3. 周産期医療に携わる医療職者としての自覚を持ち、倫理的配慮を基に責任ある行動をとることができる。 4. 周産期医療に携わる看護師の役割について考えることができる。 5. 実習体験をもとに、母性看護における対象者を多面的に捉え個性のある看護の在り方を考察できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	高山奈美 水野真希 那須野順子	<p>学内演習</p> <p>★演習目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護における基本的な看護技術を習得する。 2. 紙上事例の母子と家族を包括的にアセスメントし、退院後に母子の健康を維持・増進するために必要な支援や、新生児を迎えた家族が安心して生活をスタートするために必要な支援を実施する。 <p>★演習スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日目：学内オリエンテーション 事前学習 2 日目：技術演習 ①褥婦・新生児の健康診査 ②新生児の清潔ケア ③授乳支援 3 日目：グループワーク 4 日目：グループワーク 5 日目：紙上事例の母子に対する退院支援の実施 	<p>★予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護学実習に関連した既習学修内容（母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、疾病と資料Ⅳ）の知識を活用できるよう準備する。 とくに、母性看護学Ⅱで取り組んだ看護過程事例の全体像見直し、事前学習課題とよび褥婦・新生児の健康診査のケア計画をブラッシュアップしておくこと。 <p>★授業展開：個人またはグループの課題に取り組みながら以下について実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された紙上事例の母子（産褥期・新生児期）の状況を判断するために必要な観察とケアを実施する。 ・提示された紙上事例の母子（産褥期・新生児期）と家族に対し、退院後に母子の健康を維持・増進するために必要な支援や、新生児を迎えた家族が安心して生活をスタートするために必要な支援をグループで実施する。
2 週目	高山奈美 水野真希 那須野順子	<p>臨地実習</p> <p>★実習目標</p> <p>マタニティサイクルにある母子と家族の特徴を理解し、対象の個性に応じた看護を実践できる基礎的能力を培う。</p>	<p>★学習方法</p> <p>実習指導者および担当教員の指導を受けながら、以下について実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一組の母子を受け持ち、継続的に関わりながら看護過程を展開しケアを提供する。受け持ち対象は、原則、正常経過をたどるとされる経産分娩あるいは帝王切開分娩の母子とする。 ・1 日目の学生の行動計画は、あらかじめ行動計画用紙に記入しておく。これに基づいて 1 日目の行動計画を発表し、実習指導者などからアドバイスを受けケアを実施する。 ・ケアを実施する際は、実習指導者あるいは担当教員とともにいき、実施後は速やかに報告をする。 ・翌日の行動計画は、実習指導者や担当教員からアドバイスをもらい計画する。
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「疾病と治療Ⅳ」「母性看護学Ⅰ」「母性看護学Ⅱ」の学修内容を復習して臨む。 ・「母性看護学実習要項」をよく読んでおくこと。 		
授業内課題のフィードバックの方法	連日、口頭・記録物添削等を通してフィードバックを行う。		

テキスト・教材								
参考書	1. 森恵美他：『母性看護学概論』（医学書院） 2. 大平光子他編：『母性看護学Ⅱ マタニティサイクル』（南江堂） 3. 平澤美恵子他監修：『写真でわかる母性看護技術 アドバンス』（インターメディカ） 4. 医療情報科学研究所：『病気が見える vol.10 産科第4版』（メディックメディア） 5. 馬場一憲編：『目でみる妊娠と出産』（文光堂）							
評価の基準と方法	実習目標への達成度、課題レポート、実習への取り組み方、態度を実習評価表に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目	母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 疾病と治療Ⅳ							
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は複数の担当者が各実習施設を担当し指導する科目であり、担当教員全員が助産師としての実務経験を有している。本科目では、その経験を活かし、各学生が臨床でスムーズに学修が進むよう支援する。							

科目名称	小児看護学実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Pediatric Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	秋田 由美	必修・選択	必修
担当教員	秋田・木村・橋浦	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	さまざまな健康レベル・発達段階にある子どもとその家族に適切な看護を展開するために、乳児、幼児、学童期にある対象の成長・発達とその家族の身体的・心理的・社会的特性を理解する。また、看護過程の展開を通して個性を捉え、健康障害をもつ子どもとその家族に対する健康の回復、苦痛の緩和のための看護および健康教育の方法を中心に体験し学習を深める。これらの実践を通して、子どもとその家族を取り巻く保健医療チームの一員であることを自覚し、小児看護に求められる知識、技術、態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の身体的・心理的・社会的特性および生活・療養環境について記述できる。 2) 小児の健康レベルに合わせた援助の必要性を考え、具体的方法を説明できる。 3) 小児の個性に合わせ、安全安楽な看護技術を実践し、評価できる。 4) 小児看護における家族への援助の必要性を明確にし、その具体的方策を記述できる。 5) 小児が生活・療養する場における看護師・保健師の役割、他職種との連携について記述できる。 6) 自己の関わりを振り返り、看護者としての自分の姿勢や関わりについて具体的に述べ、今後の課題を明確にすることができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	病院実習（5 日間） 秋田由美、橋浦里実、木村節子	<ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもとの関わりを通して、子どもがどのようなことを感じ、思い、考えているのか、子どもの反応の意味を理解し、記述する。 2) 子どもの基本情報、成長発達、家族背景、生活環境について情報収集する。 3) 子どもの病態・治療について、知識と情報を整理し、2 と合わせて看護上の問題・課題を抽出する。 4) 看護上の問題・課題に影響を及ぼす、子どもや家族の要因を明らかにし、それらの要因の解決に向けた看護の方向性を記述する。 5) 子どもの個性・状況に合わせた具体的な目標を設定し、具体的な行動計画・ケア計画を立案できる。 6) 子どもの安全を守って、看護を実践する。 7) 子どもと家族の安楽に配慮して、看護を実践する。 8) 実践した看護援助について整理・分析し、評価・修正する。 9) 小児医療における看護師の役割、多職種との連携について記述する。 10) 自己の関わりを振り返り、看護者としての自分の姿勢や関わりについて具体的に説明し、今後の自己の課題を明確にする。 	<p>5 日間病院実習を行う。</p> <p>病棟実習：入院中の子どもを受け持ち、看護過程を展開し、子どもの個性を捉え、健康の回復・苦痛の緩和を中心に看護を実践する。</p> <p>外来実習：病棟で受け持ちがなかった場合に外来実習を行う。小児科外来において地域で生活する子どもとその家族の健康レベルに応じた看護について学ぶ。</p> <p>1 日目：実習オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受け持つ子どもの決定、情報収集</p> <p>2 日目：受け持ちの子どもに行われている看護を見学・実施、情報収集・アセスメント</p> <p>3 日目～5 日目：看護実践、評価修正（5 日目に「実践した看護と実習での学び、今後の自己課題」を発表）</p> <p>予習・復習：小児特有の病気・成長発達に関する知識の整理、日々の行動計画・ケア計画の立案・修正などを実習記録用紙に整理する。</p>
2	保育所実習（3 日間） 秋田由美、橋浦里実、木村節子	<ol style="list-style-type: none"> 1) 遊びを含めた日常生活の様子から、健康な子どもの成長・発達の特徴を記述する。 2) 健康な子どもに必要な日常生活（食事、衣服の着脱、排泄、睡眠など）支援を見学・実施し、子どもの発達に合わせた関わり方について記述する。 3) 集団生活における子どもの安全・事故防止、感染予防など健康管理および家庭との調整について理解し、学生ができる範囲で実践し、記述する。 4) 保育所における看護師・保健師の役割について記述する。 5) 自己の関わりについて、子どもの健康保持増進、成長発達の促進という視点で整理、振り返りを行い、自己の課題を明確にする。 	<p>1・2 日目：保育所実習</p> <p>保育所内の実習担当者の指示に従って、クラスに入り子どもたちの活動に参加し、クラスの子どもの関わり、成長・発達、生活の様子を観察し、必要な生活援助を見学・実施する。看護師または保健師から保育所における看護師・保健師の役割について説明を受ける。保育所における感染管理・安全管理や子どもの成長発達、実施した生活援助についてディスカッションする。</p> <p>3 日目：学内カンファレンス</p> <p>保育所実習での学びを共有し、年齢ごとの成長・発達の違いや個々の学生が行った支援を整理した上で、健康管理および家庭との調整、保育所における看護師、保健師の役割を考える。</p> <p>予習・復習：健康な子どもの成長発達について整理する。観察した子どもの成長・発達、生活の様子と実施した生活援助を実習記録用紙に整理し考察する。</p>

3	障害児施設実習 (2日間) 秋田由美、橋浦里実、木村節子	1) 重症心身障害児が生活する環境と重症心身障害児施設の社会的意義を記述する。 2) 重症心身障害児が子どもとその家族に与える影響について、身体・心理・社会的側面から記述する。 3) 重症心身障害児とその家族に合わせた看護師による支援の実際を記述する。 4) 重症心身障害児とその家族への支援における医療・福祉・教育の連携について記述する。 5) 実習での自己の関わりを振り返り、障害児や障害者への看護師としてのあり方や今後の自己の課題を記述する。	2日間障害児施設で実習を行う。 ※保育所実習と障害児施設実習は異なる週の実習となる。 ※保育所・障害児施設の順序はグループにより前後する。 予習・復習：重症心身障害児の特徴について整理する。 見学した生活環境、看護師の子どもへの援助とその際の子どもの反応、他職種との連携を実習記録用紙に整理し考察する。					
授業開始前学習		1. 小児看護学Ⅰ・小児看護学Ⅱおよび疾病と治療Ⅴ(小児)の内容を復習しておく。 2. 以下の内容は、携行できるポケットサイズのノートに整理する。 1) 各発達段階別身体・精神・社会性の成長発達 2) 発達課題 3) 基本的な生活習慣の自立のプロセス 4) 成長発達の評価方法 5) 子どものフィジカルアセスメント：バイタルサインズ(体温・呼吸・脈拍・血圧)の発達段階別基準値および観察項目、測定方法と根拠、呼吸の観察項目と肺雑音の種類と性状 6) 子どもの身体計測 7) 入院している子どもに起こりやすい事故と予防方法 8) 小児の看護技術：食事介助(哺乳・調乳含)、清潔ケア、内服の援助、環境整備、プレパレーション、遊び、午睡の援助 9) 病気をもちながら地域で生活する子どもと家族、外来看護 10) 重症心身障害児の特徴とその看護 3. 病院実習で受け持つ可能性の高い以下の疾患の病態、治療、看護について整理する。 呼吸器感染症(肺炎、気管支炎、RSウイルス感染症)、アレルギー疾患(喘息、食物アレルギーとその負荷試験)、胃腸炎、IgA血管炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症、川崎病、骨折、熱性けいれん、アデノイド・扁桃摘出手術、滲出性中耳炎(チュービング手術)、口唇・口蓋裂						
授業内課題のフィードバックの方法	日々の行動計画は実習開始前に教員および実習指導者が確認し、より効果的に実習を行うことができるように計画の追加修正などを促す。その他の実習記録については、実習時間内および実習終了後に思考の整理や実践の振り返りができるようにコメントし、必要に応じて面談する。							
テキスト・教材	奈良間美穂他著『系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学①②』(医学書院)							
参考書	筒井真優美 監修『小児看護第2版 パーフェクト臨床実習ガイド』(照林社)							
評価の基準と方法	病院実習 50%、保育所実習 25%、障害児施設実習 25%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目	疾病と治療Ⅴ(小児) 小児看護学Ⅰ 小児看護学Ⅱ							
その他	◇学習目標 小児の成長発達段階を理解し、健康障害をもつ子どもとその家族への看護が実践できる基礎的能力を身につける。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当教員全員が小児病棟での看護師としての実務経験を有しており、その経験を活かし学生の実習指導を行う。							

科目名称	成人看護学急性期実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	3.0 単位
英文名称	Adult Health Nursing Practicum (Acute Care)	授業区分	実習
科目責任者	小林 優子	必修・選択	必修
担当教員	飯塚・小林(優)・野村・吉野	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	急性期にある患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。急性期にある患者の受け持ち、急性期の身体変化や回復過程に応じた援助の方法を学び、危機的状況にある患者とその家族への看護の方法を学習する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病、手術、麻酔などによって生じている身体的問題を抽出し看護計画を立案することができる。 2. 疾病、治療による影響や発達段階、社会的役割から、患者や家族を心理・社会的側面からアセスメントし、問題の抽出と看護計画を立案することができる。 3. 具体的な援助の実施を通し、急性期に必要な看護ケアについて具体的に列挙できる。 4. 保健医療チームの一員として果たす役割および多職種との連携について述べるができる。 5. 患者、家族の尊厳を重んじ、安全・安楽を考えた態度で援助できる。 6. 実施した看護を振り返ることで自己の学習課題を明らかにし、看護観を深め記述できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	実習要項を参照のこと	事前学習、課題については実習要項を参照のこと。施設での実習にあたり必要な予習・復習を必ず行うこと。
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、専門基礎分野や専門分野の看護の基本的知識を活用するとともに統合を図る。 ・人体の構造と機能、疾病と治療、基礎看護学、成人看護学を見直し、必要時資料を持参する。 ・成人看護学Ⅱで学習した内容（看護過程、技術演習含む）を見直し、資料を実習場へ持参する。 ・オリエンテーション前に配属された病棟の特徴を確認し、関連する科目の復習を行う。 ・実習中は毎日、ケア実践の結果・評価を明らかにし翌日のケア実践に活かす。 ・ケア実践をとおして自己の課題や看護への気づきを記録し学修の足跡を残す。 ・体調管理に留意し、臨地での学びが十分できるよう心がける。 ・欠席や遅刻・早退は、受持ち患者さんへ多大な迷惑がかかることを認識する。 		
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録は毎日の記録、看護過程の記録、手術室見学実習記録などがある。毎日の記録は原則として翌日に個別にフィードバックを行う。看護過程の記録はカンファレンスの際にフィードバックを実施する。そのほか必要に応じて個別にフィードバックを行う。		
テキスト・教材	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [1～11] (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) 新体系看護学全書 成人看護学概論/成人保健 (メヂカルフレンド社)		
参考書	本庄恵子他『写真でわかる臨床看護技術アドバンス①②』(インターメディカ) 浦部晶夫他『今日の治療薬 2023』(南江堂) 櫻林郁之介他『今日の臨床検査 2021-2022』(南江堂)		
評価の基準と方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 2/3 以上の出席があり、所定の記録物を時間内に提出した者に対して評価を行う。 ② 評価表をもとに、個人面接を行う。 ③ 評価表に基づき、実習目標到達状況、実習態度、記録・レポートを総合的に評価する。 		
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成 多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成

学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	<p>◇学習目標 手術、麻酔などにより侵襲を受けている患者や家族等の特徴を理解し、看護過程の展開を通して急性期から回復へ向かう看護を実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>◇学習上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に臨地実習に取り組むことを期待します。 ・実習上で生じる様々な問題、葛藤に前向きに対処し、自己の成長に努めていきましょう。 ・健康障害をもつ患者を受けもたせて頂くにあたって、学生として責任のある行動をとりましょう。 ・原則として全日数出席です。自己の健康管理を行って下さい。 							
予習・復習の 所要時間								
実務経験を活かした 教育内容	<p>本科目は複数の教員が担当する科目であり、全員が看護師としての臨床での実務経験を有している。本科目ではその経験を活かし、学生が受持ち患者に対して看護過程を展開し看護援助が行えるよう教育を行う。</p>							

科目名称	成人看護学慢性期実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	3.0 単位
英文名称	Adult Health Nursing Practicum (Chronic Care)	授業区分	実習
科目責任者	奥井良子	必修・選択	必修
担当教員	奥井・近藤・長嶋	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	慢性疾患を抱えて生活する患者や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して慢性期にある患者への看護を実践できる基礎的能力を身につける。慢性期にある患者を受け持ち、健康の回復や急性増悪の予防のための援助と、多職種との連携で患者を支援するためのヘルスケアシステムを理解する。また、自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。実習を通して、保健医療チームの一員であることを自覚し、学生として責任のある行動をとることができるようになることをねらいとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.患者・家族に対して積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。 2.成人の特徴および健康状態を考慮に入れて、患者の個別的状況を総合的に理解できる。 3.患者の理解に基づき看護上の問題・患者のニーズを特定し、看護計画の立案、実践、評価ができる 4.看護専門職者を目指す者としての責任を自覚し、患者の権利を擁護し、倫理観に基づいて行動できる。 5.患者に関わる関係従事者と連携の重要性を理解し、チームの一員として、協働しながら行動できる。 6.看護専門職者として、自己成長と看護の向上のために、主体的に学び続ける姿勢を身につける。 7.自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	学内オリエンテーション 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	病院・病棟オリエンテーション 技術演習 インシデントシミュレーションワーク 臨地実習事前学習	オリエンテーション 演習 グループワーク 自己学習 ・臨地実習までに学習した形態機能学、人体の構造と機能、疾病と治療、基礎看護学、成人看護学などのテキスト、ノートがそろっているか内容を含め整理する。 ・実習前演習で、臨地実習で体験する可能性のある看護技術の自己学習を行なう。
2	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 1 日目 病院・病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント）
3	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 2 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント）、経過記録
4	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 3 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント）、経過記録、中間カンファレンス資料（看護問題リスト、関連図）
5	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 4 日目 受け持ち患者のケア 情報収集 中間カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護過程（患者プロフィール、アセスメント、看護問題リスト、関連図）修正、看護計画立案、1 週目自己評価表
6	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 5 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画修正
7	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 6 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
8	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、 近藤浩子	臨地実習 7 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、計画見直し
9	学内実習	病みの軌跡カンファレンス	カンファレンス

	奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	・「病みの軌跡理論」で受け持ち患者を捉えなおす。 ・「病みの軌跡」の図式化 ・プレゼンテーションおよび意見交換 自己学習 技術練習	自己学習 技術練習 予習および復習：日々記録、看護目標・計画見直し					
10	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	臨地実習 8 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し、2 週目自己評価表					
11	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	臨地実習 9 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し					
12	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	臨地実習 10 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し					
13	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	臨地実習 11 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 カンファレンス	臨地実習 予習および復習：日々記録、経過記録、看護計画評価、目標・計画見直し					
14	臨地実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	臨地実習 12 日目 看護計画に基づいた受け持ち患者のケアの実施と評価 臨地実習最終カンファレンス ・受け持ち患者に行った看護とその評価 ・成人看護学慢性期実習での学び	臨地実習 カンファレンス 復習：日々記録、経過記録、看護過程記録					
15	学内実習 奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子	学内実習 ヒヤリ・ハットカンファレンス 記録提出 個別評価面接	学内実習 カンファレンス 個別面接 予習：事前にヒヤリハットした事例の記述、記録一式、3 週目自己評価表					
授業開始前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「人体の機能と構造 I・II」の復習 ・「疾病と治療 I」の復習 ・基礎看護技術の復習と練習 ・実習初日の技術演習の準備 							
授業内課題のフィードバックの方法	<p>受け持ち患者への看護を実践するために必要な学習が日々の課題であり、それに対する指導を担当教員と臨床指導者で行う。</p> <p>また、受け持ち患者の看護過程では、患者アセスメントの結果を全体像にまとめ 1 週目の金曜日の中間カンファレンスで発表、更に看護実践の結果および実習の成果のまとめを 3 週目の木曜日の最終カンファレンスで発表し、グループメンバー学生、臨床指導者、担当教員からの意見、助言を受ける。</p>							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目	成人看護学 I、成人看護学 II、成人看護学 III							
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	複数の教員が担当する科目であり、担当教員は全員が看護師としての臨床での実務経験を有したものである。							

科目名称	老年看護学実習 I		
科目分類	310-311-32 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Gerontological Nursing Practicum I	授業区分	実習
科目責任者	小林小百合	必修・選択	必修
担当教員	小林(小)・武田・松戸・森	開講時期	2 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	地域で生活する高齢者の発達段階と加齢現象を理解する。また、施設内で行われているさまざまなサービスや活動を通して、高齢者の活動の実際および医療・保健・福祉の連携を理解する。地域で生活する高齢者の自立・自律支援に関わる援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、施設における看護職の役割、連携の実際、高齢者の地域での生活を支える社会資源の活用方法について学習する。実習を通して高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者とのコミュニケーションを成立させるための技術を学び、記述できる。 2. 地域で生活する高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的な面から把握し、列挙できる。 3. 地域で生活する高齢者の自立・自律支援に関わる援助を指導者とともに実施できる。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として、施設における看護職の役割、連携の実際について学び、説明できる。 5. 高齢者の地域での生活を支える社会資源の活用方法について学び、具体的に述べるができる。 6. 高齢者への関心を高め、高齢者を個人として尊重する態度を示すことができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法 (アクティブ・ラーニング) ・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	小林小百合 松戸典文 武田藍 ()	<p>実習前ガイダンス 実習に臨むための諸注意、事前課題を把握する</p> <p>1 日目 (月曜日) オリエンテーション、施設実習 施設オリエンテーションをうけ、施設の社会的な役割、理念、特徴、サービスの概要について知る。また、サービス提供をしている多職種について、その役割と連携について知る。 高齢者とのコミュニケーションをとる。</p> <p>2-4 日目 (火～木曜日) ・高齢者とコミュニケーションをとりながら、高齢者自身の思いに触れる。 ・様々な場面を通して、身体的・精神的・社会的な側面から高齢者について理解を深める。 ・高齢者の日常生活援助や日々の活動の見学を通して、高齢者の特徴と提供されているサービスの実際を知る。 ・可能な範囲で施設で実施しているアクティビティアに参加し (デイ・サービスを含む)、高齢者へのスタッフの関わり方を注意深く観察する。</p> <p>4 日目 (木曜日) ・最終カンファレンスで学生は実習で学んだことについて発表する。</p> <p>5 日目 (金曜日) ・全体カンファレンスで他の施設に行った学生と学びを共有する (グループ発表)。 ・教員と面談を行い、記録の指導や振り返りを行う。 ・記録の整理を行い、提出する。</p>	<p>授業方法：臨地実習</p> <p>事前課題： ①授業で学習した内容から、実習施設について介護保険制度上のサービスの種類、対象者、規程などについて調べてまとめておく。 ②今までの実習で明確になった自分の課題や、自分でこの実習で到達したいと考えている目標、高齢者とコミュニケーションを取ることに対し、どのような点に配慮しようと考えているかを指定の用紙に記載し、実習初日に提出する</p> <p>実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日朝に担当教員に提出する。</p> <p>実習終了時には、初日から今まで学んだ成果を実習のまとめとして指定の記録用紙に記載し、実習記録一式とともに提出する。</p>
授業開始前学習	老年看護学概論で学習した内容を十分復習して実習に臨む。		
授業内課題のフィードバックの方法	記録用紙については、日々口頭で、あるいは文章で、個々にコメントをおこなう。また、カンファレンスを通して、実習グループ全体で学びが深められるように振り返りの機会を提供する。		
テキスト・教材	特になし		

参考書	老年看護学概論で使用した教科書。							
評価の基準と方法	実習評価に基づいて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	<p>◇学習目標 地域で生活する高齢者の発達段階と加齢現象を理解する。また、施設内で行われているさまざまなサービスや活動を通して、高齢者の活動の実際および医療・保健・福祉の連携を理解する。</p> <p>◇学習上の留意事項 生活リズムをととのえ健康管理をしっかりとこなうことで、欠席しないようにする。 実習施設や高齢者の方々のご協力を得て成立している授業であることを念頭に置き、常に感謝の気持ちをもって、積極的・自主的に実習に臨んでほしい。</p>							
予習・復習の 所要時間								
実務経験を活かした 教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして、実習指導をおこなう。							

科目名称	老年看護学実習Ⅱ		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	3.0 単位
英文名称	Gerontological Nursing Practicum II	授業区分	実習
科目責任者	松戸 典文	必修・選択	必修
担当教員	小林(小)・武田・松戸・森	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。療養施設で療養生活を送る高齢者の健康上の問題解決に必要なアセスメントをし、計画に基づいた具体的な援助の実施を通し、患者とその家族への看護の方法を学習する。保健医療チームの一員として果たす役割を学習する。自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を明らかにする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 療養施設で療養生活を送る高齢者の特徴を知り、生活者としての全体像を列挙できる。 2. 患者を受け持ち、援助関係を通し健康上の問題解決に必要なアセスメントを記述できる。 3. 患者の個別性と生活の質を考慮した援助計画を立案することができる。 4. 具体的な援助の実施を通し、高齢者への看護ケアに必要な技術と姿勢・態度を記述できる。 5. 保健医療チームの一員として果たす役割を説明できる。 6. 自己の看護観の確立に向けて、実施した看護を振り返り自己の学習課題を具体的に記述することができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1 週目	小林小百合 松戸典文 武田藍	<p>実習前：学内オリエンテーション</p> <p>1 日目 学内オリエンテーション、リーダー・書記の選出、事前学習(病態生理の学習など)を行う</p> <p>2 日目 施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション、受持ち患者の選定および挨拶、同意書の取得、コミュニケーション、情報収集</p> <p>3 日目 受持ち患者とのコミュニケーションや記録物の確認を通して、情報収集やアセスメントを行い、看護上の課題を抽出する</p> <p>4 日目 受持ち患者とのコミュニケーションや、指導者・スタッフと共に受持ち患者のケアに参加する。看護問題の抽出</p> <p>5 日目 受持ち患者とのコミュニケーションや、指導者・スタッフと共に受持ち患者のケアに参加する。看護計画のカンファレンスを行い、指導者からコメントを貰う</p>	<p>授業方法：臨地実習</p> <p>事前課題：老年看護学Ⅰ、Ⅱで学習した知識と技術を復習しておく。</p> <p>実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員へ提出する。</p> <p>情報収集、アセスメント、全体像、看護上の課題、看護計画はそれぞれ指定の用紙に記入し、適宜担当教員の指導を受け、内容の精度を高めていく。</p> <p>一週目のまとめとして、一連のアセスメントに基づいた看護計画を立案する。</p>
2 週目	小林小百合 松戸典文 武田藍	<p>6、7 日目 修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う</p> <p>8 日目 学内にて実習記録の整理を行う。担当教員と中間面接を行い、実習後半に向けての課題を明確にする。看護計画の評価を行う</p> <p>9 日目 修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う</p> <p>10 日目 修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う。看護計画の計画・評価に関する中間カンファレンスを行う</p>	<p>実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員に提出する。</p> <p>日々の学びの記録用紙には、看護計画に基づいたケア実施についての記録を含む。</p> <p>指定の実習評価表を用いて、実習中間の自己評価をおこない、教員と面談する際に持参する。</p>

3週目	小林小百合 松戸典文 武田藍	11～13日目 修正した看護計画を指導者や教員に確認して貰い、看護計画に基づいたケアを実施する。また、実施した看護計画の評価・修正(必要時)を行う。看護計画の評価を行う。受持ち患者の看護サマリーを作成する 14日目 最終カンファレンスにて看護サマリーの発表を行う。受持ち患者、病棟、看護部に実習最終日の挨拶を行う 15日目 学内で実習記録の整理をし、実習のまとめ、自己評価を行う。担当教員と評価面談を行い、実習記録物を提出する	実習中は日々の学びを指定の記録用紙に記入し、翌実習日の朝に担当教員に提出する。 日々の学びの記録用紙には、看護計画に基づいたケア実施についての記録を含む。 看護計画の評価は、看護計画用紙の所定の欄に記入し、適宜教員の指導を受ける。 実習で受け持った患者について看護サマリーにまとめ、施設実習最終日の反省会で発表する。 施設実習終了後に、自己評価表を記入し学内の最終(評価)面談に備える。 実習記録一式、自己評価表を提出する。					
授業開始前学習	◇準備学習 老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱで学習した内容を十分復習して実習に臨む。 ◇学習上の留意点 生活リズムをととのえ健康管理をしっかりとこなうことで、欠席しないようにする。 老年看護学実習Ⅰでの学びを生かし、さらに高い倫理観をもって真摯な姿勢で実習に取り組む。							
授業内課題のフィードバックの方法	記録用紙については、日々口頭または文章で、個々にコメントをおこなう。 また、カンファレンスを通して、実習グループ全体で学びが深められるように振り返りの機会を提供する。							
テキスト・教材	看護がみえる vol.4 看護過程の展開(メディックメディア)							
参考書								
評価の基準と方法	実習評価表に基づいて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成 多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	◇学習目標 健康障害により施設内で療養生活を送る老年期にある対象や取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して老年期にある対象への看護が実践できる基礎的能力を身につける。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	担当する全教員が病院での看護師の経験があり、老年期にある患者の看護実践の経験を活かして、実習指導をおこなう。							

科目名称	精神看護学実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Psychiatric Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	畠山卓也	必修・選択	必修
担当教員	岡・畠山(卓)・松尾	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	精神の健康問題により日常生活や対人関係に困難を抱える患者の特性を理解し、看護過程の展開を通して、精神の健康問題を抱える患者への看護が実践できる基礎的能力を身につける。受け持ち患者との相互関係を中心に、対人関係における他者理解・自己理解を深め、治療的関係の構築および自己活用の方法について学ぶ。また、多職種とのかかわりを通じ、精神医療の中でのチーム連携と看護の役割を学習し、精神的健康の維持・回復のための諸制度や支援のあり方を知る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.受け持ち患者との相互関係を中心に、対人関係における他者理解・自己理解を深め、治療的関係の構築および自己活用の方法について説明できる。 2.受け持ち患者を全人的に理解し、受け持ち患者の看護に必要なアセスメントを列挙できる。 3.アセスメントを基に立案した計画を受け持ち患者とともに検討し、看護師とともに実施できる。 4.多職種とのかかわりを通じ、精神医療の中でのチーム連携と看護の役割を説明できる。 5.精神的健康の維持・回復のための諸制度や支援のあり方を知り、社会復帰に関する課題を具体的に述べる事ができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
実習 1 週目	<p>>実習 1 日目：病院オリエンテーション・受け持ち患者決定 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 2 日目：受け持ち患者との関わり・情報収集 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 3 日目：学内カンファレンス（プロセスレコードの検討・アセスメントのまとめ） 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 4 日目：受け持ち患者との関わり・情報収集 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 5 日目：受け持ち患者との関わり・情報収集・病棟中間カンファレンス（アセスメント・看護目標発表） 畠山卓也、松尾真規子</p>	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者を 1 名受け持ち、看護活動に参加しながら、課題に取り組む。 2) 「実習計画」を作成し、毎朝実習開始時に担当教員に提出し、担当教員と実習指導者の確認と助言を得てから実習に臨む。 3) 「実習計画」を含む課題は、担当教員や実習指導者の助言・指導や、カンファレンスでディスカッションを行い、学習を深める。見学実習についてはフィールドワークを実践する。 4) 中間カンファレンスでは、受け持ち患者のケース像について発表し、ディスカッションを行う。 <p>実習課題：1 週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「事前課題」：実習に臨むための基本的な知識を整理するために、Google Classroom から配付する。実習初日に学習内容を確認する。 2) 「実習計画」：毎日実習計画を作成し、その実施内容を自己評価する。 3) 「看護過程の展開」：受け持ち患者をセルフケア看護理論に基づいてアセスメントし、ケース像や看護計画を立案する。 4) 「プロセスレコード」：受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、自己のかかわりについて振り返る。 5) 「見学実習」：作業療法や保護室ケアなどについて見学し、その学びをまとめる。 	<p>【実習】を主とし、実習内容を効果的に学ぶために、【ディスカッション】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【発表】【課題解決型学習】を適宜用いて、学習する。</p> <p>・「実習」：患者を 1 名受け持ち、看護活動に参加しながら、課題に取り組む。実習日誌に実習計画を作成し、実習指導者・担当教員の確認を得て、実施する。実施した内容は、実習日誌に記載し翌日に提出する。</p> <p>・「課題解決型学習」「フィールドワーク」：「実習事前課題」を提出し、実習を遂行するうえで必要な知識の学習状況について確認する。オリエンテーション、作業療法や保護室の見学内容は、見学実習の学びとして整理する。</p> <p>・「ディスカッション」「発表」：病棟カンファレンスで、当日の実習内容について振り返り、学びを共有する。</p> <p>（予習）</p> <p>・「事前課題」：実習開始前までに自己学習する。</p> <p>・「実習計画」：毎朝実習開始時に提出できるよう準備する。</p> <p>・「セルフケアアセスメント」「精神症状アセスメント」「ケース像」「看護計画」「プロセスレコード」「テーマディスカッション」「見学実習」：適宜作成し、提出する。実習時間内も有効に活用する。</p> <p>（復習）</p> <p>・実習課題（1 週目）の 1）～5）について、教員や実習指導者の確認、助言、指導やカンファレンス等の議論を踏まえて、加筆・修正を行う。</p>

<p>実習 2 週目</p>	<p>>実習 6 日目：ケアプランに基づいた実践・ケアプランと具体的な計画内容の発表 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 7 日目：ケアプランに基づいた実践と評価 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 8 日目：ケアプランに基づいた実践と評価 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 9 日目：ケアプランに基づいた実践と評価・病棟最終カンファレンス（まとめ発表） 畠山卓也、松尾真規子、岡京子</p> <p>>実習 10 日目：学内カンファレンス（精神看護学実習のまとめ・実習記録の整理と提出・評価面接） 畠山卓也、</p>	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 週目に引き続き、患者を 1 名受け持ち、看護活動に参加しながら、実習課題に取り組む。 2) 「実習計画」を作成し、毎朝実習開始時に担当教員に提出し、担当教員と実習指導者の確認と助言を得てから実習に臨む。 3) 「実習計画」を含む課題は、担当教員や実習指導者の助言・指導を受けたり、カンファレンスでディスカッションを行ったりしながら、学習を深める。 4) 最終カンファレンスでは、実習のまとめについてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行い、学びを深める。 <p>実習課題：実習 2 週目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「実習計画」：毎日実習計画を作成し、その実施内容を自己評価する。 2) 「看護過程の展開」：教員や実習指導者の助言を得ながら実施し、評価・修正する。 3) 「テーマディスカッション」：テーマを決めてディスカッションを行い、自身の考えや学びをまとめる。 4) 「実習のまとめ」：受け持ち患者の看護実践を通して得た学びや気づきをまとめ、レポートを作成する。 	<p>【実習】を主とし、実習内容を効果的に学ぶために、【ディスカッション】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【発表】【課題解決型学習】を適宜用いて、学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実習」：患者を 1 名受け持ち、看護活動に参加しながら、課題に取り組む。実習日誌に実習計画を作成し、実習指導者・担当教員の確認を得て、実施する。実施した内容は、実習日誌に記載し翌日に提出する。 ・「課題解決型学習」「フィールドワーク」：作業療法や保護室の見学内容は、見学実習の学びとして整理する。 ・「ディスカッション」「発表」：病棟カンファレンスで、当日の実習内容について振り返り、学びを共有する。 <p>(予習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「事前課題」：実習開始前までに自己学習する。 ・「実習計画」：毎朝実習開始時に提出できるよう準備する。 ・「セルフケアアセスメント」「精神症状アセスメント」「ケース像」「看護計画」「プロセスレコード」「テーマディスカッション」「見学実習」：適宜作成し、提出する。実習時間内でも有効に活用する。 <p>(復習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習課題（2 週目）の 1）～ 4）について、教員や実習指導者の確認、助言、指導やカンファレンス等の議論を踏まえて、加筆・修正を行う。 					
<p>授業開始前学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「精神看護学実習」を履修する際には、履修に必要な科目の単位を履修しておくこと。 ・実習要項をよく読み、実習の目的・目標や方法を理解しておくこと。 ・「精神看護学実習」の履修に当たっては、「疾病と治療（精神系）」「薬理学」「精神看護学Ⅰ・Ⅱ」「心理学」で学んだ知識や技術を基盤とするため、良く復習をし理解を深めておくこと。 ・新聞やインターネット、書籍などを積極的に活用しながら幅広い視点で実習に望むこと。 ・健康管理には注意をし、体調を整えるなどの自己管理をして実習に望むこと。 							
<p>授業内課題のフィードバックの方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習記録については、毎日担当教員が記載内容を確認し、助言・指導を行う。 ・実習レポートに関しては、学内面談の際に、助言・指導を行う。 							
<p>テキスト・教材</p>	<p>特に指定していない。 疾病と治療Ⅵ（精神障害）、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱにおいて使用した教科書は、引き続き使用する。</p>							
<p>参考書</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.精神看護学実習ハンドブック 一般社団法人日本精神科看護協会監修 草地仁史・中村博文・畠山卓也・三谷梨絵子・若井亮治編著 中央法規出版 2022 年 2.看護師のための精神科でのコミュニケーションとケア 畠山卓也編著 ナツメ社 2021 年 3.みてわかるできる 映像・事例で学ぶ看護過程「精神看護学」 草地仁史編集 学研 2022 年 4.ストレンクスから見た精神看護過程 菅間真美編集 医学書院 2021 年 5.精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開 田中美恵子編著 医歯薬出版株式会社 							
<p>評価の基準と方法</p>	<p>実習評価に準じて評価する。</p>							
<p>ディプロマポリシー</p>	<p>人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成</p>	<p>他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成</p>	<p>チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成</p>	<p>多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成</p>				
<p>学修指針</p>	<p>教養力</p>	<p>人間性</p>	<p>コミュニケーション力</p>	<p>社会性</p>	<p>専門力</p>	<p>判断力</p>	<p>技術力</p>	<p>実践力</p>
<p>科目の該当</p>				<p>△</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>○</p>	<p>◎</p>
<p>関連科目</p>	<p>疾病と治療Ⅵ（精神障害）、精神看護学Ⅰ、精神看護学Ⅱ</p>							

<p>その他</p>	<p>◇学習目標 精神の健康問題により日常生活や対人関係に困難を抱える患者の特性を理解し、看護過程の展開を通して、精神の健康問題を抱える患者への看護が実践できる基礎的能力を身につける。</p> <p>◇学習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科病院の構造と機能についての理解する。 ・対象者の病態と共に、バイオ・サイコ・ソーシャルな視点でのアセスメントし理解する。 ・治療的コミュニケーションを理解し実践する。 ・セルフケア理論、ストレングスモデルに基づいた対象者の理解・目標設定・看護経計画立案・実施・評価の看護過程を展開する。 ・精神科リハビリテーション療法（作業療法・心理教育・家族療法・SST など）の実際や他職種連携について学ぶ。
<p>予習・復習の 所要時間</p>	
<p>実務経験を活かした 教育内容</p>	<p>主に病院で精神看護実践に携わってきた精神看護専門看護師の教員（畠山卓也・岡京子）と、保健師として地域の精神保健福祉に携わってきた教員（松尾真規子）が、その実務経験を活かし、精神疾患をもつ人の看護実践、社会復帰への援助、看護師が実践できるセラピーについて、講義と演習を行う。</p>

科目名称	在宅看護学実習		
科目分類	310-311-33 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Home Health Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	橘 達枝	必修・選択	必修
担当教員	沖田・笠原・橘	開講時期	3 年後期～4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	健康上の問題を抱え、地域で療養生活をする対象者を取り巻く人々の特性を理解し、看護過程の展開を通して、在宅で療養している対象者への看護が実践できる基礎的能力を身につける。在宅療養者の援助を指導者とともに実施することを通して、保健・医療・福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際、在宅でその人らしく療養生活を継続するために必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.在宅療養者の援助を指導者とともに実施することを通して、在宅で療養する対象者およびその家族の特徴を身体的・精神的・社会的な面から理解し、説明できる。 2.訪問対象者の看護過程の展開を通し、在宅看護の実際を知る。 3.保健・医療・福祉チームの一員として、在宅における看護職の役割、連携の実際について説明できる。 4.在宅でその人らしく療養生活を継続するために必要な在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法について説明できる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
第 1 週 目	橘 達枝、沖田 亜希 恵、笠原 順子	1日目（月）実習オリエンテーション 2日目（火）施設内オリエンテーション 訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 3日目（水）訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 4日目（木）訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 5日目（金）対象者の情報のアセスメント、計 画立案	実習前および実習中に必要に応じて既習の関連科目の再 学習をする。 在宅看護専門科目はもちろんのこと、対象者のライフステー ジや疾患・障害に応じて各専門科目を復習し、在宅療養の 課題や目標を理解し看護援助を考える。 また、社会保障と社会福祉、保健医療福祉行政論について も復習し、保健医療福祉の総合的な在宅療養支援を考え られるようにする。
第 2 週 目	橘 達枝、笠原 順 子、沖田 亜希恵	6日目（月）対象者の情報のアセスメント、計 画立案 7日目（火）訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 立案したプランの実施・評価 8日目（水）訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 立案したプランの実施・評価 9日目（木）訪問看護師の指導のもと訪問に 同行 終了カンファレンス 10日目（金）学内カンファレンス・ まとめ	同上
授業開始前学習	本実習は、在宅で療養する小児から高齢者の全てのライフステージの者が対象となり得る。準備学習として既習の在宅看護学Ⅰ、在宅看護学Ⅱはもちろんのこと、各専門領域分野の看護の知識・技術を応用し活用することも必要となる。そのため、必ず実習前および実習中に関連科目を復習し、実習の成果を上げるようにする。訪問看護師に同行して実習することが中心になるが、同行した訪問宅ではそれ以前の実習で経験済みの看護技術を提供する機会とし、看護援助の計画を考えるなど主体的・積極的な実習の取り組みが求められる。在宅移行時の連携機能を学ぶ際、学生自身が今までに受け持った事例について、在宅療養を想定し在宅療養生活の全体像を捉えた支援計画を考える。		
授業内課題の フィードバックの方法	実習中の日々の記録、情報収集・アセスメントは随時指導する。		
テキスト・教材	実習中に適宜紹介する		
参考書	実習中に適宜紹介する		
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価（80%）、レポート（20%）		

ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	<p>◇学習目標在宅療養者とその家族の生活に触れ、在宅療養者の看護を体験することにより、在宅ケアシステムおよび社会資源の活用方法を理解する。また、看護過程の展開を通じ、援助の方向性を考え、生活の場に応じた援助の実際を学び、チームの一員としての看護の役割を理解する。</p> <p>◇学習上の留意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問宅では外来者であることをわきまえ、失礼のない訪問マナーで臨み、プライバシーを遵守することが重要である。 ・コロナ禍の緊急事態宣言の状況により実習計画を変更する場合、適宜周知する。 							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	実務経験のある教員が、その経験を活かした授業科目を担当している。							

科目名称	看護学統合実習		
科目分類	310-311-34 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Comprehensive Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	奥井良子	必修・選択	必修
担当教員	看護専任	開講時期	4 年前期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	臨地実習の集大成として関心のある領域の看護をより深く学ぶために、学生自らが主体的に実習計画を立案し実践する。既習の知識・技術・態度を活用し、より高い看護実践能力を養うために、組織の概要、看護職と多職種との役割と協働・連携の実際を理解し、チーム連携と協働を学ぶ。また、将来のキャリアを見据えるために、看護専門職としての役割、責務、態度について学習を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選択した領域において看護や保健の現状と今日的テーマや課題を説明できる。 2. 看護の対象となる人々の諸条件を考慮し、根拠に基づいた援助方法を創意工夫し、実践できる。 3. 保健・医療・福祉の問題を総合的に分析するとともに、チーム連携と協働の実際と看護の役割を説明できる。 4. 保健・医療・福祉における倫理規範を理解し、医療安全・危機管理に配慮した行動をとることができる。 5. 看護学統合実習で学び得た専門知識・技術を自己の実習課題に基づいて評価することができる。 6. 自己の振り返りの過程で、看護職としての自らの成長と今後の課題を具体的に記述することができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 1 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
2	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍	実習 2 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

	精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橘達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和		
3	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橘達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 3 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
4	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橘達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 4 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
5	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍	実習 5 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

	精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和		
6	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 6 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
7	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 7 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
8	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子	実習 8 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

	在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和		
9	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 9 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
10	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 10 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習
11	実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和	実習 11 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理	実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習

12	<p>実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和</p>	<p>実習 12 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理</p>	<p>実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習</p>
13	<p>実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和</p>	<p>実習 13 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理</p>	<p>実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習</p>
14	<p>実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和</p>	<p>実習 14 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理</p>	<p>実習 予習・復習：実習記録、実習内容に応じた学習</p>

15	<p>実習 基礎看護学：安藤郁子、門脇淳子、菊地由美、北澤友美 母性看護学：杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、那須野順子 小児看護学：高橋泉、秋田由美、橋浦里実 成人看護学：小林優子、飯塚麻紀、長嶋祐子、奥井良子、近藤浩子、野村美紀、吉野靖代 老年看護学：小林小百合、松戸典文、武田藍 精神看護学：畠山卓也、松尾真規子、岡京子 在宅看護学：橋達枝 公衆衛生看護学：土屋陽子、富塚美和</p>	<p>実習 15 日目 各学生の実習テーマに沿った実習 ・受け持ち患者の看護 ・チーム医療、多職種連携 ・複数患者受け持ち看護 ・夜勤帯を含む実習 ・看護管理</p>	<p>最終カンファレンス 実習成果発表会 実習記録整理</p>					
授業開始前学習	各自の実習テーマに沿った事前学習、実習計画を立てる。 ・実習前に担当教員から指導を受け、実習可能な行動計画を立てる。 ・自己の課題（実習テーマ）を達成するために必要な学習内容を十分に復習し実習に臨む。							
授業内課題のフィードバックの方法	担当教員から、適宜、指導およびフィードバックを行う。							
テキスト・教材								
参考書								
評価の基準と方法	「看護学統合実習評価表（共通）」を基に作成された、各看護領域の看護学統合実習評価表に準ずる。実習担当領域の教員が評価を行う。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容	本科目は担当者全員が看護師として臨床での実務経験を有しており、その経験を活かし、学生の看護実践能力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度を理解し 4 年間の学びの集大成として、医療チームの一員としての看護実践力を高め、看護専門職としての役割、責務、態度について理解を深められるように実習指導を行う。							

科目名称	学校・産業保健実習		
科目分類	310-321-34	単位数	2.0 単位
英文名称	School Nursing and Occupational Health Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	土屋 陽子	必修・選択	選択
担当教員	土屋・富塚・中田	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>【学校保健】 実習施設の概要や養護教諭から得た情報を活用し、生徒の発達段階の特徴と健康課題の関係を踏まえて対象の理解を深める。さらに、実際の学校保健活動を見学することで、その活動の意味を保健管理体制、養護教諭の役割、教職員や保護者との連携の視点から考察する。</p> <p>【産業保健】 実習施設の概要や産業看護職から得た情報を活用し、実習施設における業務の特徴と健康課題の関係についての理解を深める。さらに、実際の産業保健活動を見学することで、その活動の意味を安全衛生管理体制、産業看護職の役割、多職種連携の視点から考察する。</p>		
到達目標	<p>【学校保健】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の学校と生徒の概況について記述できる。 2. 実習先の学校の保健管理体制について説明できる。 3. 生徒の心身の健康状況と学校生活の相互作用について記述できる。 4. 養護教諭の生徒とのかかわり方や学校保健活動の見学を通じて、学校における養護教諭の役割を考察できる。 5. 学校保健活動の見学を通じて、養護教諭、教職員や保護者との連携の必要性について考察できる。 <p>【産業保健】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習先の事業所と労働の概況について記述できる。 2. 実習先の事業所の安全衛生管理体制について説明できる。 3. 労働者の心身の健康状況と労働環境の相互作用について記述できる。 4. 産業看護職の労働者とのかかわり方や産業保健活動の見学を通じて、事業所における産業看護職の役割を考察できる。 5. 産業保健活動の見学を通じて、産業看護職と多職種連携の必要性について考察できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1-5	学校保健実習 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	1 日目 実習先の学校の特徴 各自が事前学習で情報収集してきた実習先の学校の概要について、グループでディスカッションをし、概要をまとめる。	(グループワーク) 予習：学校概要、配布資料を読んでおくこと。 復習：グループで話し合い、記録用紙にまとめる。
		2 日目 実習先の学校のアセスメント ・実習先の学校の教育理念、学校の歴史、特徴などについて理解する。 ・実習先の学校の保健安全管理体制と養護教諭の役割の概要を理解する。	(実習) 予習：学校保健活動論の復習をしておくこと。 復習：養護教諭や保健指導主事らの説明内容及び学んだことを記録にまとめる。
		3 日目 校内巡視 ・環境整備や水質検査などの見学、体験をする。 ・生徒の健康状態の把握を行う。 ・保健室の運営に関して観察する。	予習：学校環境衛生について復習しておく。 復習：校内巡視、生徒とのふれあいの中で理解したことを、記録用紙にまとめる。(実習)
		4 日目 生徒に対する保健活動の体験をする。 ・保健だよりの作成 ・給食準備、食後の歯磨き指導 ・保健委員会への参加 など	(実習) 予習：養護教諭の職務について確認しておく。 復習：養護教諭の活動を一緒に体験することで理解したことを、記録用紙にまとめる。
		5 日目 ・カンファレンス ・実習指導者、関係者から評価コメントをいただき、学びを深める。	(ディスカッション) 予習：実習記録を再度読んでおく。 復習：カンファレンスを行い、話し合った内容と学びを記録に整理する。
6-10	産業保健実習 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	6 日目 実習先事業所の特徴 ・各自が事前学習で情報収集してきた実習先事業所の概要について、グループでディスカッションをし、概要をまとめる。	(グループワーク) 予習：事業所概要、配布資料を読んでおく。 復習：グループで話し合い、記録用紙にまとめる。

		7-8 日目 実習先事業所のアセスメント ・実習先事業所の企業理念、工場の成り立ち、特徴などについて理解する。 ・実習先事業所の産業看護職の所属する機関、部門の概要を理解する。 職場巡視 ・実習先事業所の労働内容、作業環境、作業条件を把握する。 ・実習先事業所の労働実態から健康に与える影響についてアセスメントする。	(実習) 予習：産業保健活動論の復習をしておく。職場巡視への同行、産業保健スタッフへのインタビューの準備をする。 復習：実習指導者や関係者から説明を受けたこと及び自身の観察内容について、内容及び学んだことを記録にまとめる。					
		9 日目 従業員（個人）もしくは集団に対する保健活動の実際について情報収集する。 従業員（個人）もしくは集団に対する保健活動の意義を考察する。	(実習) 予習：産業保健活動論の復習をしておく。 復習：実習指導者や関係者から説明を受けたこと及び自身の観察内容について、内容及び学んだことを記録にまとめる。					
		10 日目 カンファレンス 実習指導者、関係者から評価コメントをいただき、学びを深める。	(ディスカッション) 予習：実習記録を再度読んでおく。 復習：カンファレンスを行い、話し合った内容と学びを記録に整理する。					
授業開始前学習	◇学校保健 ・学校保健に関係する法律や制度について確認しておく。 ・ホームページなどから実習先の学校の概要について調べておく。 ・実習先の学校の概要から考えられる健康問題・課題をアセスメントし、実習先の学校の特徴を考えておく。 ◇産業保健 ・産業保健に関係する法律や制度について確認しておく。 ・ホームページなどから実習先事業所の概要について調べておく。 ・実習先事業所の概要から考えられる健康問題・課題をアセスメントし、実習先事業所の特徴を考えておく。							
授業内課題のフィードバックの方法	実習中、個別に行う。							
テキスト・教材	なし							
参考書	1. 標美奈子他著『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』（医学書院） 2. 中村裕美子他著『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』（医学書院） 3. 中谷芳美他著『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』（医学書院）							
評価の基準と方法	実習評価表に基づき評価する							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成		他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	学校・学校現場における対象の理解と保健活動の実際を学びます。積極的に学習しましょう。							
予習・復習の所要時間								
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	公衆衛生看護学実習		
科目分類	310-321-34	単位数	3.0 単位
英文名称	Public Health Nursing Practicum	授業区分	実習
科目責任者	土屋 陽子	必修・選択	選択
担当教員	土屋・富塚・中田	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	公衆衛生看護活動の場である保健所・保健センター等において地域住民を対象として、地域の健康水準の向上を目的に展開される活動の実際と保健師の役割を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす個人・家族の健康課題について、生活と環境と関連づけてアセスメントし、生活に応じた支援のあり方について理解できる。 2. 小集団や地域について、人々の生活と健康に関する情報を多角的に捉え、根拠に基づいたアセスメントをすることにより、健康課題を明らかにできる。 3. 公衆衛生看護活動を行う上で必要な個人・家族、集団、地域に対する基本技術とふさわしい態度について理解できる。 4. 個別から集団や地域の健康課題への支援につなげる活動経過から、地域ケアシステムの構築及び事業化の意義を理解し、保健師の役割について考察できる。 5. 公衆衛生看護の目指す方向性について、公衆衛生看護管理の視点で考察することができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1-10	市町村実習 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	<p>1 日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の概要、実習計画等について ・事前に行った地域診断の発表 ・健康教育のデモンストレーション など 	<p>(実習)</p> <p>予習：事業概要を読んでおくこと。 復習：担当保健師よりオリエンテーションを受け、学んだことを記録用紙に整理する。</p>
		<p>2-9 日目</p> <p>施設毎の保健事業計画にあわせて以下の内容を学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問 指導保健師と同行訪問とし、訪問の計画を事前に立案し、指導保健師及び担当教員に指導・助言を受け、訪問後に実施報告を記録する。 ・健康相談 実習施設において、一般健康相談、乳幼児健康相談、その他保健師が地区活動で実施している健康相談に参加する。 ・健康診査 実習施設において実施されている乳幼児健康診査、特定健診等に参加する。 ・健康教育 臨地実習期間中に、地域住民を対象とした健康教育に参加する。 ・関係機関連携・ネットワーク 地域の関係機関との連携の必要性、及びネットワークの構築過程について説明を受ける。 事例検討会に積極的に参加し、参加できる場合には、関わっている各種機関の役割、保健師の役割などについて体験する。 	<p>(実習)</p> <p>予習：家庭訪問、健康相談、健康教育は、技術論の復習をしておくこと。 復習：実習内容をグループで話し合い、記録用紙に整理する。</p>

		10 日目 ・最終カンファレンス 実習を通して学んだ内容を深め、学びを共有する。	(ディスカッション) 予習：実習記録を読み直しておくこと。 復習：中間カンファレンスの内容と学びを記録する。
11-20	保健所実習 土屋陽子 中田晴美 富塚美和	11 日目 ・施設の概要、実習計画等について ・事前に行った地域診断の発表 ・健康教育のデモストレーション など	(実習) 予習：事業概要を読んでおくこと。 復習：担当保健師よりオリエンテーションをうけ、学んだことを記録用紙に整理する。
		12～19 日 ・保健所における保健活動 保健所の目的、機能を達成するために保健師が担う活動および 保健所保健師の専門性について、具体的事例や事業をもとに説明を受ける。また、関係者および関係機関との広域的な連携、管内市町村間の連絡、調整方法について説明を受けるとともに、実習期間中に行われる連絡調整会議等に出席をする。 ・健康危機管理について 地域防災計画、虐待、DV、災害時派遣、感染症発生に関して、保健師の役割について説明を受ける。 ・地域ケアシステム 保健福祉連絡調整会議・事例検討会・地域ケア会議・ネットワーク会議・地域職域連携推進協議会等があった場合は可能であれば参加し、それぞれの役割、共通の目標等について学ぶ。	(実習) 予習：授業の復習をしておくこと。 復習：実習内容をグループで話し合い、記録用紙に整理する。
		20 日目 ・最終カンファレンス 実習を通して学んだ内容を深め、学びを共有する。	(ディスカッション) 予習：実習記録を読み直しておくこと。 復習：カンファレンスの内容と学びを記録する。

授業開始前学習	1.市町村や保健所など地域で活動する保健師が所属する機関・組織の役割を説明できる。 2.地域診断における情報収集の視点や方法、地域住民の健康課題の把握方法を学び具体的に述べるができる。 3.家庭訪問や個別支援の実際の場を通じて、特定の健康課題を持つ個人や家族への保健師の支援の特徴と役割を説明できる。 4.特定の健康課題を持つ人々に対する集団・組織・地域支援ネットワークなどの支援方法について列挙できる。 5.個人・家族、集団、住民組織、地域を関連させて捉える保健師の視点と役割を具体的に述べるができる。							
授業内課題の フィードバックの方法	実習時に、担当教員がその都度個別に行う。							
テキスト・教材	なし							
参考書	1. 標美奈子他著『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』(医学書院) 2. 中村裕美子他著『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』(医学書院) 3. 中谷芳美他著『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』(医学書院)							
評価の基準と方法	実習評価表に基づいて評価する。							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもとに看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力

科目の該当				△	○	○	○	◎
関連科目								
その他	実習は積極的かつ主体的に行い、住民の方々に丁寧に接してください。							
予習・復習の 所要時間								
実務経験を活かした 教育内容								

科目名称	看護管理学		
科目分類	310-311-14 (J)	単位数	1.0 単位
英文名称	Nursing Administration and Management	授業区分	講義
科目責任者	看護学部	必修・選択	必修
担当教員	堤・本館	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	看護の対象者である人々に対して、より良いサービスを提供するために必要な人的資源、物的資源、財的資源の重要性、これらに資源を有効に活用する組織の仕組み、維持・管理する方法を学習する。また、チームの一員として、組織内での看護チームとの連携・協働および他職種との連携・協働の重要性を理解し、対象者へ提供する「ケア」と「看護サービス」のマネジメントに必要な制度や政策を学ぶ。これらの学習を通じ、自己のキャリア発達に活かすことができる知識を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の中における看護ケアマネジメントと看護職の機能について説明ができる。 2. 看護職者に求められる役割遂行のための看護管理の理論と方法（特に安全管理について）を具体的に説明できる。 3. 看護サービスのマネジメント（特に人的・労務）について記述できる。 4. 自己の専門能力向上のためのキャリア開発について述べるができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	無		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	ガイダンス 看護管理 本館教子	看護管理とは 1. 用語の定義と看護ケアにおけるマネジメント 2. 看護活動の場（患者の権利尊重と安全管理、チーム医療）におけるマネジメント 3. 日本の医療の状況	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
2	看護管理プロセス 本館教子	組織と看護単位の構成 1. 職位と職務内容 2. 看護サービス提供方式 3. 勤務体制 4. 業務計画、各種マニュアル 5. チーム活動とマネジメント	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
3	看護管理のスキル 堤妙子	人間関係を構築するスキル 1. モチベーションマネジメント 2. ストレスマネジメント 3. リーダシップ行動 4. コミュニケーションと意思決定	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
4	看護管理と経営 本館教子	病院組織と看護組織 1. 病院の機能別分化 2. 保健制度改革（看護職の法的責任、医療制度など）とサービスの評価	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
5	医療・看護の質保証 本館教子	医療の質とは 1. 第三者評価 2. 臨床指標 3. 看護の質評価 4. クリティカル・パス	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
6	看護とキャリア開発 堤妙子	キャリアとキャリア発達 1. 看護師のキャリア開発 2. キャリア開発プログラム 3. 看護継続教育	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。
7	リスクマネジメント 本館教子	病院の安全対策 1. 看護実践に活かす情報のあり方 2. 医療安全文化の醸成 3. チーム作り(演習)	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。

8	病院と職員教育 堤妙子	看護部門の目標管理 1. 新人看護師の教育計画 2. 支援体制とプリセプターシップ 3. 自己のキャリア開発（グループワーク）	予習：事前に使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。授業時間内に予習内容についてクイズをし、確認します。 講義ごとに「講義から学んだこと」をテーマとしたレポートを作成、出欠の把握に充てる。					
授業開始前学習	本科目は看護管理学の基礎となります。履修するにあたって使用するテキストの関連項目を読んで臨むこと。							
授業内課題のフィードバックの方法	初回講義時に説明する。							
テキスト・教材	系統看護学講座 看護管理、医学書院							
参考書	適宜提示							
評価の基準と方法	定期試験(100%)							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成		
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当		△	○		◎	○		
関連科目								
その他	<学習目標> 看護管理学の主要な構成概念、看護管理プロセス、看護の質保証、リスクマネジメント、看護と情報管理などの基本的な考え方や基礎知識を修得する。さらに看護専門職者として自己研鑽を積む力となるキャリアデザインについての基本となる考え方を理解する。							
予習・復習の所要時間	講義時間 15 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした教育内容	本講義担当者は聖マリアナ医科大学の副院長・看護部長をはじめとする現役看護師が講師となり、看護専門職者として自己研鑽を積む力となるキャリアデザインについて講義を行う。							

科目名称	国際保健		
科目分類	310-321-14 (J)	単位数	2.0 単位
英文名称	Global Health Promotion	授業区分	講義
科目責任者	水野 真希	必修・選択	選択
担当教員	水野 真希	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	前期 木曜日 13:00～16:00 後期 木曜日 9:00～12:00	研究室	1-307
授業概要	国際社会と日本社会の違いを知るとともに、日本が可能な国際保健への貢献について考え、国際保健における日本の役割を知る。また、日本との比較による海外の保健医療について検討し、今後の日本の保健医療のあり方について考える。世界ではどのような健康問題が起こっているのか、グローバルな視点と社会傾向に伴って、国内で起こる健康問題にはどのような影響が現れるのかについて考えることで、国際保健の視点を学ぶ。国際看護における異文化理解の重要性、発展途上国の健康問題、看護活動などに対する理解を深める。		
到達目標	<到達目標> 1. 様々な国や地域の特性と保健政策・保健システムなどを具体的に述べられる。 2. 様々な国や地域住民の健康状態とヘルスケアにおける課題について学際的視野で評価できる。 3. 国際保健における看護師の役割について考え、列挙できる。 4. 様々な地域で生活している住民の健康促進や健康問題の解決に取り組むための実践的知識や技術を考察できる。		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	国際保健の現状とケアのあり方 水野	1. 国際保健とは 2. 国際保健の現状 3. 国際保健のケアのあり方	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
2	国際保健政策と看護－1 水野	国際状況と国際保健の変遷 国際保健活動と国際機関、国際協力	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
3	国際保健政策と看護－2 水野	国際保健活動の範囲と実際	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
4	国際保健政策と看護－3 水野	グループディスカッション 日本が可能な国際保健への貢献は何か 国際保健における日本の役割は何か	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
5	保健医療の格差と不平等－1 水野	各国、地域の保健医療システムの特徴と課題	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
6	保健医療の格差と不平等－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
7	女性の健康－1 水野	地域特性と女性の健康 女性の地位に対する文化の影響と女性の健康	講義 予習：指定された課題を行う 復習：配布された資料をまとめる。
8	女性の健康－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
9	子どもの健康－1 水野	地域特性と子どもの健康	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。
10	子どもの健康－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。
11	難民と移民の支援と看護－1 水野	国際情勢と難民、移民の現状 難民、移民の健康課題と支援	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。
12	難民と移民の支援と看護－2 水野	グループディスカッション ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。

13	感染症と国際保健看護－1 水野	地域特性と感染症 感染症と国際保健看護の役割	講義 予習：指定された課題を行う。 復習：配布された資料をまとめる。					
14	感染症と国際保健看護－2 水野	グループディスカッション 鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、SARS などの感染症ケースを分析し、どのような支援が必要か、国際保健看護の役割は何かについて検討する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。					
15	国際保健における看護師の責任と役割 水野	既習した本科目を通して、国際保健における看護師の役割と責任についてGWDし、今後に向けての課題と対策についてまとめ、発表する	GWD 予習：前回までの授業内容を見直しておく。 復習：グループワークの内容を整理しておく。					
授業開始前学習		講義、グループワーク、ディスカッションで授業を進めていく。 授業前に教科書や配布資料を読み、事前課題をまとめ発表できるように準備をしておく。						
授業内課題のフィードバックの方法		グループワークでの発表資料や発表内容、授業内でのレポート課題は課題への取り組み姿勢として評価していく。						
テキスト・教材								
参考書		授業開始時に提示する。						
評価の基準と方法		◇評価内容 グループ討議課題への取り組み（予習・事前学習・最終レポート）とグループワークへの参加貢献度 ◇評価基準 ①GWDでの参加貢献度 40%・・・相互評価表を用いて評価 ②課題への取り組み姿勢 30%・・・同上 ③最終レポート 30%						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成		チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成		多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成	
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	○		○		◎	△		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間＋予習・復習時間 60 時間						
実務経験を活かした教育内容		発展途上国での実務経験を活かし、日本と世界で実践できるグローバルな看護を提供するための看護師の役割や必要な能力について講義をする。						

科目名称	災害看護学		
科目分類	310-321-14	単位数	2.0 単位
英文名称	Disaster Nursing	授業区分	講義・演習
科目責任者	長岡 信	必修・選択	選択
担当教員	長岡 信	開講時期	4 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	<p>災害が日常生活や人間の生命に及ぼす影響、初期動作の意義、被災現場の特性に応じた医療や看護活動について実際例をもとに学習する。また、災害救護に関連する諸制度、支援システム、社会資源、さらに赤十字の救護活動の実際について学び、災害予防、災害時の対応、災害復旧および復興において、看護職が果たす役割に対する理解を深める。</p> <p>◇教育内容 「別表 3：基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、看護の統合と実践 別表 1：公衆衛生看護活動展開論」</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が人々の生命・健康・生活に及ぼす影響や災害時の社会の対応およびしくみについて説明できる。 2. 災害サイクルや活動の場に応じた看護の役割を記述できる。 3. 国や地域による防災対策、災害ネットワークについて説明できる。 4. 災害への備えの一環として、身の回りの物を活用した救護の技に関連づけることができる。 5. 災害時に看護者が果たす役割を理解し、災害時に看護者としてどのような活動ができるのか、自己の考えを述べるができる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1	災害看護の概要	災害の定義と分類およびその特性 災害時の傷病の特徴 災害発生に伴う救護組織と支援および災害看護の歴史と歩み 救急医療と災害医療との違い災害看護の定義と役割	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
2	近年の災害発生と災害看護の実際	阪神淡路大震災、東日本大震災等の被害状況とその特徴 医療活動（DMAT、日本赤十字、JMAT）の実際と今後の課題	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 課題：当時の被害状況などを調べ、今日までの改善点と問題点などを事実を基にまとめておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
3	災害看護の対象と災害看護の要援護者(災害弱者)	災害が人々の生命や生活におよぼす影響 被災者とは 災害の種類と傷害の特徴 災害と心理・こころのケア 災害時要支援者の概念と行政的対策	講義 予習：被災者の心のケアについて調べ、まとめ内容をもとに「被災者へのこころのケアの適切さについて」グループ討議する。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
4	災害の種類別疾病構造	災害の種類別疾病構造 災害サイクルから視る災害医療 災害医療活動の7つの要素（CSCA3T） 災害と情報	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
5	災害サイクルに応じた災害看護の役割	災害サイクルとは 災害サイクルに応じた看護の役割 災害サイクルに伴う活動現場の特殊性	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
6	災害サイクルに応じた災害医療と看護の役割(急性期・亜急性期)	被災病院における活動体制と傷病者の受け入れ 病棟看護師の役割 看護管理者の役割 救護所の立ち上げと傷病者への対応	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
7	災害サイクルに応じた災害医療と看護の役割(急性期・亜急性期)	避難所とは 避難所の立ち上げと被災者への対応 避難所で生活する人々の生活環境の整備 避難所で生活している要援護者の看護	講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
8	災害時に必要な看護技術グループ演習	トリアージとは トリアージの分類 トリアージを実施する現場の特徴 トリアージの方法	演習 予習：トリアージの方法について、グループで討議するために、事前に調べて、まとめておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
9	災害時に必要な看護技術グループ演習	トリアージの方法と搬送 外傷の応急処置と止血法 致命的な外傷に対する処置と観察ポイント	演習 予習：トリアージの方法について、グループで討議するために、事前に調べて、まとめておく。

									復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
10	災害サイクルに応じた災害医療と看護の役割(慢性期・復興期)	仮設住宅における被災者の生活支援 復興期における看護の役割 復興とは							講義 予習：仮設住宅に居住の人々の現状と課題を調べ、まとめる。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
11	災害サイクルに応じた災害医療と看護の役割(災害と感染)	災害時に発生しやすい感染症とその機序 感染症が発生しやすい災害時の環境要因 避難所における感染症対策							講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
12	災害サイクルに応じた災害医療と看護の役割(静穏期)	病院防災への備え 災害看護教育 地域の防災							講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
13	被災者特性に応じた看護(小児、妊産婦)	子どもに対する災害看護 1. 年齢別ストレス反応 2. 災害サイクルに応じた看護 妊産婦に対する災害看護 1. 災害が妊産婦に与える影響 2. 災害サイクルに応じた看護							講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
14	被災者特性に応じた看護(身体障害者、精神障害者)	身体的障害者に対する看護 1. 災害が与える影響 2. 災害サイクルに応じた看護 精神障害者に対する看護 1. 災害が与える影響 2. 服薬継続への援助							講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
15	被災者特性に応じた看護(高齢者、慢性疾患患者、災害関連死)	高齢者に対する災害看護 1. 高齢者の身体的特性と看護 2. 高齢者の心理的特徴と看護 慢性疾患患者に対する災害看護 1. 糖尿病 2. 慢性腎不全 3. 慢性呼吸不全 4. 高血圧症 等 災害関連死の予防 災害による死とグリーフケア							講義 予習：事前にテキストの該当箇所を読み、ノートしておく。 特に災害関連死の予防とグリーフケアについて、事前に予習し、自分の考えをまとめ、最終の全体討議を行う。 復習：本日の講義内容についてノートをまとめておく。
授業開始前学習	シラバスで示した教科書の授業範囲を必ず読み、ノート整理して授業に臨むこと。 予習・復習した学習内容は系統的に整理し、ファイリングしておくこと。								
授業内課題のフィードバックの方法	講義初回のガイダンス時に説明する。								
テキスト・教材	辺見弘 監修、山西文字 編；新体系 看護学全書 統合分野 看護の統合と実践 災害看護学／メディカルフレンド社								
参考書	授業中に適宜提示する								
評価の基準と方法	定期試験（70%） 課題レポート（30%）								
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成					
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力	
科目の該当	○		○		◎	△			
関連科目									
その他	◇学習上の留意事項 災害に対する情報に関心をもち、日常生活の中で自己ができる災害看護活動について、自己の考えをまとめておく。また、技術演習においては討議を有効活用するとともに基礎看護技術で習得した技術の原則を十分に活かし応用できるようにしておく。 ◇提出する課題 事前に調べ、授業を通して追加・修正し提出する。詳細は授業初日に説明する。								
予習・復習の所要時間	講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 60 時間								
実務経験を活かした教育内容									

科目名称	看護研究 I		
科目分類	310-311-23	単位数	1.0 単位
英文名称	Nursing Research I	授業区分	演習
科目責任者	小林小百合	必修・選択	必修
担当教員	杵淵・小林(小)・小林(優)・高橋・畠山	開講時期	3 年後期
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本科目は、実践科学である看護学の発展と看護の質の向上を目指して、科学的方法を基盤にした研究の原理と方法の基礎を学習する。具体的な学習内容としては、看護学における研究の意義を知り、研究のプロセスと研究における倫理を理解する。次いで、論文を系統的に収集し、その論文をクリティークするための基礎的な視点を学びながら、文献検討に基づき自分が取り組む研究課題を検討するための準備をおこなう。この過程を個人およびグループで学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護研究の意義と必要性を具体的に述べるができる。 2.看護研究の課題を見出すための系統的な文献検索ができる。 3.看護学の知見から研究倫理について述べるができる。 4.研究過程を理解し、研究計画書の内容と重要性が理解できる。 		
アクティブ・ラーニング型授業	有		
授業回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習・レポートなどの課題
1～4	授業ガイダンス、看護研究への導入（小林小百合） 研究デザインの種類と特徴（小林小百合） グループワーク：看護研究につながる「疑問」を発見しよう（小林小百合、高橋泉、杵淵恵美子、小林優子、畠山卓也）	本授業の進め方 看護研究とは：意義・目的 研究デザインの種類と特徴 グループワーク 復習課題：課題①看護研究の目的と意義 授業内課題：課題②ワークシート「看護研究への第一歩」を授業時間内に記述して提出する	講義・演習 予習 教科書第 1 章、第 2 章を読んでくる 復習 看護研究を学ぶ意義と目的について記述する(課題①) 課題①1/5 授業終了時提出 課題②12/23 授業終了時提出
5	看護研究と倫理（畠山卓也）	倫理的配慮の必要性 インフォームドコンセント 倫理委員会での審査	講義 予習 教科書第 4 章を読んでくる 復習 授業ノートを整理する
6	看護研究と文献検討 文献検索の実際（高橋泉）	文献検討の意義 文献検索の資料と活用法：システマティックレビュー 文献整理の方法 文献検討の構成と記述 論文の種類	講義 予習 教科書第 3 章を読んでくる 復習 授業ノートを整理する
7, 8	文献検索（小林小百合）	グループ単位で文献検索を行う(グループごとに検索のためのキーワードを付与) 授業内課題：課題③検索した文献のリストを A P A スタイルで記載する(クラスルームのスプレッドの一覧表に各自他学生と重複しないよう記入する。)	演習 予習 教科書第 3 章を読んでくる 復習 授業ノートを整理する 課題③ G W E クラスルーム上のスプレッドの一覧表に 12/26,13 時まで記入
9	文献の読み方（小林小百合）	文献クリティーク	講義 予習 第 6 回授業内容を見直してくる。教科書 p 68～71 を再度熟読する。 復習 授業ノートを整理する
10	文献検討の実際（小林小百合）	「疑問」からリサーチエスチョンを検討するための文献検索 各自の疑問に応じたキーワードを検討し、文献検索を行う 授業内課題： 課題④ 課題②をベースに文献検討のキーワードを考え、文献検索してみる 検索履歴をファイリングする 課題⑤ 上記課題④で検索した論文のうち、「原著論文」1 本を印刷してファイルする	個人ワーク 予習 課題②の内容を確認する 復習 授業ノートを整理する 課題④⑤(1/5 授業終了時提出)

11、12	検索した論文を要約する(小林小百合)	検索した論文の要約 授業内課題: 課題⑥ 課題⑤の原著論文を自分なりに600~800字程度に要約する(A4タテ置き横書き、フォントはデフォルトで、サイズは10ポイント以上)。なお、論文に含まれている「抄録」のコピーは禁止。自分なりに要約すること。特に、研究デザインと倫理的配慮については要約に必ず含めること	個人ワーク 予習 第2、5、6、9回目の授業内容を見直してくる。 復習 授業ノートを整理する 課題⑥(1/5 授業終了時提出)					
13、14	文献検討結果の発表(小林小百合、高橋泉、杵淵恵美子、小林優子、畠山卓也)	課題⑥を口頭発表する(小グループに分かれて、全員が発表する) 課題⑦のグループメンバーは発表を聞いた感想を書いて、発表者にフィードバックする	演習 予習 発表準備(課題⑥) 復習 授業ノートを整理する					
15	研究計画書 まとめ (小林小百合)	研究計画書 提出: 課題⑧「看護研究Ⅰ」を履修を通して学んだことを記述する。	講義・演習 予習 今までの課題の整理 復習 看護研究Ⅱの履修に向けて授業内容を復習する 提出: ファイルの提出(目次および課題①~⑧を綴じて提出。授業内で配布された資料も一緒に綴じること)					
授業開始前学習								
授業内課題のフィードバックの方法		授業初回のガイダンスで説明する。						
テキスト・教材		坂下玲子他著:『看護研究』(医学書院)						
参考書		1. 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針(厚生労働省・文部科学省) 2. 看護研究における倫理指針(日本看護協会) 3. 佐藤望 編:『アカデミック・スキルズ』(慶應義塾大学出版会) 4. 大木秀一 著:『文献レビューのきほん』(医歯薬出版)						
評価の基準と方法		演習課題レポート 100% で評価する。						
ディプロマポリシー		人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成			
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△	○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の所要時間		講義時間 30 時間 + 予習・復習時間 15 時間						
実務経験を活かした教育内容								

科目名称	看護研究Ⅱ		
科目分類	310-311-24	単位数	2.0 単位
英文名称	Nursing Research II	授業区分	演習
科目責任者	杵淵 恵美子	必修・選択	必修
担当教員	看護専任	開講時期	4 年通年
オフィスアワー	-	研究室	-
授業概要	本科目は、「看護研究Ⅰ」において学習した知識をもとに、学生各自のテーマに基づき研究計画書の作成までの過程を学ぶ。研究計画書は学会発表形式に則して発表の場を設け、在校生、学外者を含めた参加者との意見交換を行う。さらに、意見交換の内容を基に研究計画書を精練し、研究への意欲を高めると共に研究姿勢を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの疑問を挙げ、それに関連する文献を読むことで研究課題を絞り込むことができる。 2. 自らの研究課題に関連する文献をクリティークし、研究課題をさらに精練することができる。 3. 自らの研究課題にふさわしい研究デザインを選択し、実効性の高い研究計画書を作成することができる。 4. 作成した研究計画を発表し、質問や意見を参考にし、研究計画の精練ができる。 		
アクティブ・ラーニング 型授業	有		
授業 回数	授業項目・担当者	学修内容	授業方法（アクティブ・ラーニング）・予習・復習 ・レポートなどの課題
1	授業ガイダンス 杵淵恵美子	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方 2. 研究計画書の作成要領 3. 担当教員との顔合わせ 	講義 予習：看護研究Ⅰの復習 復習：自らの研究計画書作成までのスケジュールをたてる
2	研究計画書作成 看護専任(各領域)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究過程の概要とスケジューリング 2. 研究疑問の検討 3. 研究課題の明確化にむけた文献検討 	演習・ディスカッション 予習：研究課題に繋がりそうな疑問をピックアップする 復習：自らの研究計画書作成までのスケジュールをたてる
3 4	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 文献検索、文献検討	予習：文献検索のキーワードの明文化 復習：収集した文献の精読
5	研究計画書作成 看護専任(各領域)	グループワーク 文献の紹介、文献クリティークのポイント	予習：文献紹介の準備 復習：文献クリティーク方法の復習
6	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 文献クリティーク	予習：クリティーク対象文献のピックアップ 復習：収集した他文献のクリティーク
7	研究計画書作成 看護専任(各領域)	グループワーク 研究課題の明確化	予習：研究課題に繋がりそうな疑問の再検討 復習：研究課題を明文化する
8 9 10	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 研究デザインの検討、研究目的の明文化 グループワーク 研究デザイン、研究目的の発表、意見交換	予習：研究デザインの特徴、研究目的について発表準備 復習：検討プロセスを書面に残し、他者の発表内容や意見交換から自分の研究目的・デザインを修正する
11 12 13	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 研究動機、研究の背景の文章化 グループワーク 研究デザイン、研究目的、研究動機の発表・意見交換	予習：研究動機、研究の背景について今までの文献検討の概要をまとめる 発表準備を行う 復習：作成文章を推敲する 他の学生の発表や、意見交換の内容から、自分の計画書を修正する
14 15 16	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 研究方法の検討 対象とリクルート方法、データ項目と収集方法、分析方法 グループワーク 研究方法の発表、意見交換	予習：研究方法について整理し、発表準備を行う 復習：検討プロセスを書面に残し、他の学生の発表や、意見交換の内容から、自分の計画書を修正する
17 18 19	研究計画書作成 看護専任(各領域)	グループワーク 研究実施における具体的な倫理的配慮の検討 個人ワーク 倫理的配慮の文章化	予習：文献検討した先行研究で参考になりそうな倫理的配慮をピックアップしておく 復習：他の学生の発表や、意見交換の内容から、自分の研究の倫理的配慮を整理し文章を推敲する
20 21	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 指定された内容を網羅した計画書の執筆 面談	予習：研究計画書の書き方について確認する 復習：今までの検討内容に矛盾や論理的破綻がないか確認し、面談内容から計画書を修正する
22 23 24	研究計画書作成 看護専任(各領域)	グループワーク 進捗状況の共有、各自が取り組む課題の明確化 個人ワーク、面談	予習：自分の研究計画書を精読し、推敲する 発表準備をする 復習：他の学生の発表や、意見交換の内容から、自分の計画書作成のスケジュールを修正する 面談内容から計画書を修正する

25 26	プレゼンテーション 看護専任(各領域)	個人ワーク 研究計画プレゼンテーションの準備 発表内容、プレゼンテーション資料の準備 グループワーク 発表会運営準備	予習：自分の研究計画書を精読し、推敲する 復習：作成した資料の確認と修正					
27 28	プレゼンテーション 看護専任(各領域)	グループワーク プレゼンテーションのリハーサル プレゼンテーションの実施	予習：個人の発表準備 復習：実施内容を振り返り、良かった点や課題として明らかになったことをまとめておく					
29 30	研究計画書作成 看護専任(各領域)	個人ワーク 研究計画書の見直し、まとめ 提出用フォーマットに合わせた計画書の作成	予習：研究計画書作成フォーマットの確認 復習：学習プロセスの振り返り					
授業開始前学習	「看護研究Ⅰ」で学習した内容を復習しておく。臨床・臨地実習での学びや気づき、発想から、熱意を持って取り組みたいと思う自らの研究課題の萌芽となる疑問をピックアップしておく。							
授業内課題の フィードバックの方法	看護領域毎に担当教員からフィードバックを行う。							
テキスト・教材	前田樹海、江藤弘之著：『APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版』(医学書院)							
参考書	1. 坂下玲子他著：『看護研究』(医学書院) 2. 南 裕子、野嶋佐由美 編集：『看護における研究 第2版』(日本看護協会出版会) 3. 大木秀一 著：『文献レビューのきほん』(医歯薬出版) 4. 川口孝泰：『看護研究ミニマム・エッセンシャルズ』(医学書院) 5. 横山美江編：『よくわかる看護研究のすすめ方・まとめ方 第3版』(医歯薬出版)							
評価の基準と方法	研究計画書 80%、プレゼンテーション 20%							
ディプロマポリシー	人間を全人的に捉えヒューマンケアを実践できる教養力と人間性の養成	他者とバランスのとれた関係性を構築できるコミュニケーション力と社会性の養成	チーム連携と協働力をもって看護の役割と機能を発揮できる専門力と判断力の養成	多様な健康レベルの人々の課題に対し、根拠に基づいた看護実践ができる技術力と実践力の養成				
学修指針	教養力	人間性	コミュニケーション力	社会性	専門力	判断力	技術力	実践力
科目の該当	△	△	○		◎	○		
関連科目								
その他								
予習・復習の 所要時間	講義時間 60 時間 + 予習・復習時間 30 時間							
実務経験を活かした 教育内容								